

Nikon

デジタルカメラ

D7200

使用説明書



「Nikon Manual Viewer 2」アプリ

ニコンデジタルカメラの説明書をスマートフォンやタブレットで見ることができるアプリです。App Store または Google Play から無料でダウンロードできます。

Jp

お使いになる前に、この使用説明書をよくお読みになり、内容を十分に理解してから正しくお使いください。お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに必ず保管し、撮影を楽しむためにお役立てください。

本文中のマークについて

この使用説明書は、次の記号を使用しています。必要な情報を探すときに活用ください。



カメラを使用する前に注意していただきたいことや守っていただきたいことを記載しています。



カメラを使用する前に知っておいていただきたいことを記載しています。



使用説明書上で関連情報が記載されているページです。

表記について

- SDメモリーカード、SDHCメモリーカード、およびSDXCメモリーカードを「SDカード」と表記しています。
- バッテリーチャージャーを「チャージャー」と表記しています。
- ご購入時に設定されている機能やメニューの設定状態を「初期設定」と表記しています。
- この使用説明書では、カメラの設定が初期設定であることを前提に操作の説明を行っています。

メニューガイドについて

このカメラには、メニューの詳細やパソコン、プリンター、テレビとの接続などが記載されたPDF形式のメニューガイドが当社のホームページに用意されています。ダウンロードの方法は次の通りです。

- 1 Webブラウザでマニュアルのダウンロードページにアクセスする

URL：<http://downloadcenter.nikonimglib.com/>

- 2 機種を選んで、PDFファイルをダウンロードする

- メニューガイドをご覧いただくためには、Adobe Reader または Adobe Acrobat Readerが必要です。

⚠ 安全上のご注意

安全にカメラをお使いいただくために守っていただきたい内容が記載されています。カメラをお使いになる前に必ずお読みください。詳しくは□x～xviをご覧ください。

カメラと付属品を確認する

お使いになる前に、カメラと付属品が全てそろっていることを確認してください。万が一、付属品がそろっていない場合は、販売店にご相談ください。



接眼目当てDK-23
(☐69)



ボディーキャップBF-1B
(☐21、312)

D7200カメラ本体 (☐1)

Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL15 (端子カバー付)
(☐18、20)

バッテリーチャージャー MH-25a (電源プラグ (直付け型) 付) (☐18)

アイピースキャップDK-5
(☐69)

• SDカードは別売です。

• 日本国内でご購入いただいたカメラは、画面の表示言語を日本語または英語に設定できます。

ストラップAN-DC1 BK (☐18)

USBケーブルUC-E17

保証書

使用説明書 (本書)

ニコンソフトウェアViewNX-iとCapture NX-Dについて

- 撮影した画像や動画の転送、閲覧ができるニコンソフトウェアViewNX-i、およびカメラで撮影した画像を調整したり、RAW現像したりできるソフトウェアCapture NX-Dは、下記のホームページからダウンロードできます。

ViewNX-i : <http://nikonimglib.com/nvnxi/>

Capture NX-D : <http://nikonimglib.com/ncnxd/>

- ソフトウェアの最新情報、動作環境は、当社ホームページ (☐xvii) のサポート情報でご確認ください。

目次

カメラと付属品を確認する.....	i
安全上のご注意.....	x
ご確認ください.....	xvii
Wi-Fi（無線 LAN）機能について.....	xx

お使いになる前に **1**

各部の名称と機能.....	1
マルチセレクターの使い方.....	13
メニューの操作方法.....	14
メニュー項目の設定.....	15
撮影前の準備.....	18

かんたんな撮影と再生 **28**

かんたんに静止画を撮影する ( オート /  発光禁止オート).....	28
撮影した画像を確認する.....	37
画像を削除する.....	38

シーンに合わせて撮影する （簡単操作でより美しく） **39**

特殊効果をつけて撮影する （スペシャルエフェクトモード） **42**

P、S、A、Mモードで撮影する **50**

撮影モード P、S、A、M を使う	50
P (プログラムオート)	51
S (シャッター優先オート)	52
A (絞り優先オート)	53
M (マニュアル)	55
長時間露出で撮影する (撮影モード M のみ)	57

ユーザーセッティングモード U1、U2 を使う **61**

U1、U2 にユーザーセッティングを登録する	61
------------------------------	----

リリースモード **65**

1 コマ撮影や連続撮影、静音撮影など、リリースモードを 変更する	65
連続撮影速度について	66
セルフタイマーを使って撮影する (☺)	68
ミラーアップ撮影する (Mup)	70

画像の記録 **71**

撮像範囲を変更する	71
画質モードを変更する	74
画像サイズを設定する	77
2 枚の SD カードに記録する (スロット 2 の機能)	78

フォーカス 79

オートフォーカスで撮影する.....	79
AF モードを設定する.....	79
AF エリアモードを変更する.....	82
フォーカスロックしてピントを固定する.....	88
マニュアルフォーカスで撮影する.....	92

ISO 感度 94

ISO 感度を設定する.....	94
感度自動制御機能を使う.....	97

測光・露出 100

測光モードを設定する.....	100
AE ロックして露出を固定する.....	102
露出補正して画像の明るさを調整する.....	104

ホワイトバランス 106

ホワイトバランスを変更する.....	106
ホワイトバランスを微調整する.....	109
色温度設定で色温度を指定する.....	112
プリセットマニュアルで基準となる白を設定する.....	115
ファインダー撮影時にプリセットマニュアル データを新規取得する.....	116
ライブビュー時にスポットホワイトバランスで プリセットマニュアルデータを取得する.....	120
プリセットマニュアルデータを管理する.....	123

ピクチャーコントロールを使って画像の仕上がりを簡単に 設定したり、思い通りに調整する	126
カスタムピクチャーコントロールを登録する	131
白とびや黒つぶれを抑えて撮影する	135
アクティブ D-ライティングで撮影する	135
HDR (ハイダイナミックレンジ) 合成を行う	137

フラッシュ撮影

内蔵フラッシュを使って撮影する	141
内蔵フラッシュが自動的に上がる 撮影モードの場合	141
内蔵フラッシュを手動で上げる撮影モードの場合 ..	143
調光補正してフラッシュの発光量を変更する	148
FV ロックして調光量を固定する	150

リモコン撮影

別売のリモコン ML-L3 を使って撮影する	153
別売のワイヤレスリモートコントローラーを使って 撮影する	157
ワイヤレスリモートコントローラー WR-1	157
ワイヤレスリモートコントローラー WR-R10/WR-T10	157

動画を撮影する.....	158
情報表示について	160
動画の最長記録時間について	161
インデックスマーキングについて	162
動画の撮像範囲について	163
ライブビュー時にライブビューセクターが ●のときの静止画撮影	164
静止画をつないで動画にする（微速度撮影）	168
動画の再生	173
動画の編集	176
動画の必要な部分を残す	176
動画の1フレームをJPEG画像として保存する	180

ファインダー撮影時に  ボタンを使う	182
i ボタンを使う	185
ファインダー撮影時に i ボタンを押して 設定できる項目	186
ライブビュー時に i ボタンを押して 設定できる項目	187
ツーボタンリセットで基本的な機能を初期設定に戻す	190
オートブラケティングで露出や調光、ホワイトバランス、 アクティブ D-ライティングを変えながら撮影する	193
多重露出撮影で1つの画像に重ねて写し込む	208
設定した間隔で撮影する（インターバルタイマー撮影）	212
非 CPU レンズを使う（レンズ情報手動設定）	218
位置情報を画像に記録する	221

画像を再生する.....	223
画像を1コマずつ再生する(1コマ表示モード).....	223
複数の画像を一覧表示する (サムネイル表示モード).....	225
撮影した日付ごとに画像を表示する (カレンダー表示モード).....	226
<i>i</i> ボタンを使う.....	227
画像情報を表示する.....	228
画像を拡大表示する.....	237
プロテクトで画像を削除できないように保護をする.....	239
画像を削除する.....	240

Wi-Fi を使ってできること.....	243
カメラとスマートデバイスを接続する.....	244
Android OS または iOS : SSID で Wi-Fi 接続する.....	244
Android OS : NFC で Wi-Fi 接続する.....	247
Android OS : その他の方法で Wi-Fi 接続する.....	249
Wi-Fi 接続設定をリセットするには.....	249
セキュリティの設定について.....	250
スマートデバイスに取り込みたい画像をカメラで 送信指定する.....	258
表示中の画像を送信指定する.....	258
複数の画像をまとめて送信指定する.....	259
NFC 対応のスマートデバイスで送信指定する.....	259
送信指定した画像をスマートデバイスに送信する.....	260

▶ 再生メニュー.....	261
📷 静止画撮影メニュー.....	263
🎥 動画撮影メニュー.....	267
✍️ カスタムメニュー.....	270
🔑 セットアップメニュー.....	281
📁 画像編集メニュー.....	286
📁 マイメニュー / 📁 最近設定した項目.....	289
画像編集メニューの詳細.....	290
トリミング.....	290
画像合成.....	291
RAW 現像（パソコンを使わずに RAW 画像を JPEG 画像に変換する）.....	294

使用できるレンズ.....	296
使用できるスピードライト.....	303
使用できるアクセサリ.....	312
カメラのお手入れについて.....	313
保管について.....	313
クリーニングについて.....	313
撮像素子のお手入れについて.....	314
カメラとバッテリーの取り扱い上のご注意.....	320
カメラの使用上のご注意.....	320
バッテリーの使用上のご注意.....	322
チャージャーの使用上のご注意.....	324

故障かな?と思ったら	325
電源・表示関連	325
撮影関連（全撮影モード共通）	326
撮影関連（撮影モード P、S、A、M）	330
再生関連	331
Wi-Fi（無線 LAN）関連	333
その他	333
警告メッセージ	334
主な仕様	342
レンズについて	354
AF-S DX NIKKOR 18-105mm f/3.5-5.6G ED VR	354
AF-S DX NIKKOR 18-140mm f/3.5-5.6G ED VR	355
AF-S DX NIKKOR 18-200mm f/3.5-5.6G ED VR II	356
使用できる SD カード	368
記録可能コマ数と連続撮影可能コマ数	369
撮影可能コマ数（電池寿命）について	372
索引	374
修理サービスのご案内	382
ニコンプラザについて	383

安全上のご注意

お使いになる前に「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。この「安全上のご注意」は、製品を安全に正しく使用し、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために重要な内容を記載しています。お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに必ず保管してください。表示と意味は、次のようになっています。



危険

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が高いと想定される内容を示しています。



警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が想定される内容を示しています。

お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。

絵表示の例



△記号は、注意（警告を含む）を促す内容を告げるものです。図の中や近くに具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。



⊘記号は、禁止の行為（してはいけないこと）を告げるものです。図の中や近くに具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。



●記号は、行為を強制すること（必ずすること）を告げるものです。図の中や近くに具体的な強制内容（左図の場合はプラグをコンセントから抜く）が描かれています。

警告 (カメラとレンズについて)



分解禁止

分解したり修理や改造をしないこと
感電したり、異常動作をしてケガの原因となります。



接触禁止

落下などによって破損し、内部が露出したときは、露出部に手を触れないこと



すぐに修理依頼を

感電したり、破損部でケガをする原因となります。
電池、電源を抜いて、ニコンサービス機関に修理を依頼してください。



電池を取る

熱くなる、煙が出る、こげ臭いなどの異常時は、すみやかに電池を取り出すこと



すぐに修理依頼を

そのまま使用すると火災、やけどの原因となります。
電池を取り出す際、やけどに充分注意してください。
電池を抜いて、ニコンサービス機関に修理を依頼してください。



水かけ禁止

水につけたり、水をかけたり、雨にぬらさない
感電や発火などの事故や故障の原因になります。



使用禁止

引火・爆発のおそれのある場所では使わない
プロパンガス、ガソリン、可燃性スプレーなどの引火性ガスや粉塵の発生する場所で使用すると、爆発や火災の原因になります。



使用禁止

レンズまたはカメラで直接太陽や強い光を見ないこと
失明や視力障害の原因となります。



発光禁止

車の運転者等に向けてフラッシュを発光しないこと
事故の原因となります。



発光禁止

フラッシュを人の目に近づけて発光しない
視力障害の原因になります。
撮影時には、1m以上離れてください。
特に乳幼児の撮影には注意してください。



保管注意

幼児の口に入る小さな付属品は、幼児の手の届くところに置かない

幼児の飲み込みの原因となります。
万一飲み込んだときは直ちに医師にご相談ください。



警告

ストラップが首に巻き付かないようにする
特に幼児・児童の首にストラップをかけない
首に巻き付くと窒息の原因になります。

警告 (カメラとレンズについて)



ACアダプター使用時に雷が鳴り出したら、電源プラグに触れないこと
感電の原因となります。
雷が鳴り止むまで機器から離れてください。



指定の電源（電池、ACアダプター）を使う
指定以外のものを使用すると、事故や故障の原因になります。

注意 (カメラとレンズについて)



ぬれた手でさわらない
感電の原因になることがあります。



カメラの電源がONの状態、長時間直接触れないこと
使用中に温度が高くなる部分があり、低温やけどの原因になることがあります。



製品は幼児の手の届くところに置かない
ケガの原因になることがあります。



逆光撮影では、太陽を画角から十分にずらすこと
太陽光がカメラ内部で焦点を結び、火災の原因になることがあります。画角から太陽をわずかに外しても火災の原因になることがあります。



使用しないときは、レンズにキャップを付けるか、太陽光のあたらない所に保管すること
太陽光が焦点を結び、火災の原因になることがあります。



三脚にカメラやレンズを取り付けたまま移動しないこと
転倒したりぶつかったりして、ケガの原因となることがあります。



航空機内での使用については、航空会社の指示に従う
病院内での使用については、病院の指示に従う

注意 (カメラとレンズについて)

長期間使用しないときは電源（電池やACアダプター）を外すこと



電池を取る

電池の液もれにより、火災、ケガや周囲を汚損する原因となることがあります。



プラグを抜く

ACアダプターをご使用の際は、ACアダプターを取り外し、その後電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。



発光禁止

内蔵フラッシュの発光窓を人体やものに密着させて発光させないこと

やけどや発火の原因になることがあります。



禁止

布団でおおったり、つつんだりして使用しないこと

熱がこもりケースが変形し、火災の原因になることがあります。



放置禁止

窓を閉め切った自動車の中や直射日光が当たる場所など、異常に温度が高くなる場所に放置しない

故障や火災の原因になることがあります。

危険 (専用リチウムイオン充電電池について)



禁止

電池を火に入れたり、加熱しないこと

液もれ、発熱、破裂、発火の原因になります。



分解禁止

電池を分解しない

液もれ、発熱、破裂、発火の原因になります。



危険

電池、または電池を入れたカメラに強い衝撃を与えたり、投げたりしないこと

液もれ、発熱、破裂、発火の原因になります。



危険

専用の充電器を使用すること

液もれ、発熱、破裂、発火の原因になります。



危険

ネックレス、ヘアピンなどの金属製のものと一緒に持ち運んだり、保管したりしない

ショートして液もれ、発熱、破裂、発火の原因になりますので、端子カバーをつけて絶縁してください。

危険 (専用リチウムイオン充電電池について)



Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL15に対応していない機器には使用しないこと

液もれ、発熱、破裂、発火の原因になります。

Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL15は、D7200に対応しています。



電池からもれた液が目に入ったときはすぐにきれいな水で洗い、医師の治療を受けること

そのままにしておくと、目に傷害を与える原因となります。

警告 (専用リチウムイオン充電電池について)



電池は、幼児の手の届くところに置かない

幼児の飲み込みの原因となります。

万一飲み込んだ場合は直ちに医師にご相談ください。



水につけたり、ぬらさないこと

液もれ、発熱の原因となります。



変色・変形、そのほか今までと異なることに気づいたときは、使用しないこと

液もれ、発熱、破裂、発火の原因になります。



充電の際に所定の充電時間を超えても充電が完了しないときには、充電をやめること

液もれ、発熱、破裂、発火の原因になります。



電池をリサイクルするときや、やむなく廃棄するときにはビニールテープなどで接点部を絶縁すること

他の金属と接触すると、発熱、破裂、発火の原因となります。ニコンサービス機関やリサイクル協力店にご持参くださるか、お住まいの自治体の規則に従って廃棄してください。



電池からもれた液が皮膚や衣服に付いたときはすぐにきれいな水で洗うこと

そのままにしておくと、皮膚がかぶれたりする原因となります。

注意 (専用リチウムイオン充電機について)



充電中の電池に長時間直接触れないこと
充電中に温度が高くなる部分があり、低温やけどの原因になることがあります。

警告 (チャージャーについて)



分解したり修理や改造をしないこと
感電したり、異常動作をしてケガの原因となります。



落下などによって破損し、内部が露出したときは、露出部に手を触れないこと



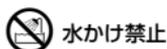
感電したり、破損部でケガをする原因となります。
電源プラグをコンセントから抜いて、ニコンサービス機関に修理を依頼してください。



熱くなる、煙が出る、こげ臭いなどの異常時は、速やかに電源プラグをコンセントから抜くこと



そのまま使用すると火災、やけどの原因となります。
電源プラグをコンセントから抜く際、やけどに充分注意してください。ニコンサービス機関に修理を依頼してください。



水につけたり、水をかけたり、雨にぬらさない
感電や発火などの事故や故障の原因になります。



引火・爆発のおそれのある場所では使わない
プロパンガス、ガソリン、可燃性スプレーなどの引火性ガスや粉塵の発生する場所で使用すると、爆発や火災の原因になります。



電源プラグの金属部やその周辺にほこりが付着している場合は、乾いた布で拭き取ること
そのまま使用すると火災の原因になります。



雷が鳴り出したら電源プラグに触れないこと
感電の原因となります。
雷が鳴り止むまで機器から離れてください。



ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないこと
感電の原因になることがあります。

警告 (チャージャーについて)



禁止

チャージャーを海外旅行者用電子式変圧器（トラベルコンバーター）やDC/ACインバーターなどの電源に接続して使わないこと

発熱、故障、火災の原因となります。

注意 (チャージャーについて)



感電注意

ぬれた手でさわらない

感電の原因になることがあります。



使用注意

通電中のチャージャーに長時間直接触れないこと

通電中に温度が高くなる部分があり、低温やけどの原因になることがあります。



放置注意

製品は幼児の手の届くところに置かない

ケガの原因になることがあります。



禁止

布団でおおったり、つつんだりして使用しないこと

熱がこもりケースが変形し、火災の原因となることがあります。

ご確認ください

●保証書について

この製品には「保証書」が付いていますのでご確認ください。「保証書」は、お買い上げの際、ご購入店からお客様へ直接お渡しすることになっています。必ず「ご購入年月日」「ご購入店」が記入された保証書をお受け取りください。「保証書」をお受け取りにならないと、ご購入1年以内の保証修理が受けられないこととなります。お受け取りにならなかった場合は、ただちに購入店にご請求ください。

●カスタマーサポート

下記アドレスのホームページで、サポート情報をご案内しています。

<http://www.nikon-image.com/support/>

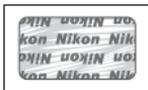
●大切な撮影の前には試し撮りを

大切な撮影（結婚式や海外旅行など）の前には、必ず試し撮りをしてカメラが正常に機能することを事前に確認してください。本製品の故障に起因する付随的損害（撮影に要した諸費用および利益喪失等に関する損害等）についての補償はご容赦願います。

●本製品を安心してお使いいただくために

本製品は、当社製のアクセサリ（レンズ、スピードライト、バッテリー、チャージャー、ACアダプターなど）に適合するように作られておりますので、当社製品との組み合わせでお使いください。

- Li-ion リチャージャブルバッテリー EN-EL15 には、ニコン純正品であることを示すホログラムシールが貼られています。
- 模倣品のバッテリーをお使いになると、カメラの十分な性能が発揮できないほか、バッテリーの異常な発熱や液もれ、破裂、発火などの原因となります。
- 他社製品や模倣品と組み合わせると、事故・故障などが起こる可能性があります。その場合、当社の保証の対象外となりますのでご注意ください。



●使用説明書について

- この使用説明書の一部または全部を無断で転載することは、固くお断りいたします。
- 製品の外観・仕様・性能は予告なく変更することがありますので、ご承知ください。
- 使用説明書の誤りなどについての補償はご容赦ください。
- 使用説明書の内容が破損などによって判読できなくなったときは、下記のホームページから使用説明書のPDFファイルをダウンロードできます。

<http://downloadcenter.nikonimglib.com/>

ニコンサービス機関で新しい使用説明書を購入することもできます（有料）。

●著作権についてのご注意

あなたがカメラで撮影または録音したものは、個人として楽しむなどの他は、著作権上、権利者に無断で使うことができません。なお、実演や興行、展示物の中には、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。また、著作権の対象となっている画像は、著作権法の規定による範囲内で使用する以外は、ご利用いただけませんのでご注意ください。

●カメラやメモリーカードを譲渡/廃棄するときのご注意

- カメラを譲渡/廃棄する際は、使用者によってカメラ内に登録または設定された、無線LAN接続設定などの個人情報を含む内容を、カメラのセットアップメニュー [ネットワーク] の [接続設定] で削除してください。設定内容の削除については、別売の通信ユニットの使用説明書をご覧ください。
- Wi-Fi接続設定は、セットアップメニュー [Wi-Fi] → [接続設定] → [接続設定のリセット] で工場出荷時の設定にリセットしてください (□249)。
- SD カード内のデータはカメラやパソコンで初期化または削除しただけでは、完全には削除されません。譲渡/廃棄した後に市販のデータ修復ソフトなどを使ってデータが復元され、重要なデータが流出してしまう可能性があります。SDカード内のデータはお客様の責任において管理してください。
- SDカードを譲渡/廃棄する際は、市販のデータ削除専用ソフトなどを使ってデータを完全に削除するか、初期化後にSDカードがいっぱいになるまで、空や地面などの画像で置き換えることをおすすめします。なお、プリセットマニュアルの画像 (□115) も、同様に別の画像で置き換えてから譲渡/廃棄してください。SDカードを物理的に破壊して廃棄する場合は、周囲の状況やケガなどに十分ご注意ください。

●電波障害自主規制について

この装置は、クラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
使用説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

VCCI-B

●AVC Patent Portfolio Licenseに関するお知らせ

本製品は、お客様が個人使用かつ非営利目的で次の行為を行うために使用される場合に限り、AVC Patent Portfolio Licenseに基づきライセンスされているものです。

- (i) AVC規格に従い動画をエンコードすること（以下、エンコードしたものをAVCビデオといいます）
- (ii) 個人利用かつ非営利目的の消費者によりエンコードされたAVCビデオ、またはAVCビデオを供給することについてライセンスを受けている供給者から入手したAVCビデオをデコードすること

上記以外の使用については、黙示のライセンスを含め、いかなるライセンスも許諾されていません。

詳細情報につきましては、MPEG LA, LLCから取得することができます。

<http://www.mpegla.com> をご参照ください。

☑ アクセサリーについてのご注意

このカメラには、当社製のアクセサリーをお使いいただくことをおすすめします。他社製アクセサリーは、カメラの故障や不具合の原因となることがあります。他社製アクセサリー使用によるカメラの不具合については、保証の対象となりませんので、ご了承ください。なお、このカメラに使用できる別売アクセサリーについての最新情報は、最新のカタログや当社のホームページなどでご確認ください (□xvii)。

Wi-Fi (無線LAN) 機能について

●電波に係わるご注意

- 本製品はWi-Fi (無線LAN) 機能を搭載しています。国や地域によって、法律によりWi-Fi (無線LAN) 機能が使用できない場合があります。ご購入された国以外での使用については、本書の裏表紙に記載のニコン カスタマーサポートセンターへお問い合わせください。

●Wi-Fi (無線LAN) 機能のご注意

2.4 DS4 / OF4

Wi-Fi (無線LAN) 機能 : 2.4DS4/OF4

本製品の使用周波数は2.4 GHz 帯、変調方式はDSSS、OFDM、与干渉距離は約40 mです。

- 本製品は、「電波法」に基づく技術基準適合認証を受けた無線設備を内蔵し、証明ラベルは無線設備上に表示しています。

以下の行為は法令で罰せられることがあります。

- 本製品の分解/改造
- 本製品から証明ラベルをはがす
- 本製品の使用周波数帯は、以下の機器や無線設備と同じです。
 - 電子レンジなどの産業・科学・医療用機器
 - 工場の製造ライン等の移動体識別用の
 - ① 構内無線局 (免許を要する無線局)
 - ② 特定小電力無線局 (免許を要しない無線局)
 - アマチュア無線局 (免許を要する無線局)

これらの無線設備の近くでは、電波干渉で通信速度の低下、通信距離の短縮、通信の途絶が双方に生じることがあります。

- 本製品で電波干渉を起こさないよう、以下にご注意ください。
 - 使用周波数帯が同じ無線設備が近くにないか、事前に確認する
 - 万一、本製品から移動体識別用の構内無線局に電波干渉を生じたら、Wi-Fiアクセスポイントのチャンネル番号を変更して使用周波数を変える
- その他、本製品から移動体識別用の特定小電力無線局あるいはアマチュア無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、本書の裏表紙に記載されているニコンカスタマーサポートセンターへお問い合わせください。
- データの送受信は、第三者に傍受される危険性にご留意ください。データ送受信による情報漏洩には、当社は一切の責任を負いません。
- 本製品は、電子レンジなどの電気製品、AV機器、OA機器などの電磁波や磁気の発生源の周辺で使わないでください。
 - 雑音が増大したり、通信が途絶したりします。
 - AV機器、OA機器などの受信障害の原因になります。

●本製品の使用上のご注意

本製品は、Wi-Fi（無線LAN）機器としてお使いください。

Wi-Fi機器以外としての使用による損害は、当社では一切の責任を負いません。

- 医療機器や人命に直接的または間接的に係わるシステムなど、高い安全性が要求される用途には使わないでください。
- Wi-Fi 機器よりも高い信頼性が要求される機器や電算機システムなどの用途では、使用システムの安全設計や故障に対する適切な処置をしてください。

●セキュリティについて

- 本製品は電波を利用して情報を交換するため、電波の届く範囲で自由に無線接続が可能であるという利点がありますが、セキュリティに関する設定を行っていない場合、以下のような問題が発生する可能性があります。
 - 情報の漏洩：悪意ある第三者が電波を故意に傍受し、IDやパスワードなどの個人情報漏洩する可能性があります。
 - 不正アクセス：悪意ある第三者が無断でネットワークにアクセスして、なりすまし、情報の改ざんなどの行為を行う可能性があります。また、本製品にセキュリティを設定したにもかかわらず、無線LANの仕様上、特殊な方法によりセキュリティが破られることもありますので、ご理解の上で使用ください。
- セキュリティ設定は、専用ソフトウェア「Wireless Mobile Utility」(□□243)を使って行うことができます。
- 液晶モニターやスマートデバイスに使用権限のないネットワークが表示されても、接続しようとししないでください。接続しようとすると、不正アクセスとみなされるおそれがあります。使用権限のあるネットワークだけをお使いください。

●本製品の輸出、持ち出しに係わるご注意

本製品は、米国輸出規制（EAR）を含む米国法の対象であり、米国政府指定の輸出規制国（キューバ、イラン、北朝鮮、スーダン、シリア）への輸出や持ち出しには、米国政府の許可が必要になりますので、ご注意ください。なお、輸出規制国は変更されている可能性がありますので、詳しくは米国商務省へお問い合わせください。

●個人情報の管理および免責事項

- 使用者によって本製品内に登録または設定された、Wi-Fi（無線 LAN）接続設定等の個人情報を含む情報は、誤操作、静電気の影響、事故、故障、修理、その他の取り扱いで変化、消失する場合があります。

必要な内容は、お客様の責任において控えを必ずおとりください。

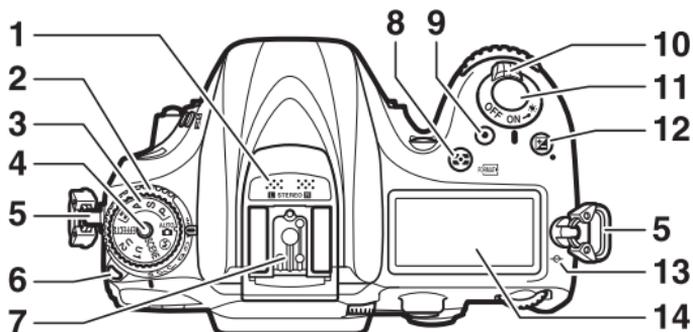
当社の責によらない内容の変化、消失、それらに起因する直接または間接の損害および逸失利益には、当社は一切の責任を負いません。

- 本製品を譲渡 / 廃棄するときは、使用者によって本製品内に登録または設定された、Wi-Fi接続設定等の個人情報を含む内容を、セットアップメニュー **[Wi-Fi]** → **[接続設定]** → **[接続設定のリセット]** で工場出荷時の設定にリセットしてください (□249)。
- 本製品の盗難や紛失などで、第三者による不正使用の被害が発生しても、当社は一切の責任を負いません。

お使いになる前に

各部の名称と機能

カメラ本体



1	マイク (ステレオ)159、188	7	フラッシュ取り付け部 (アクセサリシュー)303
2	レリーズモードダイヤル6、65	8	☒ (AF-ON) ボタン101、281
3	撮影モードダイヤル5	9	動画撮影ボタン159
4	撮影モードダイヤルロック ボタン5	10	電源スイッチ22
5	ストラップ取り付け部 (吊り金具)18	11	シャッターボタン32
6	レリーズモードダイヤル ロックボタン6、65	12	☑ ボタン104、190
		13	⊕ 距離基準マーク93
		14	表示パネル7

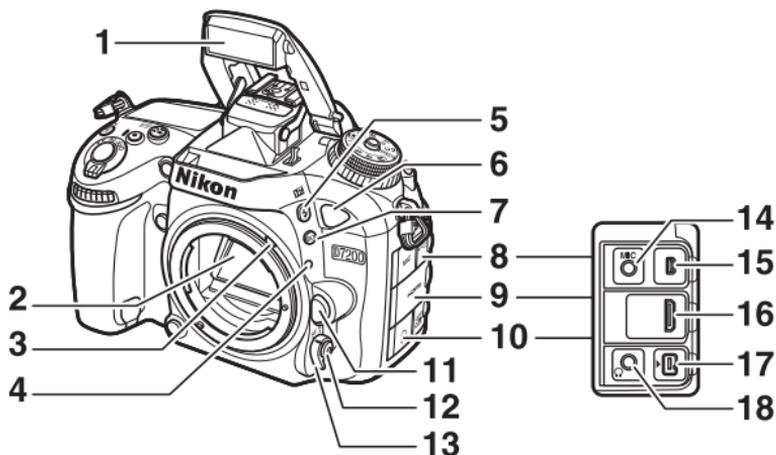
☑ 表示パネルのイルミネーター (照明) について

電源スイッチを☑マークの方向に回すと、表示パネルのイルミネーター (照明) を点灯します。電源スイッチを放すと、イルミネーターは数秒間点灯し続けます。ただし、シャッターをきるか、もう一度☑マークの方向に回すと消灯します。



電源
スイッチ

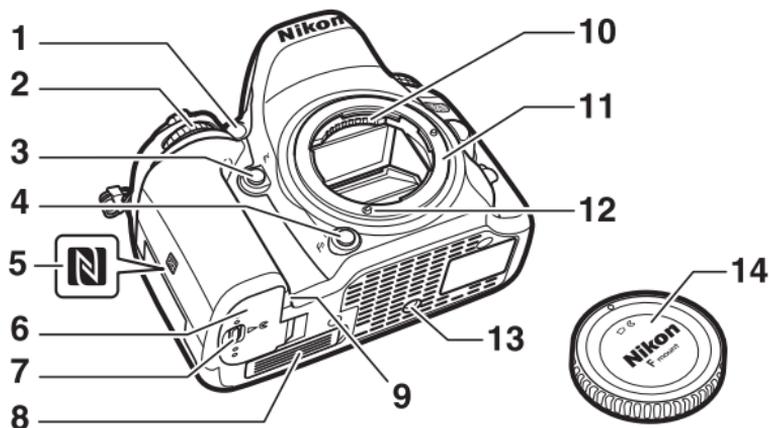
カメラ本体 (つづき)



1	内蔵フラッシュ 34、141	11	レンズ取り外しボタン 27
2	ミラー 70、316	12	AFモードボタン 80、86
3	露出計連動レバー 345	13	フォーカスモードセレクター 79、92
4	レンズ着脱指標 21	14	外部マイク入力端子 189、312
5	ボタン 141、148	15	USB端子 348
6	リモコン受光部 (前面) 155	16	HDMI端子 312、348
7	BKTボタン 194、199、203	17	アクセサリターミナル 157、221
8	USB端子/外部マイク入力端子 カバー 189、312	18	ヘッドホン出力端子 189
9	HDMI端子カバー 284、312		
10	アクセサリターミナル/ ヘッドホン出力端子カバー 157、189、221		

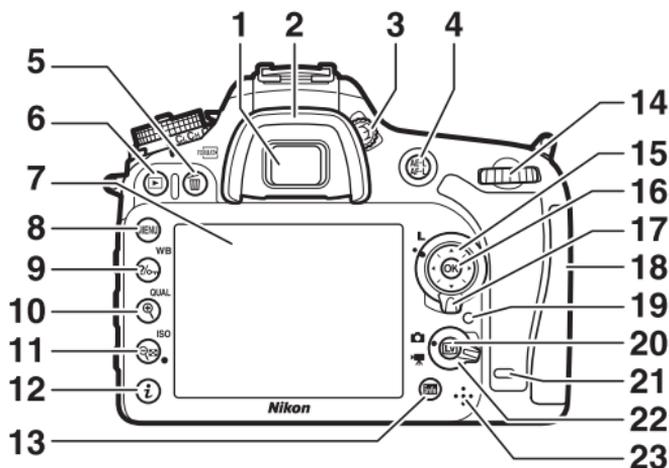
端子カバーについて

使用しない場合は、必ず端子カバーを閉じてください。ゴミなどが入ると、誤作動の原因となることがあります。



1	AF補助光ランプ271	7	バッテリー室開閉ノブ 20
2	セルフタイマーランプ68	8	MB-D15用接点カバー312
3	赤目軽減ランプ142、145	9	パワーコネクターカバー
4	サブコマンドダイヤル278	10	レンズ信号接点
5	Pv ボタン54、162、277、280	11	レンズマウント21、93
6	Fn ボタン 73、151、220、277、280	12	AFカップリング
7	Nマーク (NFCアンテナ部) ...247	13	三脚ネジ穴
8	バッテリー室カバー20	14	ボディーキャップi、21、312

カメラ本体 (つづき)



1	ファインダー接眼窓8、23	12	Info ボタン 185、227
2	接眼目当て69	13	Info ボタン 11、182
3	視度調節ダイヤル23	14	メインコマンドダイヤル278
4	シャッターボタン89、102、277、280	15	マルチセレクター13、15
5	再生 (FORMAT) ボタン38、240、281	16	OK ボタン15、277
6	再生ボタン37、223	17	フォーカスポイントロック レバー85
7	液晶モニター37、182、223	18	SDカードカバー20
8	MENU ボタン14、261	19	SDカードアクセスランプ ...26、33
9	WB (WB) ボタン15、107、111、114、239	20	再生ボタン10、29、158
10	QUAL (QUAL) ボタン36、74、77、237	21	リモコン受光部 (背面)155
11	ISO (ISO) ボタン95、99、190、225、226	22	ライブビューセレクター10、29、158
		23	スピーカー174

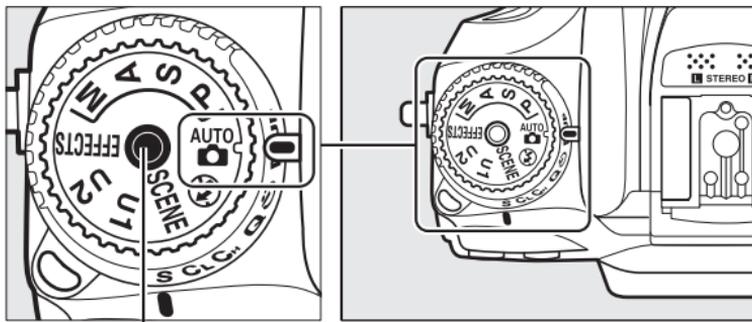
☑ スピーカーについてのご注意

スピーカーに磁気カードなどの磁気製品を近づけると、記録内容が壊れることがあります。スピーカーに磁気製品を近づけないでください。

撮影モードダイヤル

撮影モードダイヤルロックボタンを押しながら、撮影モードダイヤルを回すと、次の各モードに切り換えられます。

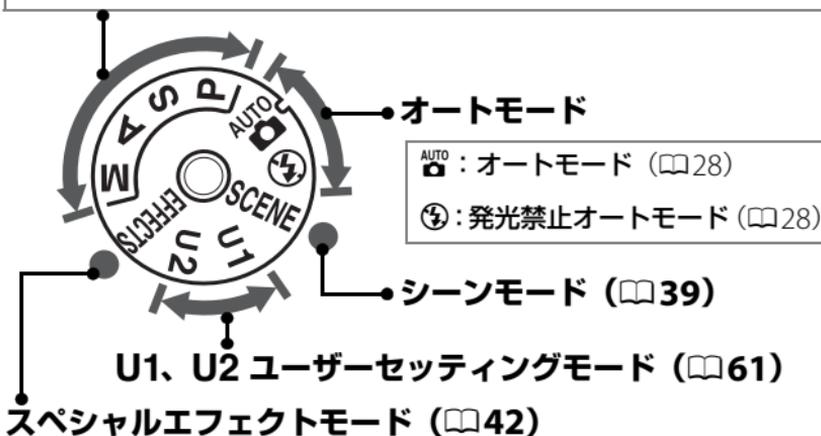
撮影モードダイヤル



撮影モードダイヤルロックボタン

P、S、A、Mモード

P：プログラムオート (☐51) **A**：絞り優先オート (☐53)
S：シャッター優先オート (☐52) **M**：マニュアル (☐55)



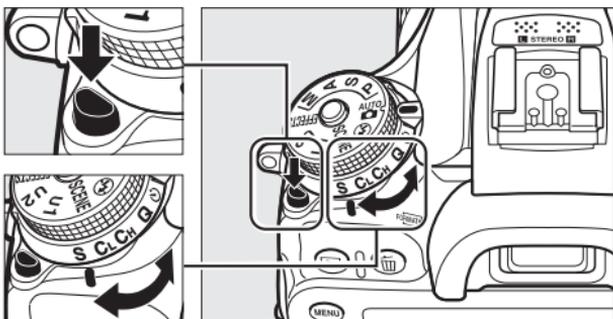
🔍 使用レンズについて

A、**M**以外の撮影モードで撮影するときは、CPUレンズ (☐299) をお使いください。非CPUレンズ (☐300) 装着時は、シャッターはきれません。

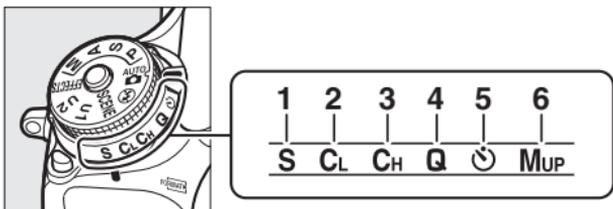
リリースモードダイヤル

リリースモードダイヤルロックボタンを押しながら、リリースモードダイヤルを回すと、リリースモードを切り換えられます。

リリースモードダイヤルロックボタン



リリースモードダイヤル

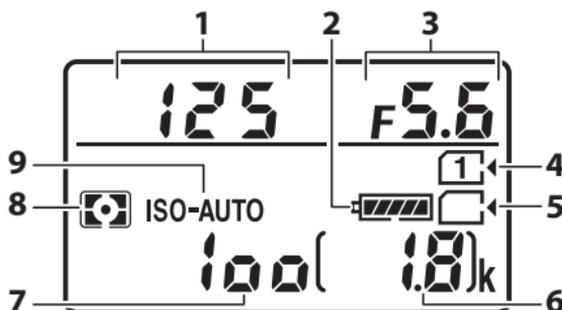


1	S 1コマ撮影	65	4	Q 静音撮影	65
2	CL 低速連続撮影	65	5	☺ セルフタイマー撮影	65、68
3	CH 高速連続撮影	65	6	MUP ミラーアップ撮影	65、70

表示パネル

カメラの電源をONにすると、表示パネルが点灯します。表示パネルにはカメラの設定に関するさまざまな情報が表示されます。

初めて電源をONにしたときは、次の情報が表示されます。その他の情報については、本文中の各機能で説明しています。



1	シャッタースピード 52、55	6	記録可能コマ数 25
2	バッテリー残量表示 24	7	ISO感度 94
3	絞り値 53、55	8	測光モード 100
4	SDカードマーク (スロット1) 25、78	9	ISO感度マーク 94
5	SDカードマーク (スロット2) 25、78		感度自動制御設定マーク 98

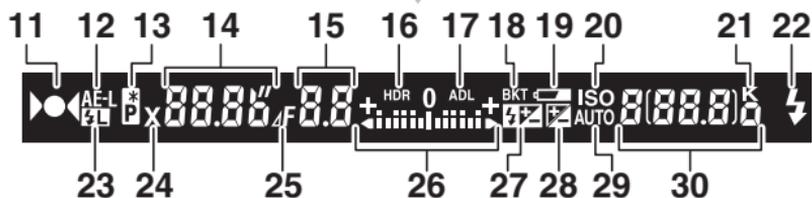
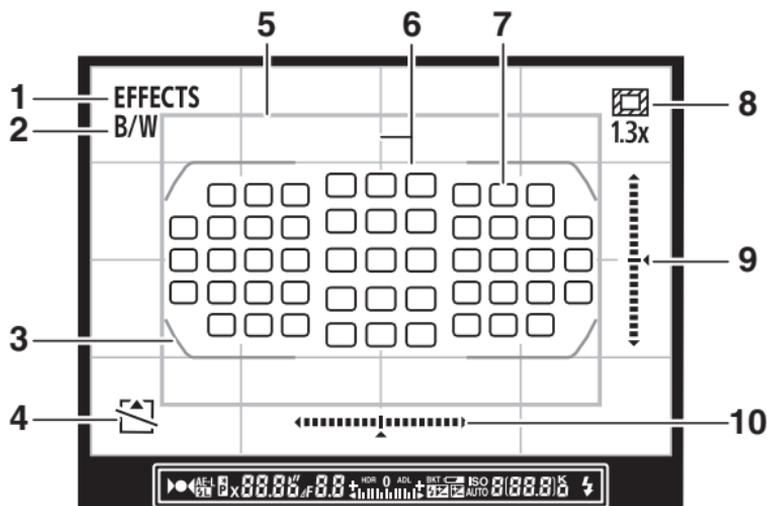
電源OFF時のパネル表示について

バッテリーが入っていると、カメラの電源がOFFのときも、表示パネルのSDカードマークと記録可能コマ数が点灯します。SDカードの種類によっては、電源がOFFのときにSDカードを挿入しても、まれにSDカードマークと記録可能コマ数が点灯しないことがあります。この場合、カメラの電源をONにすると点灯します。



表示パネル

ファインダー (説明のため、全ての表示を点灯させています)



1	スペシャルエフェクトモード マーク 42	8	対DX 1.3×クロップマーク 72
2	白黒マーク 42、126	9	縦位置撮影時の水準器 (ローリング方向) *
3	AFエリアフレーム 23、31	10	横位置撮影時の水準器 (ローリング方向) *
4	カードなしマーク 27、338	11	ピンツ表示 32、93
5	対DX 1.3×クロップ撮像範囲 72	12	AEロックマーク 102
6	構図用格子線 274 (カスタムメニュー d7 [ファイン ダー内格子線表示] を [す る] に設定している場合のみ表 示されます)	13	プログラムシフトマーク 51
7	フォーカスポイント表示 32、85、270	14	シャッタースピード 52、55
		15	絞り値 53、55 絞り込み段数 54、300
		16	HDRマーク 138

17	アクティブD-ライティング マーク 136	26	インジケーター 露出 56 露出補正 104
18	オートブラケティング マーク 194 WBブラケティングマーク 199 ADLブラケティングマーク 203	27	調光補正マーク 148
19	バッテリー警告表示 24	28	露出補正マーク 105
20	ISO感度マーク 94	29	感度自動制御設定マーク 98
21	1000コマ以上補助表示 25	30	記録可能コマ数 25 連続撮影可能コマ数 66、369 ホワイトバランスプリセット マニュアルデータ取得モード 表示 117
22	レディーライト 34、274		
23	FVロックマーク 151		
24	フラッシュシンクロマーク 275		
25	絞り込み段数マーク 54、300		

※ カスタムメニュー f2 [Fn ボタンの機能] (□277) または f3 [プレビューボタンの機能機能] (□277) の [押し時の動作] で [ファインダー内水準器] に設定すると、Fn ボタンまたは Pv ボタンを押したときにローリング方向の水準器インジケーターを表示します。

✓ ファインダーについてのご注意

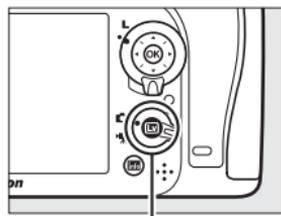
カメラにバッテリーが入っていない、またはバッテリー残量がない状態では、ファインダー内が暗くなります。充電したバッテリーを入れると明るくなります。

✓ 高温、低温下での液晶表示について

表示パネルやファインダーの液晶表示は、高温・低温下で色の濃さが変わったり、低温下で応答速度が多少遅くなることがありますが、常温時には正常に戻ります。

液晶モニター（ライブビュー時の情報表示）

ライブビューセレクターを （静止画ライブビュー）または （動画ライブビュー）に合わせて  ボタンを押すと、ライブビューに切り替わります。



 ボタン



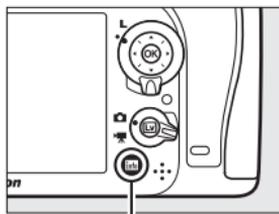
ライブビューセレクターが  のとき



ライブビューセレクターが  のとき

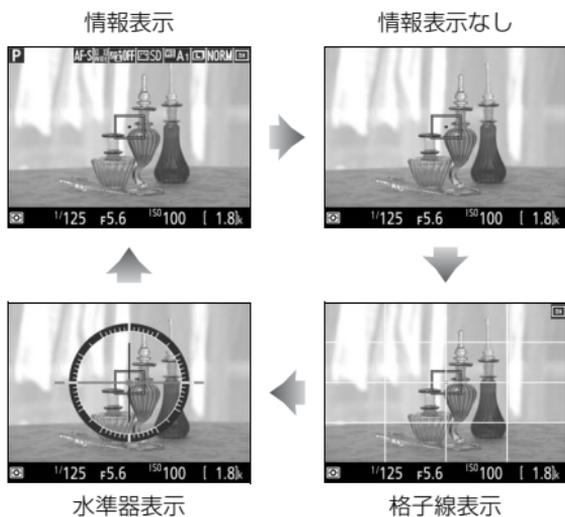
■ 表示を切り換える

info ボタンを押すたびに、次のように画面の表示が切り替わります。

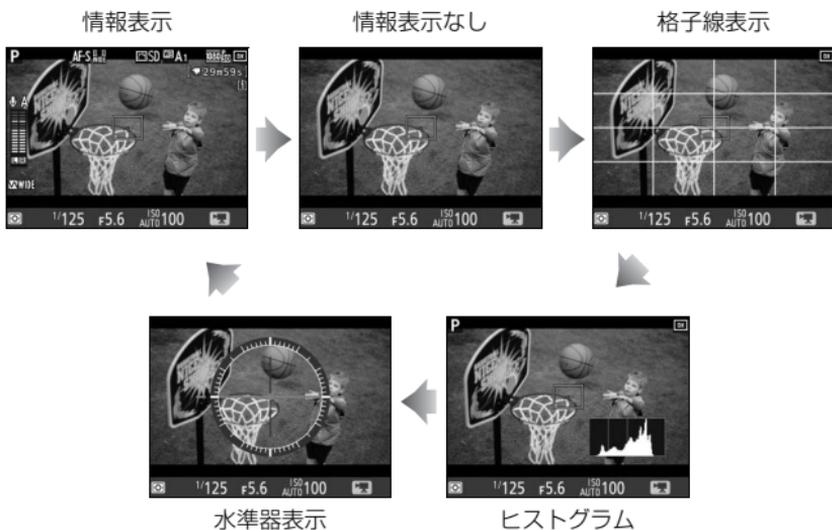


info ボタン

ライブビューセクターが📷（静止画ライブビュー）のとき



ライブビューセクターが●(動画ライブビュー) のとき

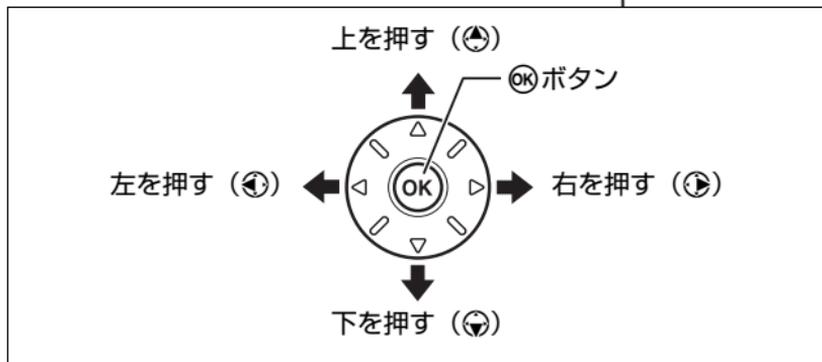
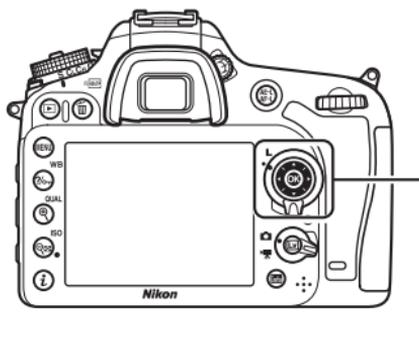


☑ ライブビューの残り時間のカウントダウンについて

- ライブビューが自動的に終了する30秒前から、液晶モニターの上左に残り時間のカウントダウンを表示します。
- カスタムメニューc4 [モニターのパワーオフ時間] (□□273) の設定により終了する場合は、終了30秒前から黒字で表示し、終了5秒前から赤字で表示します。[モニターのパワーオフ時間] の [ライブビュー表示] を [制限なし] に設定している場合も、カメラ内部の温度上昇などによりライブビューが終了する場合があります。
- カメラ内部の温度上昇により終了する場合は、終了30秒前から赤字で表示します。撮影条件によっては、ライブビューの開始後すぐにカウントダウンが始まる場合があります。
- 動画撮影中にカウントダウンが始まった場合は、液晶モニターの上右に表示されている動画残り記録時間にかかわらず、ライブビュー残り時間のカウントダウン時間で動画撮影を自動的に終了します。

マルチセレクターの使い方

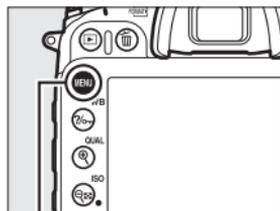
マルチセレクターは、上下左右を押したり、OK ボタンを押して操作します。この説明書では、マルチセレクターを上下左右に押す動作を     で表しています。



メニューの操作方法

撮影や再生、カメラの基本的な設定をするときは、主にメニューを使います。

MENU ボタンを押すと、液晶モニターに次のようなメニュー画面（例：セットアップメニュー）を表示します。



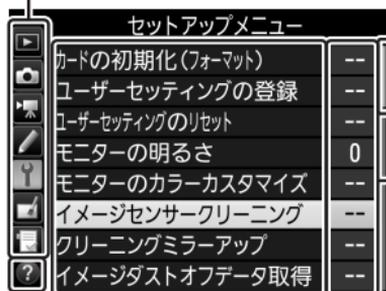
MENUボタン

メニュー切り換えタブ

次の各メニューのアイコンのタブを選ぶと、選んだメニュー画面が表示されます

	再生メニュー (□261)
	静止画撮影メニュー (□263)
	動画撮影メニュー (□267)
	カスタムメニュー (□270)
	セットアップメニュー (□281)
	画像編集メニュー (□286)
	マイメニュー / 最近設定した項目 (□289) *

* どちらかに設定できます。初期設定は [マイメニュー] です。



項目がそのメニュー全体のどの位置にあるかを示しています

各項目の設定をアイコンで表示します

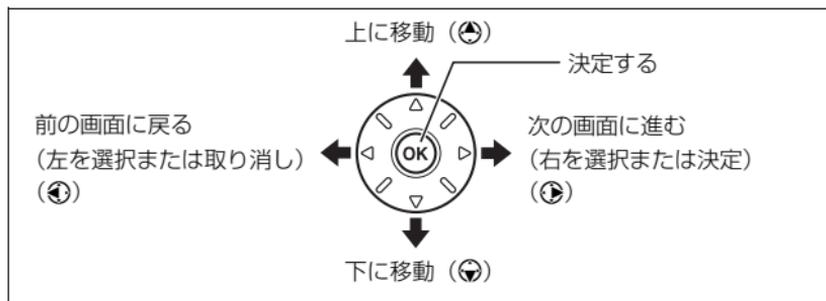
メニュー項目

タブで選んだメニュー内にある設定項目を一覧表示します

ヘルプあり表示 (□15)

メニュー項目の設定

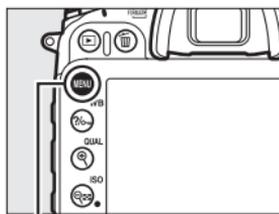
メニューの操作には、マルチセレクターと **OK** ボタンを使います。



メニュー項目の設定方法

1 メニュー画面を表示する

- MENU ボタンを押します。

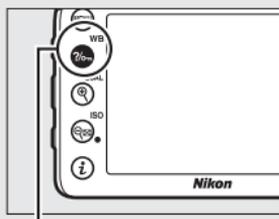


MENU ボタン

② (ヘルプあり表示)

ヘルプがある場合に **?** (WB) ボタンを押すと、その項目のヘルプ (説明) を表示します。

- 説明が2ページ以上ある場合は、**?** (WB) ボタンを押しながらマルチセレクターの **?** を押して、次のページを表示してください。
- **?** (WB) ボタンを放すと、メニュー画面に戻ります。



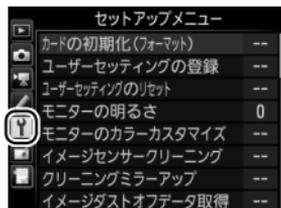
? (WB) ボタン

多重露出

[コマ数] で設定した回数、撮影した画像を合成して 1 枚の画像として記録できます。
半押しタイマーの作動時間は自動的に 30 秒延長されます。
撮影途中で半押しタイマーがオフになると、多重露出は解除され、それまでに撮影した画像で合成して記録

2 メニューのタブを選ぶ

- を押して、タブのアイコンを黄色く表示します。



3 メニューを切り換える

- またはを押して、メニューのタブを切り換えます。



4 選んだメニューに入る

- を押して、選んだメニューに入ります。



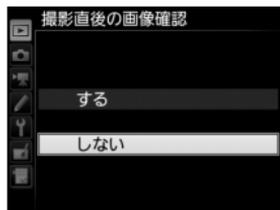
5 メニュー項目を選ぶ

- またはで項目を選びます。



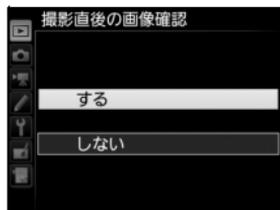
6 設定内容を表示する

- を押して設定内容を表示します。



7 設定内容を選ぶ

- またはで設定内容を選びます。



8 決定する

- ボタンを押して決定します。
- メニュー操作をキャンセル（中止）するには、**MENU**ボタンを押してください。
- メニュー画面から撮影に戻るには、シャッターボタンを半押ししてください。



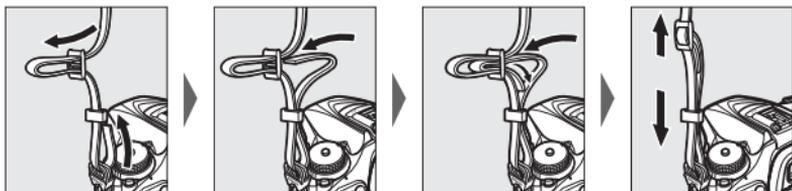
✓ メニュー項目の設定について

- 撮影モードやカメラの状態によって、設定できないメニュー項目があります。この場合、その項目はグレーで表示されて選べません。
- ボタンの代わりにを押しても決定できますが、画像の削除やSDカードの初期化などの重要な設定項目については、ボタンしか使えません。

撮影前の準備

次の1～7の手順で撮影前の準備を行ってください。

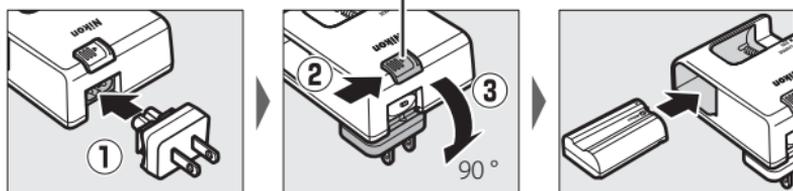
1 カメラにストラップを取り付ける (2カ所)



2 バッテリーをバッテリーチャージャーで充電する

- 電源プラグ (直付け型) を取り付けた後 (①)、電源プラグ (直付け型) 回転ロックを矢印の方向にスライドさせながら (②)、電源プラグ (直付け型) を90°回転させ、しっかりと固定させます (③)。

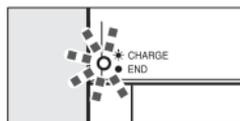
電源プラグ (直付け型)
回転ロック



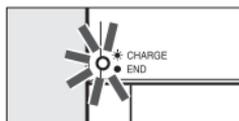
✓ バッテリーとチャージャーの使用上のご注意

お使いになる前に、必ず「安全上のご注意」(□x～xvi)、「カメラとバッテリーの取り扱い上のご注意」(□320～324)をお読みになり、記載事項をお守りください。

- フル充電するには約2時間35分かかります（残量の少ないバッテリーの場合）。



充電中
(点滅)



充電完了
(点灯)

✓ チャージャーの「CHARGE」ランプが速く（1秒間に8回）点滅する場合

- バッテリーのセットミス：電源プラグをコンセントから抜いて、バッテリーを取り外し、チャージャーにセットし直してください。
- 指定温度外での使用：チャージャーを指定温度範囲内（0℃～40℃）でお使いください。
- 上記の処置をしても不具合が続く場合は、ただちに電源プラグをコンセントから抜いて、充電を中止してください。販売店またはニコンサービス機関にチャージャーおよびバッテリーをお持ちください。

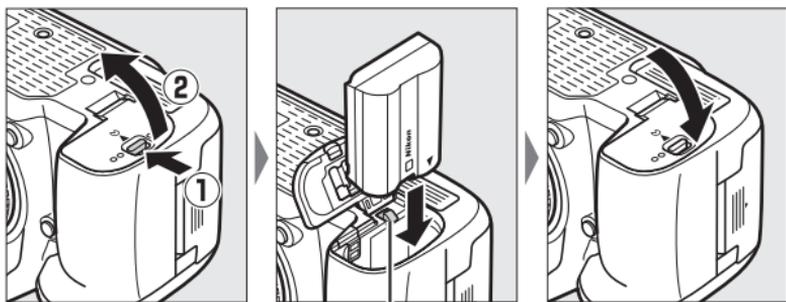
✓ 付属の電源プラグ（直付け型）についてのご注意

付属の電源プラグ（直付け型）は、バッテリーチャージャー MH-25a以外の機器に接続しないでください。この電源プラグ（直付け型）は、日本国内専用（AC 100V対応）です。海外でお使いになる場合は、別売の専用コードが必要です。別売の電源コードについては、ニコンサービス機関にお問い合わせください。また、オンラインショップ（ニコンダイレクト）

<http://shop.nikon-image.com/> でもお求めいただけます。

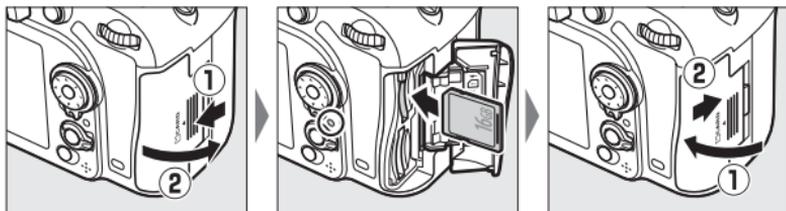
3 カメラにバッテリーとSDカードを入れる

- バッテリーやSDカードをカメラに入れたり、カメラから取り出したりするときは、必ずカメラの電源スイッチがOFFの位置にあることを確認してください。
- バッテリーとSDカードは、図のように正しい向きで入れてください。
- オレンジ色のバッテリーロックレバーをバッテリー側面で押しながら、バッテリーを奥まで入れると、バッテリーロックレバーがバッテリーに掛かって固定されます。



バッテリーロックレバー

- SDカードは、カチッと音がするまで挿入してください。
- SDカードを1枚だけ使用するときには、スロット1に入れてください (□25)。



4 レンズを取り付ける

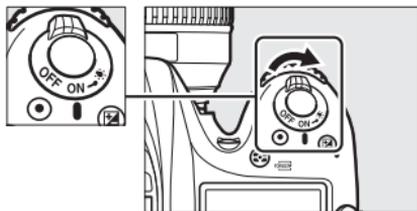
- この使用説明書では、主にAF-S DX NIKKOR 18-105mm f/3.5-5.6G ED VRのレンズを使用して説明しています。
- ほこりなどがカメラ内部に入らないように注意してください。



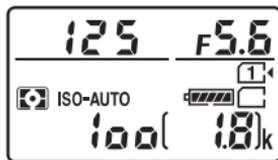
- 撮影する前に、レンズキャップを取り外してください。

5 カメラの電源をONにする

電源スイッチ



- 表示パネルが点灯します。



表示パネル

6 日付と時刻を設定する

- ご購入後、初めて電源をONにすると、カメラの内蔵時計の日付と時刻を設定する画面が表示されます。日時の設定が完了するまで、撮影や他の設定はできません。
- マルチセレクターの  または  を押して、選択中の項目の数値を合わせ、 または  で項目を移動します。
- 日付と時刻の設定を完了したら、 ボタンを押します。
- 設定した日付と時刻は、セットアップメニュー [地域と日時] (□283) の [日時の設定] で変更できます。

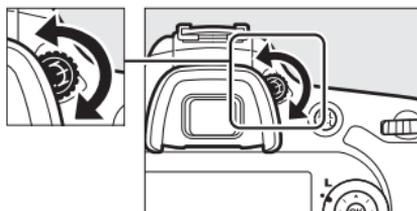


イメージセンサークリーニングについて

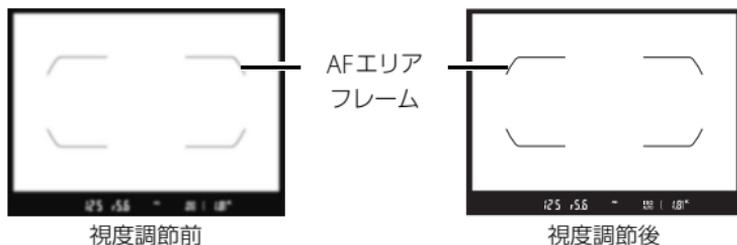
カメラの電源をON/OFFするたびに、撮像素子前面に付いたゴミをふり落とすイメージセンサークリーニングが作動します (□315)。

7 ファインダーを見やすくする

- ファインダーで構図を決めながら撮影する場合は、あらかじめ、ファインダー内がはっきり見えるように視度調節ダイヤルを回して調節してください。



- ファインダーをのぞきながら視度調節ダイヤルを回して、AFエリアアフレームが最もはっきり見えるように調節してください。

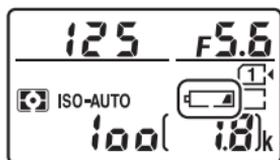


- 爪や指先で目を傷つけないようにご注意ください。

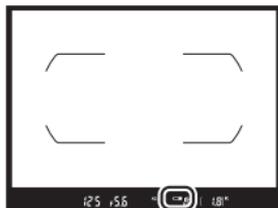
撮影前の準備が完了しました。すぐに撮影する場合は、□28へ進みます。

■ バッテリーの残量について

表示パネルまたはファインダーで、バッテリーの残量を確認できます。



表示パネル



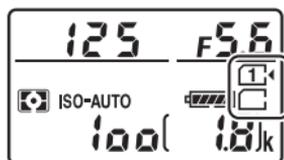
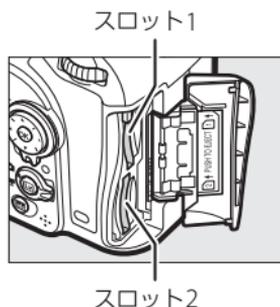
ファインダー

表示パネル	ファインダー	意味
	—	残量は充分に残っています。
	—	残量が減り始めました。
	—	
	—	
		残量は残りわずかです。予備のバッテリーを準備するか、バッテリーを充電してください。
 (点滅)	 (点滅)	バッテリーが消耗して撮影できません。バッテリーを交換するか、バッテリーを充電してください。

■ SDカード表示と記録可能コマ数について

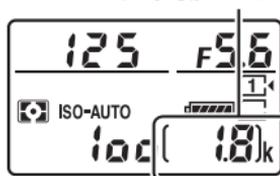
このカメラは、スロット1とスロット2のSDカードスロットを装備しており、2枚のSDカードを使用することができます。

- スロット1とスロット2の両方にSDカードを入れると、スロット1から優先的に記録し、空き容量がなくなったら、記録先をスロット2に変更します（[スロット2の機能]（□78）が初期設定の[順次記録]のとき）。撮影で主に使いたいSDカードは、スロット1に入れてください。
- 表示パネルとインフォ画面には、使用中のスロットが右図のように表示されます（例：スロット1とスロット2の両方にSDカードが入っている場合）。
- SDカードの残量がなくなった場合やSDカードがロックされている場合など、何らかのエラーが発生しているときは、エラーが発生しているSDカードのアイコンが点滅します（□337）。
- 表示パネルまたはファインダー内表示で、SDカードの記録可能コマ数（これから撮影できる枚数）を確認できます。
- カメラにSDカードが2枚入っている場合、スロット1の記録可能コマ数が表示されます。
- 記録可能コマ数が 1000 コマ以上あるときは、1000を意味する「k」マークが点灯します。



表示パネル

記録可能コマ数



表示パネル

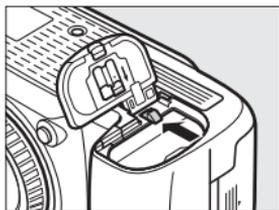


ファインダー内表示

■ バッテリーとSDカードの取り出し方

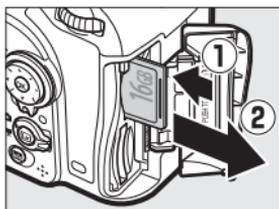
バッテリーを取り出すには

電源をOFFにしてからバッテリー室カバーを開けてください。バッテリーロックレバーを矢印の方向に押し、バッテリーが少し飛び出しますので、引き抜いて取り出してください。



SDカードを取り出すには

SDカードカバーを開ける前に、SDカードアクセスランプの消灯を確認して、電源をOFFにしてください。SDカードカバーを開けて、SDカードを奥に押し込んで放すと(①)、カードが押し出されるので、引き抜いて取り出してください(②)。

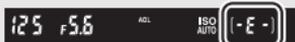
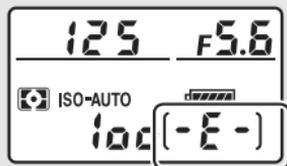


☑ SDカード取り扱い上のご注意

- カメラの使用後はSDカードが熱くなっていることがあります。取り出しの際はご注意ください。
- SDカードの初期化中や画像の記録または削除中、パソコンとの通信時などには、次の操作をしないでください。記録されているデータの破損やSDカードの故障の原因となります。
 - SDカードの着脱をしないでください
 - カメラの電源をOFFにしないでください
 - バッテリーを取り出さないでください
 - ACアダプターを抜かないでください
- 端子部に手や金属で触れないでください。
- SDカードに無理な力を加えないでください。破損のおそれがあります。
- 曲げたり、落としたり、衝撃を与えたりしないでください。
- 熱、水分、直射日光を避けてください。
- パソコンで初期化しないでください。

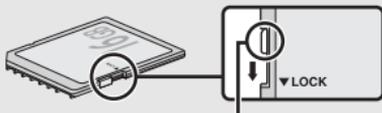
SDカードが入っていないときの表示について

SDカードが入っていないときは、表示パネルとファインダー内表示の記録可能コマ数表示部に「-E-」マークが表示されます。電源をOFFにしても、バッテリー残量があるときは、表示パネルの「-E-」マークが点灯します。



SDカードの書き込み禁止スイッチについて

- SDカードには、書き込み禁止スイッチが付いています。このスイッチを「LOCK」の位置にすると、データの書き込みや削除が禁止され、カード内の画像を保護できます。
- 「LOCK」したSDカードをカメラに入れてシャッターをきろうとすると、警告メッセージが表示され、撮影できません。撮影時や、画像を削除するときには「LOCK」を解除してください。

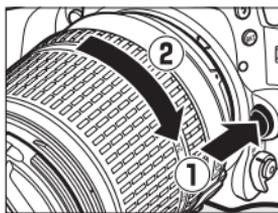


書き込み禁止
スイッチ

■ レンズの取り外し方

カメラの電源をOFFにしてから、カメラ前面のレンズ取り外しボタンを押しながら (1)、レンズを矢印の方向にいっぱいまで回し (2)、引き抜いてください。

- レンズを取り外した後は、カメラのボディキャップとレンズの裏ぶたをそれぞれ取り付けてください。



絞リングのあるCPUレンズについてのご注意

絞リングのあるCPUレンズ (□299) を取り付ける場合は、最小絞り (最大値) にして、ロックしてください。

かんたんな撮影と再生

かんたんに静止画を撮影する (^{AUTO}オート/Ⓜ発光禁止オート)

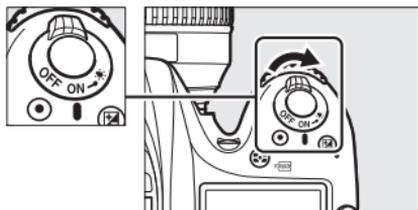
撮影モード^{AUTO}（オート）とⓂ（発光禁止オート）を使うと、カメラまかせの簡単な操作で静止画撮影を楽しむことができます。^{AUTO}の場合は、必要に応じてフラッシュが発光します。フラッシュを光らせずに撮影したいときは、Ⓜで撮影してください。



1 カメラの電源をONにする

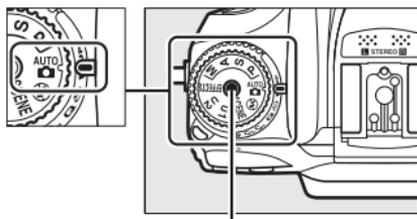
電源スイッチ

- 表示パネルが点灯します。



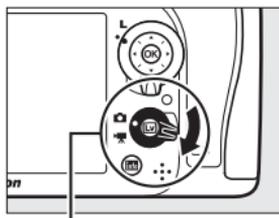
2 カメラ上面の撮影モードダイヤルロックボタンを押しながら、撮影モードダイヤルを回して または に合わせる

撮影モードダイヤル

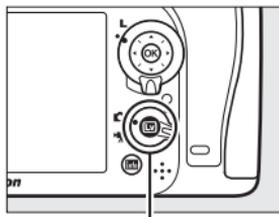


撮影モードダイヤルロックボタン

- 静止画の撮影方法には、ファインダーをのぞきながら撮影するファインダー撮影と、液晶モニターを見ながら撮影するライブビュー撮影があります。ライブビュー撮影を開始する場合は、ライブビューセレクターを  に合わせて  ボタンを押します。



ライブビューセレクター



Lv ボタン



ファインダー撮影



ライブビュー撮影

3 カメラを構える

ファインダー撮影

- 脇を軽く締め、右手でカメラのグリップを包み込むようにしっかりと持ち、左手でレンズを支えます。



ライブビュー撮影

- 右手でカメラのグリップを包み込むようにしっかりと持ち、左手でレンズを支えます。



縦位置で撮影するときは

人物などを縦位置で撮影する場合は、カメラを縦位置に構えます。



ファインダー撮影



ライブビュー撮影

4 構図を決める

ファインダー撮影

- ファインダーをのぞいて、構図を決めてください。
- 被写体をAFエアリアフレーム内に配置します。



AFエアリアフレーム

ライブビュー撮影

- 初期設定では、カメラが人物を認識した場合、認識した顔の位置にフォーカスポイントが表示されます (□84)。
- カメラが人物を認識しなかった場合は、マルチセレクターでフォーカスポイントを動かして、ピントを合わせたい被写体に重ねます。

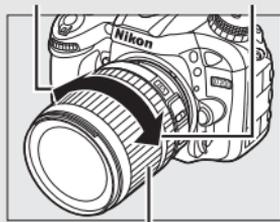


フォーカスポイント

ズームレンズの使い方

被写体を大きく写したいときはズームリングを望遠側（焦点距離目盛の大きい数値側）に、広い範囲を写したいときはズームリングを広角側（焦点距離目盛の小さい数値側）に回してください。

望遠側 広角側



ズームリング

5 シャッターボタンを軽く押して（半押しして）、ピントを合わせる



ファインダー撮影

- ピントが合うと、ファインダー内のピント表示（●）が点灯します。

フォーカスポイント



ピント表示

ファインダー内 ピント表示	意味
● (点灯)	被写体にピントが合っています。
▶ (点灯)	目的の被写体よりも手前にピントが合っています。
◀ (点灯)	目的の被写体よりも後方にピントが合っています。
▶ ◀ (点滅)	オートフォーカスでのピント合わせができません （「オートフォーカスの苦手な被写体について」(P91)をご覧ください）。

- ピントが合った位置には、フォーカスポイントが表示されます。
- 暗い場所などでシャッターボタンを半押しすると、AF補助光が光ることがあります。

ライブビュー撮影

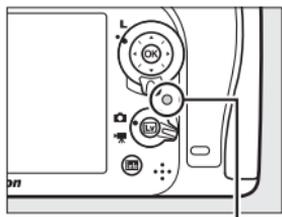
- ピントが合うと、フォーカスポイントが緑色で点灯します。フォーカスポイントは、オートフォーカス作動中は緑色で点滅し、ピントが合わないと赤色で点滅します。



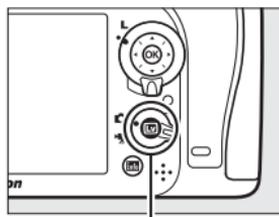
フォーカスポイント

6 シャッターボタンを半押ししたまま、さらに深く押し込んで（全押しして）撮影する

- SDカードアクセスランプが点灯している間は、画像を記録しています。SDカードやバッテリーを取り出さないでください。
- ライブビューを終了する場合は、**Lv** ボタンを押してください。



SDカード
アクセスランプ



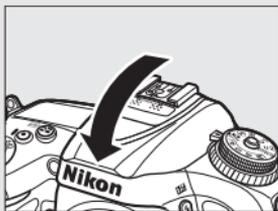
Lv ボタン

内蔵フラッシュについて

撮影モード \square では、被写体が暗い場合や逆光の場合に、シャッターボタンを半押しすると自動的に内蔵フラッシュが上がります。

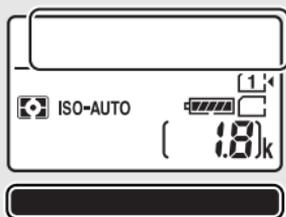
ファインダー内表示または液晶モニターに \square （レディーライト）が点灯しているときは、シャッターボタンを全押しすると、内蔵フラッシュが発光します。内蔵フラッシュが上がっている状態で \square が点灯していないときは、フラッシュが充電中のため、撮影できません。

内蔵フラッシュを収納するときは、カチッと音がするまで手で軽く押し下げます。バッテリーの消耗を防ぐため、使用しないときは常に収納してください。

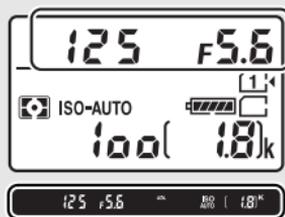


🔪 ファインダー撮影時の半押しタイマーについて

このカメラには、バッテリーの消耗を抑えるための「半押しタイマー」という機能があります。半押しタイマーは、シャッターボタンを半押しするとオンになり、何も操作が行われないまま約6秒経過すると、オフになります。半押しタイマーがオフになると、表示パネルのシャッタースピード、絞り値表示とファインダー内の全ての表示が消灯します。もう一度シャッターボタンを半押しすると、半押しタイマーがオンになり、元の状態に戻ります。半押しタイマーの作動時間は、カスタムメニューc2 [半押しタイマー] (□272) で変更できます。



半押しタイマーオフ



半押しタイマーオン

🔪 ライブビュー時のモニターのパワーオフ時間について

ライブビュー時に何も操作が行われないまま約10分経過すると、液晶モニターが自動的に消灯します。カスタムメニューc4 [モニターのパワーオフ時間] (□273) の [ライブビュー表示] で、消灯するまでの時間を設定できます。

✔ ライブビュー撮影の露出について

ファインダー撮影とライブビュー撮影では、シーンによって露出が異なる場合があります。

🔪 ライブビュー撮影時の拡大表示

ライブビュー撮影時に🔍 (QUAL) ボタンを押すと、フォーカスポイントを中心に拡大表示できます (最大約19倍)。マルチセレクターを動かすと、フォーカスポイントが移動します。

- 🔍 (QUAL) ボタンを押すごとに拡大率が上がり、🔍 (ISO) ボタンを押すごとに拡大率が下がります。
- 拡大表示中は、画面の右下に構図のどの部分を拡大しているかを表すナビゲーションウィンドウ (グレーの枠) が表示されます。



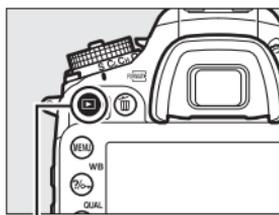
✔ ライブビュー撮影時のご注意

- ライブビュー撮影時は、液晶モニターの表示に次のような現象が発生することがありますが、実際に記録される画像に影響はありません。
 - 動きのある被写体が歪んで表示される
 - 電車や自動車など、高速で画面を横切る被写体が歪んで表示される
 - カメラを左右に動かした場合、画面全体が歪んで見える
 - ジャギー、偽色、モアレ、輝点が発生する
 - 周囲でスピードライトやフラッシュなどが発光されたり、イルミネーションなどの点滅する光源がある場合、画面の一部が明るくなったり、明るい横帯が発生する
- 蛍光灯、水銀灯、ナトリウム灯などの照明下で、ライブビュー撮影時に画面にちらつきや横縞が生じる「フリッカー現象」は、セットアップメニューの【フリッカー低減】(□282) で低減できますが、設定しているシャッタースピードによっては、撮影した静止画に記録されることがあります。
- 適正露出や画像に影響を与える接眼部からの逆入射光を防ぐため、撮影前に付属のアイピースキャップを取り付けることをおすすめします (□69)。
- ライブビュー撮影時は、太陽など強い光源にカメラを向けないでください。内部の部品が破損するおそれがあります。

撮影した画像を確認する

1 ▶ボタンを押す

- 撮影した画像をカメラ背面の液晶モニターに表示します。



▶ボタン

- 画像がどちらのスロットのSDカードに入っているかは、画像の左下のSDカードマークで確認できます。



2 マルチセレクターの◀または▶を押して他の画像を確認する



- 撮影に戻るには、シャッターボタンを半押ししてください。

🔍 撮影直後の画像確認について

再生メニューの [撮影直後の画像確認] (□262) を [する] に設定すると、▶ボタンを押さなくても、撮影した画像を自動的に液晶モニターに表示します。

🔍 関連ページ

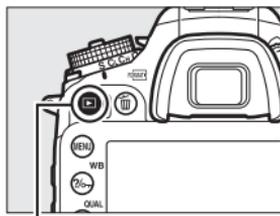
画像を表示するスロットを切り換える→「iボタンを使う」(□227)

画像を削除する

表示中の画像を削除します。削除した画像は元には戻せないのご注意ください。

1 削除したい画像を表示する

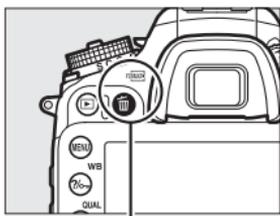
- ▶ ボタンを押して液晶モニターに画像を表示してから、マルチセレクターの  または  で削除したい画像を選びます。



▶ ボタン

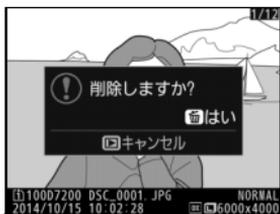
2 画像を削除する

-  (FORMAT) ボタンを押すと、削除確認画面が表示されます。もう一度  ボタンを押すと、表示中の画像を削除して、再生画面に戻ります。



 (FORMAT) ボタン

- 削除確認画面で▶ ボタンを押すと、画像の削除をキャンセルします。



再生メニュー [削除]

再生メニューの [削除] (□□241) では、次の操作ができます。

- 複数の画像を選んで削除
- 同じ日付の画像をまとめて削除
- 再生フォルダー内の全画像を一括して削除

また、SDカードを2枚使っているときは、全画像を削除するSDカードスロットを指定できます。

シーンに合わせて撮影する (簡単操作でより美しく)

撮影するシーンが決まっているときは、シーンに合わせてシーンモードを選ぶだけで、美しく撮影できます。シーンモードを選ぶ以外は、**AUTO**と同じ操作で撮影できます。

■ シーンモードの設定方法

現在選択されているシーンモードは、撮影モードダイヤルを**SCENE**に合わせた後、**INFO**ボタンを押して確認できます。メインコマンドダイヤルを回すと、設定を変更できます。



撮影モード
ダイヤル



メインコマンド
ダイヤル



液晶モニター

■ 各シーンモードの特徴

シーンモード	特徴
 (ポートレート)	人物を美しく撮影したいときに使います。人物の肌を滑らかで自然な感じに仕上げます。 <ul style="list-style-type: none">被写体と背景が離れているときや、望遠レンズを使って撮影したときは、背景がぼけて立体感のある画像になります。
 (風景)	自然の風景や街並みを、色鮮やかに撮影したいときに使います。*1,2
 (こどもスナップ)	子供の撮影に向いています。肌の色を美しく表現すると同時に、服装や背景も鮮やかに仕上げます。

シーンモード	特徴
 (スポーツ)	運動会などスポーツ写真の撮影に向いています。動きのある被写体の一瞬の動きを鮮明にとらえ、躍動感のある画像に仕上げます。*1,2
 (クローズアップ)	草花や昆虫などの小さな被写体に近づき、大きく写したいときに使います。 • マイクロレンズを使用すると、より被写体に近づいて撮影することができます。
 (夜景ポートレート)	夕景や夜景をバックに、人物を撮影したいときに使います。人物と背景の両方を美しく表現します。
 (夜景)	夜景の撮影に適しています。ノイズや不自然な発色を抑え、外灯やネオンなどの光を鮮やかにして夜景の雰囲気表現します。*1,2
 (パーティー)	パーティーなどでの撮影に適しています。パーティー会場の光の雰囲気も表現します。
 (海・雪)	晴天の海や湖、砂浜、雪景色などの撮影に適しています。*1,2
 (夕焼け)	夕焼けや朝焼けの撮影に適しています。*1,2
 (トワイライト)	夜明け前や日没後の風景の撮影に適しています。わずかな自然光での風景をきれいに表現します。*1,2
 (ペット)	動き回るペットなどの撮影に適しています。*2
 (キャンドルライト)	キャンドルライトでの撮影に適しています。*1
 (桜)	桜、花畑などの花がたくさん咲いている風景の撮影に適しています。*1
 (紅葉)	紅葉の撮影に適しています。紅葉の赤色や黄色を鮮やかに表現します。*1
 (料理)	料理の撮影に適しています。料理を鮮やかに表現します。 •  (🔧) ボタンを押して内蔵フラッシュを上げて、フラッシュ撮影することもできます (Q141)。

*1 内蔵フラッシュは発光しません。

*2 AF補助光は照射されません。

シーンモードの設定について

ライブビュー時にライブビューセクターが●**●**のときは、シーンモードを変更できません。

三脚の使用について

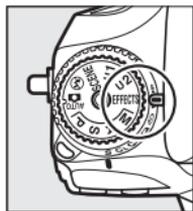
暗いときや手ブレが気になるときは、三脚の使用をおすすめします。

特殊効果をつけて撮影する (スペシャルエフェクトモード)

特殊な効果のついた画像を撮影できます。

■ スペシャルエフェクトモードの設定方法

現在選択されているシーンモードは、撮影モードダイヤルを**EFFECTS**に合わせた後、**Info** ボタンを押して確認できます。メインコマンドダイヤルを回すと、設定を変更できます。



撮影モード
ダイヤル



メインコマンド
ダイヤル



液晶モニター

■ 各スペシャルエフェクトモードの特徴

スペシャルエフェクトモード	特徴
 (ナイトビジョン)	意図的に高感度で撮影して、モノトーン（白黒）で表現します。暗間での撮影に適しています。*1 • オートフォーカスでピントが合いにくい場合は、フォーカスモードセレクターを M に合わせて、マニュアルフォーカスで撮影してください。
 (カラースケッチ)	輪郭を抽出して色をつけることで、スケッチ風に表現します。*2 • ライブビューにすると、  (カラースケッチ) の効果を設定できます (□45)。 • オートフォーカス中は効果が一時解除されます。 • 動画撮影の場合は、コマ送りのような動画として記録されます。

スペシャルエフェクトモード	特徴
 (ミニチュア効果)	ミニチュア（模型）を接写したように表現します。高いところから見下ろして撮影する場合に適しています。 <ul style="list-style-type: none"> • ライブビューにすると、（ミニチュア効果）の効果を設定できます（□46）。※1,2,3 • オートフォーカス中は効果が一時解除されます。 • 動画撮影の場合は、早送り動画として記録されます。 • 動画撮影の場合は音声は記録されません。
 (セレクトカラー)	選んだ色のみをカラーで残し、それ以外の色をモノトーン（白黒）で表現します。※1 <ul style="list-style-type: none"> • ライブビューにすると、（セレクトカラー）の効果を設定できます（□48）。
 (シルエット)	背景が明るいシーンで、被写体を意図的にシルエットで表現します。※1
 (ハイキー)	全体的に明るめの被写体の撮影に適しています。画像全体を意図的に明るいトーンで表現します。光に満ちた華やいだ雰囲気になります。※1
 (ローキー)	全体的に暗めの被写体の撮影に適しています。画像全体を意図的に暗いトーンで表現します。深く落ち着いた、ハイライト部分が引き立った雰囲気になります。※1

※1 内蔵フラッシュは発光しません。

※2 動画撮影中はオートフォーカスは作動しません。

※3 AF補助光は照射されません。

三脚の使用について

暗いときや手ブレが気になるときは、三脚の使用をおすすめします。

🔪 スペシャルエフェクトモードについて

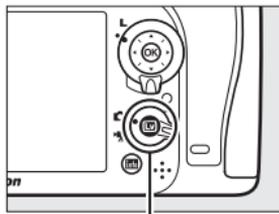
- 📷、📷、📷、📷では、RAWを含む画質モード（📷74）に設定できません。他の撮影モードで画質モードを[RAW + FINE]、[RAW + NORMAL]、[RAW + BASIC]に設定していた場合は、それぞれFINE、NORMALまたはBASICに変更されます。[RAW]の場合はFINEに変更されます。
- ライブビュー時にライブビューセレクトターが📷のときは、スペシャルエフェクトモードを変更できません。
- 撮影モードが📷または📷のときにリリースモードをCL（低速連続撮影）またはCH（高速連続撮影）に設定した場合、連続撮影速度が遅くなります。
- 撮影モードが📷または📷のときは、ライブビューの表示の更新は遅くなります。

■ [Fn] (カラースケッチ) の効果の設定方法

スペシャルエフェクトモードで [Fn] を選んだ後、効果を設定します。

1 [Lv] ボタンを押す

- 液晶モニターに被写体が表示されます。



Lv ボタン

2 [OK] ボタンを押す

- カラースケッチの設定画面が表示されます。



3 色の濃さと線の濃さを設定する

- マルチセレクターの [M] または [L] を押して、設定したい項目を選びます。
- [色の濃さ] : [R] を押すと色が濃くなり、[L] を押すと薄くなります。
- [線の濃さ] : [R] を押すと線が濃くなり、[L] を押すと薄くなります。[線の濃さ] を濃くすると、画像全体の色も濃くなります。



4 決定する

- [OK] ボタンを押すと、効果が決定します。
- ファインダー撮影をする場合は、[Lv] ボタンを押してライブビューを終了します。ファインダー撮影時も、設定した効果は維持されます。

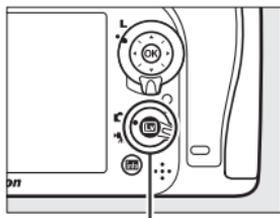


■ (ミニチュア効果) の効果の設定方法

スペシャルエフェクトモードで (ミニチュア効果) を選んだ後、効果を設定します。

1 Lv ボタンを押す

- 液晶モニターに被写体が表示されます。



Lv ボタン

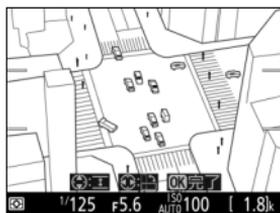
2 フォーカスポイントを被写体に重ねる

- マルチセレクターで、ぼかさないのではっきりと見せたい部分にフォーカスポイントを移動します。
- シャッターボタンを半押しして、ピン트가合う部分を確認します。
- (QUAL) ボタンを押すと、被写体が拡大表示され、ピン트를細部まで確認できます。(ISO) ボタンを押すと画像を縮小表示します。
- 拡大表示中は効果が一時解除されます。



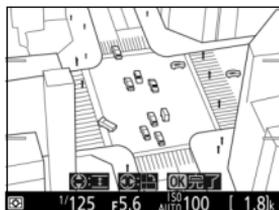
3 OK ボタンを押す

- ミニチュア効果の設定画面が表示されます。



4 効果を加ける方向と幅を設定する

- または ● を押すと、効果を加える方向を縦と横から選べます。
- または ● を押すと、効果を加える幅を設定できます。



5 決定する

- ボタンを押すと、効果が決定します。
- ファインダー撮影をする場合は、● ボタンを押してライブビューを終了します。ファインダー撮影時も、設定した効果は維持されます。



📝 ミニチュア効果での動画撮影について

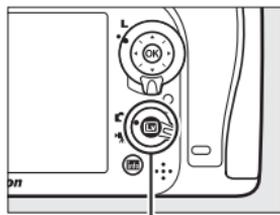
動画の記録時間は撮影にかかる時間よりも短くなります。たとえば、動画撮影メニューの「画像サイズ/フレームレート」が1920×1080、30pの場合（□161）、約3分の動画ファイルを作成するためには、約45分の撮影時間が必要です。

■ 筆 (セレクトカラー) の効果の設定方法

スペシャルエフェクトモードで筆を選んだ後、効果を設定します。

1 Lv ボタンを押す

- 液晶モニターに被写体が表示されます。



Lv ボタン

2 OK ボタンを押す

- セレクトカラーの設定画面が表示されます。



3 残したい色を抽出する

- カメラを動かして画面中央の枠を残したい色の被写体に重ねます。
- QUAL ボタンを押すと、被写体が拡大表示され、残したい色を細部まで確認できます。ISO ボタンを押すと画像を縮小表示します。
- マルチセレクターの  を押すと、画面中央の枠に重ねた被写体の色が抽出され、色の枠に表示されます。
- 抽出した色以外の色は、モノトーン（白黒）で表示されます。



4 抽出する色の感度を設定する

- または ● を押して、抽出する色の感度を [1] ~ [7] から設定します。数値が大きいほど抽出する色の色相が広くなり、小さいほど狭くなります。

色の感度



5 抽出する色を追加する

- メインコマンドダイヤルを回して別の色の枠を選び、手順3~4と同じ手順で色を抽出し、色の感度を設定します。



- 最大3色まで設定できます。
- 抽出した色を選んで **FORMAT** ボタンを押すと、抽出した色をリセットします。
- 抽出した全ての色を削除したい場合は、**FORMAT** ボタンを押し続けます。確認画面で **[はい]** を選んで **OK** ボタンを押すと、全ての色をリセットします。



6 決定する

- **OK** ボタンを押すと、効果が決定します。
- ファインダー撮影をする場合は、**Lv** ボタンを押してライブビューを終了します。ファインダー撮影時も、設定した効果は維持されます。



✔ セレクトカラー設定時のご注意

- 残したい色の彩度によっては、抽出しにくい場合があります。彩度の高い色の抽出をおすすめします。
- 色の感度を高く設定しすぎると、選択した色に近い色相の色も抽出されます。

P、S、A、Mモードで撮影する

撮影モードP、S、A、Mを使う

撮影モードP、S、A、Mでは、撮影の意図に応じて、シャッタースピードと絞りのそれぞれを自分で設定したり、カメラまかせにしたりすることができます。



P プログラムオート (□51)	シャッターチャンス逃したくないスナップ撮影などに使います。シャッタースピードと絞り値の両方をカメラが自動制御します。
S シャッター優先オート (□52)	被写体の動きを強調して撮影したいときなどに使います。シャッタースピードを自分で設定し、絞り値はカメラが自動制御します。
A 絞り優先オート (□53)	背景のぼかし方を調節して撮影したいときなどに使います。絞り値を自分で設定し、シャッタースピードはカメラが自動制御します。
M マニュアル (□55)	シャッタースピードと絞り値の両方を自分で設定します。長時間露出(バルブ、タイム)撮影も、このモードで行います。

☑ 使用レンズについてのご注意

- CPUレンズ(Gタイプ、Eタイプレンズを除く)の絞りリング(□299)は、必ず最小絞り(一番大きい数値)にセットしてください。
- 非CPUレンズをお使いの場合は、撮影モードAまたはMで撮影してください(その他のモードではシャッターがきれません)。絞りの設定や確認はレンズの絞りリングで行って撮影してください。詳しくは「使用できるレンズ」(□296)をご覧ください。

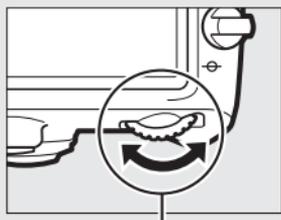
P (プログラムオート)

被写体の明るさに応じて露出が適正になるように、カメラがシャッタースピードと絞り値を自動的に決定します。同じ露出でシャッタースピードと絞り値の組み合わせを変える「プログラムシフト」も行えます。

プログラムシフト

撮影モードPでは、カメラがシャッタースピードと絞り値を決めますが、半押しタイマーがオンのときに次の方法で「プログラムシフト」を行うと、適正露出のまま、シャッタースピードと絞り値の組み合わせを変えられます。プログラムシフト中は、プログラムシフトマーク (P) または * が表示されます。

- 背景をぼかしたい (絞り値を小さくする) 場合や動きの速い被写体を撮影したい (速いシャッタースピードにする) 場合にはメインコマンドダイヤルを右に回してください。
- 近くから遠くまでピントの合った写真を撮りたい (絞り値を大きくする) 場合や被写体の動きを強調したい (遅いシャッタースピードにする) 場合にはメインコマンドダイヤルを左に回してください。
- プログラムシフトを解除するには、プログラムシフトマークが消えるまでメインコマンドダイヤルを回してください。電源をOFFにしたときや、他の撮影モードに切り換えたときも、プログラムシフトは解除されます。



メインコマンドダイヤル



ファインダー内表示



液晶モニター

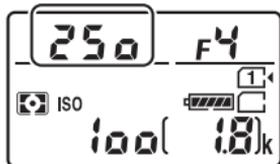
S (シャッター優先オート)

シャッタースピードを自分で決めると、露出が適正になるようにカメラが自動的に絞り値を決定します。動きの速い被写体の撮影や、遅いシャッタースピードで被写体の動きを強調する撮影に適しています。シャッタースピードは、半押しタイマーがオンのときにメインコマンドダイヤルを回して設定します。

- シャッタースピードは1/8000 (8000) ~ 30秒 (30''), x 250に設定できます。



メインコマンドダイヤル



表示パネル



液晶モニター

関連ページ

表示パネルで**b u l b / - -** が点滅したときは → 「警告メッセージ」 (□337)

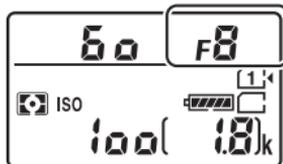
A (絞り優先オート)

絞り値を自分で決めると、露出が適正になるようにカメラが自動的にシャッタースピードを決定します。絞り値を設定するには、半押しタイマーがオンのときにサブコマンドダイヤルを回します。

- 設定できる最小絞り値、開放F値はレンズの種類によって異なります。



サブコマンドダイヤル



表示パネル

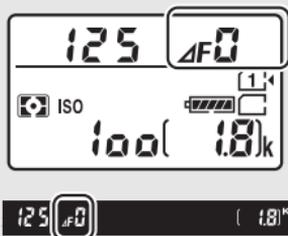


液晶モニター

非CPUレンズを取り付けた場合

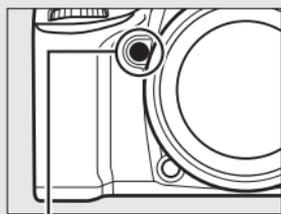
非CPUレンズ (□300) を装着してセットアップメニューの [レンズ情報手動設定] (□218) でレンズの開放絞り値 (開放F値) を設定した場合は、絞り値が表示されます。絞り値の設定は、レンズの絞りリングで行ってください。この場合、絞りリングによる中間絞りの設定は可能ですが、表示は1段単位になります。

- 開放絞り値を設定しない場合は、絞り値表示が開放からの絞り段数表示 (ΔF 、開放絞りは $\Delta F0$) となりますので、絞り値の設定と確認は、レンズの絞りリングで行ってください。



被写界深度のプレビュー (ファインダー撮影時)

Pvボタンを押している間、レンズの絞り羽根が絞り込まれます。この状態でファインダーをのぞくと、そのときの絞り値のおおよその被写界深度 (ピントの合う前後の範囲) が確認できます。内蔵フラッシュや別売のニコクリエイティブライティングシステム (□303) 対応スピードライト使用時は、モデリング発光をします。モデリング発光をしないようにするには、カスタムメニュー e5 [モデリング発光] を [しない] に設定してください (□276)。



Pvボタン

M (マニュアル)

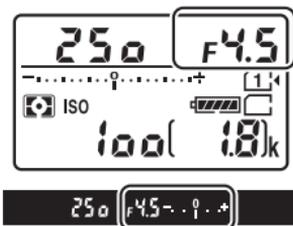
シャッタースピードと絞り値の両方を自分で決定します。花火や星空などを長時間露出（バルブ撮影、タイム撮影、□57）で撮影する場合にはこの撮影モードを使います。半押しタイマーがオンのときに、露出インジケータを確認しながら、コマンドダイヤルを回してシャッタースピードと絞り値を設定します。

- メインコマンドダイヤルを回すと、シャッタースピード表示が変化します。設定したいシャッタースピード（1/8000（**8000**）～30秒（**30''**）および**bulb**（バルブ）、--（タイム）、**x 250**）に合わせてください。
- サブコマンドダイヤルを回すと、絞り値が変化します。
- 設定できる最小絞り値、開放F値はレンズの種類によって異なります。

絞り値の設定



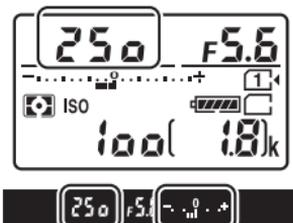
サブコマンド
ダイヤル



シャッタースピードの設定



メインコマンド
ダイヤル



🔪 AFマイクロレンズ装着時の露出倍数について

AFマイクロレンズをカメラに装着して、外部露出計の測光値を参考に絞り値をサブコマンドダイヤルでセットする場合、露出倍数を考慮する必要はありません。レンズの絞りリングでセットする場合だけ、露出倍数を考慮した補正が必要になります。

🔪 露出インジケータについて

撮影モードが**M**のときの適正露出との差が表示されます。この「露出インジケータ」の見方は次の通りです（表示内容はカスタムメニュー b2 [露出設定ステップ幅] (□271) の設定によって変化します)。

	[露出設定ステップ幅] が [1/3段] のとき		
	適正露出の場合	1/3段アンダーの場合	2段オーバーの場合
表示パネル	-. 0 +	-. 0 +	-. 0 +
ファインダー内表示 (ファインダー撮影時)	-. . 0 . . +	-. . 0 . . +	-. . 0 . . +
液晶モニター (ライブビュー時)			

- 長時間露出 (バルブ、タイム) 撮影時 (□57) は、露出インジケータは表示されません。

🔪 露出の制御ができないときの警告について

光量がカメラの測光範囲を超えて露出の制御ができない場合、露出インジケータが点滅して警告します。このとき、撮影モード**P**ではシャッタースピード表示と絞り値表示が、**S**では絞り値表示が、**A**ではシャッタースピード表示が点滅します。

🔪 関連ページ

インジケータの+/-方向を変更する → 🔪 f8 [インジケータの+/-方向] (□278)

長時間露出で撮影する（撮影モードMのみ）

長時間露出撮影には、バルブ撮影とタイム撮影の2種類があります。花火や夜景、星空の撮影や、自動車のライトの流れを表現したいときなどに使います。



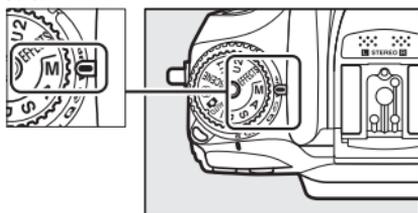
シャッタースピードを35秒、
絞り値をF25にして撮影した場合の画像

バルブ撮影	シャッターボタンを押し続けている間シャッターが開いたままになり、シャッターボタンを放すとシャッターが閉じます。 <ul style="list-style-type: none">• リモコン ML-L3（別売）の送信ボタンを押すと、シャッタースピードをbulb（バルブ）にしても、タイム撮影になります。
タイム撮影	シャッターボタンを全押しするとシャッターが開いたままになり、もう一度全押しするとシャッターが閉じます。

■バルブ撮影する

- 1 撮影モードダイヤルをMに合わせる

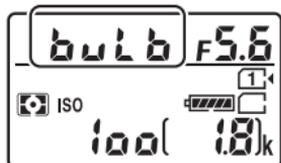
撮影モードダイヤル



- 2 メインコマンドダイヤルを回して、シャッタースピードをbulb（バルブ）に設定する



メインコマンド
ダイヤル



表示パネル



液晶モニター

- 3 ピントを合わせて、撮影を開始する

- シャッターボタンを全押しして撮影を開始します。シャッターボタンは押し続けてください。

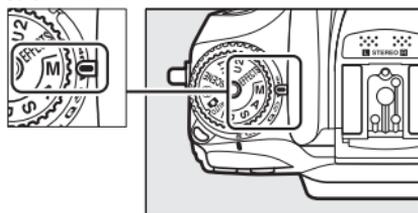
- 4 撮影を終了する

- シャッターボタンを放すと、撮影が終了します。

■ タイム撮影する

1 撮影モードダイヤルをMに合わせる

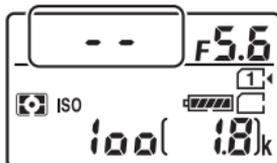
撮影モードダイヤル



2 メインコマンドダイヤルを左に回して、シャッタースピードを-- (タイム) に設定する



メインコマンド
ダイヤル



表示パネル



液晶モニター

3 ピントを合わせて、撮影を開始する

- シャッターボタンを全押しすると、シャッターが開き、撮影を開始します。

4 もう一度シャッターボタンを全押しして撮影を終了する

別売のリモコンML-L3をお使いの場合

- 撮影前に、静止画撮影メニューの [リモコンモード設定 (ML-L3)] でリモコンモード ([2秒リモコン]、[瞬時リモコン]、[ミラーアップリモコン]) を設定してください (□153)。
- ML-L3の送信ボタンを押してシャッターが開いてから、送信ボタンを押さないまま30分経つと、シャッターが自動的に閉じて撮影を終了します。

長時間露出について

- 手ブレを抑えるために三脚や別売のリモコン、ワイヤレスリモートコントローラーまたは、リモートコードが必要です (□312)。ワイヤレスリモートコントローラーとリモートコードのシャッターボタンは、カメラのシャッターボタンと同様に機能します。
- 適正露出に影響を与える接眼部からの逆入射光を防ぐため、撮影前に付属のアイピースキャップを取り付けてください (□69)。
- 露光時間が長くなると、画像にノイズ (ざらつき、むら、輝点) が発生することがあります。
- 静止画撮影メニューの [長秒時ノイズ低減] (□266) を [する] に設定すると、画像に発生するむらや輝点が低減されます。

ユーザーセッティングモード U1、U2を使う

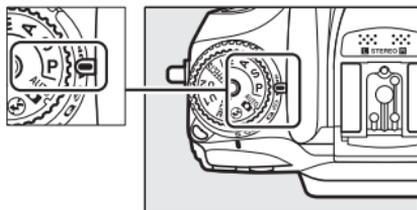
U1、U2にユーザーセッティングを登録 する

よく使う機能（ユーザーセッティング）を、あらかじめ撮影モードダイヤル**U1**と**U2**に登録すると、撮影モードダイヤルを切り換えるだけで、登録したユーザーセッティングの内容で撮影できます。

ユーザーセッティングを登録する

- 1 登録したい撮影モードを
選ぶ

撮影モードダイヤル

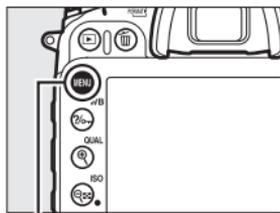


2 登録したい撮影機能を設定する

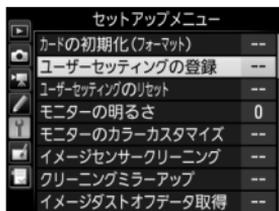
- ユーザーセッティングモード**U1**、**U2**には、次の撮影機能を登録できます。
 - 静止画撮影メニュー項目 (☐263)
 - 動画撮影メニュー項目 (☐267)
 - カスタムメニュー項目 (☐270)
 - シャッタースピード (撮影モード**S**、**M**)、絞り値 (撮影モード**A**、**M**)、プログラムシフト (撮影モード**P**)、露出補正、調光補正、フラッシュモード、フォーカスポイント、測光モード、AFモード、AFエリアモード、オートブラケティング

3 セットアップメニューの [ユーザーセッティングの登録] を選ぶ

- **MENU** ボタンを押して、セットアップメニューの [ユーザーセッティングの登録] を選んでマルチセレクターの  を押します。



MENUボタン



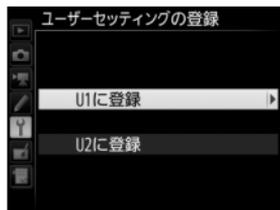
U1、**U2**に登録できない撮影メニュー項目

次のメニュー項目は**U1**、**U2**に登録できません。

- 静止画撮影メニュー
 - [静止画撮影メニューのリセット]
 - [記録フォルダー設定]
 - [撮像範囲]
 - [カスタムピクチャーコントロール]
 - [リモコンモード設定 (ML-L3)]
 - [多重露出]
 - [インターバルタイマー撮影]
- 動画撮影メニュー
 - [動画撮影メニューのリセット]
 - [撮像範囲]
 - [カスタムピクチャーコントロール]
 - [微速度撮影]

4 設定を登録したいユーザーセッティングモードを選ぶ

- [U1に登録] または [U2に登録] のいずれかを選んで、を押します。



5 ユーザーセッティングを登録する

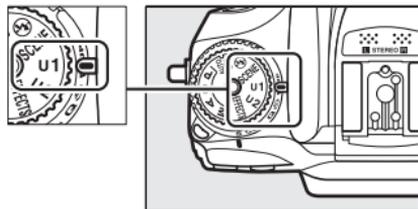
-  または  で、[はい] を選んで  ボタンを押すと、選んだユーザーセッティングモードに現在の設定内容が登録されます。



6 登録したユーザーセッティングで撮影する

- 撮影モードダイヤルをU1またはU2に合わせると、登録したユーザーセッティングの内容で撮影できます。

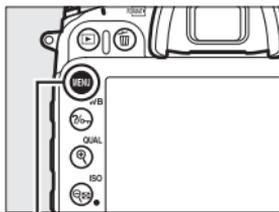
撮影モードダイヤル



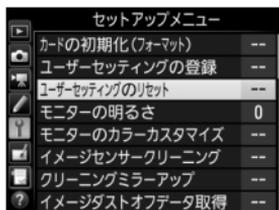
登録したユーザーセッティングをリセットする

1 セットアップメニューの [ユーザーセッティングのリセット] を選ぶ

- MENU ボタンを押して、セットアップメニューの [ユーザーセッティングのリセット] を選んでマルチセクターの  を押します。

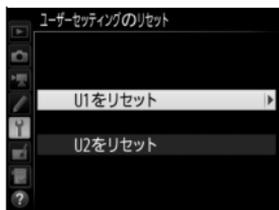


MENU ボタン



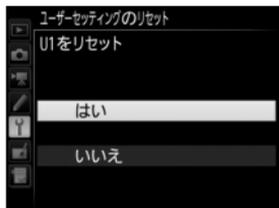
2 リセットしたいユーザーセッティングモードを選ぶ

- [U1をリセット] または [U2をリセット] のいずれかを選んで、 を押します。



3 ユーザーセッティングをリセットする

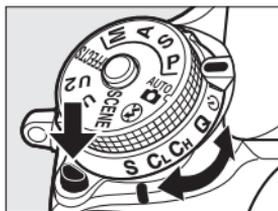
-  または  で、[はい] を選んで  ボタンを押すと、選んだユーザーセッティングモードに登録された設定内容が、初期設定 (撮影モード P) に戻ります。



リリースモード

1コマ撮影や連続撮影、静音撮影など、リリースモードを変更する

リリースモードダイヤルロックボタンを押しながら、リリースモードダイヤルを回すと(□6)、シャッターをきる(リリースする)ときの動作を設定できます。



リリースモード	内容
S 1コマ撮影	シャッターボタンを全押しするたびに1コマずつ撮影します。
CL 低速連続撮影	シャッターボタンを全押ししている間、カスタムメニュー-d2 [低速連続撮影] (□273) で設定した速度で連続撮影します (□66)。
CH 高速連続撮影	シャッターボタンを全押ししている間、□66に記載されている速度で連続撮影します。動きのある被写体などに使用すると便利です。
Q 静音撮影	1コマ撮影時より静かに撮影したい場合に適しています。静音撮影では、シャッターボタンを全押ししている間はミラーダウンしません。シャッターボタンを半押し状態に戻すとミラーダウンするため、ミラーダウン音のタイミングを遅らせることができます。また、ミラーダウンする音も1コマ撮影に比べ静かです。 • 静音撮影時には、カスタムメニュー d1 [電子音設定] (□273) の設定にかかわらず、電子音は鳴りません。
 セルフタイマー撮影	セルフタイマー撮影ができます (□68)。
MUP ミラーアップ撮影	カメラ本体のミラーアップを行い、撮影時にミラーアップの振動によるブレを防ぐことができます (□70)。超望遠撮影時や接写撮影時に効果的です。

連続撮影速度について

連続撮影速度は、静止画撮影メニュー [撮像範囲] (□71) の設定と [RAW記録] の [記録ビットモード] (□76) の設定 (RAWを含む画質モードの場合) によって変わります。次の表は、AFモードが**AF-C**、撮影モード**S**または**M**、1/250秒以上の高速シャッタースピード、電源がEN-EL15で、その他が初期設定のときの値です。

撮像範囲	画質モード	CL	CH
DX (24×16)	JPEG 画像または記録ビットモードが [12ビット記録] のRAW画像	約1~6コマ/秒	約6コマ/秒
	記録ビットモードが [14ビット記録] のRAW画像	約1~5コマ/秒	約5コマ/秒
1.3× (18×12)	JPEG 画像または記録ビットモードが [12ビット記録] のRAW画像	約1~6コマ/秒	約7コマ/秒
	記録ビットモードが [14ビット記録] のRAW画像	約1~6コマ/秒	約6コマ/秒

※ ライブビュー撮影時の連続撮影速度は、最高3.7コマ/秒になります。

連続撮影可能コマ数について

- シャッターボタンを半押しすると、連続撮影可能コマ数が表示されます。右図の場合、撮影速度を維持しながら最低42コマ続けて撮影できることを示しています。
- 「r42」と表示されたとき、連続撮影速度が低下します。
- 表示される連続撮影可能コマ数は、おおよその目安です。撮影条件によって増減することがあります。



ライブビュー撮影時の連続撮影について

ライブビュー撮影時に連続撮影をする場合、シャッターボタンを全押ししている間、撮影した画像が表示されます。画像が表示されている間は、ライブビューは表示されません。

連続撮影時の記録について

- 内蔵フラッシュが発光する場合 (□141) は、連続撮影できません。
- SDカードの性能や撮影条件によっては、数十秒から1分間程度SDカードアクセスランプが点灯します。SDカードアクセスランプの点灯中にカメラからSDカードを取り出さないでください。データが消失するだけでなく、カメラとSDカードに不具合が生じるおそれがあります。
- SDカードアクセスランプ点灯中に電源をOFFにすると、撮影された全ての画像がSDカードに記録されてから電源が切れます。
- 連続撮影時にバッテリーの残量がなくなった場合は、撮影は行わず、撮影済みの画像データがSDカードに記録されて終了します。

連続撮影速度について

次の場合など、条件によって連続撮影速度が遅くなる場合があります。

- シャッタースピードが低速の場合
- 感度自動制御を [する] にして感度が自動制御されているとき (□97)
- バッテリー残量が少ないとき
- レンズの絞りを著しく絞り込んだ場合
- VRレンズ使用時にレンズの手ブレ補正スイッチをONにしたとき
- 非CPUレンズ装着時およびカスタムメニューf5 [コマンドダイヤルの設定] の [絞り値の設定方法] を [絞りリング] に設定した場合 (□278)

関連ページ

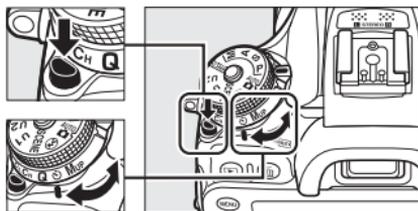
- 連続撮影時に撮影コマ数を制限する →  d3 [連続撮影コマ数] (□273)
- 「記録可能コマ数と連続撮影可能コマ数」 (□369)

セルフタイマーを使って撮影する (☺)

セルフタイマーによる撮影は記念写真など、撮影者自身も一緒に写りたいときなどに便利です。セルフタイマー撮影時は、三脚などを使ってカメラを固定してください。

1 リリースモードダイヤルを☺ (セルフタイマー撮影) に合わせる

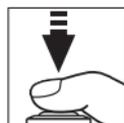
- リリースモードダイヤルロックボタンを押しながら、☺に合わせます。



リリースモードダイヤル

2 構図を決め、ピントを合わせる

- AFモードが**AF-S**でピントが合っていないときなど、カメラのシャッターがきれない状態ではセルフタイマーは作動しません。



3 セルフタイマー撮影を開始する

- シャッターボタンを全押しすると、セルフタイマーランプが約8秒間点滅後、約2秒間点灯して合計で約10秒後にシャッターがきれます。
- リリースモードダイヤルを他のモードに切り換えると、セルフタイマーは解除されます。

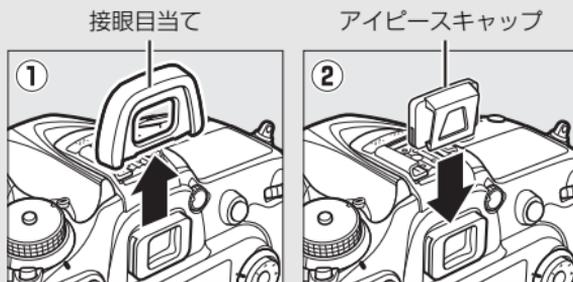


🔪 セルフタイマー撮影時のフラッシュについて

- 内蔵フラッシュを手動で上げる撮影モード (□143) でフラッシュを使って撮影したいときは、撮影を開始する前に🔌 (🔌) ボタンを押して内蔵フラッシュを上げ、🔌 (レディーライト) が点灯するまでお待ちください。セルフタイマーの作動中にフラッシュを上げると、撮影は中止されます。
- 内蔵フラッシュが発光するときは、カスタムメニュー c3 [セルフタイマー] の [撮影コマ数] (□272) を2コマ以上に設定していても、連続撮影はできません。

🔪 ファインダーから顔を離して撮影するときは

- ファインダーから顔を離して撮影するときは、ファインダーから入った光が適正露出や画像に影響を与えることを防ぐため、付属のアイピースキャップを取り付けることをおすすめします。
- アイピースキャップは、接眼目当てを取り外し (①)、図のように取り付けます (②)。接眼目当てを取り外すときは、カメラをしっかりと支えてください。



🔪 関連ページ

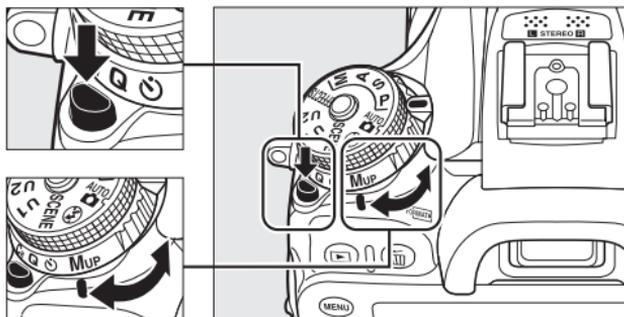
- セルフタイマーの作動時間、撮影コマ数、撮影間隔を設定する → 🔪 c3 [セルフタイマー] (□272)
- セルフタイマー撮影時の電子音を設定する → 🔪 d1 [電子音設定] (□273)

ミラーアップ撮影する (MUP)

ミラーアップ撮影すると、撮影時にミラーアップの振動によるブレを防ぐことができます。

- リリースモードダイヤルロックボタンを押しながら、リリースモードダイヤルを**MUP** (ミラーアップ撮影) に合わせます。

リリースモードダイヤルロックボタン



リリースモードダイヤル

- シャッターボタンを半押ししてピントと露出を合わせた後、全押しするとファインダー撮影時はミラーアップしてファインダーが消灯し、ライブビュー撮影時は液晶モニターが消灯します。もう一度シャッターボタンを全押しすると撮影できます。

✓ ミラーアップ中のご注意

- ファインダーで構図を確認できません。
- オートフォーカスと測光は使えません。

🔪 ミラーアップ撮影について

- ブレを防ぐため、シャッターボタンは静かに押しください。
- 撮影が終了すると、ファインダー撮影時はミラーダウンし、ライブビュー時は液晶モニターが点灯します。
- 三脚の使用をおすすめします。
- ミラーアップ撮影時には、別売のリモートコード (□312) を使うと効果的です。
- リモコンを使ってミラーアップ撮影する方法については、「別売のリモコン ML-L3 を使って撮影する (🔪)」 (□153) をご覧ください。
- ミラーアップしたまま約30秒経過すると、自動的にシャッターがきれます。

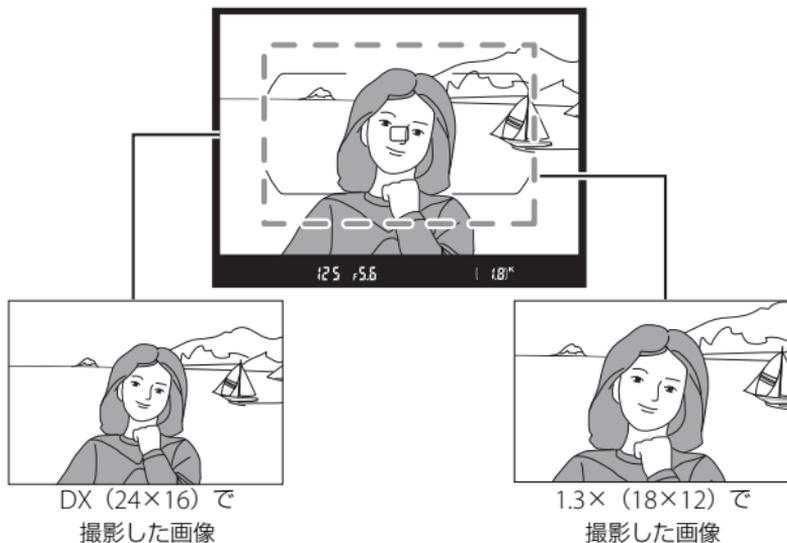
画像の記録

撮像範囲を変更する

撮像範囲を[DX(24×16)](DXフォーマット)または[1.3×(18×12)](対DX 1.3×クロップ)のいずれかに変更できます。

 DX (24×16)	23.5×15.6 mmの撮像範囲で画像を記録します (DXフォーマット)。
 1.3× (18×12)	18.8×12.5 mmで画像を記録します。撮像範囲が [DX (24×16)] の場合と比べ、記録する撮像範囲が狭くなり、レンズを交換しなくても望遠レンズで撮影したとき同様の効果があります。また、速い連続撮影速度で撮影できるようになります (□66)。

ファインダー表示



撮像範囲は、静止画撮影メニューまたは動画撮影メニューの [撮像範囲] で設定するか、Fnボタンとコマンドダイヤルで設定します (□72、73)。

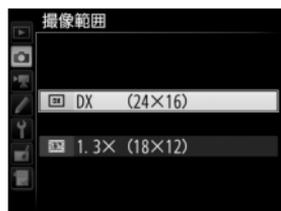
■メニューの【撮像範囲】で設定する場合

- 1 静止画撮影メニューまたは動画撮影メニューの【撮像範囲】を選んでマルチセレクターの \blacktriangleright を押す



- 2 設定したい撮像範囲を選ぶ

- 設定したい撮像範囲を選んで、 \odot ボタンを押します。
- 設定に応じた撮像範囲がファインダー内で確認できます。



📌 撮像範囲が【1.3×（18×12）】のときの表示について

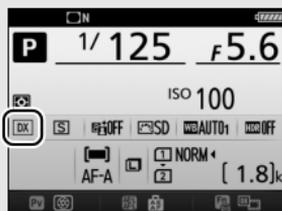
ファインダー撮影時、ファインダー内で撮像範囲を表す枠を右図のように表示します。また、ファインダー右上に $\frac{1.3x}{18x12}$ が表示されます。



対DX 1.3×クロップ

📌 撮像範囲表示について

- 撮像範囲はインフォ画面に表示されます。



- ライブビュー時は、液晶モニターで撮像範囲を確認できます。

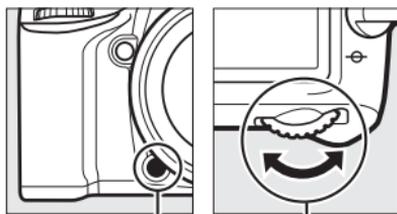
■ Fnボタンとコマンドダイヤルで設定する場合

ファインダー撮影の場合、Fnボタンとコマンドダイヤルを組み合わせると撮像範囲を設定することもできます。

1 カスタムメニュー f2 [Fnボタンの機能] の [コマンドダイヤル併用時の動作] (☐277) を [撮像範囲選択] に設定する

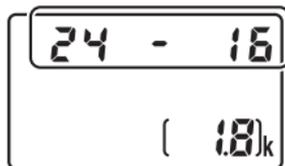
- Fnボタンとコマンドダイヤルの組み合わせに対して、撮像範囲の選択機能が割り当てられます。

2 Fnボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルまたはサブコマンドダイヤルを回す



Fnボタン メインコマンドダイヤル

- 設定に応じた撮影範囲がファインダー内で確認できます (☐72)。
- Fnボタンを押すと、表示パネルやファインダー内表示、インフォ画面で撮像範囲の設定を確認できます。



🔍 撮像範囲を変更したときの画像サイズについて

同じ画像サイズに設定した場合でも、[撮像範囲] の設定によって、撮影画像のピクセル数が変化します (☐77)。

🔍 関連ページ

- 「動画の撮像範囲について」 (☐163)
- Pvボタンで撮像範囲を切り換える → 📌 f3 [プレビューボタンの機能] (☐277)
- AE/AFロックボタンで撮像範囲を切り換える → 📌 f4 [AE/AFロックボタンの機能] (☐277)
- 「記録可能コマ数と連続撮影可能コマ数」 (☐369)

画質モードを変更する

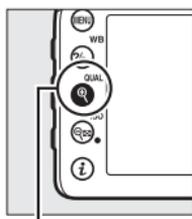
画像を記録する際の画質モードを選びます。

画質モード	ファイル形式	内容
RAW	NEF	撮像素子の生データ（RAW形式）を記録します。撮影時に設定したホワイトバランスやコントラストなどを、撮影後に変更できます。
FINE	JPEG	画像データを約1/4に圧縮して記録します（サイズ優先時）。
NORMAL		画像データを約1/8に圧縮して記録します（サイズ優先時）。
BASIC		画像データを約1/16に圧縮して記録します（サイズ優先時）。
RAW + FINE	NEF + JPEG	RAWとJPEG（FINE）の2種類の画像を同時に記録します。
RAW + NORMAL		RAWとJPEG（NORMAL）の2種類の画像を同時に記録します。
RAW + BASIC		RAWとJPEG（BASIC）の2種類の画像を同時に記録します。

画質モードの設定方法

⊕（QUAL）ボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回す

- 画質モードは、インフォ画面に表示されます。



⊕（QUAL）
ボタン



メインコマンド
ダイヤル



インフォ画面

📄 RAW画像について

画像編集メニューの **[RAW現像]** (□287、294)、またはCapture NX-Dなどのソフトウェアを使うと、RAW画像を現像できます。

📄 プラスRAW記録について

カスタムメニューf2 **[Fnボタンの機能]** (□277) の **[押し時の動作]** で **[プラスRAW記録]** を選ぶと、画質モードがJPEG (FINE)、JPEG (NORMAL)、JPEG (BASIC) の場合に、Fnボタンを押してプラスRAW記録を有効にできます。シャッターボタンを全押しすると、JPEG画像と同時にRAW画像も記録されます。撮影後シャッターボタンから指を放すか、もう一度Fnボタンを押すとプラスRAW記録を解除します。

📄 RAW画像とJPEG画像の同時記録について

- 画質モード **[RAW+FINE]**、**[RAW+NORMAL]**、**[RAW+BASIC]** で撮影したとき、カメラではJPEG画像のみを再生します。SDカードを1枚使用している場合、JPEG画像と同時記録されたRAW画像はパソコンでのみ再生できます。
- SDカードを1枚使用している場合や、SDカードを2枚使用していても **[スロット2の機能]** (□78) が **[順次記録]** または **[バックアップ記録]** の場合、RAW画像と同時記録されたJPEG画像をカメラ上で削除すると、RAW画像も削除されます。
- **[スロット2の機能]** (□78) を **[RAW+JPEG分割記録]** に設定してSDカードを2枚使用している場合、RAW画像がスロット1に、JPEG画像がスロット2に記録されます。RAW画像と同時記録されたJPEG画像をカメラ上で削除しても、RAW画像は削除されません。

📄 JPEG画像の圧縮率について

画像データの圧縮率は目安です。撮影するシーンやISO感度によっては圧縮率が大きく変わる場合があります。

📄 [画質モード] について

画質モードは静止画撮影メニュー (□263) でも設定できます。

📄 関連ページ

「記録可能コマ数と連続撮影可能コマ数」 (□369)

■■ JPEG画像の圧縮方式を選ぶ

静止画撮影メニュー [JPEG圧縮] を選んで、画質モードがJPEG (FINE)、JPEG (NORMAL)、JPEG (BASIC) の画像を記録するときの圧縮方式を設定します。

 サイズ優先	ファイルサイズがほぼ一定になるように圧縮します。
 画質優先	画質の劣化を抑えて圧縮します。画像によってファイルサイズは異なります。

■■ RAW画像の圧縮方式を選ぶ

静止画撮影メニュー [RAW記録] で [記録方式] を選んで、RAW画像の記録時の圧縮方式を設定します。

ON  ロスレス 圧縮RAW	可逆圧縮します（データを完全に復元できます）。非圧縮時のファイルサイズに対して、約60～80%に圧縮して記録します。
ON  圧縮RAW	非可逆圧縮します（データは完全には復元できません）。非圧縮時のファイルサイズに対して、約45～65%に圧縮して記録します。

■■ RAW画像の記録ビット数を選ぶ

静止画撮影メニュー [RAW記録] で [記録ビットモード] を選んで、RAW画像の記録ビット数を設定します。

12-bit 12ビット記録	RAW画像を12ビットで記録します。
14-bit 14ビット記録	RAW画像を14ビットで記録します。[12ビット記録] の場合よりもさらに豊かな階調表現になります。画像のファイルサイズは [12ビット記録] よりも大きくなります。

画像サイズを設定する

画像を記録する際の画像サイズ（大きさ）を、[サイズL]、[サイズM]、[サイズS] から設定できます。画像サイズは撮像範囲との組み合わせで変わります（□71）。

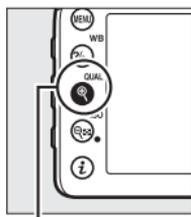
撮像範囲	画像サイズ	プリント時の大きさ (出力解像度300dpiの場合) ※
DX (24×16)	L (6000×4000ピクセル)	約50.8×33.9 cm
	M (4496×3000ピクセル)	約38.1×25.4 cm
	S (2992×2000ピクセル)	約25.3×16.9 cm
1.3× (18×12)	L (4800×3200ピクセル)	約40.6×27.1 cm
	M (3600×2400ピクセル)	約30.5×20.3 cm
	S (2400×1600ピクセル)	約20.3×13.5 cm

※ ピクセル数÷出力解像度 (dpi) ×2.54 cm で計算しています。

■■ 画像サイズの設定方法

⊕ (QUAL) ボタンを押しながら、サブコマンドダイヤルを回す

- 画像サイズは、インフォ画面に表示されます。



⊕ (QUAL)
ボタン



サブコマンド
ダイヤル



インフォ画面

✎ [画像サイズ] について

- 画像サイズは静止画撮影メニュー（□263）でも設定できます。
- 画質モードでRAWを選んだ場合、画像サイズは設定できません。

2枚のSDカードに記録する (スロット2の機能)

MENUボタンを押して、静止画撮影メニュー [スロット2の機能] を選ぶと、2つあるSDカードスロットの両方を使って画像を記録するときのスロット2の機能を設定できます。

 順次記録	スロット1から優先的に記録し、空き容量がなくなったら、記録先をスロット2に変更します。
 バックアップ記録	バックアップ用として同じ画像をスロット1、スロット2に記録します。
 RAW+JPEG分割記録	<ul style="list-style-type: none">• [画質モード] が [RAW+FINE]、[RAW+NORMAL]、または [RAW+BASIC] の場合、スロット1にRAW画像、スロット2にJPEG画像を記録します。• その他の画質モードの場合は、同じ画像をスロット1とスロット2の両方に記録します。

[バックアップ記録] と [RAW+JPEG分割記録] について

- 表示パネルとファインダー内表示の記録可能コマ数には、記録可能コマ数が少ないスロットのコマ数を表示します。
- どちらか一方のスロットの空き容量がなくなると、シャッターがきれなくなります。

動画を記録するスロットについて

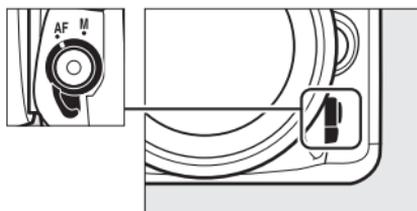
動画撮影メニューの [ファイル記録先] で、記録するスロットを設定できます (□267)。

フォーカス

オートフォーカスで撮影する

フォーカスモードセクターを **AF**に合わせると、オートフォーカスになります。ここでは、オートフォーカスでのピントの合わせ方について説明しています。

フォーカスモードセクター



AFモードを設定する

■ ファインダー撮影時に設定する場合

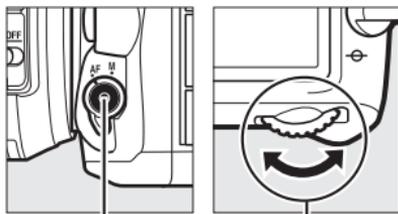
AF-A	AFサーボモード 自動切り換え	被写体が静止しているときは AF-S 、動いているときは AF-C に自動的に切り替わります。
AF-S	シングル AFサーボ	静止している被写体の撮影に適しています。シャッターボタンを半押しすると、ピントが合った時点でフォーカスがロックされます。 • 初期設定はピントが合うとシャッターがきれるフォーカス優先モードです。
AF-C	コンティニユアス AFサーボ	ファインダー内のピント表示 (●) がいったん点灯してもフォーカスロックはされず、シャッターをきるまでピントを合わせ続けるモードです。スポーツなど動きのある被写体の撮影に適しています。シャッターボタンの半押しを続けると、被写体が動いている場合には予測駆動フォーカス (□81) に切り替わり、被写体の動きに合わせてピントを追いつけます。 • 初期設定ではピントの状態に関係なく、いつでもシャッターがきれるリリース優先モードです。

■ ライブビュー時に設定する場合

AF-S シングルAFサーボ	静止している被写体の撮影に適しています。シャッターボタンを半押しすると、ピントが合った時点でフォーカスがロックされます。
AF-F 常時AFサーボ	動いている被写体の撮影に適しています。シャッターボタンを半押しするまで、カメラは被写体の動きに合わせてピントを合わせ続けます。半押しすると、ピントが合った時点でフォーカスがロックされます。

■ AFモードの変更方法

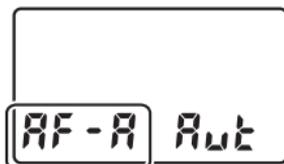
AFモードボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回す



AFモードボタン

メインコマンド
ダイヤル

- 変更した設定を確認します。



表示パネル



ファインダー内表示



液晶モニター

予測駆動フォーカスについて（ファインダー撮影時）

AFモードが**AF-C**のときや、**AF-A**に設定していて自動的に**AF-C**に切り替わったときは、シャッターボタンの半押し時に被写体が近づいてきたり遠ざかっていくのをカメラが認識すると、自動的に予測駆動フォーカスに切り替わります。予測駆動フォーカスが作動すると、シャッターがきれる時点での到達位置を予測しながらピントを合わせ続けます。

関連ページ

- **AF-C**をフォーカス優先モードにする →  a1 [**AF-Cモード時の優先**] (□270)
- **AF-S**をレリーズ優先モードにする →  a2 [**AF-Sモード時の優先**] (□270)
- サブコマンドダイヤルでAFモードを切り換えられるようにする →  f5 [コマンドダイヤルの設定] の [メインとサブの入れ換え] (□278)

AFエリアモードを変更する

■ ファインダー撮影時に設定する場合

シングルポイント AF	フォーカスポイントを自分で選べます (□85)。選んだフォーカスポイントだけを使ってピント合わせをします。静止している被写体の撮影に適しています。
ダイナミック AF・9点	AFモードの AF-A または AF-C (□79) との組み合わせで、撮影者が選んだ1つのフォーカスポイントから被写体が一時的に外れても、周辺のフォーカスポイントからのピント情報を利用してピントを合わせます。 <ul style="list-style-type: none">● ダイナミックAF・9点：構図を決めて撮影するときや、被写体の動く方向が予測でき、フォーカスポイントで被写体をとらえやすい撮影に適しています (例：陸上競技やモータースポーツ)。● ダイナミックAF・21点：動きがランダムで予測しにくい被写体の撮影に適しています (例：フィールドスポーツ)。● ダイナミックAF・51点：被写体の動きが速く、選んだフォーカスポイントで被写体をとらえにくい場合の撮影に適しています (例：野鳥撮影)。
ダイナミック AF・21点	
ダイナミック AF・51点	
3D-トラッキング	AFモードの AF-A または AF-C (□79) との組み合わせで、51点全てのフォーカスポイントを使って被写体を追尾する3D-トラッキングになります。選んだフォーカスポイントで被写体にピントを合わせると、シャッターボタンを半押ししている間は被写体の動きに合わせて、フォーカスポイントを自動的に切り換えて被写体にピントを合わせ続けます。左右に動く被写体を自由な構図で撮影するのに適しています (例：テニス)。 <ul style="list-style-type: none">● カメラが途中で被写体を見失ってしまった場合は、いったんシャッターボタンを放して、もう一度被写体にフォーカスポイントを合わせてください。 

オートエリアAF

カメラが自動的に全てのフォーカスポイントから被写体を判別してピントを合わせます。人物と背景を自動的に判別して、主要被写体にピントが合う精度が高くなります。



- AFモードが**AF-S**のときは、ピントが合ったフォーカスポイント全てを約1秒間表示します。**AF-C**または**AF-A**に設定して自動的**AF-C**に切り替わったときは、ピントが合った複数のフォーカスポイントを一瞬表示してから、主に使用するフォーカスポイント1点を表示します。

3D-トラッキングについて

3D-トラッキングでは、半押ししていったんピントが合った時点で、選んだフォーカスポイント周辺の色を記憶します。そのため、被写体の色が周囲の色と似ていたり、半押し開始時の被写体が小さいと、うまく動作しない場合があります。

関連ページ

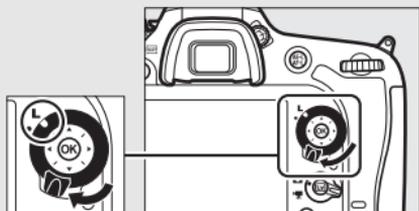
- ファインダー撮影時にフォーカスポイントの照明方法を変更する → a5 [フォーカスポイント表示] の [フォーカスポイント照明] (□270)
- ファインダー撮影時にフォーカスポイントの選択を循環方式にする → a6 [フォーカスポイント循環選択] (□271)
- ファインダー撮影時にマルチセレクターで選べるフォーカスポイントの数を変える → a7 [AF点数切り換え] (□271)
- ファインダー撮影時にカメラの縦位置と横位置で個別にフォーカスポイントを設定する → a8 [縦/横位置フォーカスポイント切換] (□271)

■ ライブビュー時に設定する場合

<p> 顔認識AF</p>	<p>記念写真など、人物の顔にピントを合わせたい場合に適しています。カメラが人物の顔を自動的に認識し、フォーカスポイントが黄色の二重枠に変わります。複数の顔を認識した場合は、カメラが最も近いと判断した人物の顔を二重枠で表示します。このとき、マルチセレクターで二重枠を移動して他の顔を選ぶこともできます。途中で顔が後ろを向くなどしてカメラが顔を認識できなくなると、枠が消えます。</p>	
<p> ワイド エリアAF</p>	<p>風景などを手持ちで撮影する場合に適しています。</p>	
<p> ノーマル エリアAF</p>	<p>画面の任意の位置にピンポイントでピントを合わせたい場合に適しています。三脚の使用をおすすめします。</p>	
<p> ターゲット 追尾AF</p>	<p>指定した被写体に追尾させてフォーカスポイントを動かしたい場合に適しています。マルチセレクターでフォーカスポイントを被写体に重ねてOKボタンを押すと、被写体の追尾を開始し、被写体の動きに合わせてフォーカスポイントが移動します。もう一度OKボタンを押すと、追尾を終了します。</p>	

✎ フォกัสポイントを自分で選びたいときは

フォーカスポイントは、マルチセレクターで任意の位置に移動できます。フォーカスポイントを移動させたくない場合は、フォーカスポイントロックレバーをLの位置に回すとロック（固定）できます。



フォーカスポイントロックレバー

✔ フォกัสポイントを選べないAFエリアモードについて

ファインダー撮影時にAFエリアモードがオートエリアAFの場合、フォーカスポイントをカメラが自動的に決めるため、自分ではフォーカスポイントを選べません。ライブビュー時にAFエリアモードを顔認識AFに設定し、カメラが人物の顔を自動的に認識した場合も、自分ではフォーカスポイントを選べません。

✎ フォกัสポイントの位置について

マルチセレクターでフォーカスポイントを任意の位置に移動した後にOKボタンを押すと、中央部に戻ります。AFエリアモードがターゲット追尾AFの場合は、OKボタンを押すと被写体の追尾を開始します（□84）。

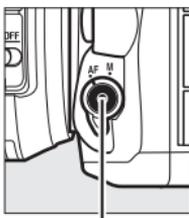
✔ ターゲット追尾AFについてのご注意

次のような場合は、追尾動作が正常に行われなかったりすることがありますので、ご注意ください。

- 被写体の色、明るさが背景と似ている場合
- 被写体の大きさ、色、明るさが著しく変わる場合
- 被写体が大きすぎる/小さすぎる場合
- 被写体が明るすぎる/暗すぎる場合
- 被写体の動きが速すぎる場合
- 被写体が隠れたり、画面から外れた場合

■ AFエリアモードの変更方法

AFモードボタンを押しながら、サブコマンドダイヤルを回す

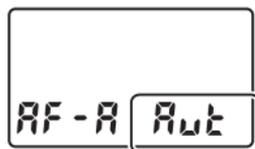


AFモードボタン

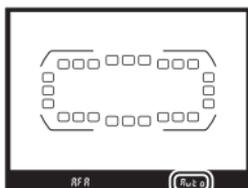


サブコマンド
ダイヤル

- 変更した設定を確認します。



表示パネル



ファインダー内表示



液晶モニター

🔍 AFエリアモードの表示について（ファインダー撮影時）

表示パネルおよびファインダー内表示の各AFエリアモードの表示は次のようになります。

AFエリアモード	表示パネル	ファインダー内表示
シングルポイントAF	S	S
ダイナミックAF・9点*	d 9	d 9
ダイナミックAF・21点*	d21	d21
ダイナミックAF・51点*	d51	d51
3D-トラッキング	3d	3d
オートエリアAF	Aut	Aut 0

* 実際にファインダーに表示されるフォーカスポイントは1点のみです。
ピント情報として利用する周辺のフォーカスポイントの数を選択できます。

✔ オートフォーカスについてのご注意（ライブビュー時）

- ライブビュー時のオートフォーカスは、ファインダー撮影時と比べてピント合わせに時間がかかります。また、次の被写体はピントが合わない場合がありますので、ご注意ください。
 - 画面の長辺側と平行な線の被写体
 - 明暗差の少ない被写体
 - フォーカスポイント内の被写体の輝度が著しく異なる場合
 - イルミネーション、夜景などの点光源や、ネオンなど明るさが変化する被写体
 - 蛍光灯、水銀灯、ナトリウム灯などの照明下で、画面にちらつきや横縞が見える場合
 - クロスフィルターなど、特殊なフィルターを使用した場合
 - フォーカスポイントに対して被写体が小さい場合
 - 連続した繰り返しパターンの被写体（ビルの窓やブラインドなど）
 - 動く被写体
- オートフォーカス作動中は、画面の明るさが変わることがあります。
- フォーカスポイントが緑色に点滅しているとき（オートフォーカス作動中）は、シャッターはきれません。ただし、赤色に点滅しているとき（ピントがあっていないとカメラが判断したとき）でもシャッターはきれます。
- ピントが合わなくてもピント表示（緑枠）が点灯する場合があります。
- AF-S 以外のレンズやテレコンバーターを使用した撮影では、十分なピント精度が出ない場合があります。

📄 関連ページ

メインコマンドダイヤルでAFエリアモードを切り換えられるようにする →

🔧 f5 [コマンドダイヤルの設定] の [メインとサブの入れ換え] (□278)

フォーカスロックしてピントを固定する

ピントを合わせたい被写体がいずれのフォーカスポイントにも入らないときや、オートフォーカスが苦手な被写体（□91）を撮影するときには、次の手順でピントを固定（フォーカスロック）して撮影してください。フォーカスロックを行う前に、AFエリアモード（□82）をオートエリアAF以外に設定することをおすすめします。

1 ピントを合わせたい被写体にフォーカスポイントを重ね、シャッターボタンを半押しする



- ファインダー撮影時は、ピントが合うとファインダー内のピント表示（●）が点灯します。
- ライブビュー時は、ピントが合うとフォーカスポイントが緑色で点灯します。



2 ピントを固定する

ファインダー撮影時にAFモード

(79) がAF-AまたはAF-Cのとき

シャッターボタンを半押ししたまま

(①)、AE/AFロックボタンを押すと

(②)、ピントが固定されます。

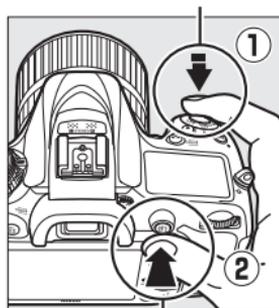
AE/AFロックボタンを押している間

は、シャッターボタンから指を放して

も、ピントが固定されます（この状態を

フォーカスロックといいます）。

シャッターボタン



AE/AFロックボタン

ファインダー撮影でAFモードがAF-Sのとき、またはライブビュー時

シャッターボタンを半押ししている間は、ピントが固定されます。

AE/AFロックボタンを押してピントを固定することもできます。

3 フォーカスロックを行ったままで構図を変え、シャッターボタンを全押しして撮影する

• 被写体との距離は変えないでください。フォーカス

ロック後に被写体との距離が変化した場合、いつ

たんフォーカスロックを解除し、ピントを合わせ直してください。



ファインダー撮影時



ライブビュー時

ピントを固定したまま繰り返し撮影したいときは

- シャッターボタンの半押しでフォーカスロックした場合は、シャッターをきいた後、シャッターボタンを半押しの状態に戻し、そのままもう一度シャッターボタンを全押ししてください。
-  AE/AF ロックボタンを押してフォーカスロックを行った場合は、 AE/AF ロックボタンを押したままもう一度シャッターボタンを全押ししてください。

AE/AFロックボタンについて

手順2で AE/AFロックボタンを押すと、ボタンを押している間、ピントと同時に露出も固定されます。

関連ページ

 AE/AFロックボタンを押したときの機能を変更する →  f4 [AE/AFロックボタンの機能] (□277)

❏ オートフォーカスの苦手な被写体について

次のような被写体では、オートフォーカスによるピント合わせができず、シャッターがきれないことや、ピントが合わなくてもピント表示(●)が点灯し、シャッターがきれることがあります。このような場合は、マニュアルフォーカス(□92)でピントを合わせるか、フォーカスロック(□88)を利用してください。



被写体の明暗差がはっきりしない場合

(白壁や背景と同色の服を着ている人物など)



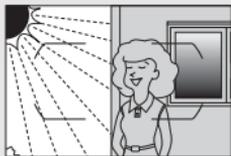
フォーカスポイント内に遠くのものと同くのものがある被写体

(オリの中の動物など)



連続した繰り返しパターンの被写体

(ビルの窓やブラインドなど)



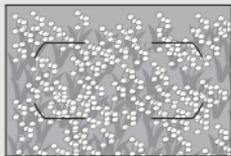
被写体の明暗差が極端に異なる場合

(太陽を背景にした日陰の人物など)



背景に対して被写体が小さい場合

(遠くの建物を背景に近くの人物を撮影する場合など)



絵柄が細かい場合

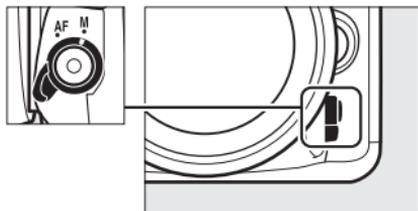
(一面の花畑など)

マニュアルフォーカスで撮影する

使用するレンズの種類によって、ピントを手動（マニュアル）で合わせるときの設定が異なります。各レンズでのマニュアルフォーカスの設定は次の通りです。

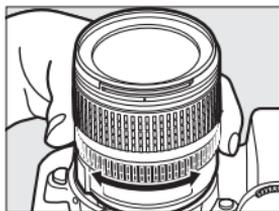
- **AFレンズを使用している場合：** フォーカスモードセレクター

カメラのフォーカスモードセレクターを**M**にしてください。レンズにフォーカスモード切り換えスイッチがある場合は、レンズ側のフォーカスモードも**M**にしてください。AF-Sレンズを使用している場合は、レンズのフォーカスモード切り換えスイッチを**M**にしてください。カメラのフォーカスモードセレクターを切り換える必要はありません。



- **マニュアルフォーカスレンズを使用する場合：** マニュアルフォーカスレンズを使用すると、常にマニュアルフォーカスで撮影できます。

ピントは、レンズのフォーカスリングを回して、メインの被写体がはっきり見えるように合わせます。



☑ AF-Sレンズ以外のAFレンズでマニュアルフォーカスをする場合の ご注意

AFレンズでマニュアルフォーカスをする場合は、必ずカメラのフォーカスモードセレクターを**M**にしてください。フォーカスモードセレクターが**AF**のままマニュアルフォーカスをする、カメラやレンズの故障の原因になります。

■ ファインダー撮影時のフォーカスエイドによるピント合わせ

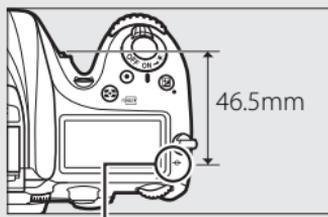
マニュアルフォーカスで撮影するときは、ファインダー内のピント表示(●)でピントが合っているかどうかを確認できます。ピントが合っているかどうかの基準となるフォーカスポイントは51カ所から選べます。

- ピントが合うとピント表示(●)が表示されます。
- オートフォーカスの苦手な被写体(□91)では、ピントが合っていないなくてもピント表示(●)が点灯することがありますので、ファインダースクリーンの像でピントが合っていることを確認してください。
- 別売の AF-S/AF-I テレコンバーターを装着した場合のフォーカスエイドが可能なフォーカスポイントについては、「AF-S/AF-Iテレコンバーターについて」(□299)をご覧ください。



④ 距離基準マークについて

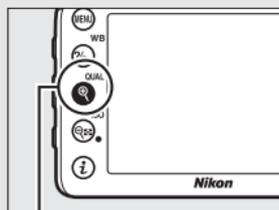
距離基準マーク④は撮影距離の基準となるマークで、カメラ内の撮像面の位置を示します。マニュアルフォーカスや接写などでカメラから被写体までの距離を実測する場合、このマークが基準となります。レンズ取り付け面(レンズマウント)から撮像面までの寸法(フランジバック)は46.5mmです。



距離基準マーク④

④ マニュアルフォーカスでのピント合わせ(ライブビュー時)

ライブビュー時は、Q (QUAL) ボタンを押して被写体を拡大表示し、ピントが合っているかを確認できます(□36)。



Q (QUAL) ボタン

ISO感度

ISO感度を設定する

撮影時の周囲の明るさに応じて、光に対する感度（ISO感度）を変更できます。一般的に、ISO感度を高くするほど、より高速のシャッタースピードで撮影できます（同じ被写体を同じ絞り値で撮影する場合）。ISO感度はISO 100～25600、Hi-BW1（ISO 51200相当）、Hi-BW2（ISO 102400相当）から設定できます（Hi-BW1またはHi-BW2では静止画撮影メニューの[ピクチャーコントロール]（□126）が[MCモノクローム]に固定されます）。

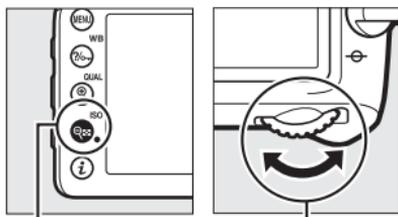
設定できるISO感度は、撮影モードによって異なります。

撮影モード	設定できるISO感度
P、S、A、M	100～25600、Hi-BW1、Hi-BW2
☒（ナイトビジョン）	オート
その他の撮影モード	オート、100～25600

- [オート] ではカメラが自動的にISO感度を決めます。

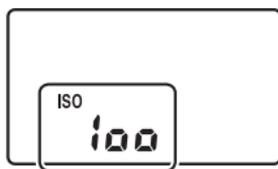
■ ISO感度の設定方法

Q (ISO) ボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回す



Q (ISO) ボタン メインコマンドダイヤル

- 変更した設定を確認します。



表示パネル



ファインダー内表示



インフォ画面

🔍 ライブビューについて

ライブビュー時は、液晶モニターでISO感度を確認できます。

🔍 [ISO感度] について

ISO感度は、静止画撮影メニュー(□266)の[ISO感度設定]でも設定できます。

■ Hi-BW1またはHi-BW2に設定する方法

[Hi-BW1] または [Hi-BW2] は、撮影モードがP、S、A、Mの場合に、静止画撮影メニュー [ISO感度設定] の [ISO感度] で設定できます。



✎ Hi-BW1またはHi-BW2について

- 静止画撮影メニュー [ISO感度設定] の [ISO/Hi感度コマンドダイヤル変更] で [する] を選ぶと、Q (ISO) ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回したときも [Hi-BW1] または [Hi-BW2] を設定できるようになります。
- ISO感度を [Hi-BW1] または [Hi-BW2] に設定してから、[ISO/Hi感度コマンドダイヤル変更] で [しない] を選ぶと、メインコマンドダイヤルではISO感度を変更できなくなります。静止画撮影メニュー [ISO感度設定] の [ISO感度] でISO感度を設定してください。

✓ Hi-BW1またはHi-BW2の制限について

- RAW画像では記録できません。[画質モード] を [RAW + FINE]、[RAW + NORMAL]、[RAW + BASIC] にして撮影した画像は、JPEG画像のみ記録できます。[画質モード] を [RAW] にして撮影した画像は、JPEG (FINE) で記録されます。
- [画質モード] および [画質サイズ] の変更はできません。
- 感度自動制御機能 (□97) およびアクティブD-ライティング (□135)、HDR (ハイダイナミックレンジ) (□137) は無効になります。
- 多重露出撮影 (□208) および微速度撮影 (□168) はできません。

✎ 関連ページ

- ISO感度の設定ステップ幅を変更する → ✎ b1 [ISO感度設定ステップ幅] (□271)
- コマンドダイヤルを回すだけでISO感度を変更できるようにする → ✎ d8 [ISO感度の簡易設定] (□274)
- 高感度撮影時のノイズを低減する → 📷/🔊 [高感度ノイズ低減] (□266、□269)

感度自動制御機能を使う

撮影モードP、S、A、Mのみ

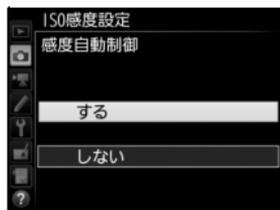
感度自動制御機能は、設定したISO感度で適正露出が得られない場合に、カメラが自動的にISO感度を変更する機能です。

- 1 静止画撮影メニュー [ISO感度設定] の [感度自動制御] を選んでマルチセレクターの  を押す



2 [する] を選ぶ

- [する] を選んで  ボタンを押すと、カメラが自動的にISO感度を変更するようになります。フラッシュ撮影時も、フラッシュの光量が適正となるように感度自動制御が機能します。
- [しない] を選ぶと、[ISO感度] で設定したISO感度に固定されます。



3 感度の制御方法を設定する

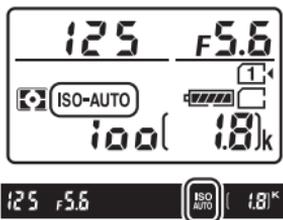
- カメラが感度を自動的に制御する方法を選びます。



制御上限感度	感度自動制御するときISO感度が高くなりすぎないように、上限感度（200～25600）を設定できます。
低速限界設定	撮影モードPまたはAで感度自動制御が働き始めるシャッタースピード（1/4000～30秒）を設定できます。また、[オート]に設定すると、レンズの焦点距離に応じてシャッタースピードの低速限界をカメラが自動で設定します（CPUレンズ装着時のみ）。たとえば、望遠レンズ使用時は手ブレが発生しやすくなるため、低速限界が自動的に高速側に設定され、ブレを軽減できます。 <ul style="list-style-type: none">[オート]を選んで\odotを押すと、補正値の設定画面が表示されます。低速限界をカメラが自動で設定するとき、より高速側または低速側になるように調整できます。ISO感度を上欄の[制御上限感度]まで上げてても露出不足になる場合は、適正露出を得るために、低速限界設定よりもさらにシャッタースピードが低速になります。

- \odot ボタンを押して設定します。

[感度自動制御] を [する] にすると、表示パネルとファインダー内表示に、右のように表示されます。ISO AUTO表示が点灯している場合は、[ISO感度] で設定した感度で撮影されます。感度が自動制御されると ISO AUTO表示が点滅し、表示パネルに制御されたISO感度が表示されます。



ライブビューについて

ライブビュー時は、液晶モニターで感度自動制御の設定を確認できます。

感度自動制御の設定について

 (ISO) ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回すと、[感度自動制御] をISO AUTO [する] またはISO [しない] に設定できます (□97)。

感度自動制御についてのご注意

- [制御上限感度] で設定したISO感度よりも [ISO感度] (□94) で設定したISO感度が高い場合、[ISO感度] で設定したISO感度を制御上限感度として撮影します。
- フラッシュ撮影時のシャッタースピードはカスタムメニュー e1 [フラッシュ撮影同調速度] (□275) と e2 [フラッシュ時シャッタースピード制限] (□276) で設定した範囲内に制限されます。[低速限界設定] のシャッタースピードをこの範囲外に設定した場合は、シャッタースピードの下限はe2 [フラッシュ時シャッタースピード制限] で設定したシャッタースピードに制限されます。
- レンズ情報を登録していない非CPUレンズ使用時は、低速限界設定を [オート] に設定できますが、低速限界が1/30秒に固定されます。
- 内蔵フラッシュ撮影時または別売スピードライト (□303) の装着時にフラッシュモードをスローシンクロに設定していても、背景の明るさがより適正となるように感度自動制御が機能して感度が自動的に上がり、シャッタースピードが低速にならないことがあります。

測光・露出

測光モードを設定する

撮影モードP、S、A、Mのみ

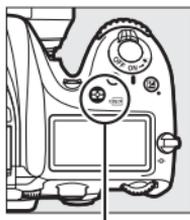
適正な露出を得るためにカメラが被写体の明るさを測る方法（測光モード）を設定します。

●P、S、A、M以外の撮影モードの場合、それぞれの撮影シーンに適した測光モードが自動的に選ばれます。

 マルチ パターン 測光	<p>ほとんどの撮影状況に対応できる測光モードです。画面の広い領域を測光して、被写体の輝度（明るさ）分布、色、距離や構図などさまざまな情報を瞬時に分析するため、見た目に近い画像が得られます。</p>
 中央部重点 測光	<p>画面の中央部分を重点的に測光します。画面中央にメインの被写体を大きく配置して撮影する場合などに適しています。</p> <ul style="list-style-type: none">●露出倍数のかかるフィルターをお使いになるときは、中央部重点測光をおすすめします。●ファインダー撮影時、測光範囲はカスタムメニューb4 [中央部重点測光範囲] (□272) で変更できますが、非CPUレンズ使用時はφ8mm相当になります。
 スポット 測光	<p>ファインダー撮影時、フォーカスポイントに重なるφ3.5 mm相当（全画面の約2.5%）の部分だけを測光します。逆光時や被写体の明暗差が激しいときなど、狭い範囲での露出を基準にして撮影したい場合に適しています。</p> <ul style="list-style-type: none">●測光エリアは、フォーカスポイントに連動します。ただし、ファインダー撮影時のAFエリアモード (□82) がオートエリアAFのときや、非CPUレンズ使用時は、中央のフォーカスポイントに相当する部分を測光します。

■■ 測光モードの設定方法

 (FORMAT) ボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回す

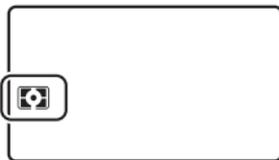


 (FORMAT) ボタン



メインコマンド
ダイヤル

- 変更した設定を確認します。



表示パネル

ライブビューについて

ライブビュー時は、液晶モニターで測光モードを確認できます。

マルチパターン測光とレンズの組み合わせについて

測光モードがマルチパターン測光のときの測光方式は、レンズの種類によって変わります。

• CPUレンズ

- 「3D-RGB マルチパターン測光Ⅱ」：G、EまたはDタイプのCPUレンズ使用時の測光方式です。距離情報を利用して測光します。
- 「RGB マルチパターン測光Ⅱ」：G、EまたはDタイプ以外のCPUレンズ使用時の測光方式です。距離情報は利用しません。

• 非CPUレンズ

- セットアップメニューの「レンズ情報手動設定」(□218) でレンズ情報を設定すると、「RGB マルチパターン測光」という測光方式になります。レンズ情報を設定しない場合は、中央部重点測光になります。

関連ページ

- 中央部重点測光の測光範囲を変更する →  b4 [中央部重点測光範囲] (□272)
- 測光モードごとに適正露出の基準を決める →  b5 [基準露出レベルの調節] (□272)

3 AE/AFロックボタンを 押したまま、構図を決め て撮影する



測光エリアについて

スポット測光で、測光エリアとフォーカスポイントが連動する場合 (□100) は、選択中のフォーカスポイントの露出が記憶されます。

AEロック中のカメラ操作について

AE/AFロックボタンを押している間も以下の操作ができます。

撮影モード	操作
P	プログラムシフト (□51)
S	シャッタースピードの変更
A	絞り値の変更

- AEロック中は、測光モードは変更できません。

関連ページ

- シャッターボタンの半押しでAEロックできるようにする →  c1 [半押しAEロック] (□272)
- AE/AFロックボタンに別の機能を割り当てる →  f4 [AE/AFロックボタンの機能] (□277)

露出補正して画像の明るさを調整する

撮影モードP、S、A、M、SCENE、のみ

露出補正とは、カメラが制御する適正露出値を意図的に変えることです。画像全体を明るくしたり、暗くしたいときなどに使います。露出補正を行うときは、測光モード（)100) を中央部重点測光またはスポット測光にすると効果的です。



-1段補正



露出補正なし



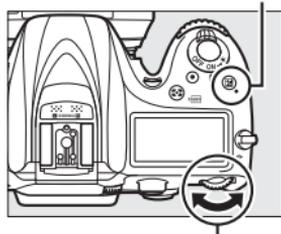
+1段補正

■ 露出補正の設定方法

 ボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回す

- 被写体を明るくしたいときは+側に、暗くしたいときは-側に補正します。

 ボタン



メインコマンドダイヤル

- 変更した設定を確認します。

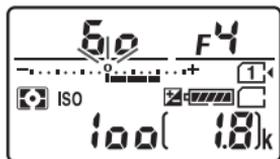


表示パネル

ライブビューについて

ライブビュー時は、液晶モニターで露出補正值を確認できます。

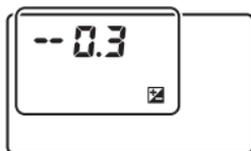
- 露出補正は、1/3段ステップで±5段の範囲で設定できます。ただし、ライブビューの場合、露出を確認できるのは±3段の範囲に限られます。
- M以外の撮影モードでは、表示パネルとファインダー内表示に露出補正インジケータが表示され、[0] が点滅します。



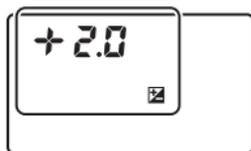
- **[OK]** ボタンを押すと、表示パネルとファインダー内表示で設定した補正値を確認できます。



補正なし



-0.3段 (-1/3段) 補正



+2段補正

撮影モードMでの露出補正について

撮影モードがMのときは、インジケータ表示が変わるだけで、設定したシャッタースピードと絞り値は変わりません。

露出補正の解除について

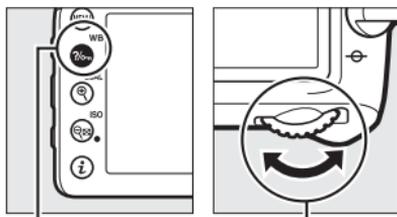
撮影モードP、S、A、Mで露出補正を行った場合、露出補正を解除するには補正値を0.0にしてください。カメラの電源をOFFにしても、補正値の設定は解除されません。SCENEまたは \square で露出補正を行った場合、撮影モードを切り換えるか、カメラの電源をOFFにすると露出補正値の設定は解除されます。

関連ページ

- 露出補正のステップ幅を変更する → b2 [露出設定ステップ幅] (□271)
- \square ボタンを使わずに露出補正する → b3 [露出補正簡易設定] (□271)
- フラッシュ使用時に背景の明るさだけを補正する → e4 [フラッシュ使用時の露出補正] (□276)
- 露出補正値を変えながら撮影する → 「AE ブラケティング、フラッシュブラケティングの撮影方法」 (□193)

■ ホワイトバランスの設定方法

☉ (WB) ボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回す



☉ (WB)
ボタン

メインコマンド
ダイヤル

- 変更した設定を確認します。



インフォ画面

🔍 ライブビューについて

ライブビュー時は、液晶モニターでホワイトバランスを確認できます。

🔍 【ホワイトバランス】について

ホワイトバランスは静止画撮影メニュー (☐264) または動画撮影メニュー (☐268) でも設定できます。動画撮影メニューでは【ホワイトバランス】を【静止画の設定と同じ】に設定できます。

🔍 AUTO (オート) について

AUTO (オート) の場合は、静止画撮影メニューまたは動画撮影メニューで【AUTO1標準】と【AUTO2電球色を残す】から選べます。【AUTO2電球色を残す】を選ぶと、電球色の光源下で撮影した際に暖かみのある画像の仕上がりになります。

🔍 𠂇 (蛍光灯) について

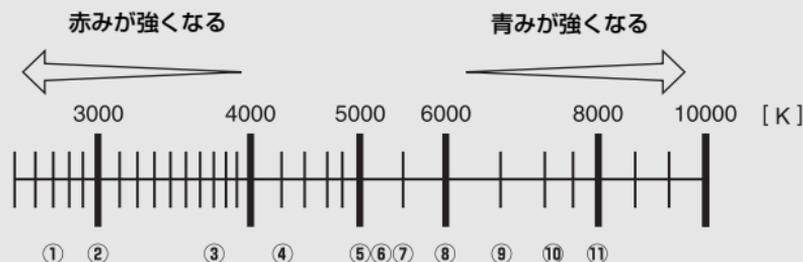
𠂇 (蛍光灯) の場合は、静止画撮影メニューまたは動画撮影メニューで蛍光灯の種類を選べます。

▼ スタジオ用大型ストロボを使用する場合

スタジオ用大型ストロボを使用する場合は、AUTO（オート）に設定していても適正なホワイトバランスが得られないことがあります。その場合は、（フラッシュ）モードにして微調整を行うか、プリセットマニュアルをお使いください。

✎ 色温度について

光の色には、赤みを帯びたものや青みを帯びたものがあり、人間の主観で光の色を表すと、見る人によって微妙に異なります。そこで、光の色を絶対温度（K：ケルビン）という客観的な数字で表したのが色温度です。色温度が低くなるほど赤みを帯びた光色になり、色温度が高くなるほど青みを帯びた光色になります。



①	 ナトリウム灯混合光 (約2700K)	⑥	 晴天 (約5200K)
②	 電球 (約3000K)  電球色蛍光灯 (約3000K)	⑦	 フラッシュ (約5400K)
③	 温白色蛍光灯 (約3700K)	⑧	 曇天 (約6000K)
④	 白色蛍光灯 (約4200K)	⑨	 昼光色蛍光灯 (約6500K)
⑤	 昼白色蛍光灯 (約5000K)	⑩	 高色温度の水銀灯 (約7200K)
		⑪	 晴天日陰 (約8000K)

ホワイトバランスを微調整する

撮影モードP、S、A、Mのみ

ホワイトバランスは、さらに微調整できます（〔色温度設定〕以外）。

■ メニューの〔ホワイトバランス〕で設定する場合

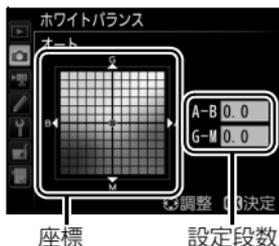
- 1 静止画撮影メニューまたは動画撮影メニューの〔ホワイトバランス〕で、設定したいホワイトバランスを選び、微調整画面が表示されるまで  を押す



- [プリセットマニュアル] での微調整画面の表示方法については、「プリセットマニュアルデータの微調整について」(□125) をご覧ください。

- 2 微調整値を設定する

- マルチセレクターを操作すると、座標上のA（アンバー）、B（ブルー）、G（グリーン）、M（マゼンタ）の4方向で、設定段数を各方向6段階まで微調整できます。
- A（アンバー）、B（ブルー）方向は、色温度の高さを0.5段階単位で微調整できます。1段階は約5ミレッドに相当します。
- G（グリーン）、M（マゼンタ）方向は、色補正用（CC）フィルターと同じような微調整を0.25段階単位で行えます。1段階は濃度約0.05に相当します。



- 3 微調整値を決定する

-  ボタンを押して微調整値を決定すると、メニューに戻ります。

ホワイトバランスの微調整画面について

- ホワイトバランスを微調整すると、インフォ画面のホワイトバランスモード (□183) の横にアスタリスク (＊) が表示されます。ライブビュー時は、液晶モニターのホワイトバランスモードの横にアスタリスク (＊) が表示されます。
- ホワイトバランスの微調整画面で表示されている色は、色温度方向の目安の色を表しています。微調整画面で設定しても、設定したそのままの色の画像にはならない場合があります。たとえば、ホワイトバランスを  (電球) に設定してB (ブルー) 方向に微調整しても、青色が強い画像にはなりません。

ミレッド (MIRE) について

色温度の逆数を百万 (10⁶) 倍したものです。色温度は、同じ色温度差でも、色温度の低い場合では色の変化が大きく、色温度の高い場合では、色の変化が小さくなります。たとえば同じ1000ケルビンの違いでも6000ケルビン付近での変化は比較的小さく、3000ケルビン付近では1000ケルビンの違いで光色が大きく変わります。ミレッドは、その変化幅をほぼ同じに表現する尺度であり、色温度変換フィルターの単位としても利用されます。

例) 色温度の差 (K : ケルビン) : ミレッドの差 (M : ミレッド)

4000K - 3000K = 1000 K : 83 M

7000K - 6000K = 1000 K : 24 M

関連ページ

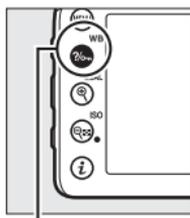
ホワイトバランスを変えながら撮影する

→  e6 [オートブラケティングのセット] (□277)

→ 「WBブラケティングの撮影方法」 (□199)

■ ホワイトバランスボタンとサブコマンドダイヤルで設定する場合（アンバーおよびブルー方向のみ）

? (WB) ボタンを押しながら、サブコマンドダイヤルを回す

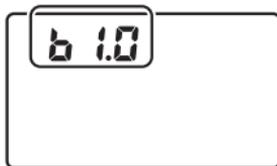


? (WB)
ボタン



サブコマンド
ダイヤル

- 変更した設定を確認します。



表示パネル



インフォ画面

- **?** (WB) ボタンとサブコマンドダイヤルで微調整する場合は、A（アンバー）から B（ブルー）への横軸の方向のみ設定できます（□109）。
- サブコマンドダイヤルを左に回すと A（アンバー）方向に、右に回すと B（ブルー）方向に色温度の高さを0.5段階単位で微調整できます。1段階は約5ミレッドに相当します。
- **?** (WB) ボタンの操作では、PRE（プリセットマニュアル）のホワイトバランスは微調整できません。メニューで微調整してください（□125）。

🔍 ライブビューについて

ライブビュー時は、液晶モニターでホワイトバランスの微調整値を確認できます。

色温度設定で色温度を指定する

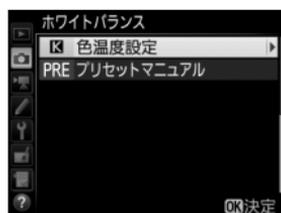
撮影モードP、S、A、Mのみ

ホワイトバランスを**K**（色温度設定）にしたときは、ホワイトバランスの色温度を直接数値で指定できます。

■メニューの【ホワイトバランス】で設定する場合

A（アンバー）、B（ブルー）方向とG（グリーン）、M（マゼンタ）方向の両方の色温度を設定できます。

- 1 静止画撮影メニューまたは動画撮影メニューの【ホワイトバランス】で、【色温度設定】を選んでマルチセクターの \odot を押す



- 2 A（アンバー）、B（ブルー）方向の色温度を設定する

- \odot または \odot を押して色温度を1桁ずつ選び、 \odot または \odot を押して数値を設定します。



A（アンバー）、B（ブルー）方向の色温度

- 3 G（グリーン）、M（マゼンタ）方向の色温度を設定する

- \odot または \odot を押して、G（グリーン）、M（マゼンタ）方向の色温度にカーソルを移動し、 \odot または \odot を押して数値を設定します。



G（グリーン）、M（マゼンタ）方向の色温度

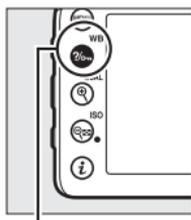
4 色温度を決定する

- **OK** ボタンを押して色温度を決定すると、メニューに戻ります。
- G（グリーン）、M（マゼンタ）方向の色温度を0以外に設定すると、インフォ画面のホワイトバランスモード（□183）の横にアスタリスク（*）が表示されます。ライブビュー時は、液晶モニターのホワイトバランスモードの横にアスタリスク（*）が表示されます。

■ ボタン操作で色温度を設定する場合 (アンバーおよびブルー方向のみ)

ホワイトバランスが **WB** (色温度設定) のときに **WB** ボタンを押しながら、サブコマンドダイヤルを回す、またはマルチセレクターの **▲** **▼** **◀** **▶** を押す

- **WB** ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回すと、色温度が切り替わります (ミレッド単位、**110**)。
- **WB** ボタンを押しながらマルチセレクターの **▲** または **▶** を押すと、色温度を1桁ずつ選べます。**▲** または **▼** を押すと選んだ桁の数値を設定できます。
- A (アンバー)、B (ブルー) 方向の色温度のみ設定できます。
- 変更した設定を確認します。



WB ボタン



サブコマンドダイヤル



表示パネル



インフォ画面

📝 ライブビューについて

ライブビュー時は、液晶モニターで色温度を確認できます。

✔ 色温度設定についてのご注意

- 光源が蛍光灯やフラッシュのときは、色温度設定を使わず、それぞれ **☾** (蛍光灯)、**⚡** (フラッシュ) に設定してください。
- ホワイトバランスの色温度を指定したときは、試し撮りをして、設定した色温度が撮影状況に適しているかどうかを確認することをおすすめします。

プリセットマニュアルで基準となる白を設定する

撮影モードP、S、A、Mのみ

プリセットマニュアルでは、撮影する照明下で取得したホワイトバランスデータまたは撮影済みの画像のプリセットマニュアルデータをカメラに保存し、ホワイトバランスを設定します。カクテル照明（自然光と人工照明とが混ざった室内撮影）や特殊照明下で、前記の**AUTO**（オート）や☀（電球）などの各設定や、色温度設定では望ましいホワイトバランスが得られない場合に便利です。

最大6種類のプリセットマニュアルデータ（d-1～d-6）をカメラに保存できます。プリセットマニュアルデータを保存するには、次の方法があります。

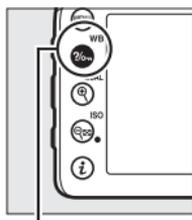
プリセットマニュアルデータをカメラで新規取得して保存する	撮影する照明下で白またはグレーの被写体を基準にして撮影を行い、撮影データから取得して保存します（☐116）。ライブビュー時には、液晶モニターに表示中の被写体の一部分を選んでプリセットマニュアルデータを取得できます（スポットホワイトバランス、☐120）。
撮影済みの画像のホワイトバランスデータをコピーして保存する	SDカードにある画像のホワイトバランスデータをコピーして保存します（☐123）。

ファインダー撮影時にプリセットマニュアルデータを新規取得する

プリセットマニュアルデータを取得する前に：

- プリセットマニュアルデータを取得する場合は、あらかじめホワイトバランスをセットする照明下で、無彩色（白またはグレー）の被写体を用意しておいてください。スタジオ用大型ストロボにてホワイトバランスをセットする場合は、被写体をグレー（ホワイトバランス取得用の18%標準反射板）にすることをおすすめします。
- 無彩色（白またはグレー）の被写体を基準にプリセットマニュアルデータを取得するときは、カメラが露出を通常よりも1段オーバーになるように自動的に調整します。撮影モードが**M**の場合は、露出インジケータを確認して、適正露出になるように設定してください（□56）。

1 **WB** ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回して、インフォ画面のホワイトバランス表示を**PRE**に合わせる



WB
ボタン



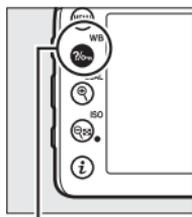
メインコマンド
ダイヤル



インフォ画面

2 新規取得するプリセットマニュアルデータの保存場所を選ぶ

- **?** (WB) ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回して、これから取得するプリセットマニュアルデータの保存場所をd-1～d-6の中から選びます。



? (WB)
ボタン



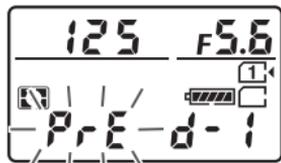
サブコマンド
ダイヤル



インフォ画面

3 プリセットマニュアル取得モードにする

- いったん **?** (WB) ボタンから指を放し、再度 **?** (WB) ボタンを押し続けると、プリセットマニュアル取得モードになり、表示パネルとファインダー内表示に **PRE** がそれぞれ数秒間点滅します。



表示パネル



ファインダー内表示

4 PrEの点滅中に白またはグレーの被写体を撮影する

- 撮影時に使う照明の下で、用意した無彩色（白またはグレー）の被写体をファインダーいっぱいにとらえてシャッターボタンを全押しすると、プリセットマニュアルデータが取得され、手順2で選んだ保存場所に保存されます。
- ピントが合わなくてもシャッターがきれ、プリセットマニュアルデータが正常に取得されます。
- シャッターボタンを押しても、SDカードに画像は記録されません。



5 正常にプリセットマニュアルデータが取得されたことを確認する

- プリセットマニュアルデータが取得されると、表示パネルにGoodが、ファインダー内表示にGdが、それぞれ点滅します。シャッターボタンを半押しすると、すぐに撮影できます。

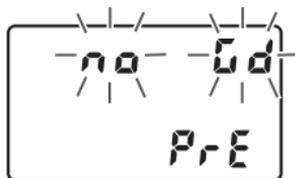


表示パネル



ファインダー内表示

- 被写体が極端に低輝度または高輝度の場合、カメラがプリセットマニュアルデータを取得できないことがあります。この場合、表示パネルとファインダー内表示にno Gdが、それぞれ点滅します。このとき、シャッターボタンを半押しするとプリセットマニュアル取得モード（手順4）に戻ります。



表示パネル



ファインダー内表示

✔ プリセットマニュアル取得モードの時間制限について（ファインダー撮影時）

プリセットマニュアル取得モードは、何も操作しないままカスタムメニュー c2 [半押しタイマー]（□272）で設定した時間が過ぎると解除されます。

✔ プリセットマニュアルデータ取得時の制限について（ファインダー撮影時）

次の場合は、プリセットマニュアルデータを取得できません：

- HDR（ハイダイナミックレンジ）撮影時（□137）
- 多重露出撮影時（□208）
- ライブビューセクターが \bullet の場合にカスタムメニュー g4 [シャッターボタンの機能] が [動画撮影] のとき（□280）

✍ ホワイトバランスのプロテクト設定について

プロテクト設定（□125）されたプリセットマニュアルデータが選ばれている場合、プリセットマニュアルデータは新規取得できません（表示パネル、ファインダー内表示およびインフォ画面で Prt が点滅します）。

✍ プリセットマニュアルデータについて

- ご購入時のプリセットマニュアルデータ d-1～d-6は、晴天モードと同じ色温度5200Kに設定されています。
- 静止画撮影メニューまたは動画撮影メニューから [ホワイトバランス] の [プリセットマニュアル] を選ぶと、取得したプリセットマニュアルデータが右のように表示されます。マルチセクターでプリセットマニュアルデータを選んで \odot ボタンを押すと、選んだプリセットマニュアルを使って撮影できます。

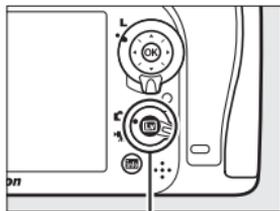


ライブビュー時にスポットホワイトバランスで プリセットマニュアルデータを取得する

ライブビュー時には、液晶モニターに表示されている被写体の一部分を選んでプリセットマニュアルデータを取得できます（スポットホワイトバランス）。

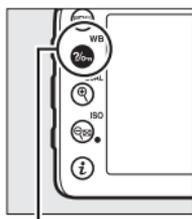
1 Lv ボタンを押す

- ミラーアップしてファインダー内が暗くなり、液晶モニターに被写体が表示されます。



Lv ボタン

2 $\frac{1}{\infty}$ (WB) ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回して、液晶モニターのホワイトバランス表示をPREに合わせる



$\frac{1}{\infty}$ (WB)
ボタン



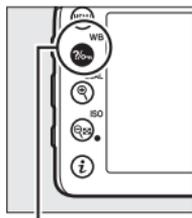
メインコマンド
ダイヤル



液晶モニター

3 新規取得するプリセットマニュアルデータの保存場所を選ぶ

- **WB** ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回して、これから取得するプリセットマニュアルデータの保存場所をd-1～d-6の中から選びます。



WB
ボタン



サブコマンド
ダイヤル



液晶モニター

4 プリセットマニュアル取得モードにする

- いったん **WB** ボタンから指を放し、再度 **WB** ボタンを押し続けると、プリセットマニュアル取得モードになり、液晶モニターに **PRE** が点滅します。



液晶モニター

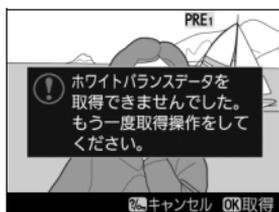
5 PREの点滅中に、マルチセレクターで□を被写体の白またはグレーの部分に重ねる

- **QUAL** ボタンを押すと、被写体が拡大表示され、□で選んだ部分を細部まで確認できます。



6 OK ボタンを押すか、シャッターボタンを全押しして、プリセットマニュアルデータを取得する

- データが取得できなかった場合は、液晶モニターに右の画面が表示され、手順5の状態に戻ります。□の位置を変えるなどして、再度プリセットマニュアルデータを取得してください。



7 7% (WB) ボタンを押してプリセットマニュアル取得モードを終了する

- 静止画撮影メニューまたは動画撮影メニューから「ホワイトバランス」の「プリセットマニュアル」を選ぶと、取得したプリセットマニュアルデータには、ホワイトバランスを取得した範囲に枠が表示されます。



✓ プリセットマニュアル取得モードの時間制限について

プリセットマニュアル取得モードの時間制限は、カスタムメニューc4 [モニターのパワーオフ時間] の [ライブビュー表示] で設定した時間になります (□273)。

✓ プリセットマニュアルデータ取得時の制限について

次の場合は、プリセットマニュアルデータを取得できません：

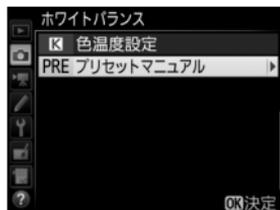
- HDR (ハイダイナミックレンジ) 撮影時 (□137)
- ライブビューセクターが果の場合にカスタムメニューg4 [シャッターボタンの機能] が [動画撮影] のとき (□280)

プリセットマニュアルデータを管理する

■ 撮影済み画像のホワイトバランスデータをコピーする

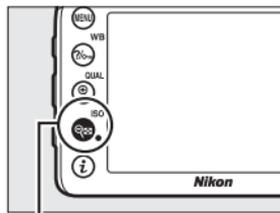
選んだプリセットマニュアルデータの保存場所に、SDカード内の画像で使用されたホワイトバランスを、プリセットマニュアルデータとしてコピーできます。

- 1 静止画撮影メニューまたは動画撮影メニューの【ホワイトバランス】で【プリセットマニュアル】を選んでマルチセレクターの \odot を押す



2 コピー先を選ぶ

- マルチセレクターで黄色い枠を移動して d-1～d-6の中からコピー先を選びます。
- Q (ISO) ボタンを押すと設定画面が表示されます。

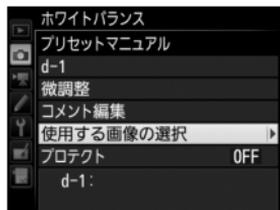


Q (ISO) ボタン



3 【使用する画像の選択】を選ぶ

- 【使用する画像の選択】を選んで \odot を押すと、SDカード内の画像が一覧表示されます。



4 ホワイトバランスデータをコピーしたい画像を選ぶ

- マルチセレクターで黄色い枠を移動して画像を選びます。

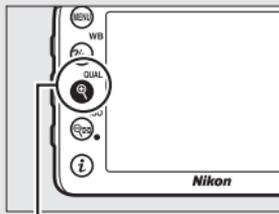


5 ホワイトバランスデータをコピーする

- OK ボタンを押すとSDカード内の画像のホワイトバランスデータがコピーされます。
- 選んだ画像に画像コメント (□283) がある場合、画像コメントもコピーされます。

ホワイトバランスデータをコピーしたい画像について

選んだ画像は、Q (QUAL) ボタンを押している間、拡大して確認できます。

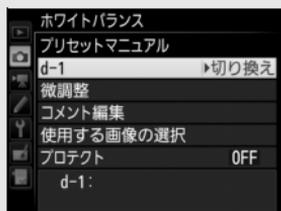


Q (QUAL) ボタン



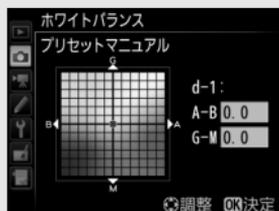
設定画面でのプリセットマニュアルデータの切り換えについて

設定画面で、マルチセレクターのMを押してプリセットマニュアルデータ (d-1~d-6) を選び、OKを押すと、プリセットマニュアルデータが切り替わります。



プリセットマニュアルデータの微調整について

設定画面で **[微調整]** を選ぶと、微調整画面が表示され、選択中のプリセットマニュアルデータを微調整できます (□109)。



プリセットマニュアルデータにコメントを入力する

設定画面で **[コメント編集]** を選ぶと、選択中のプリセットマニュアルデータにコメント (最大36文字) を入力できます。コメントの入力方法は、「カスタムピクチャーコントロールを登録する」の手順6をご覧ください (□132)。



プリセットマニュアルデータを保護する (プロテクト)

設定画面で **[プロテクト]** を選ぶと、選択中のプリセットマニュアルデータにプロテクト (保護) を設定できます。プロテクトの設定画面で **[する]** を選んで **[OK]** ボタンを押すと、選んだプリセットマニュアルデータがプロテクト設定されます。プロテクト設定されたプリセットマニュアルデータは微調整やコメント編集ができなくなります。



画像処理

ピクチャーコントロールを使って画像の仕上がりを簡単に設定したり、思い通りに調整する

撮影モードP、S、A、Mのみ

ピクチャーコントロールを選ぶ

このカメラには、被写体や撮影シーンに合わせて選ぶことのできる「ピクチャーコントロール」が搭載されています。

- P、S、A、M以外の撮影モードの場合、それぞれの撮影シーンに適したピクチャーコントロールが自動的に選ばれます。

 SD スタANDARD	鮮やかでバランスの取れた標準的な画像になります。 <ul style="list-style-type: none">• ほとんどの撮影状況に適しています。
 NL ニュートラル	被写体の豊かな階調や色合いを自然に再現した画像になります。 <ul style="list-style-type: none">• 撮影した画像を調整、加工する場合に適しています。
 VI ビビッド	メリハリのある生き生きとした色鮮やかな画像になります。 <ul style="list-style-type: none">• 青、赤、緑など、原色を強調したいときに適しています。
 MC モノクローム	白黒やセピアなど、単色の濃淡で表現した画像になります。
 PT ポートレート	人物の肌が滑らかで自然な画像になります。
 LS 風景	自然の風景や街並みが色鮮やかな画像になります。
 FL フラット	シャドウ部からハイライト部まで幅広く情報を保持した画像になります。 <ul style="list-style-type: none">• 撮影した画像を積極的に調整、加工する場合に適しています。

- 1** 静止画撮影メニューまたは動画撮影メニューの [ピクチャーコントロール] を選んでマルチセレクターの  を押す



- 2** 設定したいピクチャーコントロールを選ぶ

-  ボタンを押して設定します。



【ピクチャーコントロール】について

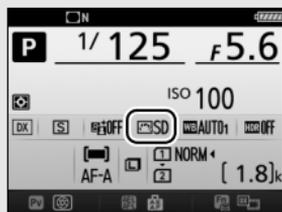
動画撮影メニューの [ピクチャーコントロール] を [静止画の設定と同じ] に設定すると、静止画撮影メニューで設定したピクチャーコントロールで動画を撮影します。

【カスタムピクチャーコントロール】について

静止画撮影メニューまたは動画撮影メニューで [カスタムピクチャーコントロール] を選ぶと、調整したピクチャーコントロールに名前を付けて登録したり (□131)、SDカードを使って、同じ機種のカメラやピクチャーコントロールに対応するソフトウェアと共用することができます。

撮影中のピクチャーコントロールの確認について

- 使用しているピクチャーコントロールは、 ボタンを押すと表示されるインフォ画面で確認できます。



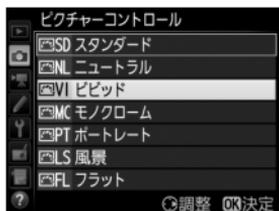
- ライブビュー時は、液晶モニターでピクチャーコントロールを確認できます。

ピクチャーコントロールを調整する

ピクチャーコントロールやカスタムピクチャーコントロール (□131) の設定は、撮影目的や好みに合わせて調整できます。自動的にバランスよく調整できる「クイック調整」と各項目を手動で細かく調整する「手動調整」があります。

1 調整したいピクチャーコントロールを選ぶ

- ピクチャーコントロールの一覧画面 (□127) で、マルチセレクターの  を押します。



2 ピクチャーコントロールを調整する

-  または  で調整する項目 (□129) を選びます。  または  を押すと1ステップ刻みで、サブコマンドダイヤルを回すと0.25ステップ刻みで値を設定します。
- 「**クイック調整**」を選んで  または  を押すと、各項目のレベルを自動的に調整します (□129)。
-  (FORMAT) ボタンを押すと初期設定の内容に戻ります。

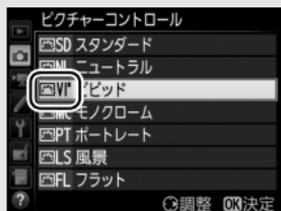


3 設定する

-  ボタンを押して設定します。

ピクチャーコントロールを調整した場合の表示について

ピクチャーコントロールを調整すると、アイコンの横にアスタリスク (*) が表示されます。



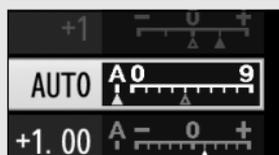
■■ レベル調整の設定項目

クイック調整※1	輪郭強調、コントラスト、色の濃さ（彩度）のレベルを自動的に調整します。	
手動調整	輪郭強調	輪郭の強弱を調整できます。[A]（オート）を選ぶと、自動で調整します。
	明瞭度	画像の明瞭度を調整します。[A]（オート）を選ぶと、自動で調整します※2。明瞭度の設定は、動画には反映されません。
	コントラスト	画像のコントラストを調整できます。[A]（オート）を選ぶと、自動で調整します。
	明るさ	白とびや黒つぶれを抑えながら画像の明るさを調整します。
	色の濃さ（彩度）※3	画像の彩度（色の鮮やかさ）を調整できます。[A]（オート）を選ぶと、自動で調整します。
	色合い（色相）※3	画像の色合いを調整できます。
	フィルター効果※4	白黒写真用カラーフィルターを使って撮影したときのような効果が得られます（□130）。
調色※4	印画紙を調色したときのように、画像全体の色調を調整できます（□130）。	

- ※1 [ニュートラル]、[モノクローム] または [フラット] はクイック調整できません。カスタムピクチャーコントロール（□131）の場合も、クイック調整できません。手動調整した後にクイック調整を行うと、手動調整で設定した値は無効になります。
- ※2 設定する強度や撮影シーンによっては、明るい被写体の周辺に暗い影が出たり、暗い被写体の周辺が明るくなったりします。
- ※3 [モノクローム] を元にしたカスタムピクチャーコントロールや [モノクローム] のときは、表示されません。
- ※4 [モノクローム] を元にしたカスタムピクチャーコントロールや [モノクローム] のときのみ表示されます。

🔧 ピクチャーコントロールのレベル調整について

[輪郭強調]、[明瞭度]、[コントラスト]、[色の濃さ（彩度）] の場合、**Q**（QUAL）ボタンを押して手動調整と [A]（オート）を切り換えられます。

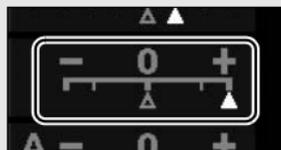


▼ **【輪郭強調】、【明瞭度】、【コントラスト】、【色の濃さ（彩度）】の【A】（オート）についてのご注意**

- 同じような状況で撮影しても、被写体の位置や大きさ、露出によって、仕上がりが具合は変化します。
- 十分な効果を得るには、Gタイプ、EタイプまたはDタイプのレンズをお使いになることをおすすめします。

🔍 **ピクチャーコントロール調整時の△マークについて**

ピクチャーコントロール調整中に各項目に表示される△マークは、調整する前の値を示しています。前回調整した値を参考にして調整するときに便利です。



🔍 **【モノクローム】の【フィルター効果】について**

【フィルター効果】には、次のような効果があります。

Y（黄※）	コントラストを強調する効果があり、風景撮影で空の明るさを抑えたい場合などに使います。【Y】→【O】→【R】の順にコントラストが強くなります。
O（オレンジ※）	
R（赤※）	
G（緑※）	肌の色や唇などを落ち着いた感じに仕上げます。ポートレート撮影などに使います。

※ 市販の白黒写真用カラーフィルターの色です。【フィルター効果】で得られる効果は、市販の白黒写真用カラーフィルターよりも強くなります。

🔍 **【モノクローム】の【調色】について**

【調色】の項目（【B&W】以外）を選んでマルチセレクターの👉を押すと、さらに色の濃淡を選べます。👈または👉を押して選んでください。

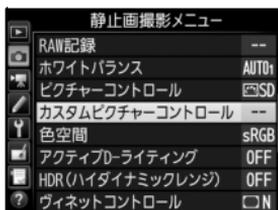


カスタムピクチャーコントロールを登録する

カメラに搭載された「ピクチャーコントロール」は、好みに合わせて調整して、「カスタムピクチャーコントロール」として登録できます。

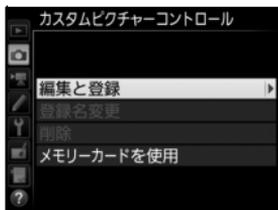
■ カスタムピクチャーコントロールの登録方法

- 1 静止画撮影メニューまたは動画撮影メニューの [カスタムピクチャーコントロール] を選んでマルチセクターの  を押す



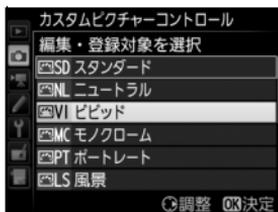
- 2 [編集と登録] を選ぶ

- [編集と登録] を選んで  を押すと、[編集・登録対象を選択] 画面が表示されます。



- 3 元にするピクチャーコントロールを選ぶ

- ピクチャーコントロールを選んで  を押すと、編集画面が表示されます。
- 編集を行わない場合は  ボタンを押します。[登録先の選択] 画面が表示されます (手順5へ)。



- 4 ピクチャーコントロールを調整する

- 項目の内容や調整方法は [ピクチャーコントロール] と同じです。
-  ボタンを押すと [登録先の選択] 画面が表示されます。
-  (FORMAT) ボタンを押すと初期設定の内容に戻ります。



5 登録先を選ぶ

- C-1～9 (カスタム1～9) の中から登録先を選びます。



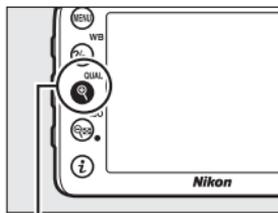
6 登録名を編集する

- 登録先を選んで を押すと、[登録名変更] 画面が表示されます。
- 初期状態では、「(元になったピックアップコントロール名) -XX」が名前エリアに入力されています。XXには自動的に数値が設定されます。
- 登録名は19文字まで入力できます。文字はカーソル位置に挿入されます。
- 登録名を変更しない場合は、手順7へ進みます。
- 名前エリアに新しい文字を入力する場合は、マルチセクターで入力するキーボードエリアの文字上にカーソルを移動させ、 ボタンを押します。
- 名前エリアのカーソルを左右に移動する場合は、 (ISO) ボタンを押しながらマルチセクターの または を押します。
- 名前エリアからあふれた文字は削除されます。
- 名前を1文字削除する場合は、 (ISO) ボタンを押しながら または を押して削除する文字の上にカーソルを移動させ、 (FORMAT) ボタンを押します。



7 (QUAL) ボタンを押す

- 登録名の編集が終了します。



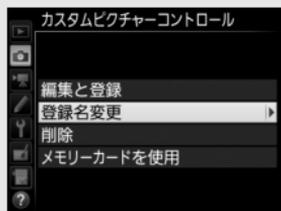
 (QUAL) ボタン

- 登録したピクチャーコントロールは、ピクチャーコントロールの一覧画面に表示されます。



登録名変更について

[カスタムピクチャーコントロール] で [登録名変更] を選ぶと、登録したカスタムピクチャーコントロールの名前を変更できます。



登録したピクチャーコントロールを削除するには

[カスタムピクチャーコントロール] で [削除] を選ぶと、登録したカスタムピクチャーコントロールを削除できます。

元になったピクチャーコントロールの表示について

カスタムピクチャーコントロールの調整画面では、元になったピクチャーコントロールが表示されます。

元になったピクチャーコントロール

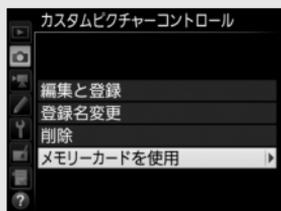


✎ カスタム1～9で調整できる項目について

カスタム1～9を選んだ場合は、元になったピクチャーコントロールと同じ項目が調整できます。

✎ カメラで登録したカスタムピクチャーコントロールについて

[カスタムピクチャーコントロール]の[メモリーカードを使用]を使うと、カメラで登録したカスタムピクチャーコントロールをSDカードにコピーできます。また、SDカード内のカスタムピクチャーコントロールをカメラに登録したり、削除したりできます（SDカードはスロット1に入れてください。スロット2に入っているSDカードは認識されません）。



- [メモリーカードにコピー]：カメラで登録したカスタムピクチャーコントロールをSDカードにコピー（エクスポート）できます。SDカードにコピーしたいカスタムピクチャーコントロールとコピー先（1～99）を選んでOKボタンを押すと、選んだカスタムピクチャーコントロールがSDカードにコピーされます。
- [カメラに登録]：SDカードに保存されているカスタムピクチャーコントロールをカメラに登録（インポート）できます。カメラに登録したいカスタムピクチャーコントロールと登録先（C-1～9（カスタム1～9））を選んで名前を付けると、選んだカスタムピクチャーコントロールがカメラに登録されます。
- [メモリーカードから削除]：SDカードに保存されているカスタムピクチャーコントロールを選んで削除できます。

白とびや黒つぶれを抑えて撮影する

撮影モードP、S、A、Mのみ

アクティブD-ライティングで撮影する

撮影の前にあらかじめ**〔アクティブD-ライティング〕**を設定しておくと、ハイライト部の白とびを抑え、暗部の黒つぶれを軽減する効果があります。見た目のコントラストに近い画像に仕上がります。暗い室内から外の風景を撮ったり、直射日光の強い海辺など明暗差の激しい景色を撮影するのに効果的です。アクティブD-ライティングを設定したときは、測光モードをマルチパターン測光に設定して撮影することをおすすめします (□100)。



アクティブD-ライティング
[しない]



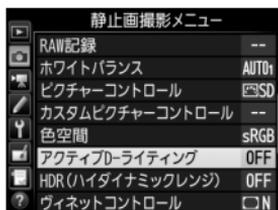
アクティブD-ライティング
[暗Aオート]

🔍 静止画撮影メニュー **〔アクティブD-ライティング〕** と画像編集メニュー **〔D-ライティング〕** の違い

〔アクティブD-ライティング〕を設定してから撮影すると、撮影シーンに応じて露出や階調を制御し、ハイライト部やシャドー部および中間調を適切に調整して画像を記録します。一方、**〔D-ライティング〕** (□286) は、撮影済みの画像に対して階調を再調整してシャドー部を明るく補正します。

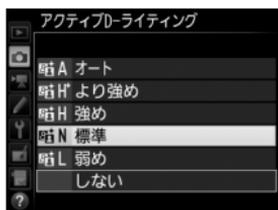
■ アクティブD-ライティングの設定方法

- 1 静止画撮影メニューの [アクティブ D-ライティング] を選んでマルチセクターの  を押す



- 2 効果の度合いを選び、 ボタンを押す

- [暗Aオート] に設定すると、撮影シーンに応じて自動的に効果の度合いを設定します。



▼ アクティブD-ライティングについてのご注意

- 明るい被写体の周辺に暗い影が出たり、暗い被写体の周辺が明るくなったりする場合があります。
- 撮影モードが **M** のときは、[暗Aオート] に設定していても [暗N標準] 相当の度合いに固定されます。
- 被写体によっては画像に階調とびが発生する場合があります。

📄 関連ページ

- アクティブD-ライティングの効果の度合いを変えながら撮影する
→ 「ADLブラケットの撮影方法」(□203)
- **Fn** ボタンとメインコマンドダイヤルでアクティブD-ライティングの効果の度合いを切り換える →  f2 [Fnボタンの機能] (□277)

HDR (ハイダイナミックレンジ) 合成を行う

1回の撮影で露出が異なる画像を2コマ撮影して合成することにより、輝度範囲の広いシーンでも白とびや黒つぶれの少ない画像を記録します。明暗差が著しい撮影シーンなどで、シャドー部からハイライト部まで幅広く再現された画像になります。HDRモードを設定したときは、測光モードをマルチパターン測光に設定して撮影することをおすすめします (□100)。



露出暗めで
撮影した画像

+



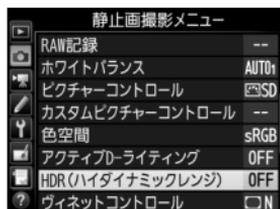
露出明るめで
撮影した画像

➡



HDRモードで
合成された画像

- 1 静止画撮影メニューの [HDR (ハイダイナミックレンジ)] を選んでマルチセレクターの  を押す

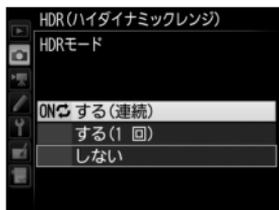


2 [HDRモード] を設定する

- [HDRモード] を選んで  を押します。



-  または  を押してHDRモードを設定し、 ボタンを押します。



ON/する(連続)	解除するまで連続してHDR撮影します。HDRモードを解除するには、もう一度 [HDRモード] を選んで [しない] に設定してください。
する(1回)	1回撮影を終了すると、HDRモードが解除されます。
しない	HDRモードを解除します。

- [する(連続)] または [する(1回)] を選ぶと、HDRモードの撮影待機状態になり、ファインダー内表示にHDRマークが点灯します。



ファインダー内表示

RAWを含む画質モードについて

RAWを含む画質モードの場合、HDR撮影はできません。

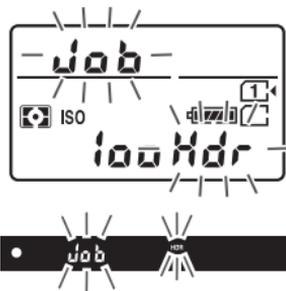
3 [HDR強度] を設定する

- [HDR強度] を選んで  を押します。
-  または  を押してHDR強度を設定し、 ボタンを押します。
- [オート] に設定すると、撮影シーンに応じて自動的にHDRの強度を設定します。



4 構図を決め、ピントを合わせて撮影する

- シャッターボタンを全押しすると、2回連続してシャッターがきれれます。
- 合成処理中は、表示パネルに **Job Hdr** が、ファインダー内表示に **Job HDR** が点滅します。この表示が消えるまで撮影できません。
- [する (連続)] の場合、[HDRモード] で [しない] を選んでHDRモードを解除するまで、HDRモードで撮影できます。
- HDRモードが [する (1回)] の場合、1回撮影すると、HDRモードが解除され、**HDR** マークが消灯します。



▼ HDR撮影時のご注意

- 撮影した画像の画像周辺部は切り取られます。
- 動いている被写体を撮影する場合や撮影時の手ブレの量が多い場合は、正しく合成されないことがあります。三脚をお使いいただくことをおすすめします。
- 撮影シーンによっては、明るい被写体の周辺に暗い影が出たり、暗い被写体の周辺が明るくなったりします。また、HDRの効果が出にくい場合があります。
- 被写体によっては画像に階調とびが発生する場合があります。
- 測光モードが中央部重点測光またはスポット測光のときや、非CPUレンズ装着時に**【HDR強度】**を**【オート】**に設定すると、HDRの強度は**【標準】**相当の度合いに固定されます。
- 内蔵フラッシュと別売のスピードライトは発光しません。
- レリーズモード（□65）が**CL**または**CH**の場合にシャッターボタンを全押しし続けても連続撮影しません。
- シャッタースピードは、**b**、**1/b**（バルブ）または**-**（タイム）に設定できません。

▼ HDRモードの制限について

HDRモードは、次の機能とは同時に使用できません：

- オートブラケティング撮影（□193）
- 多重露出撮影（□208）
- 微速度撮影（□168）

🔪 HDRモードとインターバルタイマー撮影の組み合わせについて

- HDRモードを**【する(連続)】**に設定してからインターバルタイマー撮影（□212）を設定すると、**【インターバルタイマー撮影】**で設定されたインターバルでHDR撮影ができます。
- HDRモードが**【する(1回)】**の場合は、1回だけHDRモードで撮影した後、インターバルタイマーとHDRモードが解除されます。

フラッシュ撮影

内蔵フラッシュを使って撮影する

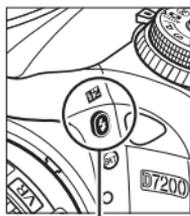
内蔵フラッシュを使うと、暗い場所や逆光下など、さまざまな場所での撮影を楽しむことができます。

内蔵フラッシュが自動的に上がる撮影モードの場合

撮影モード 、、、、、、、では、暗いときや逆光のときなど、必要に応じて自動的に内蔵フラッシュが上がり、発光します。

1 フラッシュモードを設定する

-  () ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回します。



 () ボタン



メインコマンド
ダイヤル

- 変更した設定を確認します。



インフォ画面

ライブビューについて

ライブビュー時は、液晶モニターでフラッシュモードを確認できます。

2 シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせから撮影する

内蔵フラッシュを収納していても、必要に応じて自動的に内蔵フラッシュが上がり、発光します（発光禁止に設定している場合を除く）。フラッシュが自動的に上がらないとき、手で無理に上げないでください。内蔵フラッシュが破損するおそれがあります。



■ 設定できるフラッシュモード

内蔵フラッシュが自動的に上がる撮影モードで設定できるフラッシュモードは次の通りです。

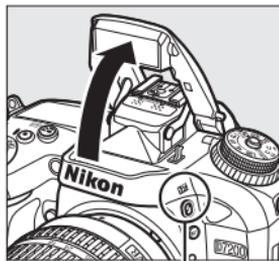
	フラッシュモード	撮影モード
	通常発光オート（自動発光）：暗いときや逆光のときに必要に応じて発光します。	AUTO、 景、
	赤目軽減オート（自動発光）：人物撮影に適しています。フラッシュが発光する前に、赤目軽減ランプが点灯して、人物の目が赤く写る「赤目現象」を軽減します。	AUTO、 景、
	赤目軽減オート（自動発光）＋スローシャッター：夜景や夕景をバックにした人物撮影などに適しています。赤目軽減発光に加え、背景をきれいに写すために、自動的にシャッタースピードを遅くする「スローシャッター」が行われます。	
	通常発光オート（自動発光）＋スローシャッター：通常発光に加え、背景をきれいに写すために、自動的にシャッタースピードを遅くする「スローシャッター」が行われます。	
	発光禁止：発光しません。	AUTO、

内蔵フラッシュを手動で上げる撮影モードの場合

撮影モードP、S、A、M、IIでは、 () ボタンを押して、手動で内蔵フラッシュを上げます。

1 () ボタンを押す

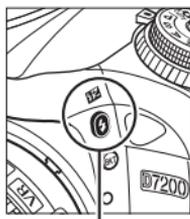
- 内蔵フラッシュが上がります。
- フラッシュモードが発光禁止に設定されている場合や別売スピードライトが装着されている場合は、内蔵フラッシュは上がりません。手順2に進んでください。



 () ボタン

2 フラッシュモードを設定する

-  () ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回します。



 () ボタン



メインコマンド
ダイヤル

- 変更した設定を確認します。



インフォ画面

- IIの場合、フラッシュモードを設定する必要はありません。

3 シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせてから撮影する

- 内蔵フラッシュを上げているときは、周囲の明るさなどにかかわらず、フラッシュは常に発光します（発光禁止に設定している場合を除く）。

📷 ライブビューについて

ライブビュー時は、液晶モニターでフラッシュモードを確認できます。

📷 内蔵フラッシュ撮影時のシャッタースピード制限について

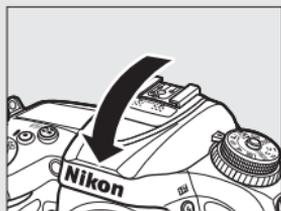
内蔵フラッシュ撮影時のシャッタースピード制限は、次のようになります。

AUTO、  、  、  、  、  、  、  、 P、A	1/250～1/60秒		1/250～1秒
		S	1/250～30秒
		M	1/250～30秒、bulb、--
	1/250～1/30秒		

- 撮影モードP、S、A、Mでは、カスタムメニューe1 [フラッシュ撮影同調速度] (□275) を [1/320秒 (オートFP)] に設定すると、内蔵フラッシュ使用時でも高速側のシャッタースピードが1/320秒までフラッシュ同調します (□275)。また、カスタムメニューe1 [フラッシュ撮影同調速度] を [1/320秒 (オートFP)] または [1/250秒 (オートFP)] に設定して別売のオートFPハイスピードシンクロ対応スピードライト (□306) を装着した場合は、高速側のシャッタースピードが1/8000秒まで制御されます。

📷 内蔵フラッシュを収納する

内蔵フラッシュを収納するときは、カチッと音がするまで手で軽く押し下げます。バッテリーの消耗を防ぐため、使用しないときは常に収納してください。



■ 設定できるフラッシュモード

内蔵フラッシュを手動で上げる撮影モードで設定できるフラッシュモードは次の通りです。

	フラッシュモード	撮影モード
	通常発光 ：撮影のたびに内蔵フラッシュが発光します。	P、S、A、M、II
	赤目軽減発光 ：人物撮影に適しています。フラッシュが発光する前に、赤目軽減ランプが点灯して、人物の目が赤く写る「赤目現象」を軽減します。	P、S、A、M
	赤目軽減発光＋スローシャッター ：夜景や夕景をバックにした人物撮影などに適しています。赤目軽減発光に加え、背景をきれいに写すために、自動的にシャッタースピードを遅くする「スローシャッター」が行われます。	P、A
	通常発光＋スローシャッター ：通常発光に加え、背景をきれいに写すために、自動的にシャッタースピードを遅くする「スローシャッター」が行われます。	P、A
	後幕発光＋スローシャッター ：動いている被写体の後方に流れる光や軌跡などを表現したい場合などに適しています。後幕発光に加え、背景をきれいに写すために、自動的にシャッタースピードを遅くする「スローシャッター」が行われます。 <ul style="list-style-type: none"> フラッシュモードを設定すると、SLOWの文字も表示されます。 	P、A
	後幕発光 ：通常発光時はシャッターが開くと同時にフラッシュが発光します（先幕発光）が、後幕発光ではシャッターが閉じる直前にフラッシュが発光します。  	S、M
	発光禁止 ：発光しません。	P、S、A、M

🔪 測光モードと内蔵フラッシュの調光について

測光モードをマルチパターン測光または中央部重点測光に設定すると、i-TTL-BL調光になり、スポット測光に設定すると、スタンダードi-TTL調光になります。i-TTLモードでは次のような内蔵フラッシュ撮影ができます。

i-TTL-BL調光	2016分割RGBセンサーによる測光情報を元に被写体と背景光のバランスを考慮したBL（バランス）調光を行います。シャッターボタンを押すと、内蔵フラッシュがモニター発光を行い、被写体と背景光のバランスを考慮した最適な発光量を決定します。 <ul style="list-style-type: none">• G、EまたはDタイプレンズ装着時は、レンズから得られた被写体までの距離情報も利用して最適な発光量を決定します。• 非CPUレンズ装着時は、レンズ情報（開放絞り値、焦点距離）を設定することにより、より精度が向上します（□218）。
スタンダード i-TTL調光	背景の明るさは考慮されず、撮影画面が基準露光量となるように調光します。主要被写体のみを強調する場合や、フラッシュ撮影で露出補正する場合に適しています。

✔ フラッシュ撮影時のご注意

- 内蔵フラッシュを使って撮影するときは、被写体から0.6 m以上離れてください。
- フラッシュの光がさえぎられることがあるので、レンズフードは外してください。また、マクロ付きズームレンズのマクロ領域ではお使いになれません。
- 内蔵フラッシュ撮影時は、レリーズモードを**CL**または**CH**に設定しても、連続撮影にはなりません。
- 内蔵フラッシュを連続して使うと、発光部を保護するため、一時的に発光が制限され、シャッターがきれなくなる場合があります。少し時間をおくと再び使えるようになります。
- i-TTLモード時のISO感度連動範囲は、100～12800です。ISO感度を12800よりも高感度に設定した場合には、距離や絞り値によっては適正な発光量にならないことがあります。

内蔵フラッシュの調光範囲（光の届く範囲）と限界絞り値

内蔵フラッシュはISO感度と絞り値によって調光範囲（光の届く範囲）が異なります。下表を参考にしてください。

ISO感度および絞り値								調光範囲 (m)
100	200	400	800	1600	3200	6400	12800	
1.4	2	2.8	4	5.6	8	11	16	約0.7~8.5
2	2.8	4	5.6	8	11	16	22	約0.6~6
2.8	4	5.6	8	11	16	22	32	約0.6~4.2
4	5.6	8	11	16	22	32	—	約0.6~3
5.6	8	11	16	22	32	—	—	約0.6~2.1
8	11	16	22	32	—	—	—	約0.6~1.5
11	16	22	32	—	—	—	—	約0.6~1.1
16	22	32	—	—	—	—	—	約0.6~0.8

※ 内蔵フラッシュで調光できる最短撮影距離は0.6mです。

- 撮影モードPでは、内蔵フラッシュ使用時に下表の絞り値よりも絞りを開くことはできません。

ISO感度と開放側の限界絞り (F)							
100	200	400	800	1600	3200	6400	12800
2.8	3.5	4	5	5.6	7.1	8	10

※ 制御される絞り値よりも開放絞りが暗い場合は、装着レンズの開放絞りによって制御されます。

関連ページ

- フラッシュの調光量を固定して撮影する → 「FVロックして調光量を固定する」 (□150)
- 内蔵フラッシュの同調速度を変更する →  e1 [フラッシュ撮影同調速度] (□275)
- フラッシュ時のシャッタースピードを制限する →  e2 [フラッシュ時シャッタースピード制限] (□276)
- 内蔵フラッシュの発光方式を変更する →  e3 [内蔵フラッシュ発光] (□276)
- 内蔵フラッシュをコマンダーモードで使用する →  e3 [内蔵フラッシュ発光] (□276)

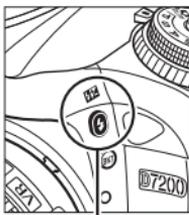
調光補正してフラッシュの発光量を変更する

撮影モードP、S、A、M、SCENEのみ

調光補正とは、フラッシュの発光量を意図的に変えることで、背景に対する被写体の明るさを調整したいときなどに使います。発光量を多くして被写体をより明るく照らしたり、発光量を少なくして被写体に光が強く当たりすぎないようにするなど、発光量の微妙な調整ができます。

調光補正の設定方法

⚡ (🔧) ボタンを押しながら、サブコマンドダイヤルを回す



⚡ (🔧) ボタン



サブコマンド
ダイヤル

- 変更した設定を確認します。



表示パネル



インフォ画面

- 調光補正は、1/3段ステップで-3段～+1段の範囲で設定できます。
- 補正值を設定すると、表示パネルとファインダー内表示に 🔧 (調光補正) マークが表示されます。
- ⚡ (🔧) ボタンを押すと、表示パネル、ファインダー内表示またはインフォ画面で設定した補正值を確認できます。
- 被写体を明るくしたいときは+側に、暗くしたいときは-側に補正するのが基本です。

- 撮影モード**P、S、A、M**で調光補正を行った場合、調光補正を解除するには補正値を0.0にしてください。カメラの電源をOFFにしても、補正値の設定は解除されません。シーンモードで調光補正を行った場合、撮影モードを切り換えるか、カメラの電源をOFFにすると調光補正値の設定は解除されます。



補正なし



-0.3段 (-1/3段) 補正



+1段補正

ライブビューについて

ライブビュー時は、液晶モニターで調光補正値を確認できます。

別売スピードライトの調光補正について

カメラ側とスピードライト側で同時に調光補正を行う場合、両方の補正値を加算します。

関連ページ

- 調光補正のステップ幅を変更する →  b2 [露出設定ステップ幅] (□271)
- フラッシュ撮影時に露出補正した場合に調光量も補正するかどうかを設定する →  e4 [フラッシュ使用時の露出補正] (□276)
- 調光補正値を変えながら撮影する → 「AEブラケットング、フラッシュブラケットングの撮影方法」 (□193)

FVロックして調光量を固定する

調光量をロック（固定）することにより、被写体に調光量を合わせたまま構図を変えたり、同じ調光量を維持したまま撮影できます。被写体が画面の中央にない場合など、自由な構図で適切な調光量のフラッシュ撮影が可能です。

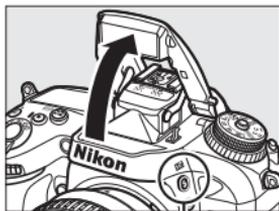
- FVロック中にカメラのISO感度や絞り値を変更しても、フラッシュの発光量が補正されることによりFVロックは維持されます。

1 カスタムメニュー f2 [Fnボタンの機能] (☐277) を [FV-L] に設定する



2 内蔵フラッシュを上げる

- 撮影モードP、S、A、M、またはMで☑️ (☑️) ボタンを押すと、内蔵フラッシュが上がり、フラッシュの充電が開始されます。
- 撮影モードAUTO、📷、📷、📷、📷、📷、📷、📷、📷では、シャッターボタンを半押しすると、撮影状況に応じて内蔵フラッシュが自動的に上がります。



📷 (☑️) ボタン

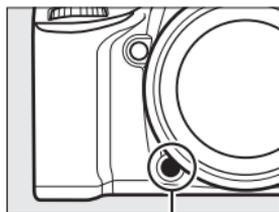
3 被写体にピントを合わせる

- 発光量を合わせたい被写体を画面の中央でとらえ、シャッターボタンを半押しして被写体にピントを合わせます。



4 モニター発光を行う

- ⚡ (レディーライト) が点灯していることを確認し、Fnボタンを押すと、フラッシュがモニター発光を行い、調光量を計算します。
- FVロックが行われ、**FV** (FVロック) マークが表示されます。



Fnボタン



5 構図を変更する



6 シャッターボタンを全押しして撮影する

- FVロック中は、被写体の露出を一定にしたまま複数のコマを撮影することができます。必要に応じて手順5～6を繰り返してください。

7 FVロックを解除する

- もう一度Fnボタンを押すと、FVロックが解除され、ファインダー内表示の**FV**が消灯します。

▼ 内蔵フラッシュのFVロックについて

- 内蔵フラッシュだけを発光させてフラッシュ撮影を行う場合、FVロックを使用するときはカスタムメニューe3 [内蔵フラッシュ発光] (□276) を [TTLモード] に設定してください。
- カスタムメニューe3 [内蔵フラッシュ発光] (□276) を [コマンダーモード] にして撮影する場合は、主灯（マスターフラッシュ）または補助灯（リモート）グループのうち、少なくとも1グループの発光モードを [TTL] または [AA] に設定してください。

📄 内蔵フラッシュのFVロック時の測光エリアについて

- 内蔵フラッシュだけを発光させてフラッシュ撮影を行う場合、FVロック時の測光エリアは画面中央φ4mm相当です。
- 内蔵フラッシュを主灯（マスターフラッシュ）として使用する場合、FVロック時は画面全体を測光します。

📄 関連ページ

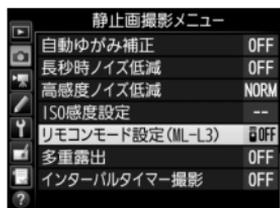
- P_vボタンを押してFVロックをする → 📄 f3 [プレビューボタンの機能] (□277)
- AE/AFロックボタンを押してFVロックをする → 📄 f4 [AE/AFロックボタンの機能] (□277)

リモコン撮影

別売のリモコンML-L3を使って撮影する

別売のリモコンML-L3 (□312) を使って、カメラから離れた場所から静止画を撮影することができます。記念写真など撮影者自身も一緒に写りたいときや、シャッターボタンを押すときの手ブレを軽減したいときなどにお使いください。リモコン撮影時は、三脚などを使ってカメラを固定してください。

- 1 静止画撮影メニューの [リモコンモード設定 (ML-L3)] を選んでマルチセレクターの  を押す



2 リモコンモードを設定する

- 設定したいリモコンモードを選んでOKボタンを押すと、リモコンモードに切り替わります。

 2s 2秒リモコン	ML-L3の送信ボタンを押すと、2秒後にシャッターがきれます。
 瞬時リモコン	ML-L3の送信ボタンを押すと、すぐにシャッターがきれます。
 ミラーアップ リモコン	ML-L3の送信ボタンを押すと、ミラーアップします。もう一度ML-L3の送信ボタンを押すと、撮影できます。撮影時にミラーアップの振動によるブレを防ぐことができます。

- [しない] を選ぶと、ML-L3の送信ボタンを押しても、撮影を行いません。

3 構図を決め、ピントを合わせる

- オートフォーカスで撮影する場合、撮影を開始する前にカメラのシャッターボタンを半押しして、ピント合わせを行ってください。



別売のリモコンML-L3を初めてお使いになるときのご注意

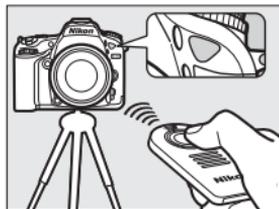
リモコンにはさんである透明の絶縁シートを引き抜いてください。

リモコンML-L3使用時の制限について

- リモコンML-L3使用時は、レリーズモードダイヤル (□65) での設定は無効になり、静止画撮影メニューの [リモコンモード設定 (ML-L3)] の内容で撮影を行います。
- ライブビューセレクターが[●]の場合にカスタムメニュー g4 [シャッターボタンの機能] が [動画撮影] (□280) のときは、リモコンML-L3は使えません。

4 ML-L3の送信ボタンを押す

- 5 m以内の距離から、ML-L3の送信部をカメラのリモコン受光部に向け、送信ボタンを押してください（リモコン受光部は、カメラ前面と背面の2カ所にあります、□2、4）。



5 撮影する

- 2秒リモコンモードではセルフタイマーランプが約2秒間点灯してからシャッターがきれます。
- 瞬時リモコンモードではすぐにシャッターがきれ、撮影後にセルフタイマーランプが一瞬点灯します。
- ミラーアップリモコンモードの場合、ML-L3の送信ボタンを1回押すと、ミラーアップします。もう一度送信ボタンを押すと、シャッターがきれ、撮影後にセルフタイマーランプが一瞬点灯します。
- 2秒リモコンモードと瞬時リモコンモードでの撮影時のフォーカス動作は、ファインダー撮影時のAFモード（□79）の設定によって、次のように異なります。

AF-A AF-S	ピントが合ってから約2秒後、または瞬時にシャッターがきれます。ピントが合わない場合は、待機状態に戻ります。ただし、すでにピントが合っているときはピント合わせを行わず、シャッターがきれます。
AF-C	ピント合わせを行わず、ML-L3の送信ボタンを押してから約2秒後、または瞬時にシャッターがきれます。

- ライブビュー撮影時、2秒リモコンモードでは、ピントが合ってから約2秒後に、瞬時リモコンモードでは瞬時にシャッターがきれます（ピントが合わなくてもシャッターはきれます）。

ミラーアップリモコンモードについて

- ミラーアップ中は、ファインダーで構図を確認できません。
- ミラーアップ中は、オートフォーカスと測光は使えません。
- ML-L3の送信ボタンを1回押してミラーアップした後約30秒経過すると、自動的にシャッターがきれます。

リモコンモード設定 (ML-L3) の解除について

次の場合、リモコンモードを解除します。

- 撮影を行わないまま、カスタムメニュー c5 [リモコン待機時間 (ML-L3)] (□273) で設定したリモコン待機時間が過ぎた場合
- [リモコンモード設定 (ML-L3)] で [しない] を選んだ場合
- ツーボタンリセットを行った場合 (□190)
- [静止画撮影メニューのリセット] (□263) を行った場合

リモコン撮影時のフラッシュについて

- 内蔵フラッシュが自動で上がる撮影モード (□141) では、リモコンの受信待機状態になるとフラッシュの充電が始まり、充電完了後にML-L3の送信ボタンを押すと、必要に応じて内蔵フラッシュが自動的に上がり発光します。フラッシュの充電中にML-L3の送信ボタンを押しても、カメラは反応しません。しばらく待ってから送信ボタンを押してください。
- 内蔵フラッシュを手動で上げる撮影モード (□143) でフラッシュを使って撮影したいときは、撮影を開始する前に  () ボタンを押して内蔵フラッシュを上げ、  (レディーライト) が点灯するまでお待ちください。ML-L3の送信ボタンを押した後にフラッシュを上げると、撮影は中止されます。
- 瞬時リモコンモード、ミラーアップリモコンモードの場合、赤目軽減発光 (□145) を組み合わせたフラッシュモードでは、赤目軽減ランプが約1秒間点灯してからシャッターがきれます。2秒リモコンモードの場合、セルフタイマーランプが約2秒間点灯した後、赤目軽減のために赤目軽減ランプが約1秒間点灯してからシャッターがきれます。

関連ページ

- リモコン撮影の受信待機時間を変更する →  c5 [リモコン待機時間 (ML-L3)] (□273)
- リモコン撮影時の電子音を設定する →  d1 [電子音設定] (□273)
- 付属のアイピースキャップを使う → 「ファインダーから顔を離して撮影するときは」 (□69)

別売のワイヤレスリモート コントローラーを使って撮影する

別売のワイヤレスリモートコントローラー WR-1 (☐312) や、ワイヤレスリモートコントローラー WR-R10とWR-T10 (☐312) を使うと、ワイヤレスリモートコントローラーのシャッターボタンをカメラのシャッターボタンと同様に操作して撮影できます。連続撮影やセルフタイマー撮影も無線での遠隔撮影で行えます。

ワイヤレスリモートコントローラー WR-1

WR-1は、他のWR-1やWR-R10またはWR-T10と組み合わせて、送信機または受信機として使います。たとえば、受信機に設定したWR-1をカメラのアクセサリターミナルに取り付けると、送信機に設定したWR-1からの操作で、遠隔撮影したり、カメラの設定を変更したりすることができます。

ワイヤレスリモートコントローラー WR-R10/WR-T10

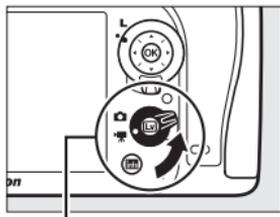
WR-R10（送受信機）をカメラに取り付けると、WR-T10（送信機）からの操作で、遠隔撮影することができます。

動画の撮影と再生

動画を撮影する

液晶モニターを見ながら音声付きの動画を撮影できます。

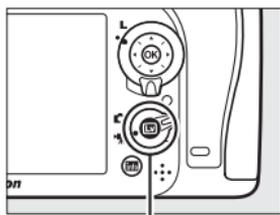
1 ライブビューセレクターを露に合わせる



ライブビュー
セレクター

2 Lv ボタンを押す

- ミラーアップしてライブビューを開始します。ファインダー内が暗くなり、液晶モニターに被写体が表示されます。
- 実際に撮影される動画の露出（明るさ）を液晶モニターで確認できます。
- 撮影モードが**A**または**M**の場合は、ライブビューを開始する前に絞り値を設定します（□53、55）。



Lv ボタン

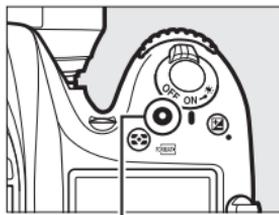
3 シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせる

- 動画撮影を開始する前に、被写体にピントを合わせます。
- **Q** (QUAL) ボタンを押して被写体を拡大表示し、ピントが合っているかを確認できます（□36）。



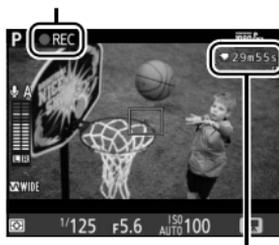
4 動画撮影ボタンを押して、撮影を始める

- 動画撮影中は録画中マークが液晶モニターに表示されます。SDカードに記録できる残り時間の目安も液晶モニターで確認できます。
- 動画撮影中も、シャッターボタンを半押しすると被写体にピントを合わせられます。
- 内蔵マイク (□1) で音声を記録します。録画中は、マイクを指でふさがないようにしてください。
- 露出を固定 (AEロック) するには、AE/AFロックボタンを押し続けます (□102)。
- 動画撮影中は±3段の範囲で露出補正ができます (□104)。



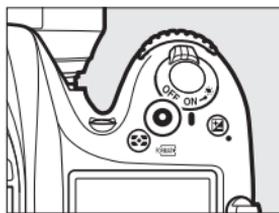
動画撮影ボタン

録画中マーク

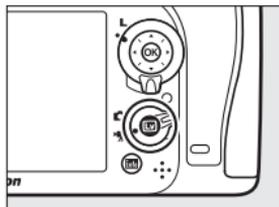


残り時間

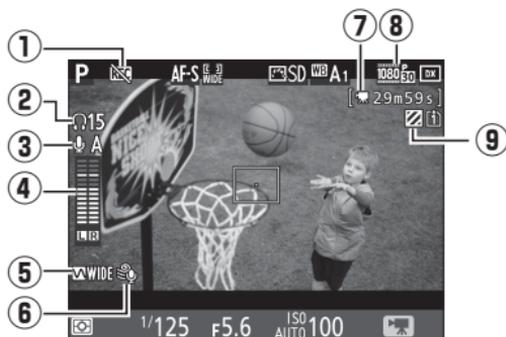
5 もう一度動画撮影ボタンを押して、撮影を終了する



6 ㊄ボタンを押してライブビューを終了する



情報表示について



① 動画記録禁止マーク	動画が撮影できない状態のとき表示します。	—
② ヘッドホン音量	市販のヘッドホン接続時に表示されます。ヘッドホン出力の音量レベルを表示します。	☞189、267
③ マイク感度	マイク感度のレベルを表示します。	☞188、267
④ 音声レベルインジケータ	音声を記録するときの音量レベルを表示します。インジケータの色が赤で表示される場合、音量が大きすぎることを示しています。マイク感度を調節してください。	—
⑤ 録音帯域マーク	録音帯域の設定を表示します。	☞188、267
⑥ 風切り音低減マーク	風切り音低減が[する]の場合に表示します。	☞188、268
⑦ 動画記録残り時間	動画撮影時に、SDカードに記録できる残り時間を表示します。	☞159
⑧ 動画の画像サイズ	動画の画像サイズを表示します。	☞161
⑨ ハイライト表示マーク	ハイライト表示が有効の場合に表示します。	☞188

動画の最長記録時間について

1回の撮影で記録できる動画の最長記録時間は、動画撮影メニュー [動画の画質] と [画像サイズ/フレームレート] (□267) の組み合わせによって異なります。

[動画の画質] ※1	[画像サイズ/フレームレート] ※2	最長記録時間	最大ビットレート
高画質	 1920×1080 60p	10分	42 Mbps
	 1920×1080 50p		
	 1920×1080 30p	20分	24 Mbps
	 1920×1080 25p		
	 1920×1080 24p		
	 1280× 720 60p		
 1280× 720 50p			
標準	 1920×1080 60p		
	 1920×1080 50p		
	 1920×1080 30p		
	 1920×1080 25p		
	 1920×1080 24p		
	 1280× 720 60p		
 1280× 720 50p			

※1 [動画の画質] が高画質の場合は、アイコンに★が表示されます。

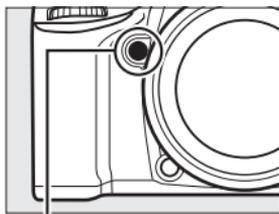
※2 60p：59.94コマ/秒、50p：50コマ/秒、30p：29.97コマ/秒、
25p：25コマ/秒、24p：23.976コマ/秒

画像サイズ/フレームレート [1920×1080 60p]、[1920×1080 50p] について

- [画像サイズ/フレームレート] の [1920×1080 60p] または [1920×1080 50p] は、動画撮影メニューの [撮像範囲] (□163) が [DX (24×16)] のときは設定できません。[撮像範囲] を [1.3×(18×12)] に設定してください。
- [画像サイズ/フレームレート] の設定で [1920×1080 60p] または [1920×1080 50p] が選ばれているときに、撮像範囲を [DX (24×16)] に変えると、[1920×1080 60p] のときは [1920×1080 30p] に、[1920×1080 50p] のときは [1920×1080 25p] に、設定がそれぞれ切り替わります。

インデックスマーキングについて

カスタムメニューg2 [プレビューボタンの機能] (□280) の [押し時の動作] が [インデックスマーキング] の場合、動画撮影中に **Pv** ボタンを押すと、撮影中の動画にインデックスマークを付けることができます。インデックスマークを付けると、動画の再生時や編集時に目的の場所へ素早く移動できます (□175)。インデックスマークは1つの動画に最大20個まで付けられます。



Pvボタン



インデックスマーク

✓ 撮影モードが [動画] のときのインデックスマーキングについて

撮影モードが [動画] のときは、動画記録中にインデックスマークを付けることはできません。

✍ 関連ページ

- **Fn** ボタンを押してインデックスマークを付ける
→ g1 [Fnボタンの機能] (□280)
- AE/AFロックボタンを押してインデックスマークを付ける
→ g3 [AE/AFロックボタンの機能] (□280)

ライブビュー時にライブビューセレクトターが 罫のときの静止画撮影

カスタムメニューg4 [シャッターボタンの機能] (□280) が [静止画撮影] の場合、ライブビューの表示中にライブビューセレクトターを罫に合わせて、シャッターがきれるまでシャッターボタンを全押し続けると、動画と同じ撮像範囲の静止画 (□163) を撮影します。撮影される静止画のアスペクト比 (横：縦) は、16：9になります。



- 動画撮影中の場合、動画撮影は終了し、そこまでの動画を記録します。
- 画質モードは、静止画撮影メニュー [画質モード] (□74、263) で設定した内容になります。
- ライブビューセレクトターが罫のときの静止画撮影の露出は、液晶モニターでは確認できません。
- 撮影モードMで静止画を撮影する場合は、一度ライブビューセレクトターを📷に合わせて適正露出に設定してから、再度罫に切り換えてください。

■■ 撮影できる静止画の画像サイズ

撮影できる静止画の画像サイズは、次の通りです。

撮像範囲	画像サイズ	プリント時の大きさ (出力解像度300dpiの場合) ※
DX (24×16)	L (6000×3368ピクセル)	約50.8×28.5 cm
	M (4496×2528ピクセル)	約38.1×21.4 cm
	S (2992×1680ピクセル)	約25.3×14.2 cm
1.3× (18×12)	L (4800×2696ピクセル)	約40.6×22.8 cm
	M (3600×2024ピクセル)	約30.5×17.1 cm
	S (2400×1344ピクセル)	約20.3×11.4 cm

※ ピクセル数÷出力解像度 (dpi) ×2.54 cmで計算しています。

📷 動画撮影について

- 使用しているSDカードの書き込み速度によっては、最長記録時間に満たないで撮影が自動的に終了する場合があります (□368)。
- 動画撮影時は、AFエリアモードが顔認識AFの場合に認識できる人数が少なくなります。
- 🚫 (動画記録禁止) マーク (□160) が表示されているときは、動画撮影できません。
- 1つの動画ファイルで記録可能な最大ファイルサイズは4GBです。
- 内蔵フラッシュと別売のスピードライト (□303) は発光しません。
- 画像が明るくなりすぎたり、暗くなりすぎたりする場合は、ライブビューを終了してからもう一度ライブビューを開始してください。
- 動画を撮影するときは、常にsRGBの色空間で撮影されます。
- 各撮影モードで設定できる機能は、次の通りです。

	シャッター スピード	ISO感度 (□269)	露出補正	測光※1
P、S	—	—	○	○
A	—	—	○	○
M	○※2	○	—	○
SCENE、📷	—	—	○	—
その他の撮影モード	—	—	—	—

※1 スポット測光は設定できません。

※2 撮影モード**M**で撮影する場合、シャッタースピードは1/25～1/8000秒の範囲で設定できます (動画のフレームレート (□161) によって、低速側の制限が異なります)。

- 動画撮影中に $\%_{WB}$ (**WB**) ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すと、ホワイトバランスを変更できます (撮影モード**P、S、A、M**のみ、□107)。

📷 ワイヤレスリモートコントローラーとリモートコードについて

カスタムメニューg4 [シャッターボタンの機能] を [動画撮影] に設定すると、ライブビューセレクターが📷のときにワイヤレスリモートコントローラー (□157、312) やリモートコード (□312) のシャッターボタンを半押ししてライブビューを開始したり、全押しして動画撮影の開始と終了を行えます (□280)。

▼ 動画撮影時のご注意

- 動画撮影中の液晶モニターの表示に、次のような現象が発生する場合があります。これらの現象は撮影した動画にも記録されます。
 - 蛍光灯、水銀灯、ナトリウム灯などの照明下で、画面にちらつきや横縞が発生する (□282)
 - 動きのある被写体が歪む
 - 電車や自動車など、高速で画面を横切る被写体が歪む
 - カメラを左右に動かした場合、画面全体が歪む
 - ジャギー、偽色、モアレ、輝点が発生する
 - 周囲でスピードライトやフラッシュなどが発光されたり、イルミネーションなどの点滅する光源がある場合、画面の一部が明るくなったり、明るい横帯が発生する
- 次のような場合は、動画撮影は自動的に終了します。
 - 最長記録時間に達したとき
 - SDカードの残量がなくなったとき
 - 撮影モードを切り換えたとき
- 動画撮影時、太陽など強い光源にカメラを向けないでください。内部の部品が破損するおそれがあります。
- 次のような場合は、動作音が録音されることがあります。
 - オートフォーカス作動中
 - VRレンズ使用時にVR (手ブレ補正) をONにした場合

🔪 HDMI接続時の撮影について

HDMI-CEC対応機器との接続時にライブビューの表示を行うには、セットアップメニューの[HDMI]の[機器制御]を[しない]に設定してください(□284)。

関連ページ

- 動画撮影時のピントの合わせ方を設定する→「フォーカス」(□79)
- 動画を記録するときの記録先、画像サイズとフレームレート、画質、音声などを設定する→ 動画撮影メニュー (□267)
-  ボタンを押して、画面中央にフォーカスポイントを移動したり、拡大表示に切り換えられるようにする→ f1 [OKボタンの機能] (□277)
- **Fn** ボタン、**Pv** ボタン、 AE/AFロックボタン、シャッターボタンの機能を設定する→ g1 [Fnボタンの機能] (□280)、 g2 [プレビューボタンの機能] (□280)、 g3 [AE/AFロックボタンの機能] (□280)、 g4 [シャッターボタンの機能] (□280)
-  AE/AFロックボタンを押し続けなくてもAEロック状態を維持できるようにする→ g1 [Fnボタンの機能] (□280)、 g2 [プレビューボタンの機能] (□280)、 g3 [AE/AFロックボタンの機能] (□280)
- シャッターボタンでライブビューの開始や動画撮影の開始と終了ができるようにする→ g4 [シャッターボタンの機能] (□280)
- ライブビュー時のフリッカー現象を低減する→ [フリッカー低減] (□282)

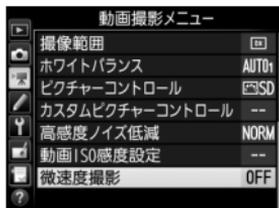
静止画をつないで動画にする（微速度撮影）

撮影モード 、、P、S、A、M、SCENEのみ

微速度撮影では、設定した撮影間隔で自動的に撮影を行い、撮影した静止画をつないで動画として記録できます。撮影する静止画は、動画と同じ撮像範囲（□163）で記録されます。また、記録される動画のフレームレートは動画撮影メニューの[画像サイズ/フレームレート]（□161）で設定できます。

1 動画撮影メニューの[微速度撮影]を選ぶ

- マルチセレクターの を押すと、微速度撮影の設定画面が表示されます。



2 微速度撮影の設定をする

- 撮影間隔（インターバル）を設定する



[撮影間隔]を選んで を押す



撮影間隔（分、秒）を設定して ボタンを押す

- 撮影間隔は、想定されるシャッタースピードよりも長い時間を設定してください。

● 撮影時間を設定する



「撮影時間」を選んで \blacktriangleright を押す



撮影時間（時、分）を設定して、 OK ボタンを押す

- 撮影時間は、最長で7時間59分まで設定できます。

● 露出平滑化をするかどうかを選ぶ



「露出平滑化」を選んで \blacktriangleright を押す



露出平滑化をするかどうかを選んで OK ボタンを押す

- [する] を選ぶと、明るさの変化が滑らかになり、より自然な動画を記録します。ただし、撮影モードMで静止画撮影メニュー [ISO感度設定] の [感度自動制御] が [しない] の場合、露出の平滑化は行いません。

3 [撮影開始] を選んで OK ボタンを押す

- 約3秒後に撮影を開始します。
- 手順2で設定した [撮影時間] 内に、設定した [撮影間隔] で撮影を繰り返します。



■ 微速度撮影を終了するには

- 微速度撮影を終了するには、次の操作を行います。
 - 撮影待機中に**MENU**ボタンを押し、**[終了]**を選んで**OK**ボタンを押し
 - 微速度撮影の待機状態のときに**OK**ボタンを押し
- 微速度撮影を終了すると、終了時点までの動画がSDカードに記録されます。

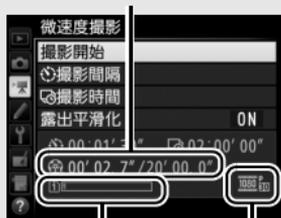
🔪 微速度撮影を開始する前に

- ファインダー撮影時の露出で撮影します。試し撮りをして、画像を再生して確認することをおすすめします。
- カメラを三脚で固定することをおすすめします。
- 撮影中のバッテリー切れを防ぐため、別売のパワーコネクターとACアダプター、または十分に充電されたバッテリーをお使いください。
- ファインダーから顔を離して撮影するときは、ファインダーからの光が適正露出や画像に影響を与えることを防ぐため、付属のアイピースキャップを取り付けることをおすすめします (□69)。
- 内蔵フラッシュを使用する場合は、撮影モードを**P**、**S**、**A**または**M**に設定し、**⚡ (閃光)** ボタンを押して内蔵フラッシュを上げてください。

🔪 微速度撮影の記録コマ数（撮影回数）と動画の長さについて

- 手順 2 で設定する撮影時間を設定する撮影間隔で割った数（小数点以下切り上げ）が、記録コマ数（撮影回数）の目安になります。
- 微速度撮影で記録される動画の長さは、上記の記録コマ数 ÷ 動画撮影メニュー **[画像サイズ/フレームレート]** (□161) で選んだフレームレートで計算できます（たとえば、**[画像サイズ/フレームレート]** が **[1920×1080 24p]** のときに記録コマ数が48コマの場合、記録される動画の長さは約2秒になります）。
- 最長20分の動画を記録できます。

記録時間/
最長記録時間

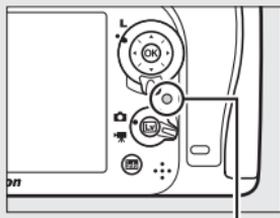
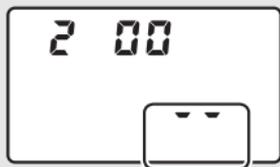


SDカード
使用状況

動画の画像サイズ/
フレームレート

微速度撮影の待機状態について

- 微速度撮影の待機状態では、SDカードアクセスランプが点灯し、表示パネルに微速度撮影中マークが表示されます。撮影直前になると表示パネルのシャッタースピード表示部にその回の残りの撮影時間を表示します（時間、分）。
- 待機状態でシャッターボタンを半押しすると、残りの撮影時間を表示します。



SDカードアクセスランプ

- 待機状態でMENUボタンを押すと、液晶モニターの微速度撮影画面に撮影間隔と撮影時間、露出平滑化の設定が表示されます。また、[終了]を選んで微速度撮影を終了できます（□170）。



撮影直後の画像確認について

微速度撮影中は、ボタンで画像を表示することはできません。ただし、再生メニューの[撮影直後の画像確認]（□262）を[する]にすると、撮影のたびに自動的に画像が数秒間液晶モニターに表示されます（表示だけを行い、通常の再生時の操作は無効になります）。

微速度撮影動画の記録先について

微速度撮影で撮影した動画は、動画撮影メニューの[ファイル記録先]（□267）で選んだスロットに記録されます。

レリーズモードについて

- レリーズモードに関係なく、1回の撮影ごとに1コマ撮影します。
- に設定していてもセルフタイマー撮影を行いません。

関連ページ

微速度撮影終了時に電子音が鳴るようにする →  d1 [電子音設定]（□273）

✔ 微速度撮影についてのご注意

- 微速度撮影時には、音声は記録されません。
- 実際の微速度撮影には、インターバル時間の他、シャッタースピードやカメラが処理を行う時間が含まれます。そのため、設定した撮影間隔で撮影できないことがあります。
- 次のような場合には、微速度撮影を開始できません：
 - 設定した【撮影時間】が【撮影間隔】より短い場合
 - 【撮影時間】または【撮影間隔】が【00:00'00"】の場合
 - SDカードの残量がない場合
- 微速度撮影中は、▶ボタンを押しても画像の再生はできません。MENUボタンを押すと【微速度撮影】画面が表示され、その他のメニューは選択できません。
- 微速度撮影をする場合、ホワイトバランスを **AUTO**（オート）以外に設定すると色みを固定することができます（□106）。
- 微速度撮影中は、カスタムメニューc2【半押しタイマー】（□272）の設定にかかわらず、半押しタイマーはオフになりません。
- AFモードが**AF-S**、または**AF-A**で自動的に**AF-S**が選ばれている場合は、撮影ごとにピント合わせを行います。被写体にピントが合わないときは、その回の撮影をキャンセルして次の回から撮影を再開します。
- 微速度撮影中にカメラの設定を変更したり、カメラの操作を行ったり、HDMIケーブルを接続すると、終了時点までの動画を記録して微速度撮影が終了する場合があります。
- 次の場合は動画を記録せずに、微速度撮影が終了します。
 - バッテリーやACアダプターを取り外したとき
 - SDカードを取り出したとき

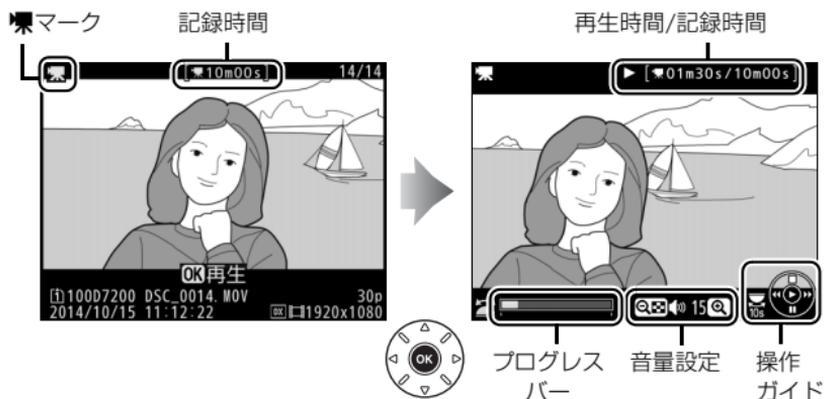
✔ 微速度撮影の制限について

微速度撮影は、次の機能とは同時に使用できません：

- ライブビュー（□29、158）
- 長時間露出（バルブまたはタイム）撮影（□57）
- オートブラケティング撮影（□193）
- HDR（ハイダイナミックレンジ）（□137）
- 多重露出撮影（□208）
- インターバルタイマー撮影（□212）

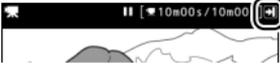
動画の再生

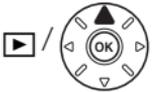
1コマ表示モード（□223）で●マークが表示されている画像が動画です。OKボタンを押すと動画を再生します（プログレスバーで再生中の位置の目安を確認できます）。



■ 動画再生中の操作方法

一時停止する		マルチセレクターの⏸を押すと、一時停止します。
再生を再開する		一時停止中または早送り/早戻し中にOKボタンを押すと、動画再生を再開します。

早戻しする/ 早送りする		<ul style="list-style-type: none"> • 動画の再生中に  を押しと早戻し、 を押しと早送りします。同じ方向のボタンを押すことに、早戻し/早送りの速度が2倍、4倍、8倍、16倍に切り替わります。 •  を押し続けると、最初のコマに移動し、 を押し続けると、最後のコマに移動します。 • 先頭フレームには  アイコンが、最終フレームには  アイコンが、画面右上に表示されます。  
コマ戻しする/ コマ送りする		<ul style="list-style-type: none"> • 一時停止中に  または  を押しと、コマ戻し/コマ送りします。 •  または  を押し続けると連続でコマ戻し/コマ送りします。
10秒進める/ 10秒戻す		<p>メインコマンドダイヤルを1クリック回すと、10秒前または後に移動します。</p>
インデックス マークに 移動する		<p>動画撮影時に設定したインデックスマークに移動するには、サブコマンドダイヤルを回します。サブコマンドダイヤルを回すと、前後のインデックスマークに移動します。</p>
先頭フレームに 移動する/ 最終フレームに 移動する		<p>動画にインデックスマークがない場合にサブコマンドダイヤルを回すと、先頭フレームまたは最終フレームに移動します。</p>
音量を調節する	 (QUAL) /  (ISO)	<p> (QUAL) ボタンを押すと音量が大きくなり、 (ISO) ボタンを押すと小さくなります。</p>
動画を編集する		<p>一時停止中に  ボタンを押すと、[動画編集] 画面を表示します (□□176)。</p>

再生を終了する		▶ボタンまたはOKを押すと1コマ表示モードに戻ります。
撮影に戻る		液晶モニターが消灯し、すぐに撮影できます。

インデックスマーク

インデックスマークが設定された動画 (□162) の場合、1コマ表示画面に  マークが表示されます。



動画の編集

撮影した動画を編集できます。

 始点/終点の設定

動画の必要な部分だけを残します。

 選択フレームの保存

選択した1フレームを切り出して、JPEG画像として保存します。

動画の必要な部分を残す



1 1コマ表示モード (📄223) で編集したい動画を表示する

2 残したい範囲の冒頭部分 (始点) で動画を一時停止する

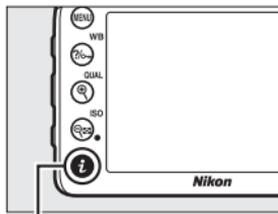
- **OK** ボタンを押すと、動画が再生されます。再生中にマルチセレクターの **⏏** を押すと、一時停止します。
- プログレスバーで再生中の位置の目安を確認できます。
- **⏪** または **⏩**、メインコマンドダイヤル、サブコマンドダイヤルで再生中の位置を調整できます。



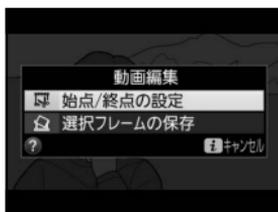
プログレスバー

3 [始点/終点の設定] を選ぶ

- **i** ボタンを押して、[始点/終点の設定] を選んで **OK** ボタンを押します。

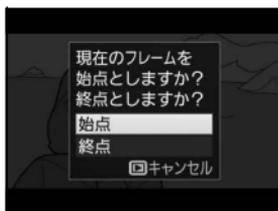


i ボタン



4 [始点] を選ぶ

- [始点] を選んで **OK** ボタンを押すと、そこから後ろの部分が残ります。



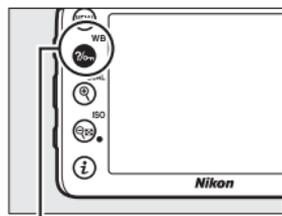
5 手順4で選んだ位置を調整する

- ◀または▶を押して、残したい部分の最初の位置を調整します。
- メインコマンドダイヤルを1クリック回すと、10秒前または後に移動します。
- サブコマンドダイヤルを回すと、先頭フレームまたは最終フレームに移動します。
- 動画撮影時にインデックスマークを設定した場合 (□162) は、サブコマンドダイヤルを回すと、前後のインデックスマークに移動します。



6 残したい範囲の末尾の部分 (終点) を選ぶ

- **WB** ボタンを押して **終点** に切り換え、手順5と同じ手順で **終点** の位置を調整します。



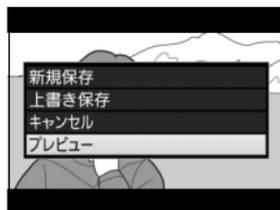
WB ボタン



7 ◀を押して決定する

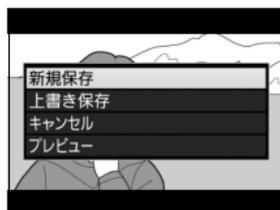
8 保存する動画を確認する

- [プレビュー] を選んで **OK** ボタンを押すと、編集後の動画のプレビューが再生されます（プレビューを終了するには **⏏** を押します）。
- [キャンセル] を選んで **OK** ボタンを押すと、手順5の画面に戻ります。



9 動画ファイルの保存方法を選ぶ

- [新規保存] を選ぶと、編集前の動画とは別に、新しい動画として保存します。[上書き保存] を選ぶと、編集前の画像が上書きされます。



10 動画ファイルを保存する

- **OK** ボタンを押して決定します。

✔ 動画編集時のご注意

- SDカードに十分な空き容量がない場合、動画編集できません。
- [始点/終点の設定] では、2秒未満の動画は編集できません。
- 動画編集で作成した動画の日時情報は、撮影時の日時になります。

✍ 動画の前半または後半だけを残すには

- 動画の前半だけを残したい場合は、手順4で [終点] を選んで **OK** ボタンを押してから、手順6では **⏏ (WB)** ボタンを押さずに手順7に進みます。
- 動画の後半だけを残したい場合は、手順6で **⏏ (WB)** ボタンを押さずに手順7に進みます。

✍ 画像編集メニュー [動画編集]

動画編集は、メニュー操作でも行えます (□286)。

動画の1フレームをJPEG画像として保存する

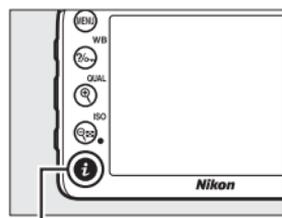
1 保存したい位置で動画を一時停止する

- 動画の再生中にマルチセレクターの  を押すと、一時停止します。

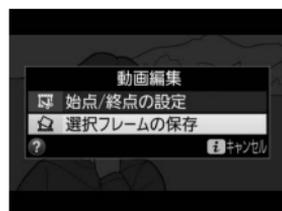


2 [選択フレームの保存] を選ぶ

- **i** ボタンを押して、[選択フレームの保存] を選んで **OK** ボタンを押します。



i ボタン



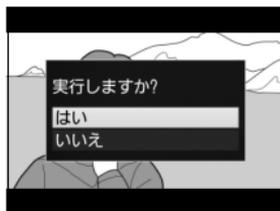
3 JPEG画像として保存したいフレームを決める

- 保存したいフレームを選んで  を押します。



4 JPEG画像を作成する

- [はい] を選んで **OK** ボタンを押すと、JPEGの画像として保存します。



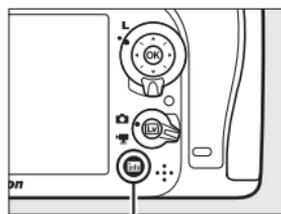
【選択フレームの保存】で作成した画像について

- 画質モード [FINE] (□74) のJPEG画像を作成します。
- 画像編集はできません。
- 再生時の画像情報 (□228) で表示されない項目があります。

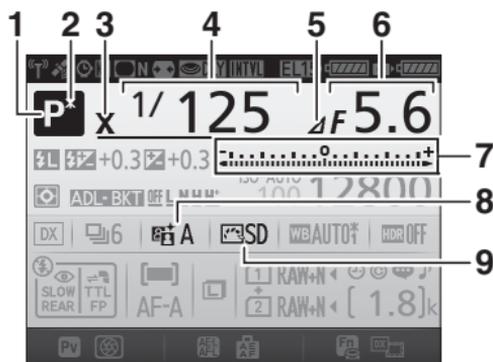
撮影の便利な機能

ファインダー撮影時に **info** ボタンを使う

ファインダー撮影時に **info** ボタンを押すと、液晶モニターに「インフォ画面」が表示されます。シャッタースピードや絞り値、記録可能コマ数、AFエリアモードなど、撮影に関する情報や設定の確認ができます（説明のため、全ての表示を点灯させています）。

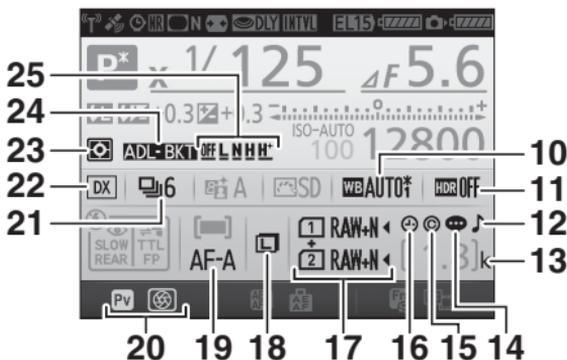


info ボタン



1	撮影モード	28、39、42、50
2	プログラムシフトマーク	51
3	フラッシュシンクロマーク	275
4	シャッタースピード	52、55
5	絞り込み段数マーク	54、300
6	絞り値	53、55
	絞り込み段数	54、300

7	インジケータ		
	露出	56
	露出補正	104
	オートブラケティング	194
	WBブラケティング	199
8	アクティブD-ライティング		
	マーク	136
9	ピクチャーコントロールマーク	127



10	ホワイトバランスモード 107 ホワイトバランス微調整設定 マーク 111	18	画像サイズ 77
11	HDRマーク 137 HDR強度 139 多重露出マーク 208	19	AFモード 80
12	電子音マーク 273	20	プレビューボタンの機能表示 ... 277
13	1000コマ以上補助表示 25	21	リリースモード 65 連続撮影速度 66
14	画像コメント入力設定マーク ... 283	22	撮像範囲表示 71
15	著作権情報設定マーク 283	23	測光モード 100
16	⊕マーク	24	オートブラケティングマーク ... 194 WBブラケティングマーク 199 ADLブラケティングマーク 203
17	画質モード 74 スロット2の機能 78	25	ADLブラケティング度合い表示 203

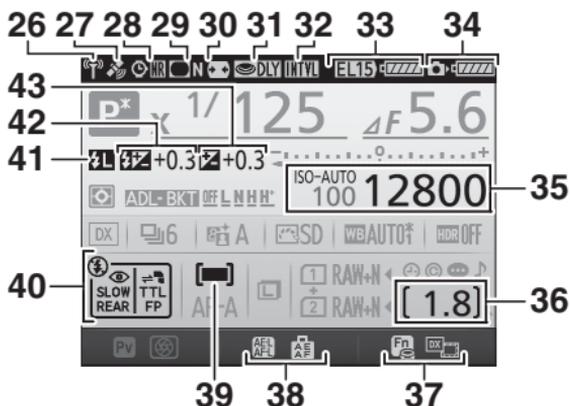
📄 インフォ画面を消灯するには

- シャッターボタンを半押しする
- インフォ画面の表示中に、**Info** ボタンを押す

操作を行わないまま約10秒経過したときも、インフォ画面は消灯します。

📄 ⊕マークについて

インフォ画面で⊕が点滅している場合、カメラの内蔵時計が初期化されています。その場合は撮影日時が正しく記録されないため、セットアップメニュー [地域と日時] (☐283) の [日時の設定] で日時設定をしてください。カメラの内蔵時計は、バッテリーとは別の時計用電池で作動します。カメラにバッテリーを入れるか、別売のパワーコネクタとACアダプターを接続すると (☐312)、時計用電池が充電されます。フル充電するには約2日間かかります。充電すると、約3カ月の間時計を動かすことができます。



26	Wi-Fi通信マーク245 Eye-Fi通信マーク285	35	ISO感度マーク 94 ISO感度 94 感度自動制御設定マーク 98
27	衛星受信状態マーク222	36	記録可能コマ数 25 微速度撮影中マーク171
28	長秒時ノイズ低減マーク266	37	Fn ボタンの機能表示277
29	ヴィネットコントロール265	38	AE/AFロックボタンの機能表示277
30	自動ゆがみ補正265	39	AFエリアモード表示86
31	露出ディレイモード273	40	フラッシュモード 142、145
32	インターバルタイマー設定 マーク212 微速度撮影設定マーク168 リモコンモード (ML-L3)153	41	FVロックマーク151
33	MB-D15のバッテリー種別表示275 MB-D15のバッテリー残量表示274	42	調光補正マーク148 調光補正值148
34	カメラのバッテリー残量表示 ...24	43	露出補正マーク104 露出補正值104

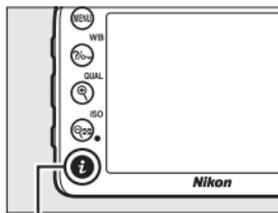
関連ページ

- 液晶モニターの点灯時間を変更する → c4 [モニターのパワーオフ時間] (□273)
- インフォ画面の表示を手動で白黒反転する → d9 [インフォ画面の表示設定] (□274)

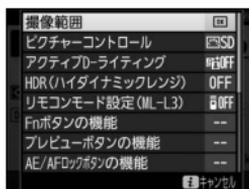
iボタンを使う

ファインダー撮影時 (□186) またはライブビュー時 (□187) に **i** ボタンを押すと、それぞれのシーンで簡単に設定を変更できます。

- 設定終了後、**OK** ボタンを押して決定します。
- 撮影画面に戻るには、再度 **i** ボタンを押してください。



i ボタン



ファインダー撮影時



ライブビューセレクター
が📷のとき



ライブビューセレクター
が🔍のとき

ファインダー撮影時に*i*ボタンを押して設定できる項目

撮像範囲	撮像範囲 [DX (24×16)] と [1.3× (18×12)] から選べます (□71)。
ピクチャーコントロール	ピクチャーコントロールの設定を変えられます (□126)。
アクティブD-ライティング	アクティブD-ライティングの設定を変えられます (□135)。
HDR (ハイダイナミックレンジ)	1回の撮影で露出が異なる画像を2コマ撮影して合成します (□137)。
リモコンモード設定 (ML-L3)	リモコンモードの設定を変えられます (□153)。
Fnボタンの機能	Fn ボタンを単独で押したときの機能と、 Fn ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回したときの機能を設定できます (□277)。
プレビューボタンの機能	Pv ボタンを単独で押したときの機能と、 Pv ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回したときの機能を設定できます (□277)。
AE/AFロックボタンの機能	AE/AF ロックボタンを単独で押したときの機能と、 AE/AF ロックボタンを押しながらコマンドダイヤルを回したときの機能を設定できます (□277)。
長秒時ノイズ低減	低速シャッタースピードになったときに発生するノイズ (むら、輝点) を低減します (□266)。
高感度ノイズ低減	感度が高くなるほど発生しやすいノイズ (ざらつき) を低減します (□266)。

ライブビュー時にiボタンを押して設定できる項目

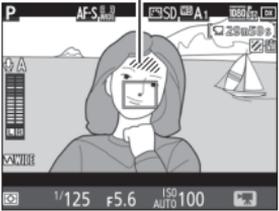
■ ライブビューセレクターがのとき

撮像範囲	撮像範囲 [DX (24×16)] と [1.3× (18×12)] から選べます (□71)。
画質モード	画質モードの設定を変えられます (□74)。
画像サイズ	画像サイズの設定を変えられます (□77)。
ピクチャーコントロール	ピクチャーコントロールの設定を変えられます (□126)。
アクティブD-ライティング	アクティブD-ライティングの設定を変えられます (□135)。
リモコンモード設定 (ML-L3)	リモコンモードの設定を変えられます (□153)。
モニターの明るさ	<ul style="list-style-type: none">ライブビュー時の液晶モニターの明るさを、またはを押して調整できます。液晶モニターの明るさを調整すると、ライブビューの表示に反映されますが、撮影した画像や画像再生時の表示、メニュー表示などには反映されません。 

画像再生時やメニュー表示時の明るさについて

画像再生時やメニュー表示時などの液晶モニターの明るさは、セットアップメニューの [モニターの明るさ] (□282) で設定してください。セットアップメニューで設定した液晶モニターの明るさは、ライブビューの明るさには反映されません。

■ ライブビューセレクトターが噪のとき

撮像範囲	撮像範囲 [DX (24×16)] と [1.3× (18×12)] から選べます (□163)。	
画像サイズ/ フレームレート	動画を記録するときの画像サイズ (ピクセル) / フレームレートを設定します (□161)。	
動画の画質	動画の画質を選べます (□161)。	
マイク感度*	内蔵マイクまたは別売のステレオマイクホンの感度を、  または  を押して調整できます (□267)。	
録音帯域*	内蔵マイクまたは別売ステレオマイクホンの周波数特性を設定します (□267)。	
風切り音低減*	内蔵マイクに吹き付ける風の音を抑えるローカットフィルター機能を有効にするかどうかを設定できます (□268)。	
ピクチャー コントロール	ピクチャーコントロールの設定を変えられます (□126)。明瞭度の設定は、動画には反映されません。	
ファイル記録先	SDカードを2枚使用している場合に動画を記録するスロットを設定できます (□267)。	
モニターの明るさ	<ul style="list-style-type: none"> ライブビュー時の液晶モニターの明るさを、 または  を押して調整できます。 液晶モニターの明るさを調整すると、ライブビューの表示に反映されますが、撮影した画像や画像再生時の表示、メニュー表示などには反映されません。 	
ハイライト表示*	ハイライト部分 (非常に明るい部分) を斜線で表示するかどうかを設定できます。撮影モードがP、S、AまたはMのときのみ設定できます。	<p>ハイライト部分</p> 

ヘッドホン音量

ヘッドホン音量を、または
を押して調整できます。



※ 動画撮影中も設定を変更できます。

別売のステレオマイクロホンについて

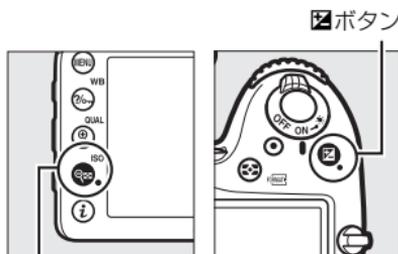
別売のステレオマイクロホンを外部マイク入力端子に接続すると、動画撮影中にオートフォーカスでピント合わせをしたときに生じるレンズの動作音などが録音されるのを低減できます (□312)。

ヘッドホンについて

- 市販のヘッドホンをヘッドホン端子に接続すると、音声はヘッドホンから出力されます。
- マイク感度を最大に設定すると、大音量で出力される場合がありますので、ヘッドホン使用時は特にご注意ください。

ツーボタンリセットで基本的な機能を初期設定に戻す

Q (ISO) ボタンと Z ボタン（それぞれのボタンに緑色の●がついています）を2秒以上同時に押し、一瞬表示パネルの表示が消え、カメラの機能が次のように初期設定に戻ります。



Q (ISO) ボタン

メニュー項目

メニュー項目	初期設定	
画質モード (□74)	NORMAL	
画像サイズ (□77)	サイズL	
ホワイトバランス (□106)	AUTO1 標準	
微調整値 (□109)	A-B : 0、G-M : 0	
ピクチャーコントロールの調整値 (□128)	解除※1	
HDR (ハイダイナミックレンジ) (□137)	解除※2	
ISO感度 (□94)		
撮影モード	P、S、A、M以外	オート
	P、S、A、M	100
ISO/Hi感度コマンドダイヤル変更 (□96)	しない	
感度自動制御 (□97)	しない	
リモコンモード設定 (ML-L3) (□153)	しない	
多重露出 (□208)	解除※3	
インターバルタイマー撮影 (□212)	解除※4	
露出ディレーモード (□273)	しない	

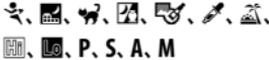
※1 現在選択中のピクチャーコントロールのみ解除されます。

※2 HDRモードが [する (連続)] または [する (1回)] の場合は [しない] に設定されます。HDR強度は初期設定には戻りません。

※3 多重露出撮影が中断され、その時点までの露光結果だけを重ね合わせた画像が記録されます。また、多重露出モードが[する(連続)]または[する(1回)]の場合は[しない]に設定されます。コマ数と自動ゲイン補正は初期設定には戻りません。

※4 インターバルタイマー撮影が中断されます。開始時刻、撮影間隔、撮影回数×1回のコマ数、露出平滑化は初期設定には戻りません。

■ その他の機能

機能		初期設定
ファインダー撮影時のAF		
AFモード (□79)		
撮影モード		AF-S
	 以外	AF-A
AFエリアモード (□82)		
撮影モード		シングルポイントAF
		ダイナミックAF・51点
	AUTO  P、S、A、M	オートエリアAF
ライブビュー時のAF		
AFモード (□80)		シングルAFサーボ
AFエリアモード (□84)		
撮影モード		ワイドエリアAF
		ノーマルエリアAF
	AUTO 	顔認識AF
フォーカスポイント※1 (□85)		中央
ハイライト表示 (□188)		しない
ヘッドホン音量 (□189)		15
測光モード (□100)		マルチパターン測光
AE-L (ホールド) (□90、102)		解除
オートブラケティング (□193)		解除※2
フラッシュ調光補正 (□148)		解除 (0.0)

機能	初期設定	
露出補正 (□104)	解除 (0.0)	
フラッシュモード (□142、145)		
撮影モード	 、  、  、  、  、 	通常発光オート
		赤目軽減オート
		通常発光オート+ スローシャッター
	Tf、P、S、A、M	通常発光
FVロック (□150)	解除	
プログラムシフト (□51)	解除	
プラスRAW記録 (□75)	解除	

※1 AFエリアモードがオートエリアAFのときは、フォーカスポイントは表示されません。

※2 撮影コマ数が0に設定されます。AE、フラッシュ、WBブラケットイングの補正ステップは1になります。ADLブラケットイングで撮影コマ数が2コマのときの2コマ目のアクティブD-ライティングの度合いは、**[暗Aオート]**になります。

オートブラケティングで露出や調光、ホワイトバランス、アクティブD-ライティングを変えながら撮影する

撮影モードP、S、A、Mのみ

明るさ（露出）、フラッシュの発光量、ホワイトバランス、アクティブD-ライティング（ADL）の設定をカメラが自動的に変えながら撮影します。画像の明るさやフラッシュの発光量の調整が難しい場合や複数の光源が混在してホワイトバランスを決めにくい場合の撮影に効果的です。

■ AEブラケティング、フラッシュブラケティングの撮影方法

露出値（AE）とフラッシュの発光量を変えながら撮影します。



補正なし



-1段補正



+1段補正

- 1 カスタムメニュー e6 [オートブラケティングのセット] で [AE・フラッシュブラケティング] を選んで **OK** ボタンを押す

- [AEブラケティング]、[フラッシュブラケティング] を選んだ場合も操作は同じです。



2 撮影コマ数を設定する

- **BKT** ボタンを押したままメインコマンドダイヤルを回します。



BKT ボタン



メインコマンド
ダイヤル

- 変更した設定を確認します。



- **0F**以外に設定すると、表示パネルに **BKT** マークが、ファインダー内表示に **BKT** が点灯します。
- インフォ画面には **AE-BKT** とオートブラケティングインジケータが表示されます。マークは、[**AEブラケティング**] を選んだ場合は **AE-BKT**、[**フラッシュブラケティング**] を選んだ場合は **閃-BKT** に変更されます。



ファインダー内表示

ライブビューについて

ライブビュー時は、液晶モニターでブラケティングの設定を確認できます。

3 補正ステップを設定する

- **BKT** ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回します。



BKT ボタン



サブコマンド
ダイヤル

- 変更した設定を確認します。

補正ステップ



インフォ画面

- 補正ステップは、露出設定ステップ幅が「1/3段」の場合、0.3 (1/3段)、0.7 (2/3段)、1.0 (1段)、2.0 (2段)、3.0 (3段) から選ぶことができます。補正ステップを2.0または3.0に設定した場合、撮影コマ数は最大5枚です。手順2で撮影コマ数を7枚または9枚に設定していても、自動的に5枚に変更されます。

AEブラケットング、フラッシュブラケットングについて

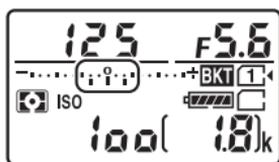
【AE・フラッシュブラケットング】では、AEブラケットングとフラッシュブラケットングを同時に行います。AEブラケットングだけを行いたいときは【AEブラケットング】を、フラッシュブラケットングだけを行いたいときは【フラッシュブラケットング】を選びます。フラッシュブラケットングは、i-TTL調光時および絞り連動外部自動調光時（別売の絞り連動外部自動調光対応スピードライト使用時のみ）に使用できます（□146、305）。

- 補正ステップが0.3のときの撮影コマ数と撮影順序は次の表の通りです。

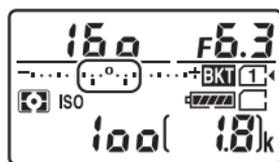
インフォ画面	オートブラケティングインジケータ	撮影コマ数	撮影順序
0F 0.3	-.....0.....+	0	0
+3F 0.3	-.....9;.....+	3	0/+0.3/+0.7
-3F 0.3	-.....;9.....+	3	0/-0.7/-0.3
+2F 0.3	-.....9;.....+	2	0/+0.3
-2F 0.3	-.....;9.....+	2	0/-0.3
3F 0.3	-.....9;.....+	3	0/-0.3/+0.3
5F 0.3	-.....;9;.....+	5	0/-0.7/-0.3/+0.3/+0.7
7F 0.3	-.....;9;.....+	7	0/-1.0/-0.7/-0.3/+0.3/+0.7/+1.0
9F 0.3	-.....;9;.....+	9	0/-1.3/-1.0/-0.7/-0.3/+0.3/+0.7/+1.0/+1.3

4 撮影する

- 設定した撮影コマ数を撮影してください。
- シャッタースピードと絞り値は補正された値が表示されます。
- 撮影するたびに、コマ数を示す表示がオートブラケティングインジケータ上から消えます。



撮影コマ数：3
補正ステップ：0.7



1コマ撮影した状態

- AEブラケティングと露出補正 (□104) を同時に設定すると、両方の補正値が加算されたAEブラケティング撮影が行えます。

■■ AEブラケティング、フラッシュブラケティング 撮影をやめるには

BKT ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回して、撮影コマ数を0にしてください。ただし、設定した補正ステップは記憶されます。また、ツーボタンリセット (□190) でもブラケティングを解除できますが、この場合は設定した補正ステップもリセットされます。

🔪 ライブビューについて

ライブビュー時にAEブラケティングまたはフラッシュブラケティング撮影をやめるには、**BKT** ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回して、液晶モニターの撮影コマ数を-/にしてください。

🔪 関連ページ

- オートブラケティングの補正ステップ幅を変更する → 🔪b2[露出設定ステップ幅] (□271)
- オートブラケティングの撮影順を変更する → 🔪e7 [BKTの順序] (□277)

🔪 AE・フラッシュブラケティング、AEブラケティング、フラッシュブラケティング撮影について

- レリーズモード(□65)を**CL**または**CH**にセットして連続撮影する場合、シャッターボタンを押し続けると、セットしたコマ数の撮影が終了した時点でいったん停止し、シャッターボタンを押し直すと次の連続撮影が可能になります。
- セルフタイマー撮影時 (□68) には、シャッターボタンを全押しすると、カスタムメニューc3 [セルフタイマー] (□272) の [連続撮影間隔] で設定した撮影間隔で撮影します。ただし、c3の [撮影コマ数] で設定した撮影コマ数にかかわらず、□194の手順2で設定した撮影コマ数が1コマずつ撮影されます。
- 撮影中に電源をOFFにしても、再びONにすれば撮影を再開できます。
- 撮影中にSDカードの残量がなくなっても、残量のある他のSDカードに交換すれば残りを撮影できます。

AEブラケットイング

AEブラケットイングでは、撮影モードによって補正される内容(シャッタースピード、絞り値)が異なります。

撮影モード	変化する内容
P	シャッタースピードと絞り値※1
S	絞り値※1
A	シャッタースピード※1
M	シャッタースピード※2

※1 静止画撮影メニュー [ISO 感度設定] の [感度自動制御] (□97) が [する] のときは、シャッタースピードや絞り値が制御範囲を超えると、自動的にISO感度が変化します。

※2 静止画撮影メニュー [ISO 感度設定] の [感度自動制御] (□97) が [する] のときは、まずISO感度を变化させて基準となる露出を適正露出に近づけてから、オートブラケットイングでシャッタースピードを变化させます。

■ WBブラケットングの撮影方法

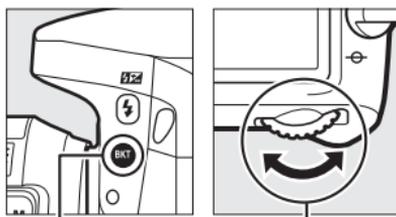
ホワイトバランスの色温度を変えながら撮影します。ホワイトバランスについての説明は、□106をご覧ください。

1 カスタムメニュー e6 [オートブラケットングのセット] で [WBブラケットング] を選ぶ



2 撮影コマ数（2コマまたは3コマ）を設定する

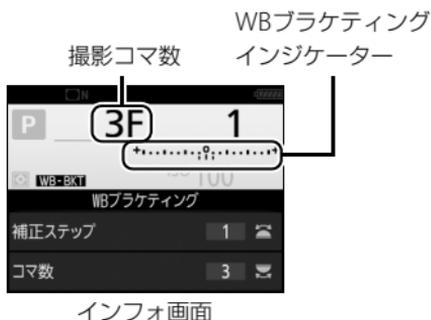
- **BKT** ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回します。



BKT ボタン

メインコマンド
ダイヤル

- 変更した設定を確認します。



インフォ画面

- **MF**以外に設定すると、表示パネルに**BKT**マークが、ファインダー内表示に**BKT**が点灯します。インフォ画面には**WB-BKT**とWBブラケットングインジケーターが表示されます。



ファインダー内表示

3 補正ステップを設定する

- **BKT** ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回します。



BKT ボタン



サブコマンド
ダイヤル

- 変更した設定を確認します。

補正ステップ



インフォ画面

- 補正ステップは、1 (1段)、2 (2段)、3 (3段) から選ぶことができます。
- ホワイトバランス補正ステップの1段は、約5ミレッドに相当します。A方向に数が大きくなるごとにアンバーが強くなります。B方向に数が大きくなるごとにブルーが強くなります (□110)。
- 補正ステップが1のときの撮影コマ数と撮影順序は次の表の通りです。

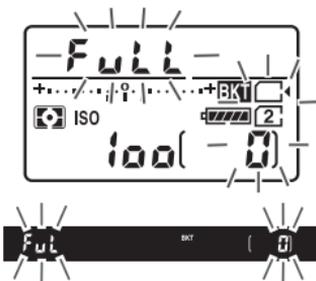
インフォ画面	WB ブラケティングインジケーター	撮影コマ数	補正ステップ	撮影順序
B2F 1	+.....;0;.....+	2	B方向1段	0/B1
A2F 1	+.....;0;.....+	2	A方向1段	0/A1
3F 1	+.....;0;.....+	3	各方向1段	0/A1/B1

ライブビューについて

ライブビュー時は、液晶モニターでWBブラケティングの設定を確認できます。

4 撮影する

- シャッターボタンを1回全押しすると、設定した全てのコマ数の画像が記録されます。
- ホワイトバランスを微調整している場合は、微調整値にWBブラケットの補正ステップが加算されます。
- WBブラケットの撮影コマ数が記録可能コマ数より多い場合、表示パネルに**FULL**が、ファインダー内表示に**Ful**が右図のように点滅し、シャッターがきれません（表示パネルの残量の少ないSDカードのアイコンも点滅します）。新しいSDカードに交換すると撮影できます。



☑ WBブラケットの制限について

WBブラケットは、RAWを含む画質モードでは使用できません。

■■ WBブラケティング撮影をやめるには

BKT ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回して、撮影コマ数を0にしてください。ただし、設定した補正ステップは記憶されます。また、ツールボタンリセット (□190) でもブラケティングを解除できますが、この場合は設定した補正ステップもリセットされます。

ライブビューについて

ライブビュー時にWBブラケティング撮影をやめるには、**BKT** ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回して、液晶モニターの撮影コマ数を-/にしてください。

WBブラケティング撮影について

- WBブラケティングでは、色温度 (A (アンバー) からB (ブルー) への横方向) の補正のみを行います (□109)。G (グリーン) からM (マゼンタ) への縦方向の補正は行いません。
- 撮影中に電源をOFFにした場合、全てのコマの記録が終了してから電源が切れます。
- セルフタイマー撮影時 (□68) には、シャッターボタンを全押しすると、カスタムメニューc3 [セルフタイマー] の [撮影コマ数] (□272) で設定した撮影コマ数にかかわらず、□199の手順2で設定した撮影コマ数が全て記録されます。

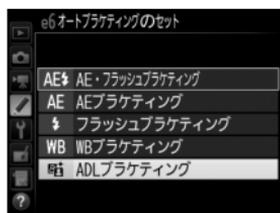
関連ページ

[ミレッド (MIREDD) について] (□110)

■ ADLブラケットの撮影方法

アクティブD-ライティングの効果の度合いを変えながら撮影します。アクティブD-ライティングについての説明は、□135をご覧ください。

1 カスタムメニュー e6 [オートブラケットのセット] で [ADLブラケット] を選ぶ



2 撮影コマ数を設定する

- BKTボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回します。



BKTボタン



メインコマンドダイヤル

- 変更した設定を確認します。

ADLブラケット
インジケーター

撮影コマ数



インフォ画面

- **MF**以外に設定すると、表示パネルに **BKT** マークが、ファインダー内表示に **BKT** が点灯します。インフォ画面には **ADL-BKT** とADLブラケットインジケーターが表示されます。



ファインダー内表示

- 設定した撮影コマ数により、ブラケットングの内容が次のように異なります。

撮影コマ数	ブラケットングの内容
2コマ	[しない] → (手順3で設定するアクティブD-ライティングの度合い) の順に撮影
3コマ	[しない] → [弱め] → [標準] の順に撮影
4コマ	[しない] → [弱め] → [標準] → [強め] の順に撮影
5コマ	[しない] → [弱め] → [標準] → [強め] → [より強め] の順に撮影

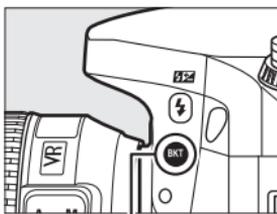
- 撮影コマ数を3コマ以上に設定した場合は、手順4に進んでください。

ライブビューについて

ライブビュー時は、液晶モニターでADLブラケットングの設定を確認できます。

3 アクティブD-ライティングの度合いを設定する

- **BKT** ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回すと、撮影コマ数が2コマのときの2コマ目のアクティブD-ライティングの度合いを設定できます。



BKTボタン



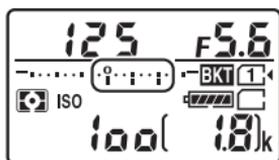
サブコマンドダイヤル

- アクティブD-ライティングの度合いは、インフォ画面または表示パネルのADLブラケットインジケータで確認できます。

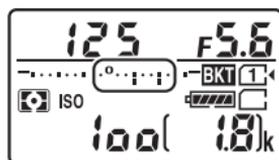
アクティブD-ライティングの度合い	インフォ画面	表示パネル
暗A オート	<u>OFF</u> AUTOi..... ^{BKT} Auto
暗L 弱め	<u>OFF</u> Li..... ^{+BKT} L
暗N 標準	<u>OFF</u> Ni..... ^{BKT} N
暗H 強め	<u>OFF</u> Hi..... ^{BKT} H
暗H ⁺ より強め	<u>OFF</u> H ⁺i..... ^{BKT} HP

4 撮影する

- 設定した撮影コマ数を撮影してください。
- 撮影するたびに、コマ数を示す表示がADLブラケットインジケータ上から消えます。



撮影コマ数



1コマ撮影した状態

■■ ADLブラケティング撮影をやめるには

BKT ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回して、撮影コマ数を0にしてください。ただし、設定したアクティブD-ライティングの度合いは記憶されます。また、ツールボタンリセット (□190) でもブラケティングを解除できますが、この場合は設定したアクティブD-ライティングの度合いもリセットされます。

ライブビューについて

ライブビュー時にADLブラケティング撮影をやめるには、**BKT** ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回して、液晶モニターの撮影コマ数を-/にしてください。

ADLブラケティング撮影について

- レリーズモード(□65)を**CL**または**CH**にセットして連続撮影する場合、シャッターボタンを押し続けると、セットしたコマ数の撮影が終了した時点でいったん停止し、シャッターボタンを押し直すと次の連続撮影が可能になります。
- セルフタイマー撮影時 (□68) には、シャッターボタンを全押しすると、カスタムメニュー c3 [セルフタイマー] (□272) の [連続撮影間隔] で設定した撮影間隔で撮影します。ただし、c3の [撮影コマ数] で設定した撮影コマ数にかかわらず、□203の手順2で設定した撮影コマ数が1コマずつ撮影されます。
- 撮影中に電源をOFFにしても、もう一度ONにすれば撮影を再開できます。
- 撮影中にSDカードの残量がなくなっても、残量のある他のSDカードに交換すれば残りを撮影できます。

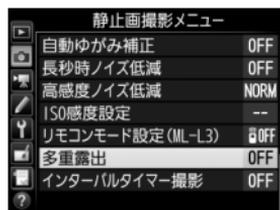
多重露出撮影で1つの画像に重ねて 写し込む

撮影モードP、S、A、Mのみ

多重露出撮影は2～3コマのRAWデータを重ねて写し込み、1つの画像として記録します。

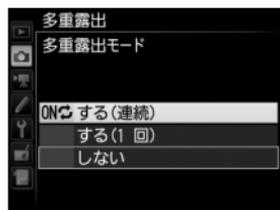
■ 多重露出の撮影方法

- 1 静止画撮影メニューの [多重露出] を選んでマルチセレクターの  を押す



- 2 [多重露出モード] を設定する

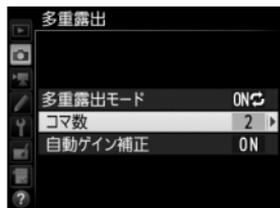
- [多重露出モード] を選んで、 を押します。
-  または  を押して多重露出モードを設定し、 ボタンを押します。
- [する (連続)] または [する (1回)] を選ぶと、多重露出の撮影待機状態になり、表示パネルに  マークが点灯します。



ON  する (連続)	解除するまで連続して多重露出撮影します。多重露出撮影を解除するには、もう一度 [多重露出モード] を選んで [しない] に設定してください。
する (1回)	多重露出撮影を終了すると、多重露出が解除されます。
しない	多重露出撮影を解除します。

3 [コマ数] (露光回数) を設定する

- [コマ数] を選んで、を押します。

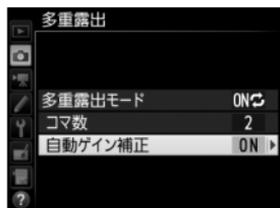


- またはを押して露光回数を設定し、ボタンを押します。



4 [自動ゲイン補正] を設定する

- [自動ゲイン補正] を選んで、を押します。



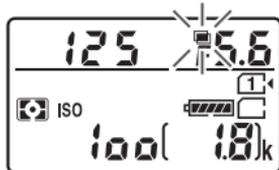
- 自動ゲイン補正の設定後、ボタンを押します。



する	重ね合わせた画像の露出が適正になるように、露光回数に合わせて自動的にゲイン（出力）を補正します。 <ul style="list-style-type: none">• 各コマのゲインは、「1÷露光回数」となります。たとえば、露光回数が「2コマ」の場合は1/2、「3コマ」の場合は1/3になります。
しない	ゲインを補正せず、全ての露光結果をそのまま重ね合わせます。

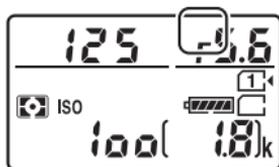
5 1回目の撮影をする

- 撮影を始めると、マークが点滅します。



6 2回目以降の撮影をする

- [する (連続)] の場合、[多重露出モード] で [しない] を選んで多重露出モードを解除するまで、多重露出撮影できます。
- 多重露出モードが [する (1回)] の場合、手順3で設定したコマ数分の撮影をすると、多重露出撮影が解除され、マークが消灯します。



■■ 多重露出撮影を中断するには

設定したコマ数分を撮影する前に多重露出撮影を中断するには、多重露出モードを [しない] に設定します。多重露出撮影を中断すると、その時点までの露光結果だけを重ね合わせた画像が記録されます（[自動ゲイン補正] を [する] にしていたときは、露光回数に合わせてゲイン補正が行われます）。

このほか、次の場合も、多重露出は中断されます。

- ツーボタンリセット (□190) を行ったとき
- カメラの電源をOFFにしたとき
- バッテリーの残量がなくなったとき
- 多重露出中に撮影した画像を削除したとき

▼ 多重露出撮影時のご注意

- 多重露出の撮影途中、画像の再生やメニュー画面の表示で液晶モニターを点灯した場合、液晶モニターが消灯してから操作のないまま30秒程度経過すると、画像が記録されて多重露出が解除されます。撮影間隔が長くなる場合は、カスタムメニューc2 [半押しタイマー] (□272) を長めに設定すると、多重露出が解除されるまでの時間が延長されます。
- 多重露出撮影中は、ライブビューを開始できません。
- 多重露出モードを [する (連続)] または [する (1回)] に設定していても、ライブビューにすると [しない] になります。
- レリーズモード (□65) を CL または CH に設定して撮影する場合、多重露出モードが [する (1回)] のときは、シャッターボタンを押し続けると、多重露出で設定された撮影コマ数の撮影後、多重露出撮影を解除します。[する (連続)] のときは、シャッターボタンを押し続けている間、多重露出で設定された撮影コマ数で多重露出撮影を繰り返します。
- セルフタイマー撮影時 (□68) には、シャッターボタンを全押しすると、カスタムメニューc3 [セルフタイマー] (□272) の [連続撮影間隔] で設定した撮影間隔で撮影します。ただし、c3の [撮影コマ数] で設定した撮影コマ数にかかわらず、多重露出で設定した撮影コマ数の撮影が終了した時点で画像が記録されます。
- 多重露出の撮影データ (撮影日時、測光モード、シャッタースピード、絞り値、撮影モード、露出補正值、焦点距離、縦横位置情報など) は、1コマ目の内容になります。
- 多重露出による撮影中は、SDカードを交換しないでください。
- 多重露出撮影中はSDカードの初期化はできません。また、一部のメニュー項目がグレーで表示されて選べません。

🔪 多重露出とインターバルタイマー撮影の組み合わせについて

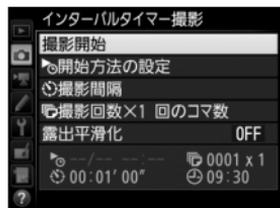
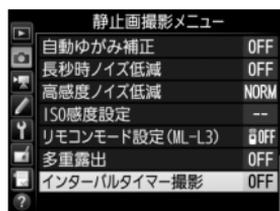
多重露出を設定してから1コマ目を撮影する前にインターバルタイマー撮影 (□212) を設定すると、設定されたインターバルで多重露出撮影ができます。この場合、[インターバルタイマー撮影] で設定されたインターバルで1コマずつ撮影され、[多重露出] で設定されたコマ数の撮影が終了すると、インターバルタイマー撮影を解除します。多重露出が [する (1回)] の場合は、多重露出も解除されます。

設定した間隔で撮影する (インターバルタイマー撮影)

設定した開始方法（即時または設定時刻）と撮影間隔で自動的に撮影を行います。インターバルタイマー撮影は、レリーズモードをS、CL、CHまたはQに設定して行ってください。

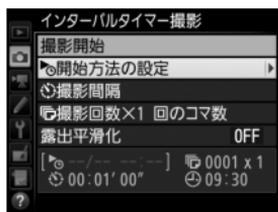
1 静止画撮影メニューの【インターバルタイマー撮影】を選ぶ

- マルチセレクターの \blacktriangleright を押すと、インターバルタイマー撮影の設定画面が表示されます。



2 インターバルタイマー撮影の設定をする

- 開始方法を選ぶ



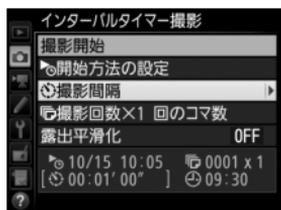
【開始方法の設定】を選んで
 \blacktriangleright を押す



開始方法を選んで \odot ボタン
を押す

- インターバルタイマー撮影をすぐに開始する場合は、【即時スタート】を選びます。
- インターバルタイマー撮影の開始日時を設定する場合は、【開始日時設定】を選びます。表示される画面で開始日時を設定して \odot ボタンを押します。

● 撮影間隔（インターバル）を設定する

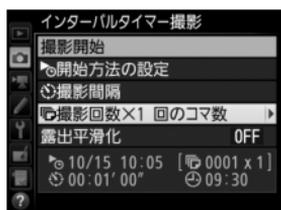


[撮影間隔]を選んで \odot を押す



撮影間隔（時、分、秒）を設定して \odot ボタンを押す

● 撮影回数と1回のコマ数を設定する



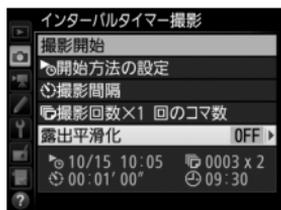
[撮影回数×1回のコマ数]を選んで \odot を押す



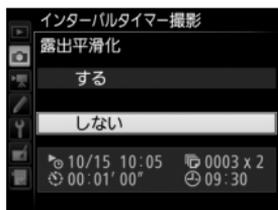
撮影回数と1回で撮影するコマ数を設定して、 \odot ボタンを押す

- レリーズモードがSの場合、撮影コマ数を2コマ以上に設定すると、カスタムメニューd2 [低速連続撮影] (□273) で設定された速度で撮影します。

● 露出平滑化をするかどうかを選ぶ



[露出平滑化]を選んで \odot を押す

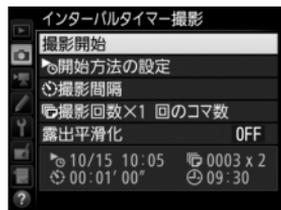


露出平滑化をするかどうかを選んで \odot ボタンを押す

- [する] を選ぶと、1コマ前に撮影した静止画と大きく明るさが変化しないようにカメラが自動で露出を調整します。ただし、撮影モードMで静止画撮影メニュー [ISO感度設定] の [感度自動制御] が [しない] の場合、露出の平滑化は行いません。

3 [撮影開始] を選んで **OK** ボタンを押す

- 手順2の [開始方法の設定] で [即時スタート] を選んでいる場合は、約3秒後に撮影を開始します。
- 手順2の [開始方法の設定] で [開始日時設定] を選んでいる場合は、設定した日時に撮影を開始します。
- 設定した撮影間隔とコマ数で撮影を繰り返します。

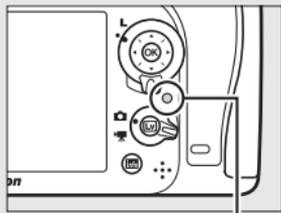


✓ インターバルタイマー撮影を開始する前に

- 試し撮りをすることをおすすめします。
- あらかじめセットアップメニューの [地域と日時] (□283) で日時が正確に設定されていることを確認してください。
- カメラを三脚に固定することをおすすめします。
- 撮影中のバッテリー切れを防ぐため、十分に充電されたバッテリーまたは別売のパワーコネクターとACアダプターをお使いください。
- ファインダーから顔を離して撮影するときは、ファインダーからの光が適正露出や画像に影響を与えることを防ぐため、付属のアイピースキャップを取り付けることをおすすめします (□69)。

📄 インターバルタイマー撮影の待機状態について

- インターバルタイマー撮影の待機状態では、SDカードアクセスランプが点滅します。撮影直前になると表示パネルのシャッタースピード表示部に残りの撮影回数を、絞り値表示部にその回の残りの撮影コマ数を、それぞれ表示します。
- 待機状態でシャッターボタンを半押しすると、残りの撮影回数と撮影コマ数を表示します。



SDカード
アクセスランプ

■■ インターバルタイマー撮影を一時停止するには

インターバルタイマー撮影を一時停止するには、次の操作を行います。

- 撮影待機中に **OK** ボタンを押す
- 撮影待機中に静止画撮影メニュー [インターバルタイマー撮影] で [一時停止] を選び、**OK** ボタンを押す

■■ インターバルタイマー撮影を再開するには

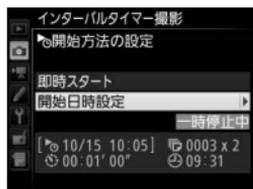
インターバルタイマー撮影を再開する手順は次の通りです。

すぐに再開する場合



[再開] を選んで **OK** ボタンを押す

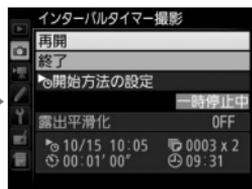
再開する日時を設定する場合



[開始方法の設定] 画面で [開始日時設定] を選び **OK** を押す



開始日時を設定して **OK** ボタンを押す



[再開] を選んで **OK** ボタンを押す

■■ インターバルタイマー撮影を終了するには

インターバルタイマー撮影を終了するには、撮影待機中に静止画撮影メニュー [インターバルタイマー撮影] で [終了] を選び、**OK** ボタンを押します。

▼ インターバルタイマー撮影についてのご注意

- 撮影間隔は、想定されるシャッタースピードに1回のコマ数を掛けた値よりも長い時間を設定してください。実際のインターバルタイマー撮影には、インターバル時間の他、シャッタースピードやカメラが処理を行う時間などが含まれます。撮影間隔が十分な長さに設定されていない場合は、設定した撮影間隔で撮影できず、その回の撮影がキャンセルされることがあります。
- 撮影間隔が十分な長さに設定されていない場合は、設定した **[撮影回数×1回のコマ数]** で撮影できないことがあります。
- 設定した開始日時が現在時刻後1分以内の場合や **[撮影間隔]** が **[00:00'00"]** の場合、シャッタースピードが **b**、**u**、**l**、**b** (バルブ) または **-** (タイム) の場合など、インターバルタイマー撮影を開始できないときには警告メッセージを表示します。
- SDカードの残量がない場合、撮影時刻ごとにカウントは進みますが、実際の撮影は行われません。残量のあるSDカードに交換し、インターバルタイマー撮影を再開してください (□215)。
- 次の場合はインターバルタイマー撮影が一時停止状態になります。
 - 電源をOFFにして、再度ONにしたとき (電源がOFFの間にバッテリーやSDカードを交換しても、一時停止状態が持続します)
 - レリーズモードを  または **MUP** に切り換えたとき
- インターバルタイマー撮影中にカメラの設定を変更すると、インターバルタイマー撮影が終了する場合があります。
- AFモードが **AF-S**、または **AF-A** で自動的に **AF-S** が選ばれている場合は、撮影ごとにピント合わせを行います。被写体にピントが合わないときに撮影開始予定時刻を8秒過ぎると、その回の撮影をキャンセルして次の回の撮影時刻から撮影を再開します。

▼ インターバルタイマー撮影の制限について

インターバルタイマー撮影は、次の機能とは同時に使用できません：

- ライブビュー (□29、158)
- 長時間露出 (バルブまたはタイム) 撮影 (□57)
- 微速度撮影 (□168)
- カスタムメニュー g4 **[シャッターボタンの機能]** の **[動画撮影]** (□280)

🔍 インターバルタイマー撮影の設定について

電源をOFFにしたり、レリーズモードを切り換えたりした場合も、設定した内容は記憶されています。

✔ 撮影コマ数について

レリーズモードに関係なく、1回の撮影ごとに設定された撮影コマ数が撮影されます。

✍ インターバルタイマー撮影待機中の各種設定について

インターバルタイマー撮影の待機中は、各種設定やメニュー画面の操作や、画像の再生を行うことができます。ただし、メニュー画面や再生画面を表示している場合、撮影時刻の約4秒前に液晶モニターを消灯して、撮影に入ります。

✍ オートブラケティングとインターバルタイマー撮影の組み合わせについて

- インターバルタイマー撮影とオートブラケティングを同時に行う場合は、オートブラケティングを先にセットしてからインターバルタイマーを設定してください。
- インターバルタイマー撮影時にAE・フラッシュブラケティング、AEブラケティング、フラッシュブラケティングまたはADLブラケティングを行う場合は、撮影時間ごとにオートブラケティングで設定したコマ数が撮影されます。
- インターバルタイマー撮影時にWBブラケティングを行う場合は、撮影時間ごとに1コマ撮影し、オートブラケティングで設定したコマ数が記録されます。

非CPUレンズを使う（レンズ情報 手動設定）

このカメラでは、非CPUレンズ装着時も撮影モードAまたはMで撮影ができます。非CPUレンズを使用する場合、絞り値はレンズの絞りリングで設定します。セットアップメニューの[レンズ情報手動設定]でレンズの情報をカメラに登録することにより、非CPUレンズを使って撮影するときに、次の機能が使用できます。

- **焦点距離を設定して使用できる機能：**
 - 別売のスピードライトのオートパワーズーム
 - 再生画面での焦点距離表示（焦点距離に*印が付きます）
- **開放絞り値（開放F値）を設定して使用できる機能：**
 - レンズで設定した絞り値表示（表示パネル、ファインダー内表示）
 - スピードライトの絞り連動外部自動調光
 - 再生画面での絞り値表示（絞り値に*印が付きます）
- **焦点距離と開放絞り値の両方を設定して使用できる機能：**
 - RGB マルチパターン測光（レフレックスニッコールなど一部のレンズでは、焦点距離と開放絞り値を設定してもRGBマルチパターン測光では十分な精度が得られない場合があります。中央部重点測光またはスポット測光に設定して撮影してください）
- **焦点距離と開放絞り値の両方を設定すると精度が向上する機能：**
 - 中央部重点測光
 - スポット測光
 - i-TTL調光

ズームレンズまたはテレコンバーター使用時のご注意

- ズームレンズ使用時やテレコンバーター使用時など、一致する焦点距離が選択項目にないときは、装着レンズの焦点距離に最も近く、かつ大きい値を選んでください。
- テレコンバーターを使用した際の開放絞り値は、合成絞り値を設定してください。

■ レンズ情報の登録方法

- 1 セットアップメニューの【レンズ情報手動設定】を選んでマルチセクターの \blacktriangle を押す



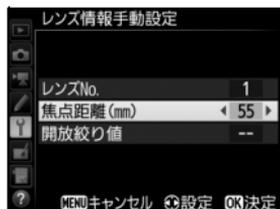
- 2 【レンズNo.】を選ぶ

- \blacktriangle または \blacktriangleleft を押して、登録したいレンズNo.を選びます。



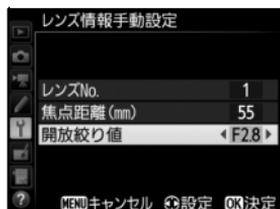
- 3 【焦点距離 (mm)】を選ぶ

- \blacktriangle または \blacktriangleleft を押して、レンズの焦点距離を選びます。



- 4 【開放絞り値】を選ぶ

- \blacktriangle または \blacktriangleleft を押して、レンズの開放絞り値を選びます。



- 5 OK ボタンを押して、設定を終了する

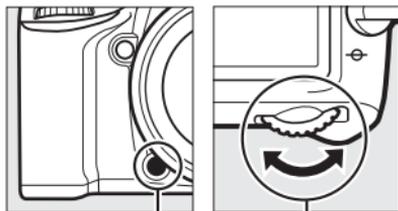
- レンズの設定が保存されて、セットアップメニュー画面に戻ります。

■ 手動設定済みレンズ情報の選択方法

- 1 カスタムメニュー f2 [Fnボタンの機能] の [コマンドダイヤル併用時の動作] を [手動設定済みレンズの選択] に設定する (□277)

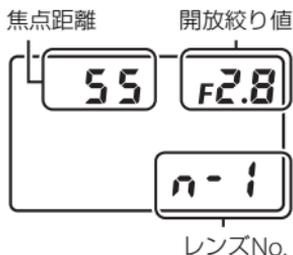
- Fnボタンとコマンドダイヤルの組み合わせに対して、レンズの選択機能が割り当てられます。

- 2 Fnボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回す



Fnボタン メインコマンドダイヤル

- レンズNo.は表示パネルに表示されます。使用したいレンズの番号が表示されるまでメインコマンドダイヤルを回します。



🔍 ズームレンズ装着時について

非CPUズームレンズを装着してズーミングをした場合、変化するレンズの焦点距離や開放絞り値とカメラで設定されているレンズ情報は連動しません。ズーミングを行った場合は、もう一度レンズ情報を設定してください。

🔍 関連ページ

- P_vボタンで手動設定済みレンズ情報を切り換える → 🔍 f3 [プレビューボタンの機能] (□277)
- AE/AFロックボタンで手動設定済みレンズ情報を切り換える → 🔍 f4 [AE/AFロックボタンの機能] (□277)

位置情報を画像に記録する

このカメラは、アクセサリターミナル (□2) に接続した別売のGPSユニットGP-1またはGP-1Aと通信し、画像データに撮影時の緯度、経度、標高、UTC (協定世界時) を記録できます。

■ GP-1/GP-1Aとの接続について

- カメラの電源をOFFにしてから、GP-1/GP-1Aに付属のケーブルをアクセサリターミナルに接続します (□2)。詳しくはGP-1/GP-1Aの使用説明書をご覧ください。
- GP-1/GP-1Aと通信して撮影した画像には、再生時の画像情報に位置情報のページ (□235) が追加されます。

■ GP-1/GP-1Aと接続中のカメラの設定について

セットアップメニューの [位置情報] を選んでマルチセクターの (▶) を押し、GP-1/GP-1Aとの接続時の半押しタイマー、取得した位置情報の表示、衛星による日時合わせを設定できます。

- [半押しタイマー] では、カメラとGP-1/GP-1Aを接続しているときの半押しタイマーを設定できます。

有効	カメラを操作していないときは、カスタムメニュー c2 [半押しタイマー] (□272) で設定された時間でオフになります。 <ul style="list-style-type: none">• カメラのバッテリーの消費を少なくすることができます。• GP-1/GP-1Aとの接続時には、電源をONにした直後または半押しタイマーがオンになった直後は、カメラが位置情報を取得できるまで半押しタイマーがさらに最大1分間延長されます。
無効	GP-1/GP-1Aと接続中は、半押しタイマーがオフになりません。

- [情報表示] では、GP-1/GP-1A接続時に取得した情報を表示します。

緯度	緯度を表示
経度	経度を表示
標高	標高を表示
UTC	UTC (協定世界時) を表示。UTC (Coordinated Universal Time = 協定世界時) は、GP-1/GP-1Aと接続して取得された世界標準時で、カメラで設定されている時刻とは別に記録されます。

- [衛星による日時合わせ] が [する] の場合、GP-1/GP-1A接続時に取得した日時の情報でカメラの内蔵時計を合わせます。GP-1/GP-1Aを使用して日時を合わせないときは、[しない] を選んでください。

GP-1/GP-1A使用時の表示について

- GP-1/GP-1A との通信状態は、インフォ画面の衛星受信状態マークで確認できます。

-  (点灯) : GP-1/GP-1Aとの通信中です。

-  (点滅) : GP-1/GP-1Aが取得している情報が確定していないため、位置情報は記録されません。が点灯するまでお待ちください。

-  (消灯) : GP-1/GP-1Aとの通信が2秒以上途絶えると、が消灯します。この状態で撮影した画像データには位置情報は記録されません。

- ライブビュー時は、液晶モニターで衛星受信状態マークを確認できます。

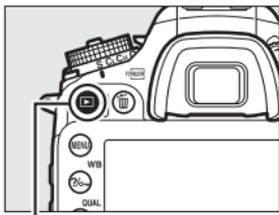


画像の再生

画像を再生する

画像を1コマずつ再生する（1コマ表示モード）

▶ボタンを押すと、最後に撮影した画像が液晶モニターに表示されます。



▶ボタン



1コマ表示モードでの操作方法

前後の画像を見る		マルチセレクターの◀を押すと前の画像が、▶を押すと次の画像が表示されます。
画像情報を切り換える		▲または▼を押すと、画像の再生時に画像情報の切り換えができます (□228)。
撮影に戻る		液晶モニターが消灯し、すぐに撮影できます。
動画を再生する		■マークが表示されている画像の場合、動画を再生します (□173)。

縦位置で撮影した画像の場合

再生メニューの【縦位置自動回転】(□262)を【する】に設定すると、縦位置で撮影された画像を、右のように縦位置で再生します。

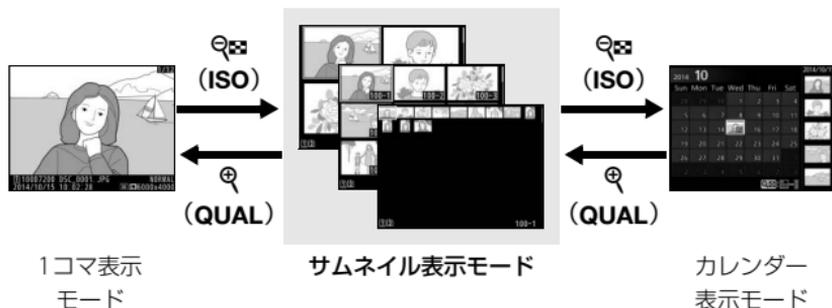


撮影直後の画像確認について

- 再生メニューの【撮影直後の画像確認】(□262)を【する】に設定すると、▶ボタンを押さなくても、撮影した画像を自動的に液晶モニターに表示します。
- レリーズモードがCLまたはCHのときは、撮影終了後に、最初のコマから順次画像を表示します。
- 縦位置で撮影した状態のまま画像確認がしやすいように、再生メニューの【縦位置自動回転】を【する】に設定しても、撮影直後の画像確認時は自動回転しません。

複数の画像を一覧表示する (サムネイル表示モード)

1コマ表示モードのときに Q (ISO) ボタンを押すと、複数の縮小画像 (サムネイル画像) を表示する「サムネイル表示モード」に切り替わります。

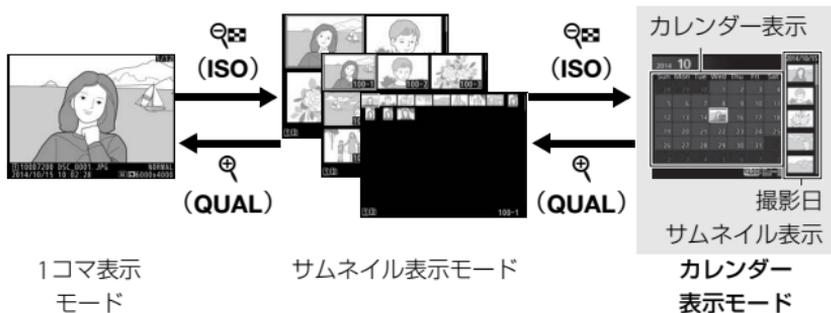


■ サムネイル表示モードでの操作方法

画像を選ぶ		マルチセレクトアを操作すると、黄色の枠(カーソル)が動いて、拡大表示 (□237) や削除 (□240)、プロテクト (□239) の対象となる画像を選べます。
1コマ表示する		サムネイル表示モードを終了して、1コマ表示モードに戻ります。
撮影に戻る		液晶モニターが消灯し、すぐに撮影できます。

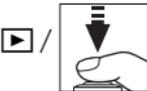
撮影した日付ごとに画像を表示する (カレンダー表示モード)

72コマ表示時(□225)に \mathcal{Q} (ISO) ボタンを押すと、撮影した日付ごとに縮小画像を表示する「カレンダー表示モード」に切り替わります。



■ カレンダー表示モードでの操作方法

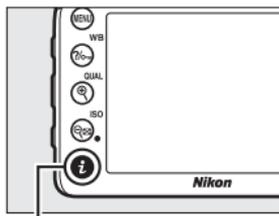
表示を切り換える	\mathcal{Q} (ISO) / OK	<ul style="list-style-type: none"> カレンダー表示時に\mathcal{Q} (ISO) ボタンまたはOK ボタンを押すと、黄色い枠が撮影日サムネイル表示に移動し、選択中の日付に撮影した画像が選べます。 撮影日サムネイル表示時に\mathcal{Q} (ISO) ボタンを押すと、カレンダー表示に戻り、日付を選べます。
72コマ表示に戻る/ 画像を拡大する	Q (QUAL)	<ul style="list-style-type: none"> カレンダー表示時は72コマ表示に切り替わります。 撮影日サムネイル表示時は、Q (QUAL) ボタンを押している間、拡大表示をします。
日付を選ぶ/ 画像を選ぶ		<ul style="list-style-type: none"> カレンダー表示時は、マルチセクターを操作すると黄色の枠(カーソル)が動いて、撮影した日付を選べます。 撮影日サムネイル表示時は、マルチセクターの\blacktriangle または \blacktriangledown を押して1コマ表示(□223)や拡大表示(□237)、プロテクト(□239)、削除(□240)の対象となる画像を選べます。

1コマ表示 する		撮影日サムネイル表示時に OK ボタンを押すと、選んだ画像を1コマ表示します。
撮影に戻る		液晶モニターが消灯し、すぐに撮影できます。

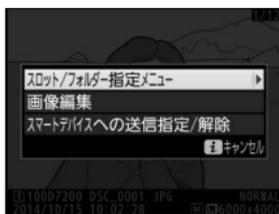
iボタンを使う

1コマ表示モードまたはサムネイル表示モードで **i** ボタンを押すと、次の機能を使用できます。項目を選んでマルチセレクターの **▶** を押すと、選んだ項目の設定画面が表示されます。

- 動画再生の一時停止中に **i** ボタンを押すと、動画の編集 (□176) を行えます。
- 再生画面に戻るには、再度 **i** ボタンを押してください。



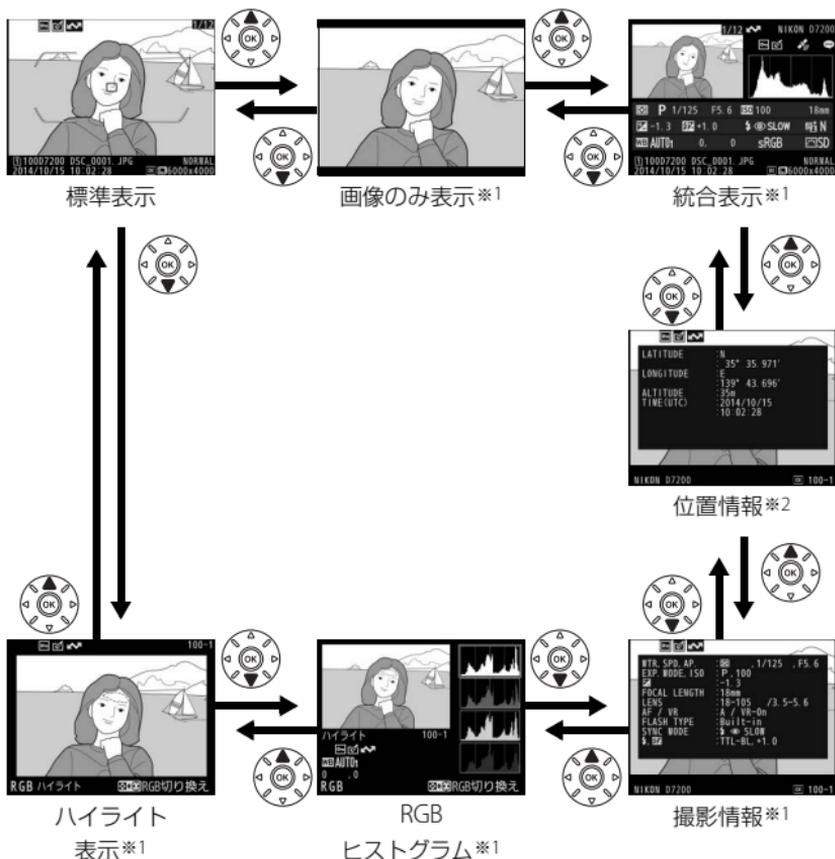
i ボタン



スロット/フォルダ 指定メニュー	スロットとフォルダを切り換えられます。スロットを選んで ▶ を押すと、選んだスロット内のフォルダの一覧が表示されます。フォルダを選んで OK ボタンを押すと、フォルダ内の画像が表示されます。
画像編集	選んだ静止画を編集できます (□286)。
動画編集	選んだ動画を編集できます (□176)。
スマートデバイスへの 送信指定/解除	スマートデバイスに取り込みたい静止画を送信指定することができます (□258)。

画像情報を表示する

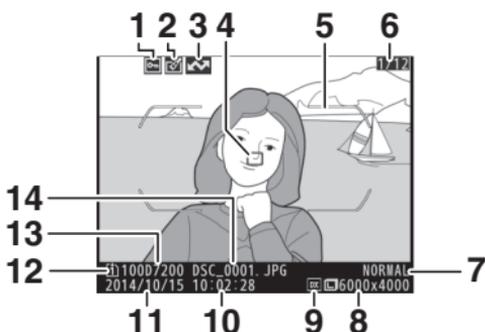
1コマ表示モードでは、画像についての詳しい情報を見ることができます。マルチセクターの  または  を押すと、次のように撮影情報の表示が切り替わります。



※1 再生メニューの[再生画面設定] (□261) で設定している場合のみ表示します。

※2 GP-1/GP-1A (□221) を使用して撮影した画像の場合のみ表示します。

標準表示



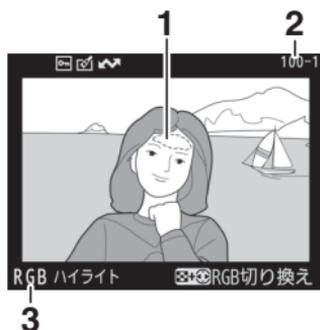
1	プロテクト設定の有無	239	8	画像サイズ	77
2	画像編集の有無	286	9	撮像範囲	71
3	送信指定の有無	258	10	撮影時刻	22、283
4	フォーカスポイント※1、2	85	11	撮影日付	22、283
5	AFエリアフレーム※1	31	12	スロット	78
6	コマ番号/フォルダー内全画像数		13	フォルダー名	263
7	画質モード	74	14	ファイル名	263

※1 再生メニューの [再生画面設定] (□261) で [フォーカスポイント] を設定して、ファインダー撮影した画像を選んだ場合のみ表示します。

※2 表示されるフォーカスポイントは、撮影時の設定により、次のように異なります。

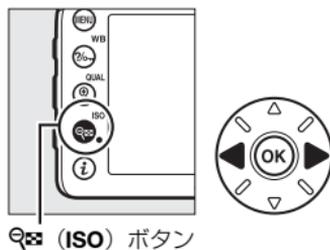
- ファインダー撮影時のAFモードがAF-S、またはAF-Aで自動的にAF-Sが選ばれた場合、最初にロックしたフォーカスポイントを赤く表示します。
- ファインダー撮影時のAFモードがAF-C、またはAF-Aで自動的にAF-Cが選ばれていて、AFエリアモード (□82) がシングルポイントAF、ダイナミックAFまたは3D-トラッキングの場合、ピントが合ったフォーカスポイントを赤く表示します。
- ファインダー撮影時のAFモードがAF-C、またはAF-Aで自動的にAF-Cが選ばれていて、オートエリアAFの場合、フォーカスポイントを表示しません。

■ ハイライト表示

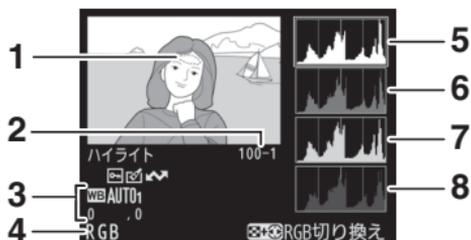


- 1 画像のハイライト部分（画像の中の非常に明るい部分）を各色ごとに点滅表示します*
- 2 フォルダ番号-コマ番号263
- 3 ハイライト部分が点滅表示している色*

※  (ISO) ボタンを押しながらマルチセレクターの  または  を押すと、次のように点滅表示するハイライト部分が切り替わります。

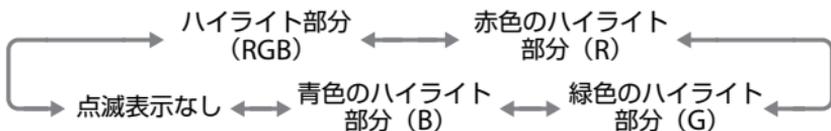
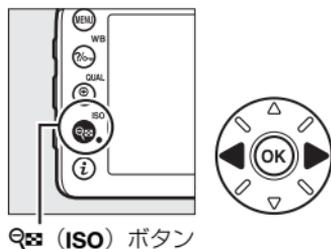


RGBヒストグラム



- | | |
|---|--|
| <p>1 画像のハイライト部分を各色ごとに点滅表示します*
.....230</p> <p>2 フォルダー番号-コマ番号263</p> <p>3 ホワイトバランス106
ホワイトバランス色温度112
ホワイトバランス微調整109
プリセットマニュアル115</p> | <p>4 ハイライト部分が点滅表示している色*</p> <p>5 RGBのヒストグラム</p> <p>6 赤色 (R) のヒストグラム</p> <p>7 緑色 (G) のヒストグラム</p> <p>8 青色 (B) のヒストグラム</p> |
|---|--|

※ **ISO** ボタンを押しながらマルチセクターの **ISO** または **ISO** を押すと、次のように点滅表示するハイライト部分が切り替わります。



拡大ヒストグラム表示について

RGBヒストグラム表示で \mathcal{Q} (QUAL) ボタンを押すと、ヒストグラム表示のまま拡大画面になります。拡大ヒストグラム表示では、拡大領域のヒストグラムを表示することができます。また、拡大表示中にマルチセレクターを操作すると画面をスクロールして見たい部分に移動できます。 \mathcal{Q} (ISO) ボタンを押すと画像を縮小表示します。



ヒストグラムについて

ヒストグラムとは、画像の明るさ（輝度）の分布を表すグラフのことです。横軸は明るさ、縦軸は明るさごとのピクセル数を示しています。

- いろいろな明るさの被写体が写っている画像では、グラフの山が全体的に分布したヒストグラムになります。
- 暗い画像はヒストグラムの分布が左側に寄った形になります。
- 明るい画像はヒストグラムの分布が右側に寄った形になります。



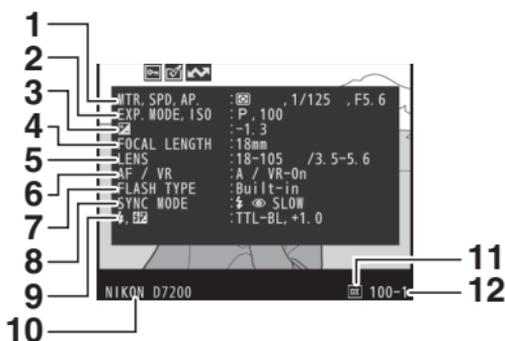
露出補正を+側にすれば山が右側に寄り、-側にすれば山が左側に寄ります。屋外などで周りが明るすぎて液晶モニターでは画像の明るさが確認しにくいときでも、ヒストグラムから画像全体の露出傾向を確認することができます。

ヒストグラム表示について

- RGBヒストグラムは明るさ（輝度）を表示しています。
- ヒストグラム表示は、画像加工アプリケーションで表示されるヒストグラムと異なることがあります。目安としてお使いください。

■ 撮影情報

撮影時の設定の詳細を表示します。



1	測光モード	100	7	フラッシュの種類	141、303
	シャッタースピード	52、55		コマンダーモードの有無	276
	絞り値	53、55	8	フラッシュモード	142、145
2	撮影モード	28、39、42、50	9	フラッシュ発光方式	276、305
	ISO感度※1	94		フラッシュ調光補正值	148
3	露出補正值	104	10	カメラ名	
	基準露出レベルの調節値※2	272	11	撮像範囲	71
4	焦点距離	218、302	12	フォルダー番号-コマ番号	263
5	レンズ情報	218			
6	フォーカスモード	79、92			
	レンズのVR (手ブレ補正) 機能 のON/OFF※3				



13	ホワイトバランス	106	14	色空間	265
	ホワイトバランス色温度	112	15	ピクチャーコントロール※4	126
	ホワイトバランス微調整	109			
	プリセットマニュアル	115			



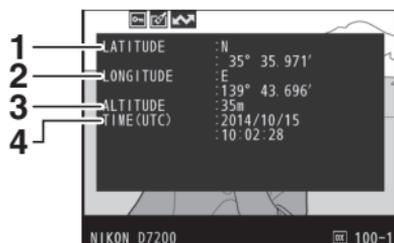
<p>16 高感度ノイズ低減266 長秒時ノイズ低減266</p> <p>17 アクティブD-ライティング ...135</p> <p>18 HDR強度139</p> <p>19 ヴィネットコントロール265</p>	<p>20 画像編集メニュー (☐286) で行われた画像編集の内容が一覧表示されます。 複数の画像編集が行われた場合は、順番に表示されます。</p> <p>21 画像コメント283</p>
---	--



<p>22 撮影者名※5283</p>	<p>23 著作権者名※5283</p>
----------------------------------	-----------------------------------

- ※1 感度自動制御した画像の場合、ISO感度を赤く表示します。
- ※2 カスタムメニューb5 [基準露出レベルの調節] (☐272) を0以外に設定している場合のみ表示します。
- ※3 VRレンズ装着時のみ表示します。
- ※4 表示される項目は、撮影時に設定したピクチャーコントロールによって異なります。
- ※5 セットアップメニューの [著作権情報] (☐283) を設定して撮影した画像の場合のみ表示します。

■■ 位置情報 (📖221) ※



1 緯度

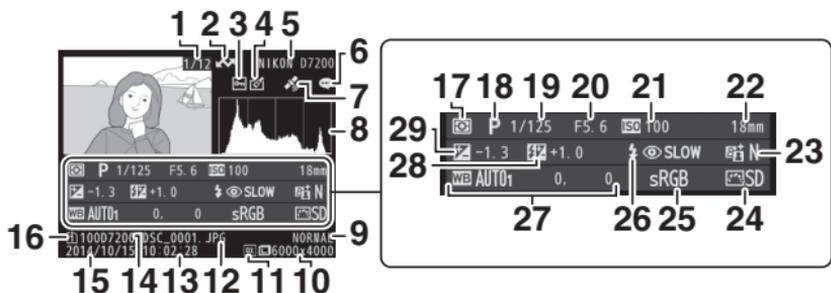
2 経度

3 標高

4 UTC (協定世界時)

※ 動画の場合は、動画撮影開始時に取得した情報を表示します。

■ 統合表示

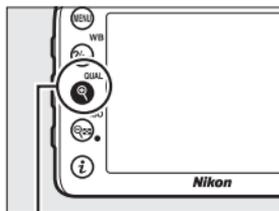


1	コマ番号/フォルダー内全画像数	17	測光モード	100
2	送信指定の有無	18	撮影モード	28、39、42、50
3	プロテクト設定の有無	19	シャッタースピード	52、55
4	画像編集の有無	20	絞り値	53、55
5	カメラ名	21	ISO感度*	94
6	画像コメントの有無	22	焦点距離	218、302
7	位置情報の有無	23	アクティブD-ライティングの 強度	136
8	画像のヒストグラムを表示します (□232)。 横軸は明るさ、縦軸は明るさごとの ピクセル数を表します。	24	ピクチャーコントロール	126
9	画質モード	25	色空間	265
10	画像サイズ	26	フラッシュモード	142、145
11	撮像範囲	27	ホワイトバランス	106
12	ファイル名		ホワイトバランス色温度	112
13	撮影時刻		ホワイトバランス微調整	109
14	フォルダー名		プリセットマニュアル	115
15	撮影日付	28	フラッシュ調光補正值	148
16	スロット		コマンドモードの有無	276
		29	露出補正值	104

※ 感度自動制御された画像の場合、ISO感度を赤く表示します。

画像を拡大表示する

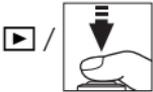
1コマ表示モードのときに Q (QUAL) ボタンを押すと、拡大表示されます。拡大できる最大の大きさ（長さ比）は、画像サイズが**L**の場合は約38倍、**M**では約28倍、**S**では約19倍です（撮像範囲が [DX (24×16)] の場合）。拡大表示中に人物の顔を認識した場合は、顔を白枠で囲み、サブコマンドダイヤルを回して順次移動することができます。



Q (QUAL) ボタン

■■ 拡大表示中の操作方法

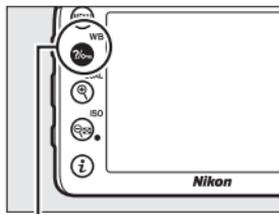
拡大率を上げる	Q (QUAL)	ボタンを押すごとに拡大率が上がります。	 <p>拡大表示中は、画面の右下にナビゲーションウィンドウが表示され、拡大表示中の部分が黄色い枠で囲んで示されます。ナビゲーションウィンドウの下には拡大率を示すバーが表示され、拡大率が100%の場合、バーの色が緑で表示されます。ナビゲーションウィンドウは数秒すると消えます。</p>
拡大率を下げる	Q ISO	ボタンを押すごとに拡大率が下がります。	
画面をスクロール（移動）させる		画面をスクロールさせて、見たい部分に移動できます。マルチセクターを押し続けると、高速で移動します。	

<p>人物の顔へ移動させる</p>		<p>拡大表示中に人物の顔を認識すると、画面右下のナビゲーションウィンドウに白枠が表示されます。サブコマンドダイヤルを回すと、認識した顔に順次移動します。</p>	
<p>前後の画像を見る</p>		<p>メインコマンドダイヤルを回すと、そのままの拡大率と表示範囲で、前後の静止画を表示します（動画を選ぶと、拡大表示を終了します）。</p>	
<p>撮影に戻る</p>		<p>液晶モニターが消灯し、すぐに撮影できます。</p>	

プロテクトで画像を削除できないように保護をする

大切な画像を誤って削除しないために、画像にプロテクト（保護）を設定できます。ただし、SDカードを初期化（フォーマット：□281）すると、プロテクトを設定した画像も削除されますのでご注意ください。

- マルチセレクターで画像を選んで
?/○ (WB) ボタンを押すと、画像にプロテクトを設定します。



?/○ (WB) ボタン

- プロテクトを設定した画像には **○** アイコンが表示されます。
- 画像のプロテクトを解除するには、解除する画像を表示（選択）して、**?/○ (WB)** ボタンを押します。



🔪 プロテクトの一括解除について

画像の再生中に、**?/○ (WB)** ボタンと **☒ (FORMAT)** ボタンを同時に2秒以上押し続けると、再生メニューの [再生フォルダー設定] で設定されているフォルダー内の全ての画像のプロテクトを一括で解除できます。

画像を削除する

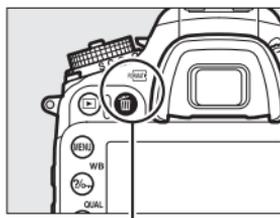
SDカードに記録された画像を削除します。削除した画像は元には戻せないのをご注意ください。ただし、プロテクトおよび非表示設定されている画像は削除できません。

ボタン操作で画像を削除する

🗑️ (FORMAT) ボタンを押すと、表示中の画像を1コマ削除できます。

1 マルチセレクターで削除する画像を選んで🗑️ (FORMAT) ボタンを押す

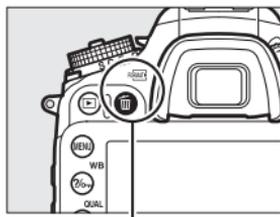
- 削除確認の画面が表示されます。
- ▶️ ボタンを押すと、画像の削除はキャンセルされます。



🗑️ (FORMAT) ボタン

2 もう一度🗑️ (FORMAT) ボタンを押す

- 表示中の画像が削除されます。



🗑️ (FORMAT) ボタン

📌 選んだ日付の画像を削除するには

カレンダー表示モードのカレンダー表示時に、日付を選んで🗑️ (FORMAT) ボタンを押すと、選んだ日付の画像を全て削除します。

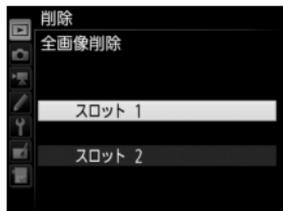
📌 関連ページ

画像の削除後に表示される画像を変更する → ▶️ [削除後の次再生画像] (□262)

複数の画像をまとめて削除する

再生メニューの「削除」では、複数の画像を一括して削除できます。たくさん画像を削除するときは、時間がかかることがあります。

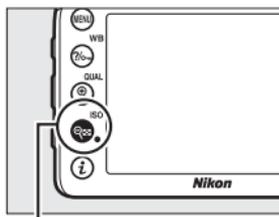
 選択画像削除	選んだ画像を削除します。
 日付選択	選んだ日付に撮影した画像を一括で削除します (□242)。
ALL 全画像削除	<p>[再生フォルダー設定] (□261) で設定したフォルダー内の全ての画像を削除します。</p> <ul style="list-style-type: none">SDカードを2枚使用している場合は、画像を削除するスロットを選択できます。



■ [選択画像削除] を選んだ場合

1 削除する画像を選ぶ

- マルチセレクターで画像を選び、 (ISO) ボタンを押すと、が表示されて削除設定されます。もう一度 (ISO) ボタンを押すと解除されます。
- 削除する画像全てに設定してください。

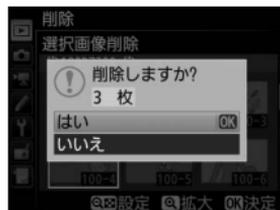


 (ISO) ボタン



2 画像を削除する

- **OK** ボタンを押すと、確認画面が表示されます。
- 確認画面で **【はい】** を選んで **OK** ボタンを押すと、選んだ画像が全て削除されます。



■【日付選択】を選んだ場合

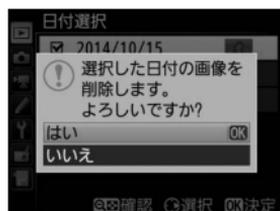
1 日付を選ぶ

- マルチセクターで日付を選んで **▶** を押すと、日付の横にチェック が入ります。もう一度 **▶** を押すと解除されます。
- 削除する日付全てにチェックを入れてください。



2 画像を削除する

- **OK** ボタンを押すと、確認画面が表示されます。
- 確認画面で **【はい】** を選んで **OK** ボタンを押すと、選んだ日付の画像が全て削除されます。



Wi-Fiを使う

Wi-Fiを使ってできること

このカメラは、専用ソフトウェアWireless Mobile Utilityをインストールしたスマートデバイス（スマートフォンまたはタブレット）とWi-Fi（無線LAN）で通信できます（□244）。



📌 スマートデバイスにWireless Mobile Utilityをインストールする

Google PlayサービスまたはApp Storeで「Wireless Mobile Utility」を検索し、スマートデバイスにインストールしてください。ソフトウェアの検索方法については、お使いのスマートデバイスの説明書をご覧ください。

- Wireless Mobile Utilityの詳しい操作方法は、下記のホームページから使用説明書（PDF形式）をダウンロードしてご覧ください。
 - Android OS : <http://nikonimglib.com/ManDL/WMAU/>
 - iOS : <http://nikonimglib.com/ManDL/WMAU-ios/>



Android OS



iOS

カメラとスマートデバイスを接続する

Wi-Fi（無線LAN）を使う前に、Android OS または iOS のスマートデバイスに専用ソフトウェア Wireless Mobile Utility をインストールしてから、スマートデバイスとカメラを接続してください。

Android OS または iOS : SSID で Wi-Fi 接続する

カメラと接続する前に、あらかじめスマートデバイスの Wi-Fi 機能を ON にしてください。詳しくはスマートデバイスの使用説明書を参照してください。

1 Wi-Fi の [通信機能] を [有効] にする

- セットアップメニューの [Wi-Fi] を選んでマルチセレクターの  を押します。



- [通信機能] を選んで  を押し、[有効] を選んで  ボタンを押します（通信機能が有効になるまで、数秒間かかります）。

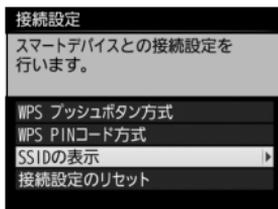


2 カメラの SSID を表示する

- [接続設定] を選んで  を押します。



- [SSIDの表示] を選んで  を押します。



3 スマートデバイスのWi-Fi設定でカメラのSSIDを選ぶ

- スマートデバイスの [設定] の [Wi-Fi] を選びます。
- カメラで表示されているSSIDを選ぶと、Wi-Fi接続されます。

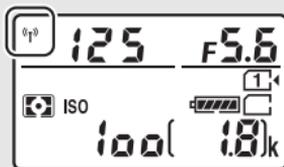
4 スマートデバイスでWireless Mobile Utilityを起動する

5 セキュリティーを設定する

- 初めてカメラとスマートデバイスをWi-Fi接続したときは、パスワードなどのセキュリティーは設定されていません。プライバシー保護のため、スマートデバイスでセキュリティー設定を行ってください (□250)。

Wi-Fi通信表示について

Wi-Fiの [通信機能] を [有効] にすると、表示パネルまたは液晶モニターに  (Wi-Fi通信表示) が点滅します。スマートデバイスとカメラの接続が完了し、Wireless Mobile Utilityで通信している間は、 が点灯します。



表示パネル



液晶モニター

パスワードを設定後に初めてWi-Fi接続する場合

パスワードを設定した後に初めてWi-Fi接続する場合、スマートデバイス上でパスワードの入力を求められることがあります。

セキュリティーについて

本製品は電波を利用して情報を交換するため、電波の届く範囲で自由に無線接続が可能であるという利点がありますが、セキュリティーに関する設定を行っていない場合、以下のような問題が発生する可能性があります。

- 情報の漏洩：悪意ある第三者が電波を故意に傍受し、IDやパスワードなどの個人情報漏洩する可能性があります。
- 不正アクセス：悪意ある第三者が無断でネットワークにアクセスして、なりすまし、情報の改ざんなどの行為を行う可能性があります。また、本製品にセキュリティーを設定したにもかかわらず、無線LANの仕様上、特殊な方法によりセキュリティーが破られることもありますので、ご理解の上ご使用ください。

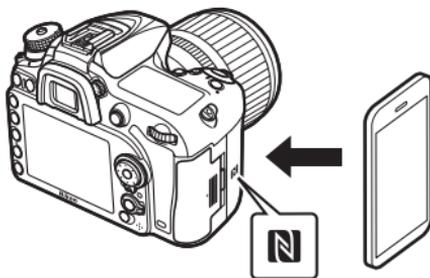
Android OS : NFCでWi-Fi接続する

NFC対応のスマートデバイスをお使いの場合は、カメラのN (Nマーク) とスマートデバイスのNFCアンテナ部をタッチするだけでWi-Fi接続できます。

- カメラと接続する前に、あらかじめスマートデバイスの Wi-Fi 機能と NFC 機能をONにしてください。詳しくはスマートデバイスの使用説明書を参照してください。

1 カメラのN (Nマーク) とスマートデバイスのNFCアンテナ部をスマートデバイス検出のメッセージが表示されるまでタッチする

- スマートデバイスのNFCアンテナ部の位置は、スマートデバイスの使用説明書を参照してください。
- ファインダー撮影で半押しタイマーがオンのときにタッチしてください。



- スマートデバイス検出メッセージの表示後にWi-Fi接続が開始され、Wireless Mobile Utilityが自動で起動します。

2 セキュリティーを設定する

- 初めてカメラとスマートデバイスをWi-Fi接続したときは、パスワードなどのセキュリティーは設定されていません。プライバシー保護のため、スマートデバイスでセキュリティー設定を行ってください (□250)。

✔ セキュリティーについて

本製品は電波を利用して情報を交換するため、電波の届く範囲で自由に無線接続が可能であるという利点がありますが、セキュリティーに関する設定を行っていない場合、以下のような問題が発生する可能性があります。

- 情報の漏洩：悪意ある第三者が電波を故意に傍受し、IDやパスワードなどの個人情報情報が漏洩する可能性があります。
- 不正アクセス：悪意ある第三者が無断でネットワークにアクセスして、なりすまし、情報の改ざんなどの行為を行う可能性があります。また、本製品にセキュリティーを設定したにもかかわらず、無線LANの仕様上、特殊な方法によりセキュリティーが破られることもありますので、ご理解の上ご使用ください。

✔ Wi-Fi機能について

カメラをNFC対応のスマートデバイスに接続すると、セットアップメニュー [Wi-Fi] の [通信機能] は自動的に [有効] になります (□244)。

✔ カメラとスマートデバイスを接続したくない場合

セットアップメニューの [NFC] を [無効] に設定してください。

✔ カメラとスマートデバイスを接続できない場合

カメラの **N** (Nマーク) (□3) とスマートデバイスのNFCアンテナ部をタッチしても接続できない場合は、その他の方式で接続してください (□244)。

✎ NFCについて

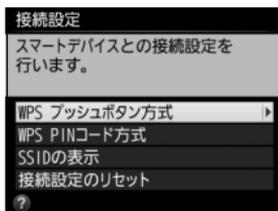
[NFC (Near Field Communication : 近距離無線通信)] とは、国際標準規格の近距離無線通信技術です。

Android OS：その他の方法でWi-Fi接続する

WPSボタン接続に対応したスマートデバイスの場合、WPSを使用してカメラとスマートデバイスをWi-Fi接続できます。WPSを使用した場合、自動的にセキュリティが設定されるため、手動でセキュリティ設定を行う必要はありません。

■ WPSプッシュボタン方式

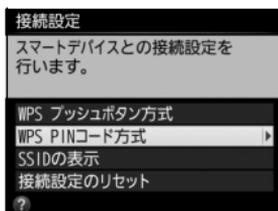
- カメラ：セットアップメニュー [Wi-Fi] の [接続設定] で [WPS プッシュボタン方式] を選んで  を押す。
- スマートデバイス：[Wi-Fi設定] で [WPS ボタン接続] を選ぶ。



■ WPS PINコード方式

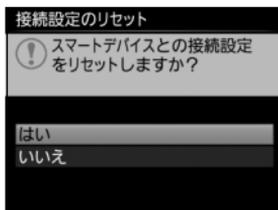
スマートデバイスのPINコードをカメラに入力してWi-Fi接続できます。

- セットアップメニュー [Wi-Fi] の [接続設定] で [WPS PINコード方式] を選んで  を押して表示される画面で、スマートデバイスのPINコードを入力します。



Wi-Fi接続設定をリセットするには

[Wi-Fi] の [接続設定] で [接続設定のリセット] を選んで  を押すと、確認画面が表示されます。[はい] を選んで  ボタンを押すと、接続先などの接続設定が、工場出荷時の設定にリセットされます。



セキュリティーの設定について

セキュリティーの設定は、Wi-Fi接続後に行ってください。WPSを使用してWi-Fi接続した場合は自動的にセキュリティーが設定されるため、手動でセキュリティー設定を行う必要はありません (□249)。

■ Android OSのスマートデバイスをお使いの場合

1 Wireless Mobile Utilityのトップ画面でスマートデバイス本体のメニューを表示して「設定」を選ぶ

- 画面右上の⚙️アイコンを選んで設定の変更を行うこともできます。



2 「ワイヤレスモバイルアダプターの設定」を選ぶ



3 [認証/暗号] を選ぶ



4 [WPA2-PSK-AES] を選んだあと、[OK] を選ぶ

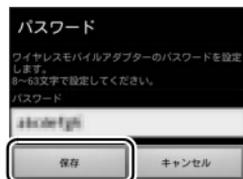


5 [パスワード] を選ぶ



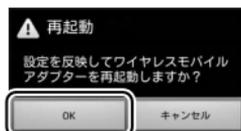
6 パスワードを入力する

- 任意のパスワードを入力し、[保存] を選びます。
- パスワードは8～63文字で設定してください。



7 設定を反映する

-  を選ぶと反映確認の画面が表示されます。[OK] を選びます。



- 以上でセキュリティーの設定は完了です。

🔒 セキュリティーの設定を確認する

ワイヤレスモバイルアダプターの設定画面で [現在の設定] を選ぶと、[認証/暗号] と [パスワード] が確認できます。



■ iOSのスマートデバイスをお使いの場合

1 Wireless Mobile Utilityのトップ画面で⚙️アイコンを選ぶ



2 [WMA設定] を選ぶ



3 [認証方法] を選ぶ

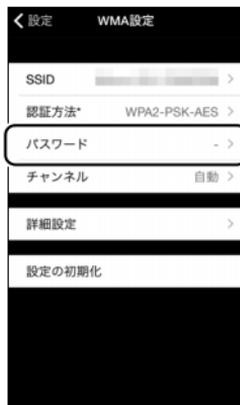


4 [WPA2-PSK-AES] を選ぶ

- [WMA設定] を選んで、WMA設定画面に戻ります。
- WMA設定画面に戻ると、パスワード入力のお知らせが表示される場合があります。
[OK] を選んでください。

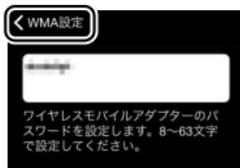


5 [パスワード] を選ぶ



6 パスワードを入力する

- 任意のパスワードを入力し、[WMA設定] を選びます。
- パスワードは8～63文字で設定してください。



7 設定を反映する

- [設定] を選ぶと反映確認の画面が表示されます。[OK] を選びます。



- 以上でセキュリティーの設定は完了です。
- パスワードを設定した後に初めてWi-Fi接続するときは、スマートデバイス上でパスワードを入力します。

✔ Wi-Fi接続についてのご注意

- Wi-Fi (無線LAN) をお使いの前に、「Wi-Fi (無線LAN) 機能について」(□xx)をお読みください。
- 電波の出力が禁止されている場所では、**[Wi-Fi]** の **[通信機能]** を **[無効]** にしてください。
- カメラのWi-Fi機能は、SDカードを挿入していないと使えません。USBケーブルまたはHDMIケーブルを接続しているときも使えません。
- スマートデバイスからWireless Mobile Utilityでカメラと通信している間は、半押しタイマーはオフになりません（通信を行わずに約5分経過すると、半押しタイマーがオフになります）。
- Wi-Fi接続中は、Eye-Fiカードでデータを送信できません。
- 操作中のバッテリー切れを防ぐため、十分に充電されたバッテリーをお使いください。
- 次の場合に、Wi-Fiの通信機能が無効になります。
 - セットアップメニュー **[Wi-Fi]** の **[通信機能]** で **[無効]** を選んだとき
 - 別売の通信ユニットUT-1を接続したとき
 - カメラの電源をOFFにしたとき
 - 動画撮影を開始したとき

スマートデバイスに取り込みたい画像をカメラで送信指定する

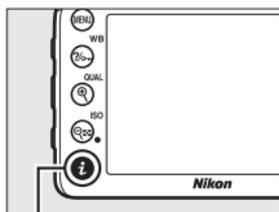
スマートデバイスに取り込みたい静止画をあらかじめカメラで選んで送信指定することができます。動画は送信指定できません。

表示中の画像を送信指定する

1 送信指定する画像を選ぶ

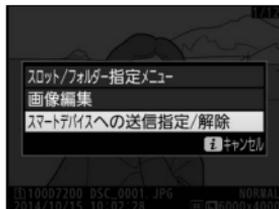
- 1コマ表示モードのときは、送信指定する画像を表示します。
- サムネイル表示モードまたはカレンダー表示モードのときは、送信指定する画像を選びます。

2 *i* ボタンを押す



i ボタン

3 [スマートデバイスへの送信指定/解除] を選んで **OK** ボタンを押す



-  アイコンが表示されます。



 送信指定を解除するには
解除したい画像を選んで、手順2と3を行います。

複数の画像をまとめて送信指定する

1 セットアップメニューの [Wi-Fi] で [スマートデバイスへの送信指定] を選んでマルチセクターの  を押す

2 送信指定する画像を選ぶ

- マルチセクターで画像を選び、 (ISO) ボタンを押すと、 が表示されて送信指定されます。もう一度  (ISO) ボタンを押すと解除されます。



3 設定を完了する

-  ボタンを押して、設定を完了します。

NFC対応のスマートデバイスで送信指定する

1コマ表示モードまたはサムネイル表示モード、カレンダー表示モードでNFC (□247) を使って画面に表示されている画像または選んだ画像を送信指定できます。

1 送信指定する画像を選ぶ

- 1コマ表示モードの場合は、送信指定する画像を表示します。
- サムネイル表示モードまたはカレンダー表示モードのときは、送信指定する画像を選びます。

2 カメラの  (Nマーク) とスマートデバイスのNFCアンテナ部をスマートデバイス検出のメッセージが表示されるまでタッチする

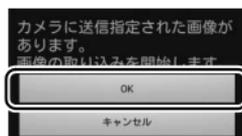
-  アイコンが表示されます。



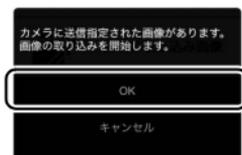
送信指定した画像をスマートデバイスに送信する

Wi-Fi接続後(□244、247、249)、スマートデバイスでWireless Mobile Utilityの[写真を見る]を選ぶと、送信確認のメッセージが表示されます。[OK]を選ぶと、送信指定した画像がスマートデバイスに送信されます。

Android OS



iOS



メニュー一覧

ここでは各メニュー項目の一覧が記載されています。各メニュー項目についての詳しい説明は、メニューガイドをご覧ください。

▶ 再生メニュー

削除

選択画像削除	複数の画像を一括して削除するときに使います (□241)。
日付選択	
全画像削除	

再生フォルダー設定

初期設定：[D7200]

D7200	ここで選んだフォルダーに保存されている画像が、再生時に表示されます。
全てのフォルダー	
記録中のフォルダー	

非表示設定

設定	画像の表示/非表示を設定できます。このメニューで非表示設定した画像は、非表示設定画面以外では表示されません。
日付選択	
一括解除	

再生画面設定

標準表示への情報追加	1コマ表示モードで表示する画像情報を追加できます (□228)。
フォーカスポイント	
再生画面の追加	
画像のみ	
ハイライト	
RGBヒストグラム	
撮影情報	
統合表示	

画像コピー	
コピー元の選択	SDカードを2枚使用しているときに、SDカード内の画像をもう一方のSDカードにコピーできます。
コピー元画像の選択	
コピー先フォルダーの選択	
コピー実行	
撮影直後の画像確認	
	初期設定：[しない]
する	撮影直後に画像を自動的に表示するかどうかを設定します (□224)。
しない	
削除後の次再生画像	
	初期設定：[後ろのコマ]
後ろのコマ	画像を削除した後に表示する画像を設定できます。
前のコマ	
直前コマ送り方向に従う	
縦位置自動回転	
	初期設定：[する]
する	縦位置で撮影した画像を、自動的に回転して表示します (□224)。
しない	
スライドショー	
開始	画像や動画を連続再生します。
再生画像の種類	
インターバル設定	
プリント指定 (DPOF)	
設定	プリントする画像とプリント枚数をあらかじめ指定できます。
一括解除	

📷 静止画撮影メニュー

静止画撮影メニューのリセット

する	静止画撮影メニューをリセットして初期設定に戻します。
しない	

記録フォルダー設定

フォルダー番号指定	画像を保存するフォルダーを設定します。
既存フォルダーから選択	フォルダーを新しく作成することもできます。

ファイル名設定

ファイル名設定	このカメラで撮影した画像のファイル名 DSC_nnnn.xxx または _DSCnnnn.xxx の「DSC」の3文字を任意に変更できます。
---------	--

スロット2の機能

初期設定：[順次記録]

順次記録	SDカードスロットを両方使用して画像を記録する場合の、スロット2の機能を設定できます (□78)。
バックアップ記録	
RAW+JPEG分割記録	

画質モード

初期設定：[NORMAL]

RAW+FINE	画像を記録するときの画質モードを設定できます (□74)。
RAW+NORMAL	
RAW+BASIC	
RAW	
FINE	
NORMAL	
BASIC	

画像サイズ

初期設定：[サイズL]

サイズ L	画像を記録するときの画像サイズ (大きさ) を設定できます (□77)。
サイズ M	
サイズ S	

撮像範囲		初期設定：[DX (24×16)]
DX (24×16)		撮像範囲を設定できません (□71)。
1.3× (18×12)		
JPEG圧縮		初期設定：[サイズ優先]
サイズ優先		JPEG画像を記録するときの圧縮方式を設定します (□76)。
画質優先		
RAW記録		
記録方式		RAW画像を記録するときの圧縮方式や記録ビット数を設定します (□76)。
記録ビットモード		
ホワイトバランス		初期設定：[オート]
オート		光源の種類に合わせてホワイトバランスを設定します (□106)。
電球		
蛍光灯		
晴天		
フラッシュ		
曇天		
晴天日陰		
色温度設定		
プリセットマニュアル		
ピクチャーコントロール		
スタンダード		記録する画像の仕上がり(ピクチャーコントロール)を、撮影シーンや好みに合わせて選べます (□126)。
ニュートラル		
ビビッド		
モノクローム		
ポートレート		
風景		
フラット		

カスタムピクチャーコントロール

編集と登録	「ピクチャーコントロール」を好みに合わせて調整して、「カスタムピクチャーコントロール」として登録できます (□131)。
登録名変更	
削除	
メモリーカードを使用	

色空間

初期設定：[sRGB]

sRGB	記録する静止画の色空間を指定できます。
Adobe RGB	

アクティブD-ライティング

初期設定：[しない] (撮影モードがP、S、A、M、、、、、、、の場合)
[オート] (その他の撮影モードの場合)

オート	白とびや黒つぶれを軽減した、見た目のコントラストに近い画像を撮影できます (□135)。
より強め	
強め	
標準	
弱め	
しない	

HDR (ハイダイナミックレンジ)

HDRモード	輝度範囲の広いシーンでも白とびや黒つぶれの少ない画像を記録します (□137)。
HDR強度	

ヴェネットコントロール

初期設定：[標準]

強め	レンズの特性による周辺光量の低下をレンズに依じて軽減します。特に開放絞り側で撮影した場合に効果的です。Gタイプ、Eタイプ、またはDタイプレンズを装着しているときのみ機能します (PCレンズを除く)。
標準	
弱め	
しない	

自動ゆがみ補正

初期設定：[しない]

する	広角レンズ使用時のたる型のゆがみや、望遠レンズ使用時の糸巻き型のゆがみを補正して撮影します。
しない	

長秒時ノイズ低減		初期設定：[しない]
する	シャッタースピードが遅いときに発生するノイズ（むら、輝点）を低減できます。	
しない		
高感度ノイズ低減		初期設定：[標準]
強め	ISO感度が高くなるほど発生しやすいノイズ（ざらつき）を低減します。	
標準		
弱め		
しない		
ISO感度設定		
ISO感度	静止画撮影時のISO感度に関する設定ができます（☑94、97）。	
ISO/Hi感度コマンドダイヤル変更		
感度自動制御		
リモコンモード設定（ML-L3）		初期設定：[しない]
2秒リモコン	別売のリモコンML-L3（☑312）を使用するときのリモコンモードを設定します（☑153）。	
瞬時リモコン		
ミラーアップリモコン		
しない		
多重露出		
多重露出モード	2～3コマのRAWデータを重ねて写し込み、1つの画像として記録します（☑208）。	
コマ数		
自動ゲイン補正		
インターバルタイマー撮影		
撮影開始	設定した撮影間隔（インターバル）と撮影回数で自動的に撮影するインターバルタイマー撮影を行えます（☑212）。	
開始方法の設定		
撮影間隔		
撮影回数×1回のコマ数		
露出平滑化		

● 動画撮影メニュー

動画撮影メニューのリセット

する	動画撮影メニューをリセットして初期設定に戻します。
しない	

ファイル名設定

このカメラで撮影した動画のファイル名 DSC_nnnn.xxxの「DSC」の3文字を任意に変更できます。

ファイル記録先

初期設定：[スロット 1]

スロット 1	SDカードを2枚使用している場合に、動画を記録するスロットを設定します。
スロット 2	

画像サイズ/フレームレート

初期設定：[1920×1080 30p]

1920×1080 60p	動画の画像サイズ（ピクセル）とフレームレートを設定します（□161）。
1920×1080 50p	
1920×1080 30p	
1920×1080 25p	
1920×1080 24p	
1280× 720 60p	
1280× 720 50p	

動画の画質

初期設定：[標準]

高画質	動画の画質を選べます（□161）。
標準	

マイク感度

初期設定：[マイク感度 オート]

マイク感度 オート	内蔵マイクまたは別売のステレオマイクホン（□312）の感度の程度を設定します。
マイク感度 マニュアル	
録音しない	

録音帯域

初期設定：[広帯域]

広帯域	内蔵マイクまたは別売のステレオマイクホン（□312）の周波数特性を設定します。
音声帯域	

風切り音低減		初期設定：[しない]
する	内蔵マイクに吹き付ける風の音を抑えるローカットフィルター機能を有効にするかどうかを設定できます。	
しない		
撮像範囲		初期設定：[DX (24×16)]
DX (24×16)	撮像範囲を設定できます (□163)。	
1.3× (18×12)		
ホワイトバランス		初期設定：[静止画の設定と同じ]
静止画の設定と同じ	動画撮影時のホワイトバランスを設定できます。[静止画の設定と同じ] を選ぶと、静止画撮影メニューの [ホワイトバランス] と同じ設定になります (□264)。	
オート		
電球		
蛍光灯		
晴天		
曇天		
晴天日陰		
色温度設定		
プリセットマニュアル		
ピクチャーコントロール		初期設定：[静止画の設定と同じ]
静止画の設定と同じ	動画撮影時のピクチャーコントロールを設定できます。[静止画の設定と同じ] を選ぶと、静止画撮影メニューの [ピクチャーコントロール] と同じ設定になります (□264)。	
スタンダード		
ニュートラル		
ビビッド		
モノクローム		
ポートレート		
風景		
フラット		
カスタムピクチャーコントロール		
編集と登録	「ピクチャーコントロール」を好みに合わせて調整して、「カスタムピクチャーコントロール」として登録できます (□131)。	
登録名変更		
削除		
メモリーカードを使用		

高感度ノイズ低減

初期設定：[標準]

強め	ISO感度が高くなるほど発生しやすいノイズ(ざらつき)を低減します。
標準	
弱め	
しない	

動画ISO感度設定

Mモード時のISO感度設定	動画撮影時のISO感度に関する設定ができません。
Mモード時の感度自動制御	
制御上限感度	

微速度撮影

撮影開始	設定した撮影間隔で自動的に撮影を行い、撮影した静止画をつないで動画として記録できます (P168)。
撮影間隔	
撮影時間	
露出平滑化	

カスタムメニュー

カスタムメニューのリセット

する	カスタムメニューをリセットして初期設定に戻します。
しない	

a オートフォーカス

a1 AF-Cモード時の優先 初期設定：[リリース]

リリース	ファインダー撮影時のAFモードが AF-C のとき（□79）にシャッターボタンを全押しした場合の動作を設定できます。
フォーカス	

a2 AF-Sモード時の優先 初期設定：[フォーカス]

リリース	ファインダー撮影時のAFモードが AF-S のとき（□79）にシャッターボタンを全押しした場合の動作を設定できます。
フォーカス	

a3 AFロックオン 初期設定：[3（標準）]

5（強め）	ファインダー撮影時のAFモードが AF-C のときや、 AF-A に設定していて自動的に AF-C に切り替わったときに、被写体との距離が瞬時に大きく変わった場合のピント合わせの動作について設定できます。
4	
3（標準）	
2	
1（弱め）	
しない	

a4 半押しAFレンズ駆動 初期設定：[する]

する	シャッターボタンを半押ししたときの、ピント合わせ動作を設定できます。[しない]を選んだ場合は、シャッターボタンを半押ししてもピントを合わせません。
しない	

a5 フォーカスポイント表示

フォーカスポイント照明	ファインダー撮影時、ファインダー内のフォーカスポイントの点灯に関する設定ができます。
マニュアルフォーカス時の表示	

a6 フォーカスポイント循環選択		初期設定：[しない]
する	ファインダー撮影時、フォーカスポイントをマルチセクターで選ぶときに、上下左右端で循環するように設定できます。	
しない		
a7 AF点数切り換え		初期設定：[51点]
51点	ファインダー撮影時、手動で選べるフォーカスポイントの数を設定できます。	
11点		
a8 縦/横位置フォーカスポイント切換		初期設定：[しない]
する	ファインダー撮影時、カメラを正位置（横位置）にしたときと縦位置にしたときで個別にフォーカスポイントを設定できます。	
しない		
a9 内蔵AF補助光の照射設定		初期設定：[する]
する	[しない] を選ぶと、暗い場所でもAF補助光を自動的に照射させないように設定できます。	
しない		
b 露出・測光		
b1 ISO感度設定ステップ幅		初期設定：[1/3段]
1/3段	ISO感度のステップ幅を設定できます。	
1/2段		
b2 露出設定ステップ幅		初期設定：[1/3段]
1/3段	シャッタースピード、絞り値、オートブラケティング補正值、露出補正值、および調光補正值のステップ幅を設定できます。	
1/2段		
b3 露出補正簡易設定		初期設定：[しない]
する（自動リセット）	[する（自動リセット）] または [する] を選ぶと、撮影モードがP、S、Aのときのみ、コマンドダイヤルの操作だけで露出補正值を設定できます。	
する		
しない		

b4 中央部重点測光範囲		初期設定：[ϕ 8 mm]
ϕ 6 mm	ファインダー撮影時、測光モードが中央部重点測光の場合の重点測光範囲を変更できません（非CPUレンズを装着しているときの測光範囲は、 ϕ 8 mm相当になります）。	
ϕ 8 mm		
ϕ 10 mm		
ϕ 13 mm		
画面全体の平均		

b5 基準露出レベルの調節		初期設定：[いいえ]
はい	測光モードごとに適正露出の基準を撮影者の好みに合わせ、明るめ（+側）または暗め（-側）に調節できます。	
いいえ		

c AEロック・タイマー

c1 半押しAEロック		初期設定：[しない]
する	シャッターボタンを半押ししたときにAEロックを行うかどうかを設定できます。	
しない		

c2 半押しタイマー		初期設定：[6秒]
4 秒	表示パネルやファインダー内表示を自動的に消灯するまでの時間を設定できます（ \square 35）。	
6 秒		
10 秒		
30 秒		
1 分		
5 分		
10 分		
30 分		
制限なし		

c3 セルフタイマー	
時間	セルフタイマー撮影時にシャッターボタンを全押ししてからシャッターがきれるまでの時間と、撮影するコマ数、連続撮影するときの撮影間隔を設定できます。
撮影コマ数	
連続撮影間隔	

c4 モニターのパワーオフ時間

画像の再生	液晶モニターが自動的に消灯するまでの時間を変更できます。
メニュー表示	
インフォ画面表示	
撮影直後の画像確認	
ライブビュー表示	

c5 リモコン待機時間 (ML-L3)

初期設定：[1分]

1分	リモコンモード (□153) に設定してから、カメラがリモコンからの信号を待ち受ける時間を設定します。
5分	
10分	
15分	

d 撮影・記録・表示

d1 電子音設定

音量	電子音の音の高さや音量を設定できます。
音の高さ	

d2 低速連続撮影

初期設定：[3コマ/秒]

6コマ/秒	レリーズモードがCLのときの連続撮影速度を設定できます。 • [6コマ/秒]、[5コマ/秒]、[4コマ/秒] に設定していても、ライブビュー撮影時の連続撮影速度は最高3.7コマ/秒になります。
5コマ/秒	
4コマ/秒	
3コマ/秒	
2コマ/秒	
1コマ/秒	

d3 連続撮影コマ数

初期設定：[100]

1~100	連続撮影を最大何コマまで継続できるかを設定できます。
-------	----------------------------

d4 露出ディレイモード

初期設定：[しない]

3秒	シャッターボタンを押すと最初にミラーが作動し、約1~3秒後にシャッターがきれるように変更できます。カメラブレを最小限に抑えられます。
2秒	
1秒	
しない	

d5 フラッシュ使用推奨表示		初期設定：[する]
する	被写体が暗いときや逆光など、フラッシュが必要な撮影条件でフラッシュを使わずに撮影しようとした場合に、  (レディーライト) が点滅してフラッシュの使用をおすすめするかどうかを設定します (□□34)。	
しない		
d6 連番モード		初期設定：[する]
する	ファイル名に使われるファイル番号の連番について設定できます。	
しない		
リセット		
d7 ファインダー内格子線表示		初期設定：[しない]
する	ファインダー内に構図用格子線を表示するかしないかを設定できます。	
しない		
d8 ISO感度の簡易設定		初期設定：[しない]
する	[する] を選ぶと、撮影モードがP、S、Aのときのみコマンドダイヤルの操作だけでISO感度を変更できます。	
しない		
d9 インフォ画面の表示設定		初期設定：[自動]
自動	明るい場所や暗い場所で液晶モニターが見づらいときに、インフォ画面 (□□182) の見え方を設定できます。	
手動		
d10 イルミネーター点灯		初期設定：[しない]
する	半押しタイマーの作動中は常に表示パネルのイルミネーター (照明) を点灯するように設定できます。	
しない		
d11 MB-D15電池設定		初期設定：[アルカリ単3形電池]
アルカリ単3形電池	別売のマルチパワーバッテリーパックMB-D15に単3形電池を使用する場合に、電池の種類を指定することでより正確に電池残量を表示できます。専用Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL15b/EN-EL15a/EN-EL15を使用する場合は、設定する必要はありません。	
Ni-MH単3形充電電池		
リチウム単3形電池		

d12 電池の使用順序

初期設定：[MB-D15から]

MB-D15から	別売のマルチパワーバッテリーパック MB-D15装着時に、MB-D15に入っている電池から使用するか、カメラに入っているバッテリーから使用するかを設定します。
カメラから	

e フラッシュ・BKT撮影

e1 フラッシュ撮影同調速度

初期設定：[1/250秒]

1/320 秒 (オートFP)	フラッシュ撮影時の同調速度を設定します。
1/250 秒 (オートFP)	
1/250 秒	
1/200 秒	
1/160 秒	
1/125 秒	
1/100 秒	
1/80 秒	
1/60 秒	

🔍 シャッタースピードの同調速度を固定するには

撮影モード**S**または**M**のときに、シャッタースピードの同調速度をカスタムメニュー e1 [フラッシュ撮影同調速度] で設定した値に固定するには、最も低速側 (30秒または - -) の次の位置を選んでください。表示パネルとファインダー内表示に **X** (フラッシュシンクロマーク) と設定した同調速度が表示されます。

🔍 FP発光について

- フラッシュ撮影時のシャッタースピードをカメラの最高速度まで設定できます (□144)。[1/320 秒 (オートFP)] または [1/250 秒 (オートFP)] に設定すると、別売のオートFPハイスピードシンクロ対応スピードライトを使用しているときに、1/320秒または1/250秒より速いシャッタースピードで自動的にFP発光に切り替わります。日中でも、レンズの絞りを開いて背景をぼかした撮影ができます。
- 撮影モード**P**または**A**で、表示パネルまたはファインダー内表示のシャッタースピードがカスタムメニュー e1 [フラッシュ撮影同調速度] で設定した同調速度を示す場合、実際に制御されるシャッタースピードが同調速度よりわずかでも高速側であれば、FP発光に切り替わります。

e2 フラッシュ時シャッタースピード制限 初期設定：[1/60秒]

1/60 秒	フラッシュ撮影時の撮影モードが P または A の場合に、シャッタースピードの低速側の制限を設定できます。
1/30 秒	
1/15 秒	
1/8 秒	
1/4 秒	
1/2 秒	
1 秒	
2 秒	
4 秒	
8 秒	
15 秒	
30 秒	

e3 内蔵フラッシュ発光 初期設定：[TTLモード]

TTLモード	内蔵フラッシュの発光方式を設定できます。
マニュアル発光モード	
リピーティング発光モード	
コマンダーモード	

e3 外付けフラッシュ発光 初期設定：[TTLモード]

TTLモード	別売スピードライトの発光方式を設定できます。
マニュアル発光モード	
コマンダーモード	

e4 フラッシュ使用時の露出補正 初期設定：[全体を補正]

全体を補正	フラッシュ撮影時に露出補正を設定した場合のフラッシュの調光を設定できます。
背景のみ補正	

e5 モデリング発光 初期設定：[する]

する	ファインダー撮影で内蔵フラッシュや別売のニコンクリエイティブライティングシステム対応スピードライト(□□303)使用時に、カメラの Pv ボタンを押して(□□54)モデリング発光を行うかどうかを設定できます。
しない	

e6 オートブラケットのセット

初期設定：[AE・フラッシュブラケット]

AE・フラッシュ ブラケット	オートブラケット (□193) の種類を設定できます。
AEブラケット	
フラッシュブラケット	
WBブラケット	
ADLブラケット	

e7 BKTの順序

初期設定：[[0] → [-] → [+]]

[0] → [-] → [+]	オートブラケットの補正順序を変更できます。
[-] → [0] → [+]	

f 操作

f1 OKボタンの機能

撮影モード	ファインダー撮影時とライブビュー時または再生時に OK ボタンを押したときの機能を設定できます。
再生モード	
ライブビュー	

f2 Fnボタンの機能

押し時の動作	Fn ボタンを単独で押したときの機能と、 Fn ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回したときの機能を設定できます。
コマンドダイヤル併用時の動作	

f3 プレビューボタンの機能

押し時の動作	Pv ボタンを単独で押したときの機能と、 Pv ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回したときの機能を設定できます。
コマンドダイヤル併用時の動作	

f4 AE/AFロックボタンの機能

押し時の動作	AE/AF ロックボタンを単独で押したときの機能と、 AE/AF ロックボタンを押しながらコマンドダイヤルを回したときの機能を設定できます。
コマンドダイヤル併用時の動作	

f5 コマンドダイヤルの設定

回転方向の変更	メインコマンドダイヤルとサブコマンドダイヤルの機能を変更できます。
メインとサブの入れ換え	
絞り値の設定方法	
再生/メニュー画面で使用	
サブコマンドダイヤルで画像送り	

f6 ボタンのホールド設定

初期設定：[しない]

する	[する] に設定して対象のボタンを1回押すと、ボタンを放しても設定できる状態が維持され、コマンドダイヤル単独で設定できます。もう一度ボタンを押すか、シャッターボタンを半押しするか、半押しタイマーがオフになると解除されます。
しない	

f7 カードなし時リリース

初期設定：[リリース許可]

リリース禁止	カメラにSDカードを入れていないときのリリース操作を設定できます。
リリース許可	

f8 インジケータの+/-方向

初期設定：[

	ファインダー内表示、表示パネルおよびインフォ画面 (Info) での露出、露出補正、オートブラケティングのインジケータの+と-方向を入れ換えることができます。
	

f9 動画撮影ボタンの機能

コマンドダイヤル併用時の動作	ファインダー撮影時またはライブビュー時のライブビューセクターが  のときに、動画撮影ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回したときの機能を設定できます。
----------------	---

f10 MB-D15のFnボタンの機能

初期設定：[AE-L/AF-L]

AE-L/AF-L	別売のマルチパワーバッテリーパックMB-D15のFn AE/AFロックボタンの機能を設定します。
AE-L	
AE-L (ホールド)	
AF-L	
AF-ON	
FV-L	
カメラのFnボタンと同じ	

f11 リモコン (WR) のFnボタンの機能

初期設定：[設定しない]

プレビュー	ワイヤレスリモートコントローラーのFnボタンを押したときの機能を設定できます。
FV-L	
AE-L/AF-L	
AE-L	
AE-L (ホールド)	
AF-L	
フラッシュ発光禁止	
プラスRAW記録	
ライブビュー	
カメラのFnボタンと同じ	
カメラのプレビューボタンと同じ	
カメラのFnボタンと同じ	
設定しない	

g 動画

g1 Fnボタンの機能

押し時の動作	Fn ボタンを押したときの機能を設定できます。
--------	--------------------------------

g2 プレビューボタンの機能

押し時の動作	Pv ボタンを押したときの機能を設定できます。
--------	--------------------------------

g3 AE/AFロックボタンの機能

押し時の動作	AE/AF ロックボタンを押したときの機能を設定できます。
--------	--------------------------------------

g4 シャッターボタンの機能

初期設定：[静止画撮影]

静止画撮影	ライブビューセクターが ● の場合に、シャッターボタンを押したときの機能を設定できます。[動画撮影] に設定すると、シャッターボタンの半押しでライブビューが開始されます。ライブビューの表示中にシャッターボタンを半押しするとフォーカスモードセクターが AF の場合はピント合わせを行い、全押しすると動画撮影を開始します。もう一度シャッターボタンを押すと、動画撮影を終了します。
動画撮影	

g4 [シャッターボタンの機能] の [動画撮影] について

- [動画撮影] に設定すると、動画撮影以外のシャッターボタンを使う操作は行えません。
- ライブビューを終了するには、**Lv**ボタンを押してください。

Y セットアップメニュー

カードの初期化（フォーマット）

スロット1	SDカードを初期化（フォーマット）します。初期化したいスロットを選んで「はい」を選ぶと、選んだスロットのSDカードを初期化します。初期化すると、カード内のデータは全て削除されます。カード内に必要なデータが残っている場合は、初期化の前にパソコンなどに保存してください。
スロット2	

ボタン操作でSDカードを初期化（フォーマット）する

-  (FORMAT) ボタンと  (FORMAT) ボタンで初期化することもできます。 (FORMAT) ボタンと  (FORMAT) ボタンを同時に2秒以上押し、表示パネルとファインダー内表示にFORが点滅している間に、もう一度  (FORMAT) ボタンと  (FORMAT) ボタンを同時に押し、表示パネルで点滅しているSDカードを初期化します。
- SDカードが2枚入っている場合は、表示パネルで点滅している側のSDカードを初期化します。FORが点滅しているときにメインコマンドダイヤルを回すと、初期化するスロットを切り換えられます。
- 初期化中は、電源をOFFにしたり、バッテリーやSDカードを取り出したりしないでください。

ユーザーセッティングの登録	
U1に登録	撮影モードダイヤル U1 と U2 にユーザーセッティングを登録します (□61)。
U2に登録	
ユーザーセッティングのリセット	
U1をリセット	登録したユーザーセッティングをリセットします (□64)。
U2をリセット	
モニターの明るさ 初期設定：[0]	
-5～+5	画像の再生時、メニュー表示時、インフォ画面表示時の液晶モニターの明るさを設定します。
モニターのカラーカスタマイズ 初期設定：[0]	
	カメラの液晶モニターの色調を好みに合わせて変更できます。
イメージセンサークリーニング	
実行	撮像素子前面に付いたゴミをふるい落とし ます (□314)。
電源スイッチに連動	
クリーニングミラーアップ	
開始	撮像素子前面をクリーニングするために、ミラーを上げた状態で固定できます (□316)。バッテリー残量表示が  以下のときは選べません。
イメージダストオフデータ取得	
開始	Capture NX-D (□i) の「イメージダストオフ機能」を使うためのデータを取得します。
イメージセンサー クリーニング後 開始	
フリッカー低減 初期設定：[オート]	
オート	蛍光灯や水銀灯などの光源下で、ライブビュー時に画面にちらつきや横縞が生じる「フリッカー現象」を低減できます。
50 Hz	
60 Hz	

地域と日時	
現在地の設定	現在地と日時、年月日の表示順を設定します。
日時の設定	
日付の表示順	
夏時間の設定	
言語 (Language)	
	メニュー画面やメッセージの表示言語を選びます。
縦横位置情報の記録	
	初期設定：[する]
する	撮影時のカメラの縦横位置情報を画像に記録できます。
しない	
電池チェック	
	カメラや別売のマルチパワーバッテリーパックMB-D15に装着中のバッテリーの情報を表示します。
画像コメント	
コメント添付	あらかじめコメントを登録しておき、撮影する画像に添付できます。添付されたコメントは、Capture NX-DまたはViewNX-iのメタデータで確認できます。
コメント入力	
著作権情報	
著作権情報添付	撮影した画像に著作権情報を添付することができます。添付された著作権情報は、Capture NX-DまたはViewNX-iのメタデータで確認できます。
撮影者名入力	
著作権者名入力	
カメラ設定の保存と読み込み	
保存	カメラの各機能の設定データをSDカードに保存できます。また、SDカードに保存されている設定データをカメラで読み込むこともできます。複数のD7200を同じ設定で使う場合などに便利です。
読み込み	

水準器表示	
	カメラに内蔵している傾斜センサーを使って、液晶モニターにローリング方向の水準器を表示します。
レンズ情報手動設定	
レンズNo.	非CPUレンズの焦点距離と開放絞り値をカメラに登録することにより、CPUレンズ装着時と同じ機能が一部使えるようになります(□218)。
焦点距離 (mm)	
開放絞り値	
AF微調節	
AF微調節 (する/しない)	装着したレンズごとに自分でピント位置を調節できます。通常はAF微調節を行う必要はありません。必要な場合のみ調節を行ってください。正常なレンズを調整すると、ピントが合わなくなる場合がありますのでご注意ください。
個別レンズの登録	
その他レンズの登録	
個別レンズ登録リスト	
HDMI	
出力解像度	HDMI対応機器との接続時の設定を変更したり、HDMI-CEC対応テレビのリモコンから制御できるように設定できます。
機器制御	
詳細設定	
位置情報	
半押しタイマー	別売のGPSユニットGP-1またはGP-1Aとの接続時の設定を変更できます。
情報表示	
衛星による日時合わせ	
Wi-Fi	
通信機能	Android OS または iOS のスマートデバイスとカメラをWi-Fi (無線LAN) で接続できます。スマートデバイスに取り込みたい複数の画像をまとめて送信指定することもできます (□243)。
接続設定	
スマートデバイスへの送信指定	

NFC		初期設定：[有効]
有効	無効	[有効] に設定すると、カメラの N (Nマーク) とスマートデバイスのNFCアンテナ部をタッチするだけの簡単な操作でカメラとスマートデバイスを接続できます (□247)。
ネットワーク		
ハードウェアの選択	接続設定 オプション	別売の通信ユニットUT-1 (□312) とカメラを接続して、有線LANまたは無線LANでパソコンやFTPサーバーと通信する場合の設定を行います。
Eye-Fi送信機能		
スロット1	スロット2	カメラで作成した画像を、あらかじめ設定した保存先へ送信します。この機能に対応したEye-Fi カードを挿入したときのみ表示されます。
認証マークの表示		
		このカメラが取得している認証マークの一部を表示します。
ファームウェアバージョン		
		カメラを制御する「ファームウェア」のバージョンを表示します。

画像編集メニュー

D-ライティング

画像の暗い部分を明るく補正できます。

赤目補正

フラッシュ撮影時の「赤目現象」によって人物の瞳の部分が赤くなってしまった画像を補正できます。

トリミング

画像の一部を切り抜きます (□290)。

モノトーン

白黒

モノトーンの画像 (1種類の色の明暗のみで構成される画像) を作成します。

セピア

クール

- セピアはセピア色 (褐色)、クールはブルー系のモノトーンの画像になります。

フィルター効果

スカイライト

ウォームトーン

クロススクリーン

ソフト

レンズにフィルターを装着して撮影したような画像になります。

- スカイライト：画像の青みを抑えます。
- ウォームトーン：画像を暖色にします。
- クロススクリーン：光源から放射状に光の筋を伸ばします。
- ソフト：画像をソフトな雰囲気仕上げます。

画像合成

RAW画像2コマを重ね合わせて1コマの画像に合成します (□291)。このメニュー項目は、**MENU** ボタンを押して、タブの  アイコンを選んだときのみ表示されます。

RAW現像	
	RAWを含む画質モード（□74）で記録したRAW画像を、カメラでRAW現像してJPEG画像を作成します（□294）。
リサイズ	
画像選択	サイズの小さい画像を作成します。
記録先スロットの選択	
画像サイズの設定	
簡単レタッチ	
	コントラストと色の鮮やかさを高めた画像を簡単に作成できます。
傾き補正	
	画像の傾きを±5°の範囲（約0.25°ステップ）で補正できます。
ゆがみ補正	
オート	広角レンズ使用時のたる型のゆがみや、望遠レンズ使用時の糸巻き型のゆがみを補正できます。 • [オート] を選ぶと画像のゆがみを自動的に判別して補正します。
マニュアル	
魚眼効果	
	フィッシュアイ（魚眼）レンズで撮影したような画像になります。
塗り絵	
	輪郭を抽出して塗り絵の原画風の画像を作成できます。
カラースケッチ	
	輪郭を抽出して色をつけることで、スケッチ風の画像を作成できます。

アオリ効果	
	高層ビルを見上げて撮影したときなどに生じる、遠近感による被写体のゆがみを補正します。
ミニチュア効果	
	ミニチュア（模型）を接写したように加工します。ミニチュア効果には、高いところから見下ろして撮影した画像が適しています。 <ul style="list-style-type: none"> マルチセレクターの     で効果をかける方向と、効果をかける幅の広さを設定できます。
セレクトカラー	
	選択した色のみを残し、それ以外の色をモノトーン（白黒）に加工します。 <ul style="list-style-type: none"> 色取得の枠を画像の残したい色の上に重ねて  AE/AFロックボタンを押すと、残したい色が抽出されて色の枠に表示されます。 メインコマンドダイヤルを回してから  または  を押すと、抽出する色の感度を設定できます。 メインコマンドダイヤルを回すと、抽出する色を追加できます。抽出する色は最大3色まで設定できます。
動画編集	
始点/終点の設定	撮影した動画を編集できます（□176）。
選択フレームの保存	
編集前後の画像表示	
	画像編集を行った画像を、編集元の画像と並べて表示して、画像編集の効果を確認できます。このメニュー項目は、編集元または編集後の画像を1コマ表示して  ボタンを押して、画像編集メニューを選んだときのみ表示されます。

マイメニュー / 最近設定した項目

マイメニュー登録

再生メニュー	再生、静止画撮影、動画撮影、カスタム、セットアップ、画像編集の各メニューから、よく使う項目だけを選んで、20項目までマイメニューに登録できます。
静止画撮影メニュー	
動画撮影メニュー	
カスタムメニュー	
セットアップメニュー	
画像編集メニュー	

登録項目の削除

マイメニューの登録項目を削除します。

登録項目の順序変更

マイメニューの登録項目の順序を変更します。

このタブの機能変更

初期設定：[マイメニュー]

マイメニュー	「マイメニュー」を「最近設定した項目」に変更します。[最近設定した項目]に設定すると、最後に設定したメニュー項目から順番に最新の20項目が自動的に表示されます。
最近設定した項目	

画像編集メニューの詳細

トリミング

画像の必要な部分だけを切り抜きます。

編集画面では、トリミング範囲の黄色い枠が表示され、次の操作ができます。



切り抜く範囲を狭くする	 (ISO)	 (ISO) ボタンを押すごとにトリミングで切り抜かれる範囲は狭くなります。
切り抜く範囲を広くする	 (QUAL)	 (QUAL) ボタンを押すごとにトリミングで切り抜かれる範囲は広くなります。
画像のアスペクト比(縦横比)を変更する		メインコマンドダイヤルを回すと、アスペクト比を変更できます。
切り抜く範囲を移動する		トリミングで切り抜く範囲を移動します。マルチセレクターを押し続けると、高速で移動します。
トリミングを実行して画像を保存する		トリミングした画像が記録されます。

▼ トリミング画像についてのご注意

- トリミング画像は、拡大表示できないことがあります。
- トリミング画像の画質モード (□74) は、元画像の画質モードがRAWを含む画質モードのときは [FINE] になり、[FINE]、[NORMAL]、[BASIC] のときは元画像と同じ画質モードになります。
- トリミング画像の画像サイズは編集画面の左上に表示されます。画像サイズは、トリミングする範囲の拡大率とアスペクト比 (横:縦) により変わります。



画像合成

SDカードに記録されているRAW画像2コマを重ね合わせて1コマの画像に合成できます。RAWデータを使用して合成するため、通常のアプリケーションソフトウェアなどで画像を合成する場合と比べ、階調特性に優れた画像になります。



1 画像編集メニュー画面で「画像合成」を選ぶ

- 「画像合成」を選んでマルチセレクターの  を押すと、右のような画面が表示され、「画像1」欄がハイライト表示されます。



2 合成する画像の1コマ目を選ぶ

-  ボタンを押すと表示されるRAW画像のサムネイル一覧から、1コマ目の画像を選びます。
-  (QUAL) ボタンを押している間、選択中の画像を拡大表示します。



3 1コマ目の画像を決定する

-  ボタンを押すと、選んだ画像が1コマ目に設定され、「画像1」欄にプレビューが表示されます。



4 2コマ目の画像を選ぶ

- を押して [画像2] を選び、手順2~3と同じ手順で2コマ目の画像を選びます。



5 ゲインを調節する

- プレビュー欄に [画像1] と [画像2] を合成した画像が表示されます。プレビュー欄で確認しながら、合成画像の明るさが適正になるように、[画像1] または [画像2] を選んでから  または  を押してゲイン（出力）を設定します。
- ゲインは0.1~2.0の範囲で、0.1ステップで設定できます。
- 各数値は初期設定の1.0（補正なし）を基準にした比率です。たとえば0.5にするとゲインは約半分になります。



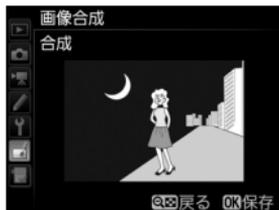
6 [プレビュー] 欄に移動する

-  または  を押して、プレビュー欄に移動します。
- 合成画像を確認せずに画像を保存したいときは、[保存] を選んで  ボタンを押してください。



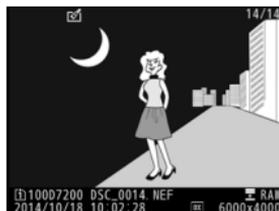
7 合成画像の構図を確認する

- [合成] を選び、 ボタンを押すと、合成画像の確認画面が表示されます。
- 設定をやり直したいときは、 (ISO) ボタンを押してください。手順6の画面に戻ります。



8 合成画像を保存する

- もう一度 **OK** ボタンを押すと、合成画像が保存され、合成画像が表示されます。



✓ 画像合成についてのご注意

- プレビュー画像と実際の合成画像では、色や明るさなどの見え方が異なることがあります。
- 合成できる画像は、このカメラで撮影したRAW画像だけです。機種別の異なるカメラやRAW以外の画質モードで撮影した画像は選べません。
- 合成画像の画質モード (□74) と画像サイズ (□77) は、合成時のカメラの設定と同じになります。画像合成をする前に、これらの設定を確認してください。合成した画像をさらに別のRAW画像と合成したいときは、画質モードをRAWに設定してください。
- **【撮像範囲】** と **【記録ビットモード】** が同じRAW画像のみ合成できます。
- 合成時にRAWを含む画質モードが選ばれている場合、元画像と同じ記録ビットモードになります。また、記録方式は合成時のカメラの設定になります。
- 合成時の画質モードがJPEGの場合、**【JPEG圧縮】** は **【サイズ優先】** になります。
- 合成画像のホワイトバランス、ピクチャーコントロール、撮影データ (撮影日時、測光モード、シャッタースピード、絞り値、撮影モード、露出補正值、焦点距離、縦横位置情報など) は、**【画像1】** で選んだ画像の内容を引き継ぎます。ただし、著作権情報は引き継ぎません。また、合成された画像には、画像合成時にカメラに設定されている画像コメントが添付されます。

RAW現像（パソコンを使わずにRAW画像をJPEG画像に変換する）

RAWを含む画質モード（□74）で記録したRAW画像を、カメラでRAW現像してJPEG画像を作成できます。

1 画像編集メニュー画面で「RAW現像」を選ぶ

- 「RAW現像」を選んでマルチセクターの▶を押すと、RAW画像がサムネイル表示されます。



2 RAW現像する画像を選ぶ

- マルチセクターでRAW現像する画像を選び、OKボタンを押します。
- QUAL (QUAL) ボタンを押している間、選択中の画像を拡大表示します。



3 表示されている項目をそれぞれ設定する



4 RAW現像する

- [現像] を選んで **OK** ボタンを押すと、JPEG画像を保存します。
- RAW現像後のJPEG画像が保存されます。
- キャンセルして画像編集メニューに戻るときは、**MENU**ボタンを押してください。



✓ RAW現像についてのご注意

- RAW現像できる画像は、このカメラで撮影したRAW画像だけです。機種異なるカメラで撮影したRAW画像やRAW以外の画質モードで撮影した画像は選べません。
- 多重露出撮影した画像や [画像合成] で編集した画像の場合、[ホワイトバランス] と [ヴィネットコントロール] は選べません。
- [露出補正] で設定できる明るさ (-2~+2) は、通常の露出補正の段数とは異なります。

資料

このカメラで使えるアクセサリやカメラの主な仕様など、カメラを使うときに役立つ情報を記載しています。また、カメラの動作がおかしいときや警告メッセージが表示されたときの対処方法についても説明しています。

使用できるレンズ

CPUレンズ（IXニッコールを除く）をおすすめします。特にGタイプ、Eタイプ、Dタイプレンズは、カメラの機能を最大限に引き出すことができます。

レンズ	モード	フォーカスモード		撮影モード		測光モード		
		AF (オート フォーカス)	M (フォーカス エイド) ※1	P S	A M	☑		☑/□
						3D-RGB	RGB	
CPUレンズ※2	Gタイプレンズ※3、 Eタイプレンズ※3、 Dタイプレンズ※3、 AF-Iレンズ、 AF-Sレンズ	○	○	○	○	○	×	○※4
	PC-E NIKKOR シリーズ※5	×	○※6	○※6	○※6	○※6	×	○※4、6
	PCマイクロ 85mm F2.8D※7	×	○※6	×	○※8	○	×	○※4、6
	AF-S/AF-Iテレ コンバーター ※9	○	○	○	○	○	×	○※4
	Gタイプ、Eタイプ、 Dタイプ以外のAF レンズ（F3AF用を 除く）	○※10	○※10	○	○	×	○	○※4
	AI-Pニッコール	×	○※11	○	○	×	○	○※4

☑=マルチパターン測光、☑=中央部重点測光、□=スポット測光

レンズ	モード	フォーカスモード		撮影モード		測光モード		
		AF (オート フォーカス)	M (フォーカス エイド) ※1	P S	A M	☑		☑/☐
						3D-RGB	RGB	
非CPUレンズなど※12	AI-S、AI、 AI改造レンズ、 シリーズEレンズ※13	×	○※11	×	○※14	×	○※15	○※16
	メディカル120mm f/4	×	○	×	○※17	×	×	×
	レフレックス レンズ	×	×	×	○※14	×	×	○※16
	PCニッコール	×	○※6	×	○※18	×	×	○
	AI-S、AIテレ コンバーター ※19	×	○※20	×	○※14	×	○※15	○※16
	ペローズアタッチメン トPB-6 ※21	×	○※20	×	○※22	×	×	○
	オート接写リング (PK-11A、12、13、 PN-11)	×	○※20	×	○※14	×	×	○

- ※1 M (マニュアルフォーカス) は全てのレンズで使用可能です。
- ※2 IXレンズは装着できません。
- ※3 このカメラはVRレンズのVR (手ブレ補正) 機能に対応しています。
- ※4 フォーカスポイントの選択によりスポット測光エリアの移動が可能 (☑100)。
- ※5 PC-E NIKKOR 24mm f/3.5D EDを装着してレボルビング操作をすると、レンズのシフトノブがカメラボディに接触する場合があります。
- ※6 アオリ操作をしていない場合のみ可能。
- ※7 カメラの測光モード、および調光制御機能は、アオリ操作 (シフトまたはティルト) をしているとき、または開放絞り以外に絞り値が設定されているときには、正しく機能しません。
- ※8 撮影モードはMで使用可能。
- ※9 AF-Sレンズ、AF-Iレンズ専用です (☑299)。オートフォーカスとフォーカスエイド可能なフォーカスポイントについては、☑299をご覧ください。

- ※10 AF80–200mm f/2.8S、AF35–70mm f/2.8S、AF28–85mm f/3.5–4.5S (New)、AF28–85mm f/3.5–4.5Sレンズを使用し、ズームの望遠側かつ至近距離で撮影した場合、ファインダースクリーンのマット面の像とオートフォーカスのピント表示が合致しない場合があります。このような場合は、マニュアルフォーカスによりファインダースクリーンのマット面を利用してピントを合わせて撮影してください。
 - ※11 開放F値がF5.6以上明るいレンズのみ使用可能。
 - ※12 一部装着不可能なレンズ (□300) があります。
 - ※13 AI ED80–200mm f/2.8Sの三脚座を回転するとカメラと干渉するため、回転方向に制限があります。AI ED200–400mm f/4Sをカメラに装着したままでのフィルター交換はできません。
 - ※14 レンズ情報手動設定 (□218) でレンズの開放絞り値を設定することにより表示パネル、ファインダー内表示に絞り値が表示されます。
 - ※15 レンズ情報手動設定 (□218) でレンズの焦点距離、開放絞り値を設定することにより可能です。一部のレンズでは焦点距離と開放絞り値を設定しても十分な精度が得られない場合があります。この場合は中央部重点測光またはスポット測光を選んで撮影してください。
 - ※16 レンズ情報手動設定 (□218) で焦点距離、開放絞り値を設定することにより、測光の精度が向上します。
 - ※17 撮影モードが **M** でフラッシュ同調シャッタースピードより1段以上低速のシャッタースピードのときに使えます。
 - ※18 絞り込み測光で使用します。撮影モードが**A**の場合はレンズ側で絞りプリセットを行い、AEロック後にアオリ操作を行ってください。撮影モードが**M**の場合はレンズ側で絞りプリセットを行い、あおる前に測光して露出を決定してください。
 - ※19 AI 28–85mm f/3.5–4.5S、AI 35–105mm f/3.5–4.5S、AI 35–135mm f/3.5–4.5S、AF-S 80–200mm f/2.8Dレンズの組み合わせによっては、露出補正を行う必要があります。
 - ※20 合成絞り値がF5.6以上明るい場合に使用可能。
 - ※21 オート接写リングPK-12またはPK-13を併用すると装着できます。カメラの姿勢、位置によりPB-6Dが必要です。
 - ※22 絞り込み測光で使用可能、撮影モードが**A**の場合はベローズアタッチメント側で絞り込みを行い、測光後撮影してください。
- 複写装置PF-4へはカメラアダプターPA-4を併用すると装備できます。
 - レンズによっては高感度撮影時には、オートフォーカス作動中にノイズ (すじ) が発生することがあります。この場合は、マニュアルフォーカスまたはフォーカスロックを利用して撮影してください。

🔪 レンズの開放F値とは

レンズの明るさを示す数値で、そのレンズで最も絞りを開いたときの絞り値を意味します。レンズ名称の最後のほうに「f/2.8」「f/3.5-5.6」などと記されています。

🔪 CPUレンズ、Gタイプレンズ、Eタイプレンズ、Dタイプレンズの見分け方

CPUレンズにはCPU信号接点があります。Gタイプレンズには「G」マークが、Eタイプレンズには「E」のマークが、Dタイプレンズには「D」マークが付いています。GタイプレンズとEタイプレンズには、絞りリングがありません。



🔪 AF-S/AF-Iテレコンバーターについて

- AF-S/AF-I テレコンバーターをレンズに装着したときの合成絞り値がF5.6 超～F8 の場合、オートフォーカスとフォーカスエイドが可能なフォーカスポイントは右図の通りです（コントラストの低い被写体や輝度の低い被写体の撮影時にピントが合わないことがあります）。また、AFエリアモード（□82）が3D-トラッキングまたはオートエリアAFの場合、シングルポイントAFに変更されます。
- AF-S VR Micro-Nikkor 105mm f/2.8G IF-EDをお使いの場合、オートフォーカス撮影はできません。
- AF-S NIKOR 300mm f/4E PF ED VRとテレコンバーターTC-17E IIまたはTC-20E、TC-20E II、TC-20E IIIを組み合わせてお使いの場合、AFモードがAF-Sの場合のみオートフォーカス撮影が可能です。



非CPUレンズを使用する場合は

- 非CPUレンズを使用する場合は、セットアップメニューの[レンズ情報手動設定] (□284) でレンズの焦点距離と開放絞り値を設定することによって、絞り値表示、RGBマルチパターン測光などの機能が使用できるようになります。レンズの焦点距離と開放絞り値を設定しない場合、測光モードをマルチパターン測光に設定しても、自動的に中央部重点測光になります。
- 絞り値はレンズの絞りリングでのみ設定できます。[レンズ情報手動設定] でレンズの開放絞り値を設定しない場合、表示パネルとファインダー内表示の絞り値表示が開放からの絞り込み段数表示となりますので、絞り値は、レンズの絞りリングで確認してください。

使用できないレンズ

次の非CPUレンズは使用できません。無理に装着しようとすると、カメラやレンズを破損しますのでご注意ください。

- AFテレコンバーター TC-16AS
- AI改造をしていないレンズ (AI方式以前の連動爪を使用するタイプ)
- フォーカシングユニットAU-1を必要とするレンズ (400mm f/4.5、600mm f/5.6、800mm f/8、1200mm f/11)
- フィッシュアイ (6mm f/5.6、7.5mm f/5.6、8mm f/8、OP10mm f/5.6)
- 2.1cm f/4
- K2リング
- ED180-600mm f/8 (製品No.174041~174180)
- ED360-1200mm f/11 (製品 No.174031~174127)
- 200-600mm f/9.5 (製品 No.280001~300490)
- F3AF用 (AF80mm f/2.8、AF ED200mm f/3.5、テレコンバーター TC-16S)
- PC28mm f/4 (製品 No.180900以前の製品)
- PC35mm f/2.8 (製品 No.851001~906200)
- 旧PC35mm f/3.5
- 旧レフレックス1000mm f/6.3
- レフレックス1000mm f/11 (製品 No.142361~143000)
- レフレックス2000mm f/11 (製品 No.200111~200310)

赤目軽減モードについてのご注意

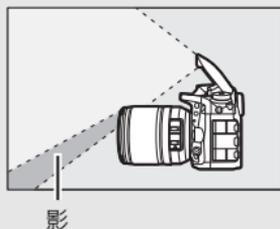
レンズの種類によっては、赤目軽減ランプの光がさえぎられ、フラッシュ撮影時に十分な赤目軽減効果が得られない場合があります。

🔪 AF補助光撮影に制限のあるレンズについて

- 使用できるAFレンズの焦点距離は18～200mm、AF補助光が届く距離範囲の目安は約0.5mから3.0mです。
- 使用するレンズや撮影距離によっては、AF補助光がレンズでさえぎられることがあります。
- AF補助光使用時は、レンズフードを取り外してください。
- 制限のあるレンズおよび制限の内容については、下記ホームページからダウンロードできるD7200のメニューガイドに記載しています。
<http://downloadcenter.nikonimglib.com/>

🔪 内蔵フラッシュ撮影に制限のあるレンズについて

- 内蔵フラッシュには、16mmから300mmまでのCPUレンズが使用できます。
 - 撮影距離0.6m以上で使用してください。
 - マクロ付きズームレンズはマクロ領域では使用できません。
- 使用するレンズや撮影距離によっては、フラッシュのケラレが発生することがあります。
- ケラレとは、内蔵フラッシュの光がレンズの先端でさえぎられて影になり、写真に写り込む現象です。



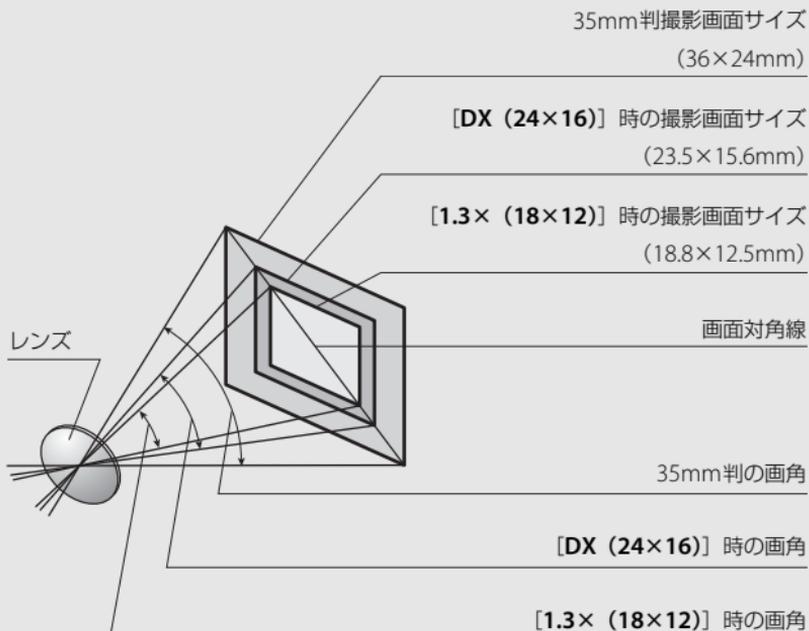
- ケラレを防止するため、レンズフードは取り外して使用してください。
- 制限のあるレンズおよび制限の内容については、下記ホームページからダウンロードできるD7200のメニューガイドに記載しています。
<http://downloadcenter.nikonimglib.com/>

🔪 レンズの画角と焦点距離について

D7200ではさまざまなニコン一眼レフカメラ用レンズが使えます。ただし、これらのレンズをD7200に装着したときの画角は、レンズに表記されている焦点距離の約1.5倍のレンズに相当する画角になります。これは35mm判カメラの撮影画面サイズ（36×24mm）に対して、D7200の撮影画面（23.5×15.6mm）が小さいためです。

例：D7200に24mmのレンズを装着した場合の画角は、35mm判カメラ換算でおおよそ36mmの焦点距離となります。

静止画撮影メニューの「撮像範囲」が「DX (24×16)」の場合、D7200の撮影画面サイズ（23.5×15.6mm）で撮影します。「1.3× (18×12)」を選んだ場合、画面サイズは狭くなります（「撮像範囲」が「DX (24×16)」の場合の約1.3倍長い焦点距離に相当する画角になります）。



使用できるスピードライト

このカメラは、ニコンクリエイティブライティングシステム対応スピードライトとの組み合わせで、さまざまな機能が利用できます。

ニコンクリエイティブライティングシステム (CLS) について

ニコンクリエイティブライティングシステム (CLS) は、ニコンのスピードライトとカメラのデータ通信方式を改良したシステムで、スピードライト撮影に新たな可能性を開く、さまざまな機能を提供します。

■ ニコンクリエイティブライティングシステム対応 スピードライトの主な仕様

	ガイドナンバー (ISO 100・m、20℃)
SB-910/ SB-900※1	34 (照射角35mm、スタンダード配光時)
SB-800	38 (照射角35mm時)
SB-700※1	28 (照射角35mm、スタンダード配光時)
SB-600	30 (照射角35mm時)
SB-500※2	24
SB-400※3	21
SB-300※3	18
SB-R200※4	10

※1 カメラのホワイトバランスを **AUTO** (オート) または  (フラッシュ) に設定し、SB-910、SB-900、またはSB-700用カラーフィルターを装着して撮影すると、カメラが自動的にフィルターを識別し、最適なホワイトバランスを設定します。

※2 SB-500のLEDライト機能を使用するときは、カメラのホワイトバランスを **AUTO** または  に設定すると、カメラが自動的に最適なホワイトバランスを設定します。

※3 ワイヤレス機能はありません。

※4 リモート発光用スピードライト SB-R200 を使用するには、内蔵フラッシュをコマンダーモードに設定するか、SB-910、SB-900、SB-800、SB-700、SB-500、またはワイヤレススピードライトコマンダー SU-800が必要です。

■ SU-800について

ワイヤレススピードライトコマンダーSU-800は、ワイヤレスでSB-910、SB-900、SB-800、SB-700、SB-600、SB-500、SB-R200を制御するコマンダーです。スピードライトを3つのグループに分けて制御できます。SU-800には発光機能はありません。

ガイドナンバーとは

フラッシュの光量を示す値で、大きいほど光が遠くまで届きます。「ガイドナンバー＝絞り値×撮影距離 (m)」(ISO感度が100の場合) という関係があります。ガイドナンバーが34 (ISO感度100、20℃) のスピードライトの場合、ISO感度が100で絞り値がF5.6なら、 $34 \div 5.6 = \text{約}6.1\text{m}$ までフラッシュの光が届くこととなります。また、実効ガイドナンバーはISO感度が2倍になると約1.4倍 ($\sqrt{2}$ 倍) になります。たとえば、ISO感度が200の場合、絞り値がF5.6なら $34 \div 5.6 \times 1.4 = \text{約}8.6\text{m}$ まで光が届きます。

■ ニコンクリエイティブライティングシステム対応 スピードライトとの組み合わせで使用できる機能

			SB-910	SB-900	SB-800	SB-700	SB-600	SB-500	SU-800	SB-R200	SB-400	SB-300
1灯	i-TTL	i-TTL-BL調光※1	○	○	○	○	○	○	—	—	○	○
		スタンダード i-TTL調光	○※2	○	○※2	○	○	○	—	—	○	○
	AA	絞り連動外部 自動調光	○※3	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	A	外部自動調光	○※3	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	GN	距離優先 マニュアル発光	○	○	—	—	—	—	—	—	—	—
	M	マニュアル発光	○	○	○	○	○※4	—	—	○※4	○※4	
	RPT	リピーティング フラッシュ	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—
アドバンスドワイヤレスライティング 主灯	リモートフラッシュへの 発光指示		○	○	—	—	○※4	○	—	—	—	—
	i-TTL	i-TTL 調光	○	○	—	—	○※4	—	—	—	—	—
	[A:B]	クイック ワイヤレス コントロール	—	○	—	—	—	○※5	—	—	—	—
	AA	絞り連動外部 自動調光	○※6	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	A	外部自動調光	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	M	マニュアル発光	○	○	—	—	○※4	—	—	—	—	—
	RPT	リピーティング フラッシュ	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—

			SB-910	SB-900	SB-800	SB-700	SB-600	SB-500	SU-800	SB-R200	SB-400	SB-300
アドバンストワイヤレスライティング	補助灯	i-TTL	i-TTL 調光	○	○	○	○	○	—	○	—	—
		[A:B]	クイックワイヤレスコントロール	○	○	○	○	○	—	○	—	—
		AA	絞り連動外部自動調光	○※6	—	—	—	—	—	—	—	—
		A	外部自動調光	○	—	—	—	—	—	—	—	—
		M	マニュアル発光	○	○	○	○	○	—	○	—	—
		RPT	リピーティングフラッシュ	○	○	○	○	○	—	—	—	—
			発光色温度情報伝達 (フラッシュ)	○	○	○	○	○	—	—	○	○
	発光色温度情報伝達 (LEDライト)	—	—	—	—	○	—	—	—	—		
	オートFPハイスピードシンクロ ※7	○	○	○	○	○	○	○	○	—	—	
	FVロック ※8	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	マルチポイントAF補助光	○	○	○	○	—	○※9	—	—	—	—	
	赤目軽減発光	○	○	○	○	○	○	—	—	○	—	
	カメラ起動モデリング発光	○	○	○	○	○	○	○	○	—	—	
	カメラからの発光モード設定	—	—	—	—	○	—	—	—	○	○	
	カメラからのスピードライトファームアップ	○※10	○	—	○	○	—	—	—	—	○	

※1 スポット測光時は設定できません。

※2 スピードライト側でも設定できます。

※3 AAモードとAモードの選択は、スピードライトのカスタム設定で行います。また、セットアップメニューの [レンズ情報手動設定] でレンズの開放絞り値と焦点距離を設定していない非CPUレンズを装着した場合はAモードになります。

※4 カメラ側でのみ設定できます。

※5 クローズアップ撮影時のみ設定できます。

※6 スピードライトのカスタム設定にかかわらず、セットアップメニューの [レンズ情報手動設定] でレンズの開放絞り値と焦点距離を設定していない非CPUレンズを装着した場合はAモードになります。

※7 発光モードがi-TTL、AA、A、GN、Mの場合のみ動作します。

※8 発光モードがi-TTL、AA、Aの場合のみ動作します。

※9 コマンダー撮影時のみ設定できます。

※10 SB-910とSB-900のみカメラからのスピードライトファームアップが可能です。

📌 その他のスピードライトとの組み合わせで利用できる機能

次のスピードライトを使用する場合、外部自動調光 (A) あるいはマニュアル発光撮影となります。装着レンズによって機能が変わることはありません。

スピードライト		SB-80DX SB-28DX	SB-50DX ^{※1}	SB-28 SB-26 SB-25 SB-24	SB-30 SB-27 ^{※2} SB-22S SB-22 SB-20 SB-16B SB-15	SB-23 SB-29 ^{※3} SB-21B ^{※3} SB-29S ^{※3}	
区分	A	外部自動調光	○	—	○	○	—
	M	マニュアル発光	○	○	○	○	○
		マルチフラッシュ	○	—	○	—	—
	REAR ^{※4}	後幕シンクロ	○	○	○	○	○

※1 撮影モードを**P**、**S**、**A**、**M**に設定し、内蔵フラッシュを収納した状態にして内蔵フラッシュが光らないようにしてください。内蔵フラッシュが自動的に上がって光ることがあるため、その他の撮影モードは使用しないでください。

※2 このカメラと SB-27 を組み合わせると自動的に **TTL** モードになりますが、**TTL**モードでは使えません。SB-27を**A**モードに設定し直してください。

※3 SB-29・21B・29Sでオートフォーカスができるレンズは、AF-S VR Micro-Nikkor 105mm f/2.8G IF-EDとAF-S Micro NIKKOR 60mm F2.8G EDのみです。

※4 カメラ側のフラッシュモードで設定してください。

別売スピードライトのFVロックについて

別売のスピードライト（□303）の発光モードが**TTL**、「モニター発光あり」の**AA**または**A**のいずれかに設定されている場合は、FVロック（□150）を行うことができます（別売スピードライトの発光モードについては、スピードライトの使用説明書をご覧ください）。

増灯時のFVロックについて

増灯時にFVロックを使用する場合、主灯（マスターフラッシュ）または補助灯（リモート）グループのうち、少なくとも1グループの発光モードを**TTL**または**AA**に設定してください。

別売スピードライトのFVロック時の測光エリアについて

別売スピードライトを使用したFVロック時の測光エリアは次のようになります。

撮影状態	発光モード	測光エリア
1灯撮影時	i-TTLモード	画面中央φ4 mm相当
	絞り連動外部自動調光	スピードライトの外部測光エリア
アドバンストワイヤレスライティングによる増灯時	i-TTLモード	全画面
	絞り連動外部自動調光	スピードライトの外部測光エリア
	外部自動調光 (マスタースピードライト)	

✔ スピードライト使用時のご注意

- 詳細はお使いになる各スピードライトの使用説明書をご覧ください。
- ニコンクリエイティブライティングシステム対応のスピードライトの使用説明書にカメラ分類表が記載されている場合は、ニコンクリエイティブライティングシステム対応デジタル一眼レフに該当する箇所をお読みください。なお、このカメラはSB-80DX、SB-28DX、SB-50DXの使用説明書に記載のデジタル一眼レフカメラには該当しません。
- 別売のスピードライト使用時は、フラッシュモード（□142）の**AUTO**（オート：自動発光）機能は解除され、内蔵フラッシュは発光しません。
- スピードライトを使うと、、、を除く全ての撮影モードでフラッシュ撮影できます。
- ニコンクリエイティブライティングシステム対応スピードライト使用時には、i-TTLや外部自動調光モードにおいて、フル発光でも露出不足になる可能性のある場合に、発光直後に（レディーライト）が約3秒間点滅して露出アンダー警告を行います。その他のスピードライトの場合、充電完了表示と露出アンダー警告は、スピードライト側で確認してください。詳細はお使いになる各スピードライトの使用説明書をご覧ください。
- i-TTLモード時のISO感度連動範囲はISO 100～12800相当です。
- ISO感度を12800よりも高感度に設定した場合には、距離や絞り値によっては適正な発光量にならないことがあります。
- 撮影モードが**P**の場合、下表の絞り値よりも絞りを開くことはできません。

ISO感度と開放側の限界絞り（F）

100	200	400	800	1600	3200	6400	12800
4	5	5.6	7.1	8	10	11	13

※ 制御される絞り値よりも開放絞りが暗い場合は、装着レンズの開放絞りによって制御されます。

- スピードライト SB-910、SB-900、SB-800、SB-700、SB-600、SB-500、SB-400の使用時に、フラッシュモードが赤目軽減、赤目軽減スローシンクロモードの場合は、スピードライト側で赤目軽減発光が行われます。
- スピードライト SB-910、SB-900、SB-800、SB-700、SB-600、ワイヤレススピードライトコマンダー SU-800の使用時に、AF補助光の照射条件が満たされると、スピードライト側のAF補助光を自動的に照射します。

- スピードライトSB-910、SB-900のAF補助光は、17～135mmまでのAFレンズに対応しています。AF補助光が照射されるフォーカスポイントは、次の図の通りです。

AF補助光が照射されるフォーカスポイント



- スピードライトSB-800、SB-600、ワイヤレススピードライトコマンダーSU-800のAF補助光は、24～105mmまでのAFレンズに対応しています。AF補助光が照射されるフォーカスポイントは、次の図の通りです。

AF補助光が照射されるフォーカスポイント

焦点距離が24mmから
34mmの場合



焦点距離が35mmから
49mm場合



焦点距離が50mmから
105mmの場合



- スピードライトSB-700のAF補助光は、24～135mmまでのAFレンズに対応しています。AF補助光が照射されるフォーカスポイントは、次の図の通りです。

AF補助光が照射されるフォーカスポイント



- 使用するレンズや撮影シーンによっては、オートフォーカスによるピント合わせができずにシャッターがきれなかったり、ピントが合わなくてもピント表示（●）が点灯してシャッターがきれることがあります。
- i-TTLモード時に、調光コードSC-17、SC-28、SC-29を使用してカメラからスピードライトを離して撮影する場合、スタンダードi-TTL調光以外では適正露出を得られない場合があります。この場合は、スタンダードi-TTL調光に切り換えて撮影してください。また、あらかじめテスト撮影を行ってください。
- i-TTLモード時に、発光面に内蔵パネルまたは付属のバウンスアダプター以外の部材（拡散板など）を装着しないでください。カメラ内の演算に誤差が生じ、適正露出とならない場合があります。

🔍 インフォ画面のフラッシュモード表示について

インフォ画面のフラッシュモードでは、別売のスピードライト使用時の発光方式が、次のように表示されます。

	通常発光	FP発光 (🗨️275)
i-TTL-BL調光 スタンダードi-TTL調光		
絞り連動外部自動調光 (AA)		
外部自動調光 (A)		
距離優先マニュアル発光 (GN)		
マニュアル発光		
リピーティング発光		—
アドバンスドワイヤレス ライティング		

🔍 ホットシューアダプター AS-15

別売のホットシューアダプター AS-15を装着すると、シンクローターミナルが利用できます。

✔️ 他社製フラッシュについてのご注意

他社製のフラッシュ（カメラのX接点に250V以上の電圧がかかるものや、アクセサリーシュー部の接点をショートしてしまうもの）を使用しないでください。カメラの正常な機能が発揮できないだけでなく、カメラおよびフラッシュのシンク口回路を破損することがあります。

使用できるアクセサリ

D7200には撮影領域を拡げるさまざまなアクセサリが用意されています。詳しくは最新のカatalogや当社のホームページなどでご確認ください。

電源	<ul style="list-style-type: none">• Li-ionリチャージャブルバッテリーEN-EL15 (□18、20) ※ EN-EL15の代わりにEN-EL15b/EN-EL15aも使えます。• バッテリーチャージャー MH-25a (□18)• マルチパワーバッテリーパックMB-D15• パワーコネクター EP-5B、ACアダプター EH-5b
ファインダー用 アクセサリ	<ul style="list-style-type: none">• 接眼補助レンズDK-20C• マグニファイングアイピースDK-21M• マグニファイヤー DG-2• アイピースアダプター DK-22• 角窓用変倍アングルファインダー DR-6
リモコン/ ワイレスリモート コントローラー/ リモートコード	<ul style="list-style-type: none">• リモコンML-L3 (□153)• ワイヤレスリモートコントローラー WR-R10/WR-T10 (□157)• ワイヤレスリモートコントローラー WR-1 (□157)• リモートコードMC-DC2 (□60)
GPSユニット	<ul style="list-style-type: none">• GPSユニットGP-1/GP-1A (□221)
無線/有線LAN アダプター	<ul style="list-style-type: none">• 通信ユニットUT-1• ワイヤレストランスミッター WT-5
HDMIケーブル	<ul style="list-style-type: none">• HDMIケーブルHC-E1
外部マイク	<ul style="list-style-type: none">• ステレオマイクロホンME-1 (□189)
アクセサリシュー カバー	<ul style="list-style-type: none">• アクセサリシューカバー BS-1
ボディーキャップ	<ul style="list-style-type: none">• ボディーキャップBF-1B、BF-1A
ニコンデジタル カメラ専用ソフト ウェア	<ul style="list-style-type: none">• Camera Control Pro 2• Capture NX-D• ViewNX-i

📌 使用できるアクセサリについて

- 国または地域によって、販売していない場合があります。
- アクセサリの最新情報は、当社ホームページやカatalogなどでご確認ください。

カメラのお手入れについて

保管について

長期間カメラを使用しないときは、必ずバッテリーを取り出してください。バッテリーを取り出す前には、カメラの電源がOFFになっていることを確認してください。

カメラを保管するときは、下記の場所は避けてください。

- 換気の悪い場所や湿度が60%を超える場所
- テレビやラジオなど強い電磁波を出す装置の周辺
- 温度が50℃以上、または-10℃以下の場所

クリーニングについて

カメラ本体	ほこりや糸くずをブローアード払い、柔らかい乾いた布で軽く拭き取ります。海辺でカメラを使用した後は、砂や塩を真水で湿らせた布で軽く拭き取り、よく乾かします。 ご注意：カメラ内部にゴミ、ほこりや砂などが入り込むと故障の原因となります。この場合、当社の保証の対象外となりますのでご注意ください。
レンズ・ミラー・ファインダー	ガラスは傷つきやすいので、ほこりや糸くずをブローアード払いします。スプレー缶タイプのプロアーは、缶を傾けずにお使いください（中の液体が気化されずに吹き出し、レンズ・ミラー・ファインダーを傷つけることがあります）。指紋や油脂などの汚れは、柔らかい布にレンズクリーナーを少量付けて、ガラスを傷つけないように注意して拭き取ります。
液晶モニター	ほこりや糸くずをブローアード払いします。指紋や油脂などの汚れは、表面を柔らかい布かセーム革で軽く拭き取ります。強く拭くと、破損や故障の原因となることがありますのでご注意ください。

アルコール、シンナーなど揮発性の薬品はお使いにならないでください。

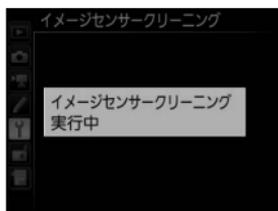
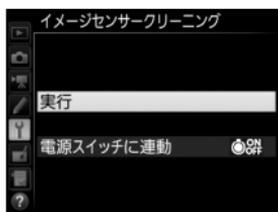
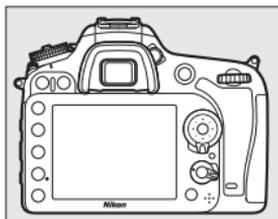
撮像素子のお手入れについて

レンズを取り付けるときなどに、撮像素子前面にゴミやほこりが付くと、画像に影が写り込むことがあります。イメージセンサークリーニングを作動させると、撮像素子前面のゴミをふり落とすことができます。

イメージセンサークリーニングは、メニューから操作する方法と、電源のON/OFF時に自動的に行う方法があります。

■ セットアップメニューの [イメージセンサークリーニング] から操作する

- 効果的にゴミをふり落とせるように、正位置（カメラを横位置で構えるときの向き）にしてください。
- セットアップメニューの [イメージセンサークリーニング] を選び、[実行] を選んで **OK** ボタンを押すと、イメージセンサークリーニングが開始されます。実行中は、表示パネルに **bU54** が点滅し、撮像素子のチェックも行われます。
- イメージセンサークリーニング実行中は、カメラの操作はできません。バッテリーやACアダプターを取り外さないでください。
- クリーニングが完了すると、セットアップメニュー画面に戻ります。

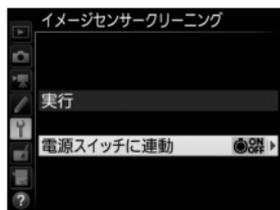


■ 電源のON/OFF時にイメージセンサークリーニング する

 ON 電源ONで実行	電源ONと同時にイメージセンサークリーニングが作動します。
 OFF 電源OFFで実行	電源OFFと同時にイメージセンサークリーニングが作動します。
 ON/OFF 電源ONとOFFで実行	電源ON、OFFと同時にイメージセンサークリーニングが作動します。
実行しない	電源ON、OFFしてもイメージセンサークリーニングは作動しません。

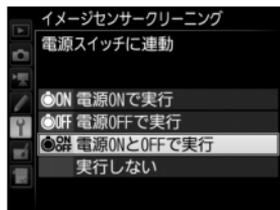
1 [イメージセンサークリーニング] 画面で【電源スイッチに連動】を 選ぶ

- [電源スイッチに連動] を選んでマルチセクターの▶を押すと、[電源スイッチに連動] 画面が表示されます。



2 イメージセンサークリーニングの方 法を選ぶ

-  ボタンを押して設定します。



❑ イメージセンサークリーニングについてのご注意

- 電源スイッチに連動してイメージセンサークリーニングが作動しているときにカメラを操作すると、イメージセンサークリーニングは中断します。
- カメラの電源ON時に内蔵フラッシュの充電が行われるときは、カメラの電源ONと同時にイメージセンサークリーニングが作動する設定になっていても、イメージセンサークリーニングを行わないことがあります。
- 完全にゴミを取り除けないことがあります。そのときは、撮像素子前面を市販のプロアーで掃除するか、ニコンサービス機関にご相談ください。
- イメージセンサークリーニングを連続して行くと、内部の回路を保護するため、一時的に作動しなくなる場合があります。少し時間をおくと再び作動するようになります。

■ 撮像素子前面をプロアーで掃除する

イメージセンサークリーニング (Q314) でゴミやほこりを取りきれないときは、撮像素子前面を次の手順でクリーニングできます。ただし、カメラ内部の撮像素子は非常に傷つきやすいため、ニコンサービス機関にクリーニングをお申し付けくださることをおすすめします。

- 作業中のバッテリー切れを防ぐため、十分に充電されたバッテリー、または別売のパワーコネクターとACアダプターを組み合わせしてお使いください。
- セットアップメニューの [クリーニングミラーアップ] を使用します。バッテリー残量表示が  以下の場合、このメニュー項目は操作できません。

1 カメラの電源をOFFにしてからレンズを取り外す

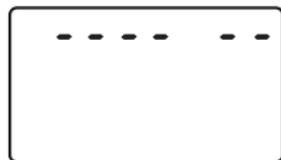
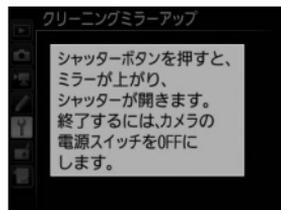
- レンズを取り外したら、カメラの電源をONにしてください。

2 セットアップメニューで [クリーニングミラーアップ] を選んでマルチセクターの を押す



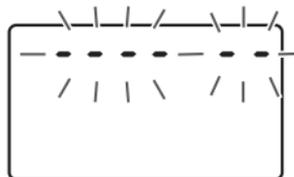
3 OK ボタンを押す

- クリーニングミラーアップの待機状態になります。
- 液晶モニター、表示パネル、ファインダー内表示に右のように表示されます。
- 撮像素子のお手入れを止めるには、カメラの電源をOFFにしてください。



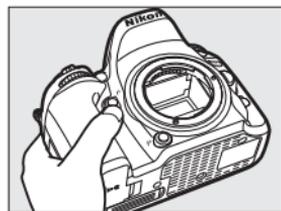
4 シャッターボタンを全押しする

- ミラーが上がリ、シャッターが開いた状態になります。
- このとき、表示パネルは右のような点滅表示になります。ファインダー内の表示は消灯します。



5 カメラの内部に光が当たるようにカメラを持ち、ゴミやほこりが付いていないかどうかを点検する

- ゴミやほこりが付いていない場合は、手順7にお進みください。



6 撮像素子前面に付いたゴミやほこりをブローアード払う

- ブラシの付いていないブローアードをお使いください。ブラシで撮像素子の表面に傷が付くことがあります。
- ブローアードで取り除けない汚れがある場合は、ニコンサービス機関にクリーニングをお申し付けください。絶対に、手でこすったり、布で拭き取ったりしないでください。



7 カメラの電源をOFFにし、付属のボディーキャップを付ける

- ミラーがダウンしてシャッター幕が閉じます。

✓ 作業中のシャッター幕の破損を防ぐために

カメラのシャッター幕は非常に破損しやすい部品です。シャッター幕はカメラに電源の供給がなくなると、自動的に閉じる構造になっています。作業中に不意にシャッター幕が閉じて破損することを防ぐために、次の点にご注意ください。

- 作業中に電源をOFFにしないでください。
- 作業中にバッテリーやACアダプターを取り外さないでください。
- ミラーアップ中にバッテリー残量が少なくなった場合、電子音が鳴り、セルフタイマーランプが点滅してお知らせします。約2分経過するとシャッター幕が閉じてミラーがダウンするので、直ちに作業を終了してください。

✔ 撮像素子前面に付着するゴミなどについて

撮像素子前面には、カメラからレンズまたはボディキャップを取り外した際に外部からカメラ内に入ったゴミや、まれにカメラ内部の潤滑剤や細粉などが付着することがあり、撮影条件によっては撮像素子前面に付着したゴミや潤滑剤、細粉などが撮影画像に写り込む場合があります。カメラ内へのゴミの侵入を防止するため、ほこりの多い場所でのレンズ交換やボディキャップの着脱は避け、カメラ本体のマウント部およびレンズのマウント部、ボディキャップのゴミを除去してからカメラに取り付けてください。レンズを外してカメラを保管するときは、必ず付属のボディキャップを装着してください。撮像素子前面に付着したゴミなどをイメージセンサークリーニング (□314) で取り除ききれないときは、316ページの手順でクリーニングしていただくか、ニコンサービス機関にクリーニングをお申し付けください。なお、ゴミの写り込みは、画像加工アプリケーションなどで修正できます。

✔ 定期点検、オーバーホールのおすすめ

カメラは精密機械ですので、1～2年に1度は定期点検を、3～5年に1度はオーバーホールすることをおすすめします (有料)。

- 特に業務用にお使いの場合は、早めに点検整備を受けてください。
- より安心してご愛用いただけるよう、お使いのレンズやスピードライトなども併せて点検依頼されることをおすすめします。

カメラとバッテリーの取り扱い上のご注意

カメラの使用上のご注意

● 強いショックを与えない

カメラやレンズを落としたり、ぶつけたりしないようにご注意ください。強い衝撃や振動を加えると、破損したり精密に調整された部分に悪影響を及ぼします。

● 水にぬらさない

カメラは水にぬらさないようにご注意ください。カメラ内部に水滴が入ったりすると部品がさびついてしまい、修理費用が高額になるだけでなく、修理不能になることがあります。

● 急激な温度変化を与えない

極端に温度差のある場所に急にカメラを持ち込むと、カメラ内外に水滴が生じ、故障の原因となります。カメラをバッグやビニール袋などに入れて、周囲の温度になじませてからお使いください。

● 強い電波や磁気の発生する場所で撮影しない

強い電波や磁気を発生するテレビ塔などの周囲や、強い静電気の周囲では、記録データが消滅したり、撮影画像へのノイズ混入等、カメラが正常に機能しないことがあります。

● 長時間、太陽に向けて撮影または放置しない

太陽などの高輝度被写体に向けて長時間直接撮影したり、放置したりしないでください。過度の光照射は撮像素子の褪色・焼き付きを起こすおそれがあります。また、その際撮影された画像に、真っ白くにじみが生じることがあります。

● カメラ本体のお手入れについて

カメラ本体のお手入れの際は、ブロアーでゴミやほこりを軽く吹き払ってから、乾いた柔らかい布で軽く拭いてください。特に、海辺で使った後は、真水を数滴たらした柔らかい清潔な布で塩分を拭き取ってから、乾いた柔らかい布で軽く拭いて乾かしてください。まれに、ブラシなどで表示パネルを拭いた場合に、静電気が表示パネルが点灯したり、黒く変色したりすることがありますが、故障ではありません。しばらくすると元に戻ります。

● ミラーやレンズの手入れ方法について

ミラーやレンズは傷が付きやすいので、ゴミやほこりが付いているときは、プロアーで軽く吹き払う程度にしてください。なお、スプレー缶タイプのプロアーの場合、スプレー缶を傾けずにお使いください（中の液体が気化されずに吹き出し、ミラーやレンズを傷つける場合があります）。レンズに万一指紋などが付いてしまった場合は、柔らかい清潔な布に市販のレンズクリーナーを少量湿らせて、軽く拭き取ってください。

● 撮像素子の手入れ方法について

撮像素子のクリーニングの方法については□314、316をご覧ください。

● レンズの信号接点について

レンズの信号接点を汚さないようにご注意ください。

● シャッター幕に触れない

シャッター幕は非常に薄いため、押さえたり、突いたり、プロアーなどで強く吹くなどは、絶対にしないでください。傷や変形、破損などの原因となります。

● 風通しのよい場所に保管する

カビや故障などを防ぐため、風通しのよい乾燥した場所を選んでカメラを保管してください。防虫剤があるところ、磁気を発生する器具のそば、高温となる夏季の車内、使用しているストーブの前などにカメラを置かないでください。故障の原因になります。

● 長期間使用しないときは、バッテリーを取り出し、乾燥剤と一緒に保管する

カメラを長期間使用しないときは、バッテリーの液もれなどからカメラを保護するために、必ずカメラからバッテリーを取り出しておいてください。保管する際は、カメラをポリエチレン袋などに乾燥剤と一緒に入れておくより安全です。ただし、皮ケースをビニール袋に入れると、変質することがありますので避けてください。バッテリーは高温、多湿となる場所を避けて保管してください。乾燥剤（シリカゲル）は湿気を吸うと効力がなくなるので、ときどき交換してください。カメラを長期間使用しないまま放置しておく、カビや故障の原因となることがあるので、月に一度を目安にバッテリーを入れ、カメラを操作することをおすすめします。

● バッテリーやACアダプターを取り外すときは、必ずカメラの電源をOFFにする

カメラの電源がONの状態、バッテリーを取り出したり、ACアダプターを取り外すと、故障の原因となります。特に撮影中や記録データの削除中に前記の操作は行わないでください。

● 液晶モニターについて

- モニター画面は、非常に精密度の高い技術で作られており、99.99%以上の有効ドットがありますが、0.01%以下でドット抜けするものがあります。そのため、常時点灯（白、赤、青、緑）あるいは非点灯（黒）の画素が一部存在することがありますが、故障ではありません。また、記録される画像には影響ありません。あらかじめご了承ください。
- 屋外では日差しの加減で液晶モニターが見えにくい場合があります。
- 液晶モニター表面を強くこすったり、強く押しついたりしないでください。液晶モニターの故障やトラブルの原因になります。もしゴミやほこり等が付着した場合は、ブローアーで吹き払ってください。汚れがひどいときは、柔らかい布やセーム革等で軽く拭き取ってください。万一、液晶モニターが破損した場合、ガラスの破片などでケガをするおそれがあるので充分ご注意ください。中の液晶が皮膚や目に付着したり、口に入ったりしないよう、充分ご注意ください。

バッテリーの使用上のご注意

お使いになる前に、必ず「安全上のご注意」(□x~xvi)をお読みになり、記載事項をお守りください。

- バッテリーの使用方法を誤ると液もれにより製品が腐食したり、バッテリーが破裂したりするおそれがあります。次の使用上の注意をお守りください。
 - バッテリーはカメラの電源をOFFにしてから入れる。
 - バッテリーを長時間使用した後は、バッテリーが発熱していることがあるので注意する。
 - バッテリーの端子は、汚さないように注意する。
 - 必ず指定のバッテリーを使う。
 - バッテリーを火の中に投入したり、ショートさせたり、分解したりしない。
 - カメラやチャージャーから取り外したバッテリーには、必ず端子カバーを付ける。
- カメラの使用直後など、バッテリーの温度が高くなっている場合は、温度が下がるのを待ってから充電してください。バッテリー内部の温度が高い状態では、充電ができなかったり、または不完全な充電になるばかりでなく、バッテリーの性能が劣化する原因になります。
- しばらく使わない場合は、カメラでバッテリーを使い切った状態でカメラから取り外し、涼しいところで保管してください。周囲の温度が15℃～25℃くらいの乾燥したところをおすすめします。暑いところや極端に寒いところは避けてください。
- 使用後のバッテリーは半年以内に充電するようおすすめします。長期間保管する場合は、半年に一回程度充電した後、カメラでバッテリーを使い切ってから涼しいところで保管してください。

- 使用しないときは必ずバッテリーをカメラやチャージャーから取り外してください。付けたままにしておくと、電源が切れていても微少電流が流れていますので、過放電になり使えなくなるおそれがあります。
- バッテリーは0℃～40℃の範囲を超える場所ではお使いにならないでください。バッテリーの性能が劣化したり、故障の原因となります。周囲の温度が5℃～35℃の室内で充電してください。バッテリーの温度が0℃以下、60℃以上のときは、充電をしません。
- バッテリーの温度が0℃～15℃、45℃～60℃のときは、充電できる容量が少なくなる、または充電時間が長くなることがあります。
- 一般的な電池特性として、周囲の温度が下がるにつれ、バッテリーに充電できる容量は少なくなります。新品のバッテリーでも、約5℃以下の低温で充電した場合、セットアップメニューの【電池チェック】(□□283)で劣化度が「1」と表示されることがありますが、約20℃以上で再充電すると劣化度の表示は「0」に戻ります。
- 一般的な電池特性として、周囲の温度が下がるにつれ、使用できるバッテリー容量は少なくなります。このカメラでは、温度変化に対して使用できる容量も的確にバッテリー残量として表示します。そのため、充分に充電したバッテリーでも、充電したときよりも温度が低くなると、充電直後から残量が減り始めた表示になることがあります。
- カメラの使用後は、バッテリーが熱くなっていることがあります。取り出しの際はご注意ください。

● 撮影前にバッテリーをあらかじめ充電する

撮影前にバッテリーを充電してください。付属のバッテリーは、ご購入時にはフル充電されていません。

● 予備バッテリーを用意する

撮影の際は、充電された予備のバッテリーをご用意ください。特に、海外の地域によってはバッテリーの入手が困難な場合があるので、ご注意ください。

● 低温時にはフル充電したバッテリーを使用し、予備のバッテリーを用意する

低温時に消耗したバッテリーを使用すると、カメラが作動しないことがあります。低温時にはフル充電したバッテリーを使用し、保温した予備のバッテリーを用意して暖めながら交互に使用してください。低温のために一時的に性能が低下して使えなかったバッテリーでも、常温に戻ると使えることがあります。

● バッテリーの残量について

- 電池残量がなくなったバッテリーをカメラに入れたまま、何度も電源のON/OFFを繰り返すと、バッテリーの寿命に影響を及ぼすおそれがあります。電池残量がなくなったバッテリーは、充電してお使いください。
- 十分に充電したにもかかわらず、室温での使用状態でバッテリーの使用時間が極端に短くなってきた場合は、バッテリーの寿命です。新しいリチャージャブルバッテリーをお求めください。

● 充電が完了したバッテリーを続けて再充電しない

バッテリー性能が劣化します。

● 小型充電式電池のリサイクル

不要になった充電式電池は、貴重な資源を守るために、廃棄しないで充電式電池リサイクル協力店へお持ちください。



Li-ion00

数字の有無と数値は、
電池によって異なります。

チャージャーの使用上のご注意

- 充電中にチャージャーをゆすったり、充電中のバッテリーに触れたりすると、振動や静電気の影響により、きわめてまれではありますが、未充電にもかかわらず充電完了表示になる場合があります。このような場合にはバッテリーを取り外し、再度セットして充電を再開してください。
- チャージャーの端子をショートさせないでください。発熱、破損の原因となります。
- バッテリーをカメラやチャージャーから取り外しておくときは、ショートを防止するため、付属の端子カバーを取り付けてください。
- チャージャーを使用しないときは、電源プラグをコンセントから抜いてください。
- バッテリーチャージャー MH-25a対応のバッテリー以外は充電しないでください。

故障かな？と思ったら

カメラの動作がおかしいときは、ご購入店やニコンサービス機関にお問い合わせになる前に、次の項目をご確認ください。

電源・表示関連

● 電源ONの状態、カメラの操作ができない

- 画像や動画の記録などの処理が終わるまでお待ちください。
- 操作できない状態が続くときは、電源をOFFにする操作をしてください。
- 電源がOFFにならない場合は、バッテリーを入れ直してください。
- ACアダプター使用時は付け直してください。
 - 記録中であったデータは保存されません。
 - 保存済みのデータはバッテリーやACアダプターの取り外しでは失われません。

● ファインダー内がはっきり見えない

- ファインダー内の見え方は、視度調節ダイヤルを回して調節できます(□23)。
- 視度調節しても被写体がはっきり見えない場合は、AFモード(□79)を**AF-S**、AFエリアモード(□82)をシングルポイントAFに設定します。次に、中央のフォーカスポイントを選んで、コントラストの高い被写体にオートフォーカスでピントを合わせます。その状態で被写体が最もはっきり見えるように調節してください。
- 視度調節ダイヤルの範囲を超える補正が必要な場合は、別売の接眼補助レンズをお使いになることをおすすめします(□312)。

● ファインダー内が暗い

バッテリー残量は充分ですか？ バッテリーが入っていない場合や、入っていても残量がない場合は、ファインダー内が暗く表示される場合があります(□18、20)。

● ファインダー内や表示パネル、液晶モニターの表示が、すぐに消えてしまう

カスタムメニューc2 [半押しタイマー] やc4 [モニターのパワーオフ時間] で、表示が消えるまでの時間を設定できます(□272)。

● 表示パネルやファインダー内の表示が薄い、表示が遅い

低温や高温のときは液晶表示の濃度が変わったり、応答速度が遅くなる場合があります。

● ファインダー内に線や模様が見える

液晶の特性上、フォーカスポイントなどから外側に延びる細い線が見えたり、フォーカスポイントを照明するときファインダー内が赤くなることがありますが、いずれも故障ではありません。

撮影関連（全撮影モード共通）

- **電源をONにしてから、撮影できる状態になるまでに時間がかかる**
SDカード内にフォルダーや画像が大量にあるときは、ファイル検索のため時間がかかる場合があります。
- **シャッターがきれない**
 - 残量のあるSDカードが入っていますか？（□20）
 - SDカードがロックされていませんか？（□27）
 - カスタムメニュー f7 [カードなし時リリース] が [リリース禁止] になっていませんか？（□278）
 - 内蔵フラッシュの充電中はシャッターがきれません（□146）。
 - ピント表示（●）は点灯していますか？
 - Gタイプ、Eタイプレンズ以外のCPUレンズを装着している場合は、レンズの絞りリングを最小絞り（最も大きい数値）に設定しないとシャッターがきれません。表示パネルに **fE E** と表示されている場合、カスタムメニュー f5 [コマンドダイヤルの設定] の [絞り値の設定方法] を [絞りリング] に設定すると、レンズの絞りリングで絞り値を設定できます（□278）。
 - CPUレンズが装着されていますか？ 非CPUレンズは撮影モード **A** または **M** 以外ではお使いになれません（□50）。
- **シャッターがきれるのが遅い**
カスタムメニュー d4 [露出ディレーモード] を [しない] にしてください（□273）。
- **リモコンの送信ボタンを押しても撮影できない**
 - リモコンの電池残量はありますか？
 - リモコンモードに設定されていますか？（□153）
 - フラッシュの充電中は、シャッターがきれません（□146）。
 - 送信ボタンを押す前にカスタムメニュー c5 [リモコン待機時間（ML-L3）] を過ぎると、リモコンモードはリセットされます（□273）。
 - 極端な逆光状態などでは、リモコン撮影ができない場合があります。
- **連続撮影できない**
内蔵フラッシュが発光する場合は、連続撮影できません（□146）。

● ピントが合わない

- マニュアルフォーカスになっていませんか？ オートフォーカスで撮影するには、フォーカスモードセレクターを**AF**に合わせてください (□79)。
- 次のような被写体では、オートフォーカスではピントが合わせづらい場合があります。マニュアルフォーカス、フォーカスロックを利用して撮影してください (□88、92)。

明暗差がはっきりしない/遠くのものゝ近くのものゝ混在する/連続した繰り返しパターン/輝度差が著しく異なる/背景に対して主要被写体が小さい/絵柄が細かい

● シャッターボタンを半押ししても、フォーカスロックされない

AFモードが**AF-C**または**AF-A**で自動的に**AF-C**が選ばれたときは、AE/AFロックボタンを押してフォーカスをロックしてください (□88)。

● フォーカスポイントを選べない

- フォーカスポイントロックレバー (マルチセレクター) が **L** (ロック) の位置になっていませんか？ フォーカスポイントロックレバーを **●** の位置に合わせて、ロックを解除してください (□85)。
 - AFエリアモードがオートエリアAFのときは、選べません (□82)。
 - ライブビュー時にAFエリアモードを顔認識AFに設定している場合、カメラが人物の顔を自動的に認識するとフォーカスポイントを選べません (□84)。
 - 画像の再生時またはメニューの操作時には、フォーカスポイントを選べません (□14、223)。
 - 半押しタイマーがオフになっていませんか？ フォーカスポイントを選ぶには、シャッターボタンを半押しして半押しタイマーをオンにしてください (□35)。
-

● AFモードを変更できない

フォーカスモードセレクターが**M** (マニュアルフォーカス) になっていませんか？ (□92)

● AFエリアモードを変更できない

フォーカスモードセレクターが**M** (マニュアルフォーカス) になっていませんか？ (□92)

● 画像サイズを変更できない

[画質モード] が [RAW] のときは、画像サイズを変更できません (□75)。

● 画像の記録に時間がかかる

静止画撮影メニュー [長秒時ノイズ低減] が [する] になっていませんか？ (□266)

● 画像にノイズ（ざらつき、むら、すじ、輝点）が発生する

- ISO感度を低く設定して撮影すると、ざらつき、むら、すじ、輝点を低減できます。
 - シャッタースピードが1秒より低速な場合は、静止画撮影メニュー [長秒時ノイズ低減] を [する] にして撮影すると、むら、輝点を低減できます (□266)。
 - 高温となる場所での撮影や長時間露出撮影などでカメラが熱くなっている場合は、むら、輝点が強調されることがあります。カメラの電源をOFFにしてカメラ内部の温度が下がるまで涼しいところにしばらく置いてから撮影すると、むら、輝点を低減できます。
 - 一部のスピードライトを使用したときに ISO 感度を高く設定して撮影すると、すじが発生することがあります。この場合、ISO感度を下げて撮影してください。
 - 次の場合、静止画撮影メニューまたは動画撮影メニューの [高感度ノイズ低減] を [しない] 以外に設定すると、ざらつきを低減できます (□266、269)。
 - ISO感度を高く設定している場合
 - [感度自動制御] を [する] にしてISO感度が高くなった場合
 - ISO感度を [Hi-BW1] または [Hi-BW2] に設定している場合
 - 次の条件で撮影する場合、ISO 感度を高く設定しているとざらつき、むら、すじ、輝点が強調されることがあります。
 - アクティブD-ライティングを [しない] 以外に設定して撮影する場合
 - [ピクチャーコントロール] で [フラット] (□126) を選んで撮影する場合
 - ピクチャーコントロール調整で調整する値が大きい場合 (□129)
 - 多重露出撮影する場合
 - 長時間露出撮影する場合
 - 高温となる場所で撮影する場合
 - 撮影モード  で暗い被写体を撮影する場合、ざらつき、むら、すじが強調されることがあります。
-

● AF補助光ランプが光らない

- 次の場合、AF補助光を照射しません。
 - ファインダー撮影時のAFモードが**AF-C**または**AF-A**で自動的に**AF-C**が選ばれたとき (□79)
 - ライブビュー時
 - オートエリアAF以外のAFエリアモードで中央以外のフォーカスポイントが選択された場合 (□82、85)
- カスタムメニュー a9 [内蔵**AF補助光の照射設定**] が [しない] になっていませんか? (□271)
- AF補助光ランプを連続して使うと、保護機能が働いて一時的に照射が制限されます。少し時間をおくと再び照射するようになります。また、短時間に何度も使うと、AF補助光ランプが熱くなることがあるのでご注意ください。

● 画像にゴミが写り込む

- レンズの前面または背面 (マウント側) が汚れていませんか?
- 撮像素子の前面にゴミが付着していませんか? イメージセンサークリーニングを行ってください (□314)。

● 動画に音声が録音されない

動画撮影メニュー [マイク感度] が [録音しない] になっていませんか?

● ライブビューが開始されなかったり、自動的に終了する

- 次のような場合は、高温によるカメラへの損傷を抑えるために、ライブビューの開始を制限したり自動的に終了したりすることがあります。
 - 撮影時の気温が高い場合
 - ライブビュー撮影や動画撮影を長時間行った場合
 - 連続撮影を行った直後など
- カメラが熱くなってライブビューを開始できない場合は、カメラ内部の温度が下がるまでライブビューを一時休止してください。このとき、カメラボディ表面が熱くなることがありますが故障ではありません。

● ライブビューで画面にノイズ (ざらつき、むら、すじ、輝点) が発生する

- ライブビューで長時間カメラを使用すると、カメラ内部の温度が上昇することがあるため、ざらつき、むら、輝点が発生する場合があります。撮影時以外は、ライブビューを終了してください。
- ライブビュー時、**Q** (QUAL) ボタンで画面を拡大すると (□36)、ざらつき、むら、すじや色の変化が発生しやすくなります。
- 動画撮影メニューの [画像サイズ/フレームレート] の設定によっては (□161)、撮影した動画のざらつき、むら、輝点の見え方が異なります。

● ライブビューで画面にちらつきや横縞が生じる

セットアップメニュー [フリッカー低減] の設定を、カメラをお使いになる地域の電源周波数に合わせてください (□282)。

● ライブビューで画面に横帯状の明るい部分が生じる

撮影している周囲でスピードライトやフラッシュなどが発光されたり、イルミネーションなどの点滅する光源がある場合には、画面の一部が明るくなったり、明るい横帯が発生することがあります。

● 選択または設定できないメニュー項目がある

撮影モードによっては、設定できない機能があります。この場合、その項目は選択できません。

撮影関連（撮影モードP、S、A、M）

● シャッターがきれない

- CPUレンズが装着されていますか？ 非CPUレンズは**A、M**以外の撮影モードではお使いになれません（□50、300）。
- 撮影モード**M**でシャッタースピードを**bulb**（バルブ）または**-**（タイム）に設定し、そのまま撮影モードを**S**に変更した場合は、シャッタースピードを再設定してから撮影してください（□52）。

● 設定できるシャッタースピードの範囲が狭い

フラッシュ撮影時は、シャッタースピードが制限されます。フラッシュ撮影時の同調シャッタースピードは、カスタムメニューe1【フラッシュ撮影同調速度】で、1/320～1/60秒の範囲で設定できます。【1/320秒（オートFP）】または【1/250秒（オートFP）】に設定して、別売のオートFPハイスピードシンクロ対応スピードライトを使用すると、全シャッタースピードに同調可能なオートFPハイスピードシンクロが可能です（□275）。

● 画像の色合いがおかしい

- ホワイトバランスは正しく設定されていますか？（□106）
- ピクチャーコントロールは正しく設定されていますか？（□126）

● ホワイトバランスのプリセットマニュアルのデータが取得できない

被写体が明るすぎるか、暗すぎます（□118）。

● ホワイトバランスのプリセットマニュアルのデータとして設定できない画像がある

この機種以外のカメラで撮影した画像は、プリセットマニュアルデータとして設定することはできません（□123）。

● ホワイトバランス（WB）ブラケット撮影ができない

- RAWまたはRAWを含む画質モードの場合、ホワイトバランスブラケット撮影はできません（□74、199）。
 - ホワイトバランスブラケットと多重露出による撮影を同時に行うことはできません（□208）。
-

-
- **[ピクチャーコントロール] の効果が安定しない**
[ピクチャーコントロール]、[カスタムピクチャーコントロール] の調整画面で、[輪郭強調]、[明瞭度]、[コントラスト]、[色の濃さ(彩度)] のいずれかが [A] (オート) に設定されています。ピクチャーコントロールの効果を一定にするには、これらの項目を [A] (オート) 以外に設定してください (□130)。
 - **測光モードが変更できない**
AEロック中は、測光モードを変更できません (□102)。
 - **露出補正ができない**
撮影モードがMの場合、露出補正を行っても、露出インジケータの表示が変化するだけで、シャッタースピードと絞り値は変化しません (□104)。
 - **画像の一部が赤っぽくなる**
シャッタースピードを **b u l b** (バルブ) または **- -** (タイム) にした場合など、長時間露出で撮影すると、画像の一部が赤っぽくなる場合があります。この現象は、静止画撮影メニュー [長秒時ノイズ低減] を [する] に設定することで低減できます (□266)。
 - **画像にむらが出る**
シャッタースピードを **b u l b** (バルブ) または **- -** (タイム) にした場合など、長時間露出で撮影すると、画像の一部にむらが出る場合があります。この現象は、静止画撮影メニュー [長秒時ノイズ低減] を [する] に設定することで低減できます (□266)。
-

再生関連

- **RAW画像が表示されない**
[画質モード] を [RAW+FINE]、[RAW+NORMAL]、[RAW+BASIC] にして撮影した画像は、JPEG画像しか再生されません (□75)。
 - **他のカメラで撮影した画像が表示されない**
この機種以外で撮影した画像は、正常に表示されないことがあります。
 - **全ての画像が表示されない**
再生メニュー [再生フォルダー設定] を [全てのフォルダー] にしてください (□261)。
-

● **画像の縦位置・横位置が正しく表示されない**

- 再生メニュー [縦位置自動回転] が [しない] になっていませんか? (□262)
- セットアップメニュー [縦横位置情報の記録] が [しない] になっていませんか? (□283)
- 撮影直後の画像確認では自動回転はしません (□224)。
- カメラを上向き・下向きにして撮影すると、縦横位置情報が正しく得られない場合があります (□283)。

● **画像が削除できない**

- SDカードがロックされていませんか? (□27)
- 画像にプロテクトが設定されていませんか? (□239)

● **画像が編集できない**

このカメラでは編集できない画像です。

● **画像を記録するのに [撮影画像がありません] と表示される**

再生メニューの [再生フォルダー設定] で、画像が入っているフォルダーを選んでください (□261)。

● **プリント指定ができない**

- SDカードがロックされていませんか? (□27)
- SDカードの空き容量が不足していませんか? (□25)

● **ダイレクトプリントができない**

RAW画像はダイレクトプリントできません。

● **RAW画像をプリントできない**

- 画像編集メニューの [RAW現像] などでRAW画像からJPEG画像を作成してからプリントしてください (□294)。
- RAW 画像はパソコンに転送してから、Capture NX-D などのソフトウェアを使ってプリントしてください (□i)。

● **画像がHDMI対応機器で再生できない**

HDMIケーブルが正しく接続されているか確認してください。

● **HDMI-CEC対応機器のリモコンから制御できない**

- セットアップメニューの [HDMI] の [機器制御] が [する] になっているか確認してください (□284)。
- テレビ側のHDMI-CECの設定については、テレビの使用説明書などをご覧ください。

● **画像をパソコンに転送できない**

お使いのパソコンのOSによっては、カメラをパソコンに接続して画像を転送できないことがあります。カードリーダーなどの機器を使って、SDカードの画像をパソコンに保存してください。

● Capture NX-Dでイメージダストオフ機能が動作しない

次の場合は、イメージセンサークリーニングにより、撮像素子前面のゴミの位置が変わってしまうため、イメージダストオフ機能を使用できません。

- イメージセンサークリーニングを実行する前に撮影した画像に対して、クリーニング後に取得したイメージダストオフデータを使ってゴミの写り込みを取り除こうとしたとき
- イメージセンサークリーニングを実行する前に取得したイメージダストオフデータを使って、クリーニング後に撮影した画像に対してゴミの写り込みを取り除こうとしたとき (□282)

● [ピクチャーコントロール]、[アクティブD-ライティング]、[ヴェイネットコントロール] の効果がパソコンで確認できない

RAW画像で記録した場合、当社製ソフトウェア以外では機能しません。RAW画像の現像はCapture NX-Dをお使いください。

Wi-Fi (無線LAN) 関連

● スマートデバイスにカメラのSSID (ネットワーク名) が表示されない

- セットアップメニュー [Wi-Fi] の [通信機能] が [有効] になっていることを確認してください (□244)。
- スマートデバイスのWi-Fi機能をOFFにしてからONにし直してみてください。

● NFCでカメラとスマートデバイスを接続できない

カメラのN (Nマーク) (□247) とスマートデバイスのNFCアンテナ部をタッチしても接続できない場合は、その他の方式で接続してください (□244)。

その他

● 撮影日時が正しく表示されない

カメラの内蔵時計は合っていますか？ カメラの内蔵時計は腕時計などの一般的な時計ほど精度は高くないので、定期的に日時設定を行うことをおすすめします (□22、283)。

● 表示されているメニュー項目が選べない

- SDカードをカメラに挿入していないときは、選べない項目があります。
 - 一部のメニュー項目は、カメラの設定状況によって選べない場合があります。
 - セットアップメニュー [電池チェック] は、電源に別売のパワーコネクターとACアダプターを使用している場合は選べません (□283)。
-

警告メッセージ

表示パネル、ファインダー、液晶モニターに表示される警告メッセージの意味は次の通りです。

こんなとき		原因	対処方法	📖
表示 パネル	ファイン ダー 内表示			
 (点減)	 (点減)	レンズの絞りリングが最小絞りになっています。	レンズの絞りリングを最小絞り（最も大きい値）にしてください。	27
		バッテリー残量は残りわずかです。	バッテリー交換の準備をしてください。	18、 20
 (点減)	 (点減)	<ul style="list-style-type: none"> バッテリーが消耗しています。 	<ul style="list-style-type: none"> バッテリーを交換してください。 	20
		<ul style="list-style-type: none"> バッテリーとの情報通信ができません。 	<ul style="list-style-type: none"> バッテリーを充電してください。 	18
		<ul style="list-style-type: none"> 別売のマルチパワーバッテリーパック MB-D15装着時に、極端に消耗している Li-ion リチャージャブルバッテリー、またはカメラと通信できないバッテリーをカメラか MB-D15 のいずれかで使用しています。 	<ul style="list-style-type: none"> このバッテリーは使用できません。ニコンサービス機関にご相談ください。 極端に消耗したバッテリーを使用している場合は、充電してください。 カメラと通信できないバッテリーを使用している場合は、ニコン純正品のバッテリーと交換してください。 	382 18 xvii、 20、 312

こんなとき		原因	対処方法	📖
表示 パネル	ファイ ンダー 内表示			
ΔF	ΔF	開放絞りからの絞り段数が表示されていません。非CPUレンズが装着されているか、またはレンズが装着されていない状態で、レンズの開放絞り値が設定されていません。	レンズの開放絞り値を設定すると、レンズの絞り値が表示されます。	218
F - - (点滅)	F - - (点滅)	レンズが装着されていないか、非CPUレンズが装着されています。	<ul style="list-style-type: none"> • CPUレンズを装着してください。すでにCPUレンズを装着している場合は、一度レンズを取り外してから、レンズを装着し直してください。 • 非 CPU レンズを装着しているときは、撮影モードAまたはMで撮影してください。 	21、 296 50
—	▶ ◀ (点滅)	オートフォーカスでピント合わせができません。	構図を変えるか、マニュアル(手動)でピント合わせを行ってください。	92

こんなとき		原因	対処方法	
表示 パネル	ファイ ンダー 内表示			
(シャッタース ピード表示、絞 り値表示のい ずれかまたは露 出インジケータ ーが点滅)		被写体が明るすぎてカメラの制御範囲を超えています。	<ul style="list-style-type: none"> ISO感度を低くしてください。 撮影モードがPのときは市販のNDフィルター（光量調節用）を使用してください（S、Aのときに下記の操作を行っても警告表示が消えない場合も同様に対応してください）。 撮影モードがSのときはシャッタースピードをより高速側にセットしてください。 撮影モードがAのときは絞りを絞り込んでください（より大きい数値）。 撮影モードがの場合は、撮影モードを切り換えてください。 	94 — 52 53 5
		被写体が暗すぎて、カメラの制御範囲を超えています。	<ul style="list-style-type: none"> ISO感度を高くしてください。 撮影モードがPのときはフラッシュを使用してください（S、Aのときに下記の操作を行っても警告表示が消えない場合も同様に対応してください）。 撮影モードがSのときはシャッタースピードをより低速側にセットしてください。 撮影モードがAのときは絞りを開いてください（より小さい数値）。 	94 143 52 53

こんなとき		原因	対処方法	📖
表示 パネル	ファイ ンダー 内表示			
b u l b (点滅)	b u l b (点滅)	撮影モードが S のときにシャッタースピードが b u l b にセットされています。	<ul style="list-style-type: none"> シャッタースピードを変えてください。 撮影モードMで撮影してください。 	52、 55
- - (点滅)	- - (点滅)	撮影モードが S のときにシャッタースピードが - - にセットされています。	<ul style="list-style-type: none"> シャッタースピードを変えてください。 撮影モードMで撮影してください。 	52、 55
b u S Y (点滅)	b S Y (点滅)	カメラが処理を行っています。	カメラが処理を終えるまでお待ちください。	—
—	⚡ (点滅)	フラッシュがフル発光しました。	撮影に必要な光量が不足している可能性があります。撮影距離、絞り値、調光範囲、ISO感度などをご確認ください。	147
F u l l (点滅)	F u l (点滅)	<ul style="list-style-type: none"> 画像を記録する空き容量がありません。 カメラが扱えるファイル数をオーバーしています。 	<ul style="list-style-type: none"> SDカードに記録されている画像を削除して、SDカードに画像ファイルが保存可能な状態にしてください。必要な画像はパソコンなどに転送してバックアップしてください。 新しいSDカードに交換してください。 	240 20
E r r (点滅)	E r r (点滅)	撮影中に何らかの異常を検出しました。	もう一度シャッターボタンを押してください。警告表示が解除されない場合や、頻繁に警告が表示される場合は、ニコンサービス機関にご相談ください。	382

こんなとき		原因	対処方法	📖
液晶モニター	表示パネル			
メモリーカードが入っていません。	(-E-)	SDカードが入っていないか、正しくセットされていません。	SDカードを正しくセットしてください。	20
このメモリーカードは壊れている可能性があるため、使用できません。カードを交換してください。	[Card, Error (点滅)]	<ul style="list-style-type: none"> SDカードへのアクセス異常です。 	<ul style="list-style-type: none"> このカメラ用のSDカードであるかどうかを確認してください。 SDカードが壊れている可能性があります。ニコンサービス機関にご連絡願います。 	368
		<ul style="list-style-type: none"> 新規フォルダーが作成できません。 	<ul style="list-style-type: none"> SDカードに記録されている画像を削除して、SDカードに画像ファイルが保存可能な状態にしてください。必要な画像はパソコンなどに転送してバックアップしてください。 	382
			<ul style="list-style-type: none"> 新しいSDカードに交換してください。 	240
	[Card, Error (点滅)]	Eye-Fiカードをコントロールできません。	<ul style="list-style-type: none"> Eye-Fiカードのファームウェアが最新版になっているか確認してください。 新しいEye-Fiカードに交換するか、必要な画像をパソコンなどに転送してバックアップした後、カメラでEye-Fiカードをフォーマットしてからご使用ください。 	— 20

こんなとき		原因	対処方法	📖
液晶モニター	表示パネル			
メモリーカードが書き込み禁止になっています。	[Err、---] (点滅)	SDカードの書き込み禁止スイッチがロックされています。	SDカードのロックを解除してください。	27
Eye-Fiカードは書き込み禁止の状態では使用できません。	[Err、Err] (点滅)	Eye-Fiカードの書き込み禁止スイッチがロックされています。	Eye-Fiカードのロックを解除してください。	27
このメモリーカードは初期化（フォーマット）されていません。フォーマットしてください。	[For] (点滅)	SDカードが正しく初期化されていません。	<ul style="list-style-type: none"> SDカードを初期化してください。 正しく初期化されたSDカードに交換してください。 	281 20
時計がリセットされました	—	内蔵時計の日時が設定されていません。	日時を設定してください。	22
ライブビューを開始できません。しばらくお待ちください。	—	カメラ内部の温度が高くなっています。	カメラ内部の温度が下がるまで、ライブビューを一時休止してください。	329
撮影画像がありません。	—	<ul style="list-style-type: none"> 撮影画像がありません。 再生するフォルダーの指定に問題があります。 	<ul style="list-style-type: none"> 画像が記録されているSDカードを入れてください。 再生メニューの[再生フォルダー設定]で、表示可能な画像があるフォルダーを選んでください。 	20 261
全ての画像が非表示に設定されています。	—	記録されている画像が非表示設定されているために表示されません。	再生メニューの[非表示設定]で、画像の非表示設定を解除してください。	261

こんなとき		原因	対処方法	
液晶モニター	表示パネル			
このファイルは表示できません。	—	<ul style="list-style-type: none"> パソコンで編集した画像など、DCF規格外の画像ファイルのため再生できません。 画像ファイルに異常があるため再生できません。 	パソコンで編集された画像を上書き保存しないでください。	—
このファイルは選択できません。	—	編集できない画像です。	このカメラで撮影または編集した画像しか画像編集できません。	—
この動画は編集できません。	—	編集できない動画です。	<ul style="list-style-type: none"> このカメラで撮影した動画しか編集できません。 2 秒未満の動画は編集できません。 	179
複数の接続先を検出したため接続を中止しました。しばらくしてから、接続をやり直してください。	—	スマートデバイスからの通信信号を受信中、複数の接続先を検出したため接続を中止しました。	しばらくしてから、接続をやり直してください。	—
エラーが発生しました	—	Wi-Fiの通信時に何らかのエラーが発生しました。	セットアップメニュー [Wi-Fi] の [通信機能] を [無効] にしてから、もう一度 [有効] にしてください。	284
カメラの温度が下がるまで通信機能は使えません。	—	カメラ内部の温度が高くなっています。	カメラの電源をOFFにして、カメラ内部の温度が下がるまでしばらく待ってから接続をやり直してください。	—

こんなとき		原因	対処方法	
液晶モニター	表示パネル			
プリンターの状態を確認してください。*	—	プリンターに異常があります。	用紙切れなどエラーの原因を取り除いた後、[継続]を選んで OK ボタンを押すと、プリントが再開されます（エラー内容によっては、[継続]を選べない場合があります）。	—
用紙を確認してください。*	—	指定したサイズ of 用紙がセットされていません。	指定したサイズの用紙をセットした後、[継続]を選んで OK ボタンを押して、プリントを再開してください。	—
紙詰まりです。*	—	用紙が詰まりました。	詰まった用紙を取り除いた後、[継続]を選んで OK ボタンを押して、プリントを再開してください。	—
用紙がありません。*	—	用紙がセットされていません。	指定したサイズの用紙をセットした後、[継続]を選んで OK ボタンを押して、プリントを再開してください。	—
インクを確認してください。*	—	インクに異常があります。	インクを確認した後、[継続]を選んで OK ボタンを押して、プリントを再開してください。	—
インクがありません。*	—	インクがなくなりました。	インクを交換した後、[継続]を選んで OK ボタンを押して、プリントを再開してください。	—

※ プリンターの使用説明書も併せてご覧ください。

主な仕様

■ ニコンデジタルカメラ D7200

型式

型式	レンズ交換式一眼レフレックスタイプデジタルカメラ
レンズマウント	ニコンFマウント (AFカップリング、AF接点付)
実撮影画角	ニコンDXフォーマット、焦点距離が約1.5倍のレンズのFXフォーマット (35mm判相当) での画角に相当

有効画素数

有効画素数	2416万画素
-------	---------

撮像素子

方式	23.5×15.6mmサイズCMOSセンサー
総画素数	2472万画素
ダスト低減機能	イメージセンサークリーニング、イメージダストオフデータ取得 (Capture NX-Dが必要)

記録形式

記録画素数	<ul style="list-style-type: none">• 撮像範囲 [DX (24×16)] の場合： 6000×4000 ピクセル (サイズL) 4496×3000 ピクセル (サイズM) 2992×2000 ピクセル (サイズS)• 撮像範囲 [1.3× (18×12)] の場合： 4800×3200 ピクセル (サイズL) 3600×2400 ピクセル (サイズM) 2400×1600 ピクセル (サイズS)• 撮像範囲 [DX (24×16)] で、ライブビュー時にライブビューセクターを裸にして静止画撮影する場合： 6000×3368 ピクセル (サイズL) 4496×2528 ピクセル (サイズM) 2992×1680 ピクセル (サイズS)• 撮像範囲 [1.3× (18×12)] で、ライブビュー時にライブビューセクターを裸にして静止画撮影する場合： 4800×2696 ピクセル (サイズL) 3600×2024 ピクセル (サイズM) 2400×1344 ピクセル (サイズS)
-------	---

記録形式

画質モード	<ul style="list-style-type: none"> • RAW 12ビット/14ビット（ロスレス圧縮、圧縮） • JPEG-Baseline準拠、圧縮率（約）：FINE（1/4）、NORMAL（1/8）、BASIC（1/16）サイズ優先時、画質優先選択可能 • RAWとJPEGの同時記録可能
ピクチャーコントロールシステム	スタンダード、ニュートラル、ピビッド、モノクローム、ポートレート、風景、フラット、いずれも調整可能、カスタムピクチャーコントロール登録可能
記録媒体	SDメモリーカード、SDHCメモリーカード、SDXCメモリーカード（SDHCメモリーカード、SDXCメモリーカードはUHS-I規格に対応）
ダブルスロット	順次記録、同時記録、RAW + JPEG分割記録ならびにカード間コピー可能
対応規格	DCF 2.0、DPOF、Exif 2.3、PictBridge

ファインダー

ファインダー	アイレベル式ペンタプリズム使用一眼レフレックス式ファインダー
視野率	<ul style="list-style-type: none"> • 撮像範囲 [DX (24×16)]：上下左右とも約100%（対実画面） • 撮像範囲 [1.3× (18×12)]：上下左右とも約97%（対実画面）
倍率	約0.94倍（50mm f/1.4レンズ使用、∞、-1.0 m ⁻¹ のとき）
アイポイント	接眼レンズ面中央から19.5 mm（-1.0 m ⁻¹ のとき）
視度調節範囲	-2～+1 m ⁻¹
ファインダースクリーン	B型クリアマットスクリーンⅡ（AFエリアフレーム付、構図用格子線表示可能）
ミラー	クイックリターン式
プレビュー	撮影モードA、Mでは設定絞り値まで絞り込み可能、その他の撮影モードでは制御絞り値まで絞り込み可能
レンズ絞り	瞬間復元式、電子制御式

レンズ

交換レンズ

- **G、EまたはDタイプレンズ**（PCレンズ一部制限あり）
- **G、EまたはDタイプ以外のAFレンズ**（IX用レンズ、F3AF用レンズ使用不可）
- **Pタイプレンズ**
- **DXレンズ**
- **非CPUレンズ**（ただし、非AIレンズは使用不可）：撮影モード**A、M**で使用可能
- 開放F値がF5.6以上明るいレンズで、フォーカスイド可能。ただしフォーカスポイント中央1点は、F8以上明るいレンズで、フォーカスイド可能。

シャッター

型式	電子制御上下走行式フォーカルプレーンシャッター
シャッター スピード	1/8000～30秒（1/3ステップ、1/2ステップに変更可能）、Bulb、Time、X250
フラッシュ同調 シャッター スピード	X=1/250秒、1/320秒以下の低速シャッタースピードで同調（1/250～1/320秒はガイドナンバーが減少）

レリーズ機能

レリーズモード	S：単写、CL：低速連続撮影、CH：高速連続撮影、Q：静音撮影、☺：セルフタイマー撮影、MUP：ミラーアップ撮影
連続撮影速度	<ul style="list-style-type: none">• 撮像範囲【DX（24×16）】でJPEG画像撮影時 または、12ビットのRAW画像撮影時 CL：約1～6コマ/秒 CH：約6コマ/秒• 撮像範囲【1.3×（18×12）】でJPEG画像撮影時 または、12ビットのRAW画像撮影時 CL：約1～6コマ/秒 CH：約7コマ/秒• 撮像範囲【DX（24×16）】で14ビットのRAW画像撮影時 CL：約1～5コマ/秒 CH：約5コマ/秒• 撮像範囲【1.3×（18×12）】で14ビットのRAW画像撮影時 CL：約1～6コマ/秒 CH：約6コマ/秒 ※ ライブビュー撮影時の連続撮影速度は、最高3.7コマ/秒になります。

レリーズ機能	
セルフタイマー	作動時間：2、5、10、20秒、撮影コマ数：1～9コマ、連続撮影間隔：0.5、1、2、3秒
リモコンモード (ML-L3)	2秒リモコン、瞬時リモコン、ミラーアップリモコン
露出制御	
測光方式	2016分割RGBセンサーによるTTL開放測光方式
測光モード	<ul style="list-style-type: none"> ● マルチパターン測光：3D-RGBマルチパターン測光Ⅱ（G、EまたはDタイプレンズ使用時）、RGBマルチパターン測光Ⅱ（その他のCPUレンズ使用時）、RGBマルチパターン測光（非CPUレンズのレンズ情報手動設定時） ● 中央部重点測光：φ8 mm相当を測光（中央部重点度約75%）、φ6 mm、φ10 mm、φ13 mm、画面全体の平均のいずれかに変更可能（非CPUレンズ使用時はφ8 mm） ● スポット測光：約φ3.5 mm相当（全画面の約2.5%）を測光、フォーカスポイントに連動して測光位置可動（非CPUレンズ使用時は中央に固定）
測光範囲	<ul style="list-style-type: none"> ● マルチパターン測光、中央部重点測光：0～20 EV ● スポット測光：2～20 EV（ISO 100、f/1.4レンズ使用時、常温20℃）
露出計連動	CPU連動方式、AI方式併用
撮影モード	<p>☺：オート、☺：発光禁止オート、P：プログラムオート（プログラムシフト可能）、S：シャッター優先オート、A：絞り優先オート、M：マニュアル</p> <ul style="list-style-type: none"> ● シーンモード：👤：ポートレート、🏞️：風景、👶：こどもスナップ、🏆：スポーツ、🌸：クローズアップ、🌃：夜景ポートレート、🌃：夜景、🎉：パーティー、❄️：海・雪、🍷：夕焼け、🌃：トワイライト、🐾：ペット、🕯️：キャンドルライト、🍁：桜、🍁：紅葉、🍴：料理 ● スペシャルエフェクトモード：🌃：ナイトビジョン、🎨：カラースケッチ、🎨：ミニチュア効果、🖌️：セレクトカラー、👤：シルエット、🎮：ハイキー、🎮：ローキー ● ユーザーセッティングU1、U2に登録可能
露出補正	P、S、A、M、SCENE、🌃モード時に設定可能、範囲：±5段、補正ステップ：1/3、1/2ステップに変更可能
AEロック	AE/AFロックボタンによる輝度値ロック方式

露出制御	
ISO感度 (推奨露光指数)	ISO 100~25600 (1/3、1/2ステップ)、感度自動制御が可能 P、S、A、M時：ISO 25600に対し約1、2段 (ISO 102400相当)の増感が可能 (モノクロームの画像のみ撮影可能)
アクティブ D-ライティング	オート、より強め、強め、標準、弱め、しない
オートフォーカス	
方式	TTL位相差検出方式：フォーカスポイント51点 (うち、15点はクロスタイプセンサー、1点はF8対応)、アドバンストマルチCAM3500 II オートフォーカスセンサーモジュールで検出、AF微調節可能、AF補助光 (約0.5~3 m) 付
検出範囲	-3~+19 EV (ISO 100、常温 (20℃))
レンズサーボ	<ul style="list-style-type: none"> • オートフォーカス (AF)：シングルAFサーボ (AF-S)、コンティニューアスAFサーボ (AF-C)、AFサーボモード自動切り換え (AF-A) を選択可能、被写体条件により自動的に予測駆動フォーカスに移行 • マニュアルフォーカス (M)：フォーカスイド可能
フォーカスポイント	<ul style="list-style-type: none"> • AF51点設定時：51点のフォーカスポイントから選択可能 • AF11点設定時：11点のフォーカスポイントから選択可能
AFエリアモード	シングルポイントAFモード、ダイナミックAFモード (9点、21点、51点)、3D-トラッキング、オートエリアAFモード
フォーカスロック	AE/AFロックボタン、またはシングルAFサーボ (AF-S) 時にシャッターボタン半押し
フラッシュ	
内蔵フラッシュ	 時：オートポップアップ方式による自動発光 P、S、A、M、M時：押しボタン操作による手動ポップアップ方式ガイドナンバー： <ul style="list-style-type: none"> • 約12 (マニュアルフル発光時約12) (ISO 100・m、20℃)
調光方式	2016分割RGBセンサーによるTTL調光制御 ：i-TTL-BL調光 (マルチパターン測光または中央部重点測光)、スタンダードi-TTL調光 (スポット測光) 可能
フラッシュモード	通常発光オート、赤目軽減オート、通常発光オート+スローシャッター、赤目軽減オート+スローシャッター、通常発光、赤目軽減発光、通常発光+スローシャッター、赤目軽減発光+スローシャッター、後幕発光+スローシャッター、後幕発光、発光禁止 <ul style="list-style-type: none"> • オートFPハイスピードシンクロ可能

フラッシュ	
調光補正	範囲：-3～+1段、補正ステップ：1/3、1/2ステップに変更可能
レディーライト	内蔵フラッシュ、別売スピードライト使用時に充電完了で点灯、フル発光による露出警告時は点滅
アクセサリシュー	ホットシュー（ISO 518）装備：シンクロ接点、通信接点、セーフティーロック機構（ロック穴）付
ニコンクリエイティブライティングシステム	対応（コマンダー機能あり）
シンクロターミナル	ホットシューアダプター AS-15（別売）

ホワイトバランス

ホワイトバランス	オート（2種）、電球、蛍光灯（7種）、晴天、フラッシュ、曇天、晴天日陰、プリセットマニュアル（6件登録可、ライブビュー時にスポットホワイトバランス取得可能）、色温度設定（2500K～10000K）、いずれも微調整可能
----------	--

ブラケティング

ブラケティング	AEブラケティング、フラッシュブラケティング、ホワイトバランスブラケティング、アクティブD-ライティングブラケティング
---------	---

ライブビュー機能

撮影モード	 （静止画ライブビュー）モード、  （動画ライブビュー）モード
レンズサーボ	<ul style="list-style-type: none"> オートフォーカス（AF）：シングルAFサーボ（AF-S）、常時AFサーボ（AF-F） マニュアルフォーカス（M）
AFエリアモード	顔認識AF、ワイドエリアAF、ノーマルエリアAF、ターゲット追尾AF
フォーカス	コントラストAF方式、全画面の任意の位置でAF可能（顔認識AFまたはターゲット追尾AFのときは、カメラが決めた位置でAF可能）

動画機能	
測光方式	撮像素子によるTTL測光方式
測光モード	マルチパターン測光、中央部重点測光
記録画素数/ フレームレート	<ul style="list-style-type: none"> • 1920×1080：60p/50p/30p/25p/24p • 1280×720：60p/50p ※ 60p：59.94fps、50p：50fps、30p：29.97fps、25p：25fps、24p：23.976fps ※ 標準★高画質選択可能 ※ 1920×1080：60p/50p：撮像範囲が [1.3× (18×12)] の場合のみ設定可能
ファイル形式	MOV
映像圧縮方式	H.264/MPEG-4 AVC
音声記録方式	リニアPCM
録音装置	内蔵ステレオマイク、外部マイク使用可能（ステレオ録音）、マイク感度設定可能
その他の機能	インデックスマーク、微速度撮影
液晶モニター	
液晶モニター	3.2型TFT液晶モニター、約122.9万ドット(640×RGBW×480)(VGA)、視野角約170°、視野率約100%、明るさ調整可能
再生機能	
再生機能	1コマ再生、サムネイル（4、9、72分割またはカレンダーモード）、拡大再生、動画再生、スライドショー（静止画/動画選択再生可能）、ヒストグラム表示、ハイライト表示、撮影情報表示、位置情報表示、撮影画像の縦位置自動回転
インターフェース	
USB	Hi-Speed USB（標準装備されたUSBポートへの接続を推奨）
HDMI出力	HDMI端子（Type C）装備
アクセサリ ターミナル	<ul style="list-style-type: none"> • ワイヤレスリモートコントローラー WR-1、WR-R10（別売） • リモートコード：MC-DC2（別売） • GPSユニット：GP-1、GP-1A（別売）
外部マイク入力	ステレオミニジャック（φ3.5 mm、プラグインパワーマイク対応）
ヘッドホン出力	ステレオミニジャック（φ3.5 mm）

Wi-Fi (無線LAN)

準拠規格	IEEE802.11b、IEEE802.11g
周波数範囲 (中心周波数)	2412~2462 MHz (1~11ch)
通信距離 (見通し)	約30 m※ ※ 電波干渉がない場合。通信距離は遮蔽物や電波状態などにより影響されます。
データ転送速度 (規格値)	54 Mbps※ ※ 表示の数値は、規格の理論上の最大値であり、実際のデータ転送速度を示すものではありません。
認証方式	オープンシステム、WPA2-PSK
無線設定	WPS対応
アクセス方式	インフラストラクチャーモード

NFC

方式	NFCフォーラム Type 3 Tag
----	---------------------

表示言語

表示言語	日本語、英語
------	--------

電源

使用電池	Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL15 1個使用 ※ EN-EL15の代わりにEN-EL15b/EN-EL15aも使えます。
バッテリー パック	マルチパワーバッテリーパックMB-D15 (別売) : Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL15 1個使用。単3形電池 (アルカリ電池、ニッケル水素充電電池、リチウム電池) 6本使用 ※ EN-EL15の代わりにEN-EL15b/EN-EL15aも使えます。
ACアダプター	ACアダプターEH-5b (パワーコネクタ EP-5Bと組み合わせて使用) (別売)

三脚ネジ穴

三脚ネジ穴	1/4 (ISO 1222)
-------	----------------

寸法・質量

寸法 (W×H×D)	約135.5×106.5×76 mm
質量	約755 g (バッテリーおよびSDメモリーカードを含む、 ボディーキャップを除く) 約675 g (本体のみ)

動作環境

温度	0℃～40℃
湿度	85%以下 (結露しないこと)

- 仕様中のデータは特に記載のある場合を除き、CIPA (カメラ映像機器工業会) 規格またはガイドラインに準拠しています。
- 仕様中のデータは、フル充電バッテリー使用時のものです。
- 製品の外観・仕様・性能は予告なく変更することがありますので、ご了承ください。使用説明書の誤りなどについての補償はご容赦ください。

■ バッテリーチャージャー MH-25a

電源	AC 100–240 V、50/60 Hz、0.23–0.12 A
定格入力容量	21–28VA
充電出力	DC 8.4 V、1.2 A
適応充電池	Li-ion リチャージャブルバッテリー EN-EL15b/EN-EL15a/ EN-EL15
充電時間	約2時間35分 ※残量のない状態からの充電時間 (周囲温度25℃)
使用温度	0℃～40℃
寸法 (W×H×D)	約95×33.5×71 mm (突起部除く)
質量	約115 g (電源プラグ (直付け型) を除く)

製品に表示されている記号の意味は下記の通りです。

～ AC (交流)、≡ DC (直流)、 クラスⅡ機器 (二重絶縁構造)

■ Li-ion リチャージャブルバッテリー EN-EL15

形式	リチウムイオン充電電池
定格容量	7.0 V、1900 mAh
使用温度	0℃～40℃
寸法 (W×H×D)	約40×56×20.5 mm
質量	約78 g (端子カバーを除く)

■ レンズAF-S DX NIKKOR 18-105mm f/3.5-5.6G ED VR

型式	ニコンFマウントCPU内蔵Gタイプ、AF-S DXレンズ
焦点距離	18 mm-105 mm
最大口径比	1 : 3.5-5.6
レンズ構成	11群15枚 (EDレンズ1枚、非球面レンズ1枚)
画角	76°- 15°20'
焦点距離目盛	18、24、35、50、70、105 mm
撮影距離情報	カメラへの撮影距離情報出力可能
ズーム	ズームリングによる回転式
ピント合わせ	IF (ニコン内焦) 方式、超音波モーターによるオートフォーカス、マニュアルフォーカス可能
手ブレ補正	ボイスコイルモーター (VCM) によるレンズシフト方式
最短撮影距離※1	撮像面から0.45 m (ズーム全域)
絞り羽根枚数	7枚 (円形絞り)
絞り方式	自動絞り
絞りの範囲※2	<ul style="list-style-type: none">● 焦点距離18 mm時 : f/3.5-22● 焦点距離105 mm時 : f/5.6-38
測光方式	開放測光
アタッチメント サイズ	67 mm (P=0.75 mm)
寸法	約76 mm (最大径) ×89 mm (レンズマウント基準面から レンズ先端まで)
質量	約420 g

※1 距離基準マーク (□93) は撮像面の位置を示します。

※2 カメラの露出値設定のステップ幅により、最小絞り値の表示が異なる場合があります。

■ レンズAF-S DX NIKKOR 18-140mm f/3.5-5.6G ED VR

型式	ニコンFマウントCPU内蔵Gタイプ、AF-S DXレンズ
焦点距離	18 mm-140 mm
最大口径比	1 : 3.5-5.6
レンズ構成	12群17枚 (EDレンズ1枚、非球面レンズ1枚)
画角	76°- 11°30'
焦点距離目盛	18、24、35、50、70、140 mm
撮影距離情報	カメラへの撮影距離情報を出力可能
ズーミング	ズームリングによる回転式
ピント合わせ	IF (ニコン内焦) 方式、超音波モーターによるオートフォーカス、マニュアルフォーカス可能
手ブレ補正	ボイスコイルモーター (VCM) によるレンズシフト方式
最短撮影距離※1	撮像面から0.45 m (ズーム全域)
絞り羽根枚数	7枚 (円形絞り)
絞り方式	自動絞り
絞りの範囲※2	• 焦点距離 18 mm時 : f/3.5-22 • 焦点距離 140 mm時 : f/5.6-38
測光方式	開放測光
アタッチメント サイズ	67 mm (P=0.75 mm)
寸法	約 78 mm (最大径) × 97 mm (レンズマウント基準面から レンズ先端まで)
質量	約 490 g

※1 距離基準マーク (□93) は撮像面の位置を示します。

※2 カメラの露出値設定のステップ幅により、最小絞り値の表示が異なる場合があります。

■ レンズAF-S DX NIKKOR 18-200mm f/3.5-5.6G ED VR II

型式	ニコンFマウントCPU内蔵Gタイプ、AF-S DXレンズ
焦点距離	18 mm-200 mm
最大口径比	1 : 3.5-5.6
レンズ構成	12群16枚 (EDレンズ2枚、非球面レンズ3枚)
画角	76°-8°
焦点距離目盛	18、24、35、50、70、135、200 mm
撮影距離情報	カメラへの撮影距離情報を出力可能
ズームリング	ズームリングによる回転式
ピント合わせ	IF (ニコン内焦) 方式、超音波モーターによるオートフォーカス、マニュアルフォーカス可能
手ブレ補正	ボイスコイルモーター (VCM) によるレンズシフト方式
撮影距離目盛	∞~0.5 m
最短撮影距離※1	撮像面から0.5 m (ズーム全域)
絞り羽根枚数	7枚 (円形絞り)
絞り方式	自動絞り
絞りの範囲※2	• 焦点距離18 mm時 : f/3.5-22 • 焦点距離200 mm時 : f/5.6-36
測光方式	開放測光
アタッチメント サイズ	72 mm (P=0.75 mm)
寸法	約77 mm (最大径) × 96.5 mm (レンズマウント基準面からレンズ先端まで)
質量	約565 g

※1 距離基準マーク (□93) は撮像面の位置を示します。

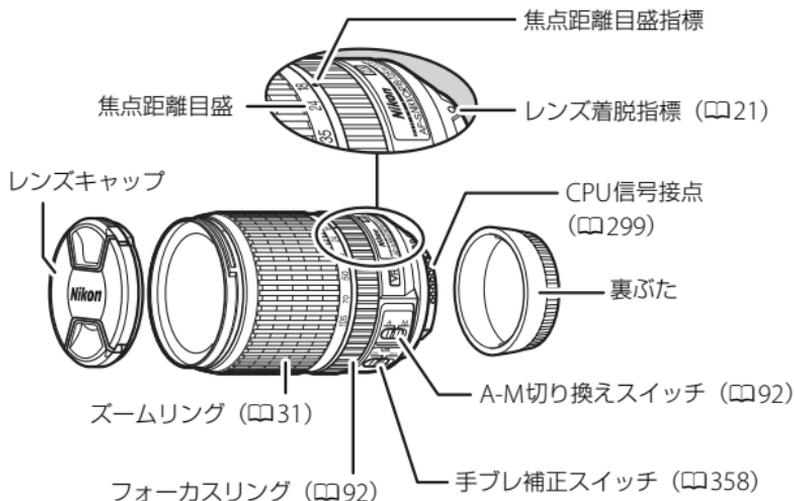
※2 カメラの露出値設定のステップ幅により、最小絞り値の表示が異なる場合があります。

- 製品の外観・仕様・性能は予告なく変更することがありますので、ご了承ください。
- 本書の誤りなどについての補償はご容赦ください。

レンズについて

AF-S DX NIKKOR 18-105mm f/3.5-5.6G ED VR

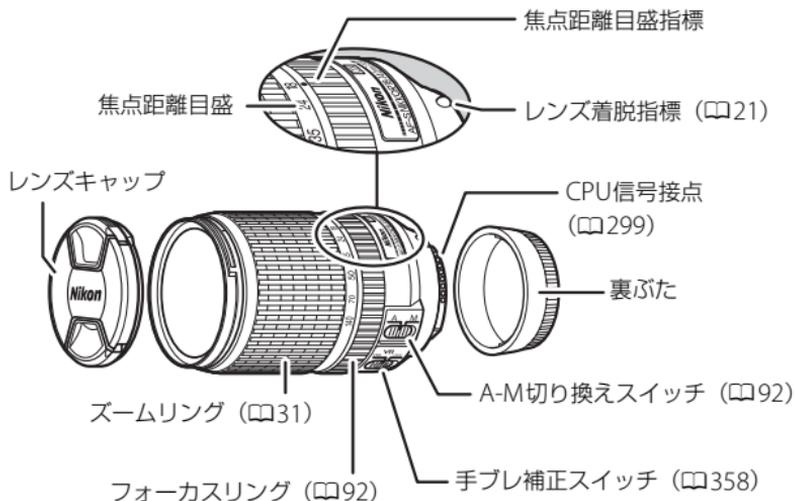
本書では、主にAF-S DX NIKKOR 18-105mm f/3.5-5.6G ED VRのレンズを使用して説明しています。AF-S DX NIKKOR 18-105mm f/3.5-5.6G ED VRの各部名称は次の通りです。



- AF-S DX NIKKOR 18-105mm f/3.5-5.6G ED VRは、DXフォーマットのニコンデジタル一眼レフカメラ専用です。

AF-S DX NIKKOR 18-140mm f/3.5-5.6G ED VR

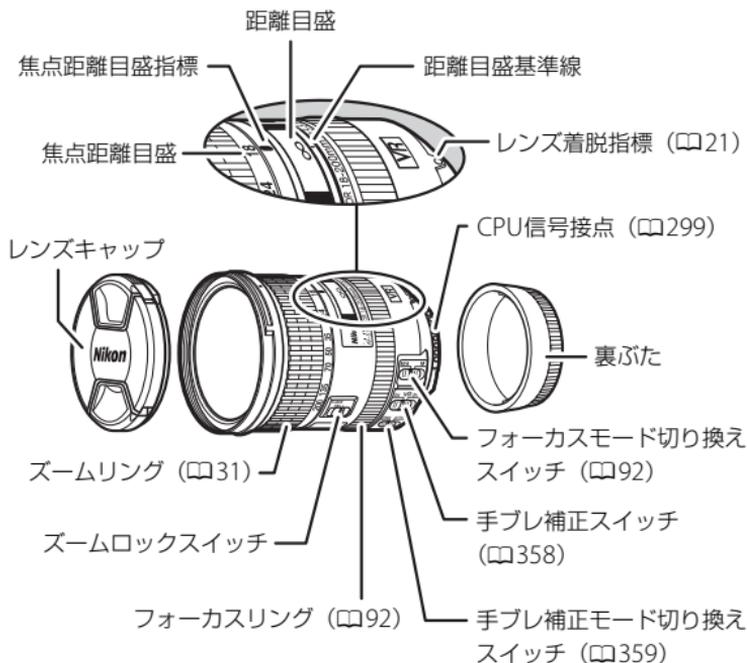
AF-S DX NIKKOR 18-140mm f/3.5-5.6G ED VRの各部名称は次の通りです。



- AF-S DX NIKKOR 18-140mm f/3.5-5.6G ED VRは、DXフォーマットのニコンデジタル一眼レフカメラ専用です。

AF-S DX NIKKOR 18-200mm f/3.5-5.6G ED VR II

AF-S DX NIKKOR 18-200mm f/3.5-5.6G ED VR IIの各部名称は次の通りです。



- AF-S DX NIKKOR 18-200mm f/3.5-5.6G ED VR IIは、DXフォーマットのニコンデジタル一眼レフカメラ専用です。

☑ 距離目盛について

距離目盛は目安であり、被写体までの距離を保証するものではありません。また、遠景撮影でも被写界深度などの影響により∞マークに届かない位置でピントが合う場合があります。

🔒 ズームロックスイッチについて

焦点距離を18mmにして、ズームロックスイッチを **[LOCK]** にセットすると、ズームリングがロックされます。カメラを持ち歩く際は、レンズ自体の重みで繰り出さないように、ロックしてください。

✔ レンズのお手入れと取り扱い上のご注意

- CPU信号接点は汚さないようにご注意ください。
- レンズ面の清掃は、ほこりを拭う程度にしてください。指紋がついたときは、柔らかい清潔な木綿の布に無水アルコール（エタノール）または市販のレンズクリーナーを少量湿らせ、レンズの中心から外周へ渦巻き状に、拭きむら、拭き残りのないように注意して拭いてください。
- シンナーやベンジンなどの有機溶剤は絶対に使用しないでください。
- レンズ表面の汚れや傷を防ぐためには、NCフィルターをお使いいただけます。また、レンズのフードも役立ちます。
- レンズをケースに入れるときは、必ずレンズキャップと裏ぶたを取り付けてください。
- フードをレンズに装着した状態で、フードだけを持たないでください。
- レンズを長期間使用しないときは、カビやサビを防ぐために、高温多湿のところを避けて風通しのよい場所に保管してください。また、直射日光の当たるところ、防虫剤のあるところも避けてください。
- レンズを水にぬらすと、部品がサビつくなどして故障の原因となりますのでご注意ください。
- ストープの前など、高温になるところに置かないでください。極端に温度が高くなると、外観の一部に使用している強化プラスチックが変形することがあります。

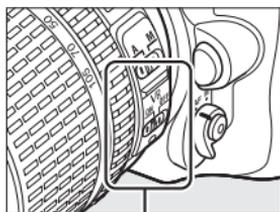
✔ AF-S DX NIKKOR 18-105mm f/3.5-5.6G ED VRまたは AF-S DX NIKKOR 18-140mm f/3.5-5.6G ED VR使用時のピント 合わせについて

カメラのフォーカスモードが [AF-S] の場合は、レンズのA-M切り換えスイッチがAになっていても、オートフォーカスでピントが合った状態でシャッターボタンを半押ししたままフォーカスリングを手で回転させると、マニュアルフォーカスでピントを調整できます。

- いったんシャッターボタンから指を放し、再度半押しすると、オートフォーカスでピントを合わせます。
- オートフォーカス作動中は、フォーカスリングを回転させないでください。

■手ブレ補正機能 (VR) を使う

手ブレ補正機能を使うと、使わないときと比べてAF-S DX NIKKOR 18-105mm f/3.5-5.6G ED VRとAF-S DX NIKKOR 18-200mm f/3.5-5.6G ED VR II の場合は約3.5段分※、AF-S DX NIKKOR 18-140mm f/3.5-5.6G ED VRの場合は約4.0段分※の手ブレを補正します (DXフォーマット機種使用時。ズームレンズは最も望遠側で測定)。これらのレンズはどれもレンズもパンニング(流し撮り)に対応しています。
※ CIPAガイドライン準拠。また、手ブレ補正効果は、撮影者や撮影状況によって異なります。



- 手ブレ補正機能を使うときは、手ブレ補正スイッチをONにしてください。
- シャッターボタンを半押しすると、手ブレを補正します。このときファインダー内の画像のブレも補正するため、ピント合わせが容易で、構図が決めやすくなります。

☑手ブレ補正使用時のご注意

- 三脚を使用するときは、手ブレ補正スイッチをOFFにしてください。ただし、三脚を使っても雲台を固定しないときや、一脚を使用するときには、手ブレ補正スイッチをONにすることをおすすめします。
- シャッターボタンを半押し後、ファインダー像が安定してから撮影することをおすすめします。
- パンニング(流し撮り)でカメラの向きを大きく変えた場合、流した方向の手ブレ補正は機能しません。たとえば、流し撮りで横方向にパンニングすると、縦方向の手ブレだけが補正され、流し撮りができます。
- 手ブレ補正の原理上、シャッターをきくとファインダー像がわずかに動くことがあります、異常ではありません。
- 手ブレ補正中にカメラの電源をOFFにしたり、レンズを取り外したりしないでください。
- 内蔵フラッシュ充電中には、手ブレを補正しません。

🔪 AF-S DX NIKKOR 18-200mm f/3.5-5.6G ED VR IIの手ブレ補正モード切り換えスイッチの使い方

手ブレ補正スイッチをONにし、手ブレ補正モード切り換えスイッチを設定します。

NORMAL	静止して撮影するときなど、比較的ブレの少ない場合の手ブレを補正します。
ACTIVE	乗り物に乗っている場合など、揺れの激しい条件でのブレから通常の手ブレまで補正します。

- 流し撮りする場合は、必ずNORMALモードにしてください。NORMALモードでは、流し撮りなどでカメラの向きを大きく変えた場合、流した方向の手ブレ補正は機能しません。例えば、横方向に流し撮りすると、縦方向の手ブレだけが補正されます。

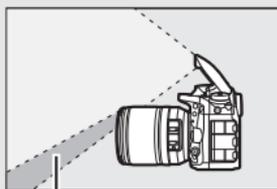
🔪 AF-S DX NIKKOR 18-200mm f/3.5-5.6G ED VR IIのM/A（マニュアル優先オートフォーカスモード）の使い方

オートフォーカス撮影中にマニュアルフォーカスに切り換えることができます。

- 1 レンズのフォーカスモード切り換えスイッチ (□356) を **[M/A]** にセットする
 - 2 オートフォーカス撮影時、シャッターボタンを半押ししたまま、あるいはカスタムメニューでAF-ON機能を割り当てたボタンを押したまま、フォーカスリング (□356) を手で回転させる
- 瞬時にマニュアルフォーカス撮影が行えます。
 - シャッターボタンの半押しやAF-ON機能を割り当てたボタンを再度操作するとオートフォーカスで撮影が可能となります。

▼ カメラの内蔵フラッシュ使用時のご注意

- 撮影距離0.6 m以上で使用してください。
 - ケラレを防止するために、レンズのフードは取り外して使用してください。
- ※ カメラの内蔵フラッシュのケラレとは、フラッシュの光がレンズの先端でさえぎられて影になり、写真に写り込む現象です。



影



ケラレ

- AF-S DX NIKKOR 18-105mm f/3.5-5.6G ED VRの場合：

デジタル一眼レフカメラ	ケラレなく撮影できる焦点距離と撮影距離
D5300/D5000/D3100/ D3000	<ul style="list-style-type: none">• 焦点距離18mmでは撮影距離2.5m以上• 焦点距離24mmでは撮影距離1.0m以上
D5200/D5100/D3200	<ul style="list-style-type: none">• 焦点距離18mmでは撮影距離3.0m以上• 焦点距離24mmでは撮影距離1.0m以上
D5500/D3300	<ul style="list-style-type: none">• 焦点距離18mmでは撮影距離2.5m以上• 焦点距離24mmでは撮影距離1.0m以上• 焦点距離35mm以上は制約なし
D7200/D7100/D7000/ D300シリーズ/D200/ D100/D80	すべての焦点距離で、ケラレは発生しません
D90/D70シリーズ	<ul style="list-style-type: none">• 焦点距離18mmでは撮影距離1.5m以上• 焦点距離24mm以上は制約なし
D50	<ul style="list-style-type: none">• 焦点距離18mmでは撮影距離1.0m以上• 焦点距離24mm以上は制限なし
D60/D40シリーズ	<ul style="list-style-type: none">• 焦点距離18mmでは撮影距離2.5m以上• 焦点距離24mmでは撮影距離1.0m以上• 焦点距離35mm以上は制約なし

- AF-S DX NIKKOR 18-140mm f/3.5-5.6G ED VRの場合：

デジタル一眼レフカメラ	ケラレなく撮影できる焦点距離と撮影距離
D7200/D7100/D7000/ D300シリーズ/D200/D100	<ul style="list-style-type: none"> 焦点距離 18mm では撮影距離 1.0m 以上 焦点距離 24mm 以上は制約なし
D90/D80/D50	<ul style="list-style-type: none"> 焦点距離 18mm では撮影距離 2.5m 以上 焦点距離 24mm では撮影距離 1.0m 以上 焦点距離 35mm 以上は制約なし
D5500/D5300/D5200/ D5100/D5000/D3300/ D3200/D3100/D3000/ D70シリーズ/D60/ D40シリーズ	<ul style="list-style-type: none"> 焦点距離 18mm、24mm では撮影距離 1.0m 以上 焦点距離 35mm 以上は制約なし

- AF-S DX NIKKOR 18-200mm f/3.5-5.6G ED VR IIの場合：

デジタル一眼レフカメラ	ケラレなく撮影できる焦点距離と撮影距離
D7200/D7100/D7000/ D300シリーズ/D200/D100	<ul style="list-style-type: none"> 焦点距離 18mm では撮影距離 1.0m 以上 焦点距離 24mm 以上は制約なし
D90/D80	<ul style="list-style-type: none"> 焦点距離 24mm、35mm では撮影距離 1.0m 以上 焦点距離 50mm 以上は制約なし
D5500/D5300/D5200/ D5100/D5000/D3300/ D3200/D3100/D3000/ D70シリーズ/D60/D50/ D40シリーズ	<ul style="list-style-type: none"> 焦点距離 24mm では撮影距離 1.0m 以上 焦点距離 35mm 以上は制約なし

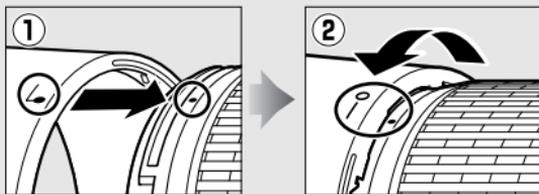
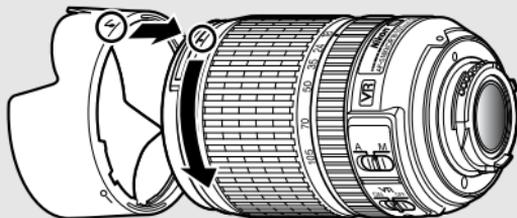
- D100/D70 の内蔵フラッシュは、20mm レンズの画角をカバーする照射角なので、焦点距離 18mm では周辺が暗くなります。

AF-S DX NIKKOR 18-105mm f/3.5-5.6G ED VRの 付属アクセサリ

- 67mmスプリング式レンズキャップ LC-67
- 裏ぶた
- ソフトケース CL-1018
- バヨネットフード HB-32

レンズフードの取り付け方

フード着脱指標 (●) とフード取り付け指標 (◡) を合わせて (①)、フードを矢印の方向に回転させ、フード着脱指標とフードセット指標 (—○) を合わせてください (②)。



- フード先端を強くつかむと着脱が困難になります。着脱の際は、フード取り付け指標 (◡) 付近を持って回転させてください。
- フードが正しく取り付けられないと画像にケラレを生じますのでご注意ください。
- 収納時はフードを逆向きにしてレンズに取り付けられます。

AF-S DX NIKKOR 18-105mm f/3.5-5.6G ED VRで利用できる アクセサリ

- 67mmネジ込み式フィルター
- 裏ぶた LF-1、LF-4

☑ AF-S DX NIKKOR 18-140mm f/3.5-5.6G ED VRの 付属アクセサリ

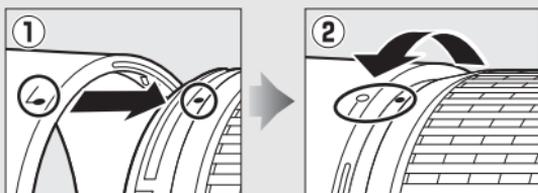
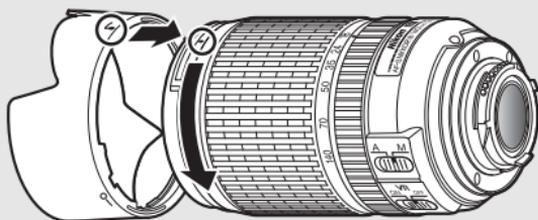
- 67 mmスプリング式レンズキャップ LC-67
- 裏ぶた

☑ AF-S DX NIKKOR 18-140mm f/3.5-5.6G ED VRで使用する アクセサリ

- 67 mmネジ込み式フィルター
- 裏ぶた LF-1、LF-4
- ソフトケース CL-1018
- バヨネットフード HB-32

レンズフードの取り付け方

フード着脱指標 (●) とフード取り付け指標 (◡) を合わせて (①)、フードを矢印の方向に回転させ、フード着脱指標とフードセット指標 (—○) を合わせてください (②)。



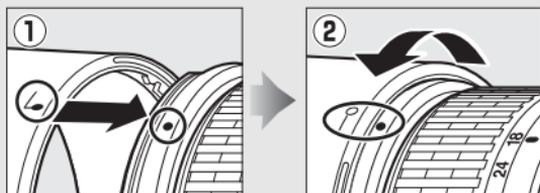
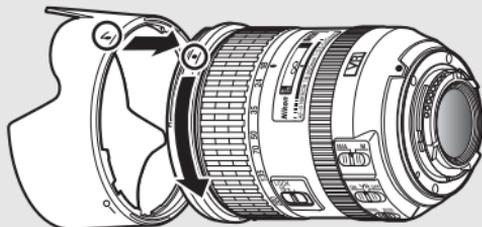
- フード先端を強くつかむと着脱が困難になります。着脱の際は、フード取り付け指標 (◡) 付近を持って回転させてください。
- フードが正しく取り付けられないと画像にケラレを生じますのでご注意ください。
- 収納時はフードを逆向きにしてレンズに取り付けられます。

AF-S DX NIKKOR 18-200mm f/3.5-5.6G ED VR IIの 付属アクセサリ

- 72mmスプリング式レンズキャップ LC-72
- 裏ぶた
- ソフトケース CL-1018
- バヨネットフード HB-35

レンズフードの取り付け方

フード着脱指標 (●) とフード取り付け指標 (◡) を合わせて (①)、フードを矢印の方向に回転させ、フード着脱指標とフードセット指標 (—○) を合わせてください (②)。



- フード先端を強くつかむと着脱が困難になります。着脱の際は、フード取り付け指標 (◡) 付近を持って回転させてください。
- フードが正しく取り付けられないと画像にケラレを生じますのでご注意ください。
- 収納時はフードを逆向きにしてレンズに取り付けられます。

AF-S DX NIKKOR 18-200mm f/3.5-5.6G ED VR IIで利用できる アクセサリ

- 72mmネジ込み式フィルター
- 裏ぶた LF-1、LF-4

❏ 広角・超広角レンズのオートフォーカス撮影について

次のような被写体では、オートフォーカスによるピント合わせができないことがあります。このような場合は、マニュアルフォーカスでピントを合わせるか、フォーカスロックを利用してください。

1 背景に対してメインの被写体が小さい場合

フォーカスポイント内に遠くの建物と近くの人物が混在する場合は、背景にピントが合い、人物のピント精度が低下することがあります。

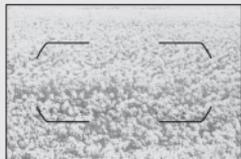
〈人物〉



2 絵柄が細かい場合

背景に対して被写体が小さい場合や被写体と背景の明暗差が少ない場合は、オートフォーカスによるピント合わせができないことがあります。

〈花畑〉



「オートフォーカスが苦手な被写体」の説明も参照してください (□91)。

このカメラの準拠規格

- **Design rule for Camera File system (DCF) Version 2.0** : 各社のデジタルカメラで記録された画像ファイルを相互に利用し合うための記録形式です。
- **DPOF (Digital Print Order Format)** : デジタルカメラで撮影した画像をプリントショップや家庭用プリンターで自動プリントするための記録フォーマットです。
- **Exif Version 2.3** : (Exif = Exchangeable image file format for digital still cameras) : デジタルカメラとプリンターの連携を強化し、高品質なプリント出力を簡単に得ることを目指した規格です。この規格に対応したプリンターをお使いになると、撮影時のカメラ情報を活かして最適なプリント出力を得ることができます。詳しくはプリンターの使用説明書をご覧ください。
- **PictBridge** : デジタルカメラとプリンターメーカーの各社が相互接続を保証するもので、デジタルカメラの画像をパソコンを介さずプリンターで直接印刷するための標準規格です。
- **HDMI (High-Definition Multimedia Interface)** : 家庭用電化製品およびAV機器用のマルチメディアインターフェース規格です。1本のケーブルをつなぐだけで、画像、音声、制御信号をHDMI対応機器に送信できます。

商標説明

- PictBridgeロゴは商標です。
- SDロゴ、SDHCロゴ、およびSDXCロゴは、SD-3C, LLC.の商標です。
- Windowsは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
- IOSの商標は、米国およびその他の国におけるCiscoのライセンスに基づき使用しています。
- HDMI、HDMIロゴ、およびHigh-Definition Multimedia Interfaceは、HDMI Licensing, LLC.の商標または登録商標です。

HDMI

- Wi-FiおよびWi-Fiロゴは、Wi-Fi Allianceの商標または登録商標です。
- Nマークは米国およびその他の国におけるNFC Forum, Inc.の商標または登録商標です。
- その他の会社名、製品名は各社の商標、登録商標です。

認証マークの表示

セットアップメニューの「**認証マークの表示**」では、このカメラが取得している認証マークの一部を確認できます (□285)。

 認証

• Indonesia

37921/SDPPI/2014
4588

37920/SDPPI/2014
4593

• México

COFETEL: RCPMULB13-0954
LBWA1U5YR1

• Paraguay

Número del Registro: 2014-01-I-00028

Este producto contiene un transmisor
aprobado por la CONATEL.

• Brasil



 FreeType License (FreeType2)

本製品のソフトウェアの著作権の一部は、© 2012 The FreeType Project
(<http://www.freetype.org>) のものです。すべての権利はその所有者に帰属します。

 MIT License (HarfBuzz)

本製品のソフトウェアの著作権の一部は、© 2015 The HarfBuzz Project
(<http://www.freedesktop.org/wiki/Software/HarfBuzz>) のものです。すべての権利はその所有者に帰属します。

• الأردن

TRC/LPD/2013/141

• الإمارات العربية المتحدة

TRA
REGISTERED No:
ER47249/16
DEALER No:
DA0073692/11

使用できるSDカード

- SDメモリーカード、SDHCメモリーカード、およびSDXCメモリーカードが使用できます。
- UHS-IIに対応しています。
- 動画の撮影には、SDスピードクラス6以上のカードをおすすめします。転送速度が遅いカードでは、動画の記録が途中で終了することがあります。
- カードリーダーなどをお使いの場合は、お使いのメモリーカードに対応していることをご確認ください。
- メモリーカードの機能、動作の詳細、動作保証などについては、各カードメーカーにお問い合わせください。



記録可能コマ数と連続撮影可能コマ数

撮像範囲 (□71)、画質モード (□74) と、画像サイズ (□77) の組み合わせによって、16 GBのSDカードに記録できるコマ数、および連続撮影できるコマ数は、次のようになります*1。ただし、カードの種類や撮影条件によって、コマ数は増減することがあります。

■■ [撮像範囲] が [DX (24×16)] の場合

画質モード	画像サイズ	1コマあたりのファイルサイズ	記録可能コマ数*2	連続撮影可能コマ数*2, 3
RAW (ロスレス 圧縮RAW/ 12ビット記録)	—	約22.2 MB	379コマ	27コマ
RAW (ロスレス 圧縮RAW/ 14ビット記録)	—	約28.0 MB	294コマ	18コマ
RAW (圧縮RAW/ 12ビット記録)	—	約20.6 MB	511コマ	35コマ
RAW (圧縮RAW/ 14ビット記録)	—	約25.4 MB	428コマ	26コマ
FINE*4	L	約12.7 MB	929コマ	100コマ
	M	約7.7 MB	1500コマ	100コマ
	S	約3.9 MB	2900コマ	100コマ
NORMAL*4	L	約6.5 MB	1800コマ	100コマ
	M	約3.9 MB	3000コマ	100コマ
	S	約2.1 MB	5600コマ	100コマ
BASIC*4	L	約2.7 MB	3500コマ	100コマ
	M	約1.9 MB	5700コマ	100コマ
	S	約1.1 MB	10300コマ	100コマ

■ [撮像範囲] が [1.3× (18×12)] の場合

画質モード	画像サイズ	1コマあたりのファイルサイズ	記録可能コマ数※2	連続撮影可能コマ数※2、3
RAW (ロスレス 圧縮RAW/ 12ビット記録)	—	約15.0 MB	575コマ	44コマ
RAW (ロスレス 圧縮RAW/ 14ビット記録)	—	約18.7 MB	449コマ	29コマ
RAW (圧縮RAW/ 12ビット記録)	—	約13.8 MB	770コマ	67コマ
RAW (圧縮RAW/ 14ビット記録)	—	約16.9 MB	648コマ	46コマ
FINE※4	L	約8.6 MB	1300コマ	100コマ
	M	約5.3 MB	2200コマ	100コマ
	S	約2.9 MB	4000コマ	100コマ
NORMAL※4	L	約4.3 MB	2600コマ	100コマ
	M	約2.8 MB	4300コマ	100コマ
	S	約1.5 MB	7400コマ	100コマ
BASIC※4	L	約2.0 MB	5100コマ	100コマ
	M	約1.4 MB	7900コマ	100コマ
	S	約0.9 MB	13100コマ	100コマ

※1 SanDisk社製16 GBのSDHC UHS-Iカード (SDSDXPA-016G-J35) を使用した場合 (2015年3月現在)

※2 撮影条件により、記録可能コマ数と連続撮影可能コマ数は、増減することがあります。

※3 ISO感度がISO 100の場合の、連続撮影速度を維持して撮影できるコマ数です。次のような場合、連続撮影可能コマ数は減少します。

- [JPEG圧縮] (□76) を [画質優先] に設定してJPEG画像を撮影した場合
- ISO感度 (□94) を12800以上に設定した場合
- [自動ゆがみ補正] (□265) を [する] に設定した場合
- [長秒時ノイズ低減] (□266) を [する] に設定した場合

※4 1コマあたりのファイルサイズおよび記録可能コマ数は、[JPEG圧縮] が [サイズ優先] に設定されている場合です。[JPEG圧縮] を [画質優先] に設定した場合、記録可能コマ数は減少します。

カスタムメニュー d3 [連続撮影コマ数] (□□273)

カスタムメニュー d3 [連続撮影コマ数] では、連続撮影時の連続撮影コマ数を 1～100コマの範囲で設定できます。

撮影可能コマ数（電池寿命）について

カメラ単体または別売のマルチパワーバッテリーパックMB-D15装着時の撮影可能コマ数（電池寿命）は、次の通りです。

● **撮影可能コマ数（1コマ撮影モード）：CIPA基準準拠※1**

約1110コマ（カメラ本体でLi-ionリチャージャブルバッテリーEN-EL15※2使用時）

約1110コマ（MB-D15を装着してEN-EL15※2使用時）

約630コマ（MB-D15を装着してアルカリ単3形電池使用時）

● **撮影可能コマ数（連続撮影モード）：当社試験条件※3**

約4090コマ（カメラ本体でEN-EL15※2使用時）

約4090コマ（MB-D15を装着してEN-EL15※2使用時）

約1510コマ（MB-D15を装着してアルカリ単3形電池使用時）

● **動画撮影可能時間※4**

約80分（カメラ本体でEN-EL15※2使用時）

約80分（MB-D15を装着してEN-EL15※2使用時）

約30分（MB-D15を装着してアルカリ単3形電池使用時）

※1 初期設定条件で30秒間隔ごとに撮影レンズを無限遠から至近に1往復フォーカシング動作をさせて1コマ撮影する。ライブビュー撮影なし。リリース2回につき1回内蔵フラッシュを発光させる。装着レンズAF-S DX NIKKOR 18-105mm f/3.5-5.6G ED VR、温度23（±2）℃。

※2 EN-EL15の代わりにEN-EL15b/EN-EL15aも使えます。

※3 画質モードBASIC、画像サイズM、シャッタースピード1/250秒、シャッターの半押しを3秒間持続後、撮影レンズを無限遠から至近間を3往復フォーカシング動作させ6回連続リリースした後、液晶モニターを5秒間点灯させ、消灯後半押しタイマーがオフになるまで放置。以後同じ動作を繰り返す。装着レンズAF-S DX NIKKOR 18-105mm f/3.5-5.6G ED VR、温度20℃。

※4 電池寿命測定方法を定めたCIPA（カメラ映像機器工業会）規格による実撮影電池寿命です。装着レンズAF-S DX NIKKOR 18-105mm f/3.5-5.6G ED VR、温度23（±2）℃。カメラは初期設定状態。

- 1回の動画撮影で記録可能な最長時間は29分59秒（1080/30p）です。

- 1つの動画ファイルで記録可能な最大ファイルサイズは4GBです。

- カメラが熱くなった場合、連続撮影時間内でも動画撮影が終了することがあります。

次の場合などは、バッテリーの消耗が早くなります。

- ライブビュー撮影などで液晶モニターを使用した場合
- シャッターボタンの半押しを続けた場合
- オートフォーカスのレンズ駆動を繰り返し行った場合
- 画質モードをRAWに設定して撮影した場合
- 低速シャッタースピードで撮影した場合
- Wi-Fi（無線LAN）機能を使用した場合
- アクセサリーを装着して使用した場合
- VRレンズ使用時にVR（手ブレ補正）機能をONにした場合

Li-ionリチャージャブルバッテリーEN-EL15の性能を最大限に発揮させるため、次のことに注意してください。

- バッテリーの端子を汚さないでください。端子が汚れていると、十分な性能が発揮できません。
- 充電が完了したバッテリーは、なるべく早いうちにお使いください。使用しないまま放置していると、自己放電によって、バッテリー残量が減ってしまいます。

撮影可能コマ数（電池寿命）についてのご注意

バッテリーの充電状態、撮影間隔やメニュー画面からの設定条件などの使用環境によって電池寿命が異なります。また、単3形電池使用時は、銘柄や保管状態により撮影可能コマ数が減少することがあります。単3形電池は、銘柄によっては使用できないこともあります。

索引

マーク・英数字

- Auto** (オート).....5, 28
Ⓜ (発光禁止オート).....5, 28
SCENE (シーン).....39
👤 (ポートレート).....39
🏞️ (風景).....39
👶 (こどもスナップ).....39
🏆 (スポーツ).....40
🌸 (クローズアップ).....40
🌃 (夜景ポートレート).....40
🌃 (夜景).....40
🎉 (パーティー).....40
❄️ (海・雪).....40
🔥 (夕焼け).....40
🏠 (トワイライト).....40
🐾 (ペット).....40
🕯️ (キャンドルライト).....40
🌸 (桜).....40
🍁 (紅葉).....40
🍴 (料理).....40
EFFECTS (スペシャルエフェクト).....42
🌃 (ナイトビジョン).....42
🎨 (カラースケッチ).....42, 45
👤 (ミニチュア効果).....43, 46
🎨 (セレクトカラー).....43, 48
👤 (シルエット).....43
👤 (ハイキー).....43
👤 (ローキー).....43
P (プログラムオート).....51
S (シャッター優先オート).....52
A (絞り優先オート).....53
M (マニュアル).....55
U1/U2.....61
S (1コマ撮影).....6, 65
CL (低速連続撮影).....6, 65
CH (高速連続撮影).....6, 65
Q (静音撮影).....6, 65
🕒 (セルフタイマー撮影).....6, 65, 68
MUP (ミラーアップ撮影).....6, 65, 70
👤 (顔認識AF).....84
👤 (ワイドエリアAF).....84
👤 (ノーマルエリアAF).....84
🎯 (ターゲット追尾AF).....84
👤 (マルチパターン測光).....100
👤 (中央部重点測光).....100
👤 (スポット測光).....100
AUTO (フラッシュモード).....142
REAR (フラッシュモード).....145
SLOW (フラッシュモード).....142, 145
Fn (ファンクション) ボタン.....73, 151, 220, 277, 280
Pv (プレビュー) ボタン.....162, 277, 280
BKT (オートブラケットング) ボタン.....194, 199, 203
👤 ボタン.....185, 187, 188, 227
Info (インフォ) ボタン.....11, 182
Lv (ライブビュー) ボタン.....10, 29, 158
? (ヘルプ).....15
📷 (連続撮影可能コマ数).....66, 369
👤 (レディーライト).....34
12ビット記録.....76
14ビット記録.....76
1.3 (18×12).....66, 71, 163, 164
1コマ撮影.....6, 65
1コマ表示.....223

2秒リモコン	154	CPU信号接点	299
3D-RGBマルチパターン測光	101	CPUレンズ	27, 296, 299
3D-トラッキング	82, 86	DCF Version 2.0	366
ACアダプター	312	DPOF (Digital Print Order Format)	366
ADLブラケットイング (オート ブラケットイングのセット)	203	DX (24×16)	66, 71, 163, 164
Adobe RGB (色空間)	265	Dタイプレンズ	299
AE-Lマーク	102	D-ライティング	286
AE・フラッシュブラケットイング (オートブラケットイングのセット)	193	Exif Version 2.3	366
AE/AFロックボタンの機能	277, 280	Eye-Fi送信機能	285
AEブラケットイング (オート ブラケットイングのセット)	193	Eタイプレンズ	299
AEロック	102	FINE	74
AF-A (AFサーボモード 自動切り換え)	79	Fnボタンの機能	277, 280
AF-C (コンティニユアスAFサーボ)	79	FP発光	275
AF-Cモード時の優先	270	FVロック	150
AF-F (常時AFサーボ)	80	GPSユニット	221, 312
AF-S (シングルAFサーボ)	79, 80	Gタイプレンズ	299
AF-Sモード時の優先	270	HDMI (High-Definition Multimedia Interface)	284, 366
AFエリアモード	82	HDR (ハイダイナミックレンジ)	137, 265
AFサーボモード自動切り換え (AF-A)	79	H.264	348
AF点数切り換え	271	ISO/Hi感度コマンドダイヤル変更	96, 266
AF微調節	284	ISO感度	94, 266, 269
AFモード	79	ISO感度設定	97, 266
AFモードボタン	2, 80, 86	ISO感度設定ステップ幅	271
AFロックオン	270	ISO感度の簡易設定	274
A-M切り換えスイッチ	354, 355	i-TTL測光	146, 305
AUTO1 標準	106, 107	JPEG	74, 76
AUTO2 電球色を残す	106, 107	JPEG圧縮	76, 264
BASIC	74	L (画像サイズ)	77, 263
BKTの順序	277	MB-D15	274, 279, 312
Bulb (バルブ撮影)	57, 58	MOV	348
Camera Control Pro 2	312	M (画像サイズ)	77, 263
Capture NX-D	i	M (マニュアルフォーカス)	92
		NEF	74
		NFC	244, 247, 259, 285
		NORMAL	74

OKボタンの機能	277
PictBridge (ピクトブリッジ)	366
PRE (プリセットマニュアル)	106, 115
RAW	74, 75, 76, 294
RAW+JPEG分割記録 (スロット2の機能)	78
RAW記録	76, 264
RAW現像	287, 294
RGBヒストグラム表示	231
RGBマルチパターン測光	101, 300
SDカード	20, 25, 281, 368
sRGB (色空間)	265
SSID	244
S (画像サイズ)	77, 263
UTC	221, 235
ViewNX-i	i
WBブラケティング (WB-BKT)	199
Wi-Fi	243, 284
Wireless Mobile Utility	243
WPS	244

ア

アイピース	69, 312
アイピースキャップ	69
アオリ効果	288
赤目軽減発光 (フラッシュモード)	142, 145
赤目補正	286
明るさ (ピクチャーコントロール)	129
アクセサリー (使用できるアクセサリー)	312
アクセサリーターミナル	157, 221
アクティブD-ライティング	135, 265
アクティブD-ライティング ブラケティング	203

圧縮RAW	76
後幕発光 (フラッシュモード)	145
位置情報	221, 235, 284
イメージセンサークリーニング	282
イメージダストオフ機能 (Capture NX-D)	282, 333
イメージダストオフデータ取得	282
イルミネーター	1
イルミネーター点灯	274
色合い (色相) (ピクチャー コントロール)	129
色温度	106, 108, 112
色温度設定 (ホワイトバランス)	106, 112
色空間	265
色の濃さ (彩度) (ピクチャー コントロール)	129
インジケーターの+/-方向	278
インターバルタイマー撮影	212, 266
インデックスマーキング	162
インフォ画面の表示設定	274
ヴィネットコントロール	265
液晶モニター	10, 182, 223
オート (撮影モード)	5, 28
オート (ホワイトバランス)	106, 107
オートエリアAF	83, 86
オートフォーカス	79, 82, 88, 91
オートブラケティング	193, 277

カ

カードなし時リリース	278
カードの初期化 (フォーマット)	281
外部マイク	189, 312
開放F値	218, 299
開放絞り	218, 299
開放絞り値の設定	218
顔認識AF	84

画角	302
拡大表示	36, 237
風切り音低減	188, 268
画質モード	74, 263
画質優先 (JPEG圧縮)	76
カスタムピクチャーコントロール	131, 265, 268
カスタムメニュー	270
カスタムメニューのリセット	270
画像合成	286, 291
画像コピー	262
画像コメント	283
画像サイズ	77, 263
画像サイズ/フレームレート	161, 267
画像情報	228
画像編集メニュー	286
傾き補正	287
カメラ設定の保存と読み込み	283
カラスケッチ	287
カラスケッチ (スペシャル エフェクト)	42, 45
カレンダー表示	226
簡単レタッチ	287
感度	94
感度自動制御	97
基準露出レベルの調節	272
魚眼効果	287
距離基準マーク	93
距離情報	101, 146
記録可能コマ数	25, 369
記録ビットモード (RAW記録)	76
記録フォルダー設定	263
記録方式 (RAW記録)	76
クイック調整	129
クリーニングミラーアップ	282, 316
クリエイティブライティングシステム	303
蛍光灯 (ホワイトバランス)	106

言語 (Language)	283
高感度ノイズ低減	266, 269
高速連続撮影	6, 65
このタブの機能変更	289
コマ送り	174
コマンドダイヤルの設定	278
コンティニュースAFサーボ (AF-C)	79, 270
コントラスト (ピクチャー コントロール)	129

サ

最近設定した項目	289
最小絞り	27
サイズ優先 (JPEG圧縮)	76
再生	37, 173, 223
再生画面設定	261
再生フォルダー設定	261
再生メニュー	261
先幕発光 (フラッシュモード)	145
削除	38, 240, 261
削除後の次再生画像	262
撮影画面サイズ	302
撮影した画像を確認する	37
撮影情報	233
撮影直後の画像確認	224, 262
撮影モードダイヤル	5
撮影モードダイヤルロックボタン	5
撮像範囲	71, 163, 264, 268
サムネイル表示	225
シーンモード	5, 39
始点/終点の設定	176
自動発光 (フラッシュモード)	142
自動ゆがみ補正	265
視度調節	23, 312, 325
絞り値	53, 55
絞り優先オート	53
シャッタースピード	52, 55

シャッターボタン	32, 88, 102, 150, 280
シャッター優先オート	52
順次記録 (スロット2の機能)	78
瞬時リモコン	154
常時AFサーボ (AF-F)	80
使用できるスピードライト	303
使用できるレンズ	296
焦点距離の設定	218
焦点距離目盛	354, 355, 356
情報表示 (位置情報)	221
初期設定一覧	190
シルエット (スペシャルエフェクト)	43
シングルAFサーボ (AF-S)	79, 80, 270
シングルポイントAF	82, 86
シンクロナーターミナル	311
水準器	9, 11, 12, 284
推奨SDカード	368
スタンダードi-TTL調光	146, 305
スタンダード (ピクチャー コントロール)	126
スピードライト	303
スペシャルエフェクトモード	42
スポット測光	100
スポットホワイトバランス	120
スマートデバイス	244
スマートデバイスへの送信指定/解除	258
スライドショー	262
スローシャッター (フラッシュモード)	142, 145
スロット2の機能	78, 263
スロット/フォルダー指定メニュー	227
制御上限感度 (感度自動制御)	98
静止画撮影メニュー	263
静止画撮影メニューのリセット	263

晴天 (ホワイトバランス)	106
晴天日陰 (ホワイトバランス)	106
接眼補助レンズ	312
接眼目当て	69
接続設定のリセット	249
セットアップメニュー	281
セルフタイマー	272
セルフタイマー撮影	6, 65, 68
セレクトカラー	288
セレクトカラー (スペシャル エフェクト)	43, 48
全画像削除	241
選択画像削除	241
選択フレームの保存	176
測光モード	100
外付けフラッシュ発光	276

タ

ターゲット追尾AF	84
対DX 1.3×クロップ	72
ダイナミックAF	82, 86
タイマー (セルフタイマー)	68
タイム撮影 (長時間露出)	57, 59
多重露出	208, 266
縦/横位置フォーカスポイント切換	271
縦位置自動回転	262
縦横位置情報の記録	283
地域と日時	283
チャージャー	18
着脱指標	21, 354, 355, 356
中央部重点測光	100
中央部重点測光範囲	272
調光範囲	147
調光補正	148
長時間露出	57
調色 (ピクチャーコントロール)	129, 130

長秒時ノイズ低減	266
著作権情報	283
ツールボタンリセット	190
低速限界設定（感度自動制御）	98
低速連続撮影	6, 65, 273
手ブレ補正スイッチ	354, 355, 356, 358
電球（ホワイトバランス）	106
電子音設定	273
電池チェック	283
電池の使用順序	275
動画	158, 173, 176
動画ISO感度設定	269
動画撮影ボタン	159, 278
動画撮影メニュー	267
動画撮影メニューのリセット	267
動画の画質	161, 267
動画編集	176, 288
動画ライブビュー	10, 158
統合表示	236
同調シャッタースピード	144, 275, 330
登録項目の削除	289
登録項目の順序変更	289
トリミング	286, 290
曇天（ホワイトバランス）	106

ナ

内蔵AF補助光の照射設定	271
内蔵フラッシュ	141
内蔵フラッシュ発光	276
ナイトビジョン（スペシャル エフェクト）	42
ニコンクリエイティブライティング システム	303
ニュートラル（ピクチャー コントロール）	126
認証マークの表示	285

塗り絵	287
ネットワーク	285
ノーマルエリアAF	84

ハ

ハイキー（スペシャルエフェクト）	43
ハイダイナミックレンジ	137
ハイライト表示	188, 230
バックアップ記録（スロット2の 機能）	78
発光禁止（フラッシュモード）	142, 145
発光禁止オート（撮影モード）	5, 28
バッテリー	18, 24, 350
バッテリーチャージャー	350
バッテリーパック	312
バルブ撮影（長時間露出）	57
パワーコネクタ	312
半押しAEロック	272
半押しAFレンズ駆動	270
半押し（シャッターボタン）	32
半押しタイマー	35, 272
非CPUレンズ	218, 297, 300
ピクチャーコントロール	126, 264, 268
被写界深度	54
ヒストグラム表示	231, 232
微速度撮影	168, 269
日付選択（削除）	242
日付と時刻を設定する	22
ビビッド（ピクチャーコントロール）	126
非表示設定	261
表示中の画像を削除する	38
表示パネル	7
標準表示	229
ピント表示	32

ファームウェアバージョン	285	プロテクト	239
ファイル記録先	267	ヘッドホン	189
ファイル名設定	263, 267	ヘルプ	15
ファインダー (視度調節)	23, 312	編集前後の画像表示	288
ファインダー内格子線表示	274	ポートレート (ピクチャー コントロール)	126
フィルター効果	129, 130, 286	ボタンのホールド設定	278
風景 (ピクチャーコントロール)	126	ボディキャップ	3
フォーカスエイド	93	ホワイトバランス	106, 264, 268
フォーカスポイント	32	ホワイトバランスの微調整	109
フォーカスポイント循環選択	271	ホワイトバランスブラケット ング (WBブラケット ング)	199
フォーカスポイント表示	270		
フォーカスモード	79, 92		
フォーカスモードセクター	79, 92		
フォーカスリング	92, 354, 355, 356		
フォーカスロック (AFロック)	88		
ブラケット ング	193, 199, 203		
フラッシュ	141		
フラッシュ (ホワイト バランス)	106		
フラッシュ撮影同調 速度	275		
フラッシュ時シャッタ ースピード 制限	276		
フラッシュ使用時の 露出補正	276		
フラッシュ使用推奨 表示	274		
フラッシュシンクロ	275		
フラッシュブラケッ ティング (オート ブラケッ ティングのセッ ト)	193		
フラッシュモード	142, 145		
フラット (ピクチャー コントロール)	126		
フレンジバック	93		
プリセットマニユ アル (ホワイト バランス)	106, 115		
フリッカー低減	282		
プリント指定 (DPOF)	262		
プレビューボタンの 機能	277, 280		
プログラムオート	51		
プログラムシフト	51		

マ

マイク	189, 312
マイク感度	188, 267
マイメニュー	289
マイメニュー登録	289
マニュアル (露出)	55
マニュアルフォーカ ス	92
マルチセクター	13
マルチパターン測 光	100
ミニチュア効果	288
ミニチュア効果 (ス ペシャル エフェク ト)	43, 46
ミラーアップ撮影	6, 65, 70
ミラーアップリモ コン	154
ミレッド	110
無線LAN	312
明瞭度	129
モデリング発光	54, 276
モニターの明るさ	187, 188, 282
モニターのカラ ーカスタ マイズ	282
モニターのパワ ーオフ 時間	273
モニター発光	146, 151
モノクローム	94, 126
モノトーン	286

ヤ

ユーザーセッティング	61
ユーザーセッティングの 登録	61, 282
ユーザーセッティングのリセット	64, 282
ゆがみ補正	287
予測駆動フォーカス	81

ラ

ライブビュー	10, 29, 158
ライブビューセクター	10, 29, 158
リサイズ	287
リセット	190
リモートコード	60, 165, 312
リモコン	153, 312
リモコン (WR) のFnボタンの 機能	279
リモコン撮影	153
リモコン待機時間 (ML-L3)	273
リモコンモード設定 (ML-L3)	154, 266
輪郭強調	129
レディーライト	34, 309
レリーズモード	65
レリーズモードダイヤル	6
レリーズモードダイヤルロックボタン	6
レンズ (使用できるレンズ)	296
レンズ情報手動設定	218, 284
レンズの取り外し	27
レンズマウント	93
連続撮影	65
連続撮影コマ数	273
連番モード	274
ローキー (スペシャルエフェクト)	43

録音帯域	188, 267
露出	100, 102, 104, 193
露出インジケータ	56
露出設定ステップ幅	271
露出ディレーモード	273
露出補正	104
露出補正簡易設定	271
露出補正值	104
ロスレス圧縮RAW	76

ワ

ワイドエリアAF	84
ワイヤレスリモートコントローラ	157, 165

修理サービスのご案内

■修理のご依頼

ニコンサービス機関（修理センター、ニコンプラザサービスセンター）、ご購入店、または最寄りの販売店にご依頼ください。

※修理品をお預けいただく場合のご注意

- ボディーキャップやレンズキャップが付属している製品の場合は、製品保護のため、装着してお預けください。
- 修理に必要と思われるもの以外の付属品は、ご自身で保管ください。
- カメラなどの修理では、受付や修理の過程で撮影データをやむを得ず消去する場合があります。大切なデータは必ずバックアップをお取りください。

■インターネットでのお申込み

<http://www.nikon-image.com/support/repair/>

■修理センター

株式会社ニコンイメージングジャパン修理センター



修理センター ナビダイヤル

0570-02-8200

〒230-0052 横浜市鶴見区生麦2-2-26

営業時間：9：30～18：00（土曜日、日曜日、祝日、年末年始、夏期休業日など弊社定休日を除く毎日）

- 修理センターでは、「ニコンピックアップサービス」などの宅配便のみをお受けします。ご来所の方の受付はございません。ご了承ください。
- ナビダイヤルをご利用いただけない場合は、ニコンカスタマーサポートセンター（03）6702-0577 におかけください。

■ニコンピックアップサービス

梱包資材のお届け・修理センターへのお引き取り、修理後のお届け・集金までをニコン指定の配送業者（ヤマト運輸）が一括して代行するサービスです。全国一律の料金にて承ります（大きさや重さには制限があり、取り扱いできない製品もあります）。



ニコンピックアップサービス専用フリーダイヤル（ヤマト運輸にて承ります）

0120-02-8155

営業時間：9：00～18：00（年末年始 12/29～1/4 を除く毎日）

- ※ 上記フリーダイヤルは、ニコン指定の配送業者（ヤマト運輸）にて承ります。修理内容に関するお問い合わせは、修理センターへ、製品に関するお問い合わせは、カスタマーサポートセンターへお願いします。

補修用性能部品と修理可能期間について

補修用性能部品（機能維持に必要な部品）の保有期間内（製造打ち切り後7年を目安）を、修理可能期間とさせていただきます。なお、部品保有期間の経過後も修理できる場合もありますので、ニコンサービス機関、ご購入店または最寄りの販売店にお問い合わせください。また、水没、火災、落下等による故障または破損で全損と認められる場合は、保有期間内であっても修理できません。この故障や破損の程度の判定は、ニコンサービス機関にお任せください。

ニコンプラザについて

ニコンプラザは、ショールーム、サービスセンター、ギャラリーを統合したニコン映像製品の総合情報拠点です。

※ニコンプラザサービスセンターでは持ち込み修理の受け付けも行っていきます。



ニコンプラザショールーム ナビダイヤル

0570-02-8080



ニコンプラザサービスセンター ナビダイヤル

0570-02-8060

音声ガイダンスにしたがって、ご利用になるニコンプラザをお選びください。

- ナビダイヤルをご利用いただけない場合は、ニコンカスタマーサポートセンター（03）6702-0577 におかけください。

ニコンプラザについては、当社ホームページの下記URLをご覧ください。

<http://www.nikon-image.com/support/showroom/>



ニコンイメージング会員「製品登録」のご案内



<http://www.nikon-image.com/enjoy/membership/about/>

ニコンでは製品を安全に、安心してご使用いただくため「製品登録」へのご協力をお願いしております。「ニコンイメージング会員のご案内」ページからお手続きいただけます。

ニコンイメージング会員とは登録製品に関するサポート情報や、お得で便利な会員特典*などフォトライフをよりお楽しみいただくための会員サービスです。この機会にぜひご登録ください。

*特典は登録製品ごとに異なります。

ニコンイメージングサポートページのご案内



<http://www.nikon-image.com/support/>

最新の製品テクニカル情報や、ソフトウェアのアップデート情報をご覧ください。製品をより有効にご利用いただくために、定期的なアクセスをおすすめします。

製品の使い方に関するお問い合わせ先

<http://www.nikon-image.com/support/contact/>



ニコン カスタマーサポートセンター ナビダイヤル

0570-02-8000

営業時間：9：30～18：00（年末年始、夏期休業日等を除く毎日）

- ・ナビダイヤルをご利用いただけない場合は、ニコンカスタマーサポートセンター（03）6702-0577 におかけください。
- ・ファクシミリは、（03）5977-7499 にお送りください。

お問い合わせ時のお願い

- ・おわかりになる範囲で「製品名」、「製品番号」、「ご購入日」、問題が発生した場合は「手順」、「現象（表示されたメッセージ）」、「発生頻度」などをご確認のうえ、お問い合わせください。

株式会社 **ニコン**

株式会社 **ニコン イメージング ジャパン**

Printed in Thailand